

文部科学省認可通信教育

レポート課題集

A-II 社福・精保指定科目編

2024

II



東北福祉大学 通信教育部
TOHOKU FUKUSHI UNIVERSITY

2024 レポート課題集



A-II

社福・精保指定科目編

2021年度1年次入学者、2022年度1・2年次(編)入学者、
2023年度以降入学者用

このレポート課題集掲載のレポート課題の提出期限:
2026年 9月30日到着分まで
変更があれば『With』などでご案内します。



東北福祉大学通信教育部

目 次

	レポートのルール	
--	----------	--

I	レポート学習とは	7
II	レポート提出上のルール	8
III	レポート提出台紙の使用方法	11
IV	客観式レポート	13
V	レポート課題集の活用方法	14

■社会福祉士指定科目

科目コード	科目名	ページ
CB3078	医学概論	17
CC2068	福祉心理学	25
CC2169	社会学と社会システム	31
CC3085	社会福祉原論A	36
CC3086	社会福祉原論B	42
CC3087	ソーシャルワークの基盤と専門職	47
CC3091	ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）	53
CC3092	社会福祉調査の基礎	59
CC3093	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	66
CC3094	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	70
CC3095	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ	75
CC3096	ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ	81
CC3097	地域福祉と包括的支援体制A	87
CC3098	地域福祉と包括的支援体制B	92
CC4099	福祉サービスの組織と経営	97
CD4088	社会保障論Ⅰ	104
CD4089	社会保障論Ⅱ	109
CD2170	高齢者福祉	115
CD2171	障害者福祉	123
CD2172	児童・家庭福祉	130
CD4175	公的扶助論	136
CE4173	保健医療と福祉	142
CE3090	権利擁護を支える法制度	148
CF3174	刑事司法と福祉	153
CN3251	ソーシャルワーク演習（社会福祉士）	157
CN4252	ソーシャルワーク演習Ⅰ	165
CN5253	ソーシャルワーク演習Ⅱ	171
CP4254	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	178
CP5255	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	184
CP4256	ソーシャルワーク実習Ⅰ	191
CP5257	ソーシャルワーク実習Ⅱ	194

■精神保健福祉士指定科目

科目コード	科目名	ページ
CB3078	医学概論	17
CC2068	福祉心理学	25
CC2169	社会学と社会システム	31
CC3085	社会福祉原論 A	36
CC3086	社会福祉原論 B	42
CC3097	地域福祉と包括的支援体制 A	87
CC3098	地域福祉と包括的支援体制 B	92
CD4088	社会保障論Ⅰ	104
CD4089	社会保障論Ⅱ	109
CD2171	障害者福祉	123
CE3090	権利擁護を支える法制度	148
CF3174	刑事司法と福祉	153
CC3092	社会福祉調査の基礎	59
CQ4178	精神医学と精神医療Ⅰ	197
CQ4179	精神医学と精神医療Ⅱ	201
CQ3180	現代の精神保健の課題と支援Ⅰ	204
CQ3181	現代の精神保健の課題と支援Ⅱ	208
CC3087	ソーシャルワークの基盤と専門職	47
CR3182	精神保健福祉の原理Ⅰ	212
CR3183	精神保健福祉の原理Ⅱ	217
CC3093	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	66
CC3094	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	70
CS4184	ソーシャルワークの理論と方法（精神専門）Ⅰ	222
CS4185	ソーシャルワークの理論と方法（精神専門）Ⅱ	227
CT3186	精神障害リハビリテーション論	232
CT3187	精神保健福祉制度論	238
CW3283	ソーシャルワーク演習（精神保健福祉士）	242
CW4258	精神保健福祉演習Ⅰ	249
CW5259	精神保健福祉演習Ⅱ	256
CX4260	精神保健福祉実習指導Ⅰ	263
CX5261	精神保健福祉実習指導Ⅱ	270
CX4262	精神保健福祉実習Ⅰ	277
CX5263	精神保健福祉実習Ⅱ	281

科目別索引

※ページ数が記載されていない科目は、下記でご確認ください。

A-I	社福・精保指定科目編（2021年度1年次入学者は対象外）
A-II	社福・精保指定科目編（2021年度1年次入学者、2022年度1・2年次（編）入学者、2023年度以降入学者用）
B	共通基礎・福祉専門編
C	心理専門編

ア行

CC3079	医学一般	A-I
CB3078	医学概論	17
DF3147	医療・福祉経済論	B
DE2113	NPO論	B

カ行

CL2065	介護概論	A-I
EA4193	介護技術	学習期間終了
EB4903	介護実習	学習期間終了
EB4701・EB4741	介護実習事前事後指導	学習期間終了
DD2241	介護論	B
EC3708	カウンセリング（教職免許状取得希望者向け）	学習期間終了
FG2682	カウンセリングⅠ	C
FG2683	カウンセリングⅡ	C
FG3695	カウンセリング演習Ⅰ	C
FG3696	カウンセリング演習Ⅱ	C
AB1020・AB1041	科学的な見方・考え方	学習期間終了
AB1032	科学的な見方・考え方	B
FH3561	学習・言語心理学	C
FH3512	学習心理学	C
FC2515	家族心理学	C
DH3144・DH3164	家族法	B
FC3504	環境心理学	学習期間終了
AH1018	観光と文化	学習期間終了
FF3550	感情・人格心理学	C
AB1033	基礎演習	B
AB1145・DA2145	基礎演習	学習期間終了
FE2547	教育・学校心理学A（教育心理学）	C
FE3548	教育・学校心理学B（学校心理学）	C
FE2513	教育心理学	C
EC2301	教育原理	学習期間終了
AH1037	教育の歴史と思想	B
EC3706	教育方法論（視聴覚教育等を含む）	学習期間終了
EC2702	教職論	学習期間終了
DD4124・DD4196	ケアマネジメント論	B
CF3174	刑事司法と福祉	153
EG4734	（軽度）発達障害教育総論	学習期間終了
EG4733	（軽度）発達障害者の心理	学習期間終了

FF4559	健康・医療心理学	C
AK1016	健康科学	学習期間終了
EG4736	言語障害教育	学習期間終了
CQ3180	現代の精神保健の課題と支援Ⅰ	204
CQ3181	現代の精神保健の課題と支援Ⅱ	208
CE3090	権利擁護を支える法制度	148
DF3110	公衆衛生学	B
CM3069	更生保護制度論	A-I
CA4108	公的扶助論	A-I
CD4175	公的扶助論	136
EC3703	高等学校教育課程の意義と編成	学習期間終了
CD2170	高齢者福祉	115
CL2064	高齢者福祉論	A-I
DH4115	国際福祉論	B
AL1011	コミュニケーション英語	B
EG4736	コミュニケーション障害教育→言語障害教育	学習期間終了

サ行

FF3565	災害・防災心理学	C
FG3680	産業カウンセリングⅠ	学習期間終了
FG3681	産業カウンセリングⅡ	学習期間終了
FC2523	産業心理学	学習期間終了
FC3542	産業・組織心理学	C
EG3737	視覚障害教育総論	学習期間終了
EF3719	肢体不自由教育	学習期間終了
EE4723	肢体不自由者の心理、生理・病理	学習期間終了
CD2172	児童・家庭福祉	130
CL2066	児童・家庭福祉論	A-I
FD2516・FD2527	児童青年心理学	学習期間終了
EG4735	自閉症教育総論	学習期間終了
FF3551	司法・犯罪心理学	C
CC2169	社会学と社会システム	31
FC2540	社会・集団・家族心理学A（社会・集団心理学）	C
FC2541	社会・集団・家族心理学B（家族心理学）	C
FC2514	社会心理学	C
CE4073	社会調査の基礎	A-I
CN3082	社会福祉援助技術演習A	A-I
CN4083	社会福祉援助技術演習B	A-I
CN5084	社会福祉援助技術演習C	A-I
CP5907	社会福祉援助技術実習	A-I
CP3190	社会福祉援助技術実習指導A	A-I
CP5191	社会福祉援助技術実習指導B	A-I
CE3070	社会福祉援助技術総論	A-I
CE3071	社会福祉援助技術論A	A-I

CE3072	社会福祉援助技術論B	A- I	
AH1050	社会福祉学入門	B	
CC3085	社会福祉原論A	36	
CC3086	社会福祉原論B	42	
CA3104	社会福祉原論（職業指導を含む）	A- I	
CC3092	社会福祉調査の基礎	59	
DA2050	社会福祉の基礎	B	
DH4111・DH4165	社会福祉法制	B	
CA4107	社会保障論	A- I	
CD4088	社会保障論Ⅰ	104	
CD4089	社会保障論Ⅱ	109	
CM4076	就労支援サービス論	A- I	
FE3518	障害児の心理	学習期間終了	
EH4906	障害者教育実習	学習期間終了	
EH4740	障害者教育実習の事前・事後指導	学習期間終了	
ED3718	障害者教育総論	学習期間終了	
FE3549	障害者・障害児心理学	C	
CD2171	障害者福祉	123	
CD2118	障害者福祉論	A- I	
EA2195	障害の理解	学習期間終了	
FD2502・FD2563	生涯発達心理学	C	
AB1332	情報処理Ⅰ	学習期間終了	
AB1034	情報処理の基礎	B	
DK4692	職場のメンタルヘルス	学習期間終了	
FF2511・FF2528	人格心理学	学習期間終了	
FJ3562	神経・生心理学	C	
AH1049	人権と福祉	B	
CC3081	人体の構造と機能及び疾病	C	
DK3690	人的資源論	学習期間終了	
FF2519	心理アセスメント	C	
FA2501	心理学概論	C	
FA2531	心理学概論A	C	
FA2532	心理学概論B	C	
FB3508	心理学研究法Ⅰ	C	
FB3509	心理学研究法Ⅱ	学習期間終了	
FB3538	心理学研究法A	C	
FB4539	心理学研究法B	C	
FB2505	心理学実験Ⅰ	C	
FB2533	心理学実験ⅠA	C	
FB2534	心理学実験ⅠB	C	
FB2506	心理学実験Ⅱ	C	
FB3535	心理学実験ⅡA	C	
FB3536	心理学実験ⅡB	C	
FF3554	心理学的支援法Ⅰ	C	
FF3557	心理学的支援法Ⅱ	C	
FF4558	心理学的支援法Ⅲ	C	
FB3537	心理学統計法	C	
FF3553	心理的アセスメントⅠ	C	
FF4556	心理的アセスメントⅡ	C	
FF3520	心理療法	学習期間終了	
FF3521	心理療法各論	学習期間終了	
AK1040	睡眠改善学	B	
AS1024	スポーツ（バングolf）	学習期間終了	
AS1023	スポーツ（バレーボール）	学習期間終了	
AS1043	スポーツの心理学	B	
EA3194	生活行動と人体	学習期間終了	
AH1026	政治学の基礎	学習期間終了	
CQ4140	精神医学	A- I	
CQ4178	精神医学と精神医療Ⅰ	197	
CQ4179	精神医学と精神医療Ⅱ	201	
CS4139	精神科リハビリテーション学	A- I	
CQ4166	精神疾患とその治療Ⅰ	C	
CQ4167	精神疾患とその治療Ⅱ	C	
CU3151	精神障害者の生活支援システム	A- I	
CT3186	精神障害リハビリテーション論	232	
CQ3136	精神保健学	A- I	
CW4258	精神保健福祉演習Ⅰ	249	
CW5259	精神保健福祉演習Ⅱ	256	
CW4141	精神保健福祉援助演習	A- I	
CW3157	精神保健福祉援助演習A	A- I	
CW4158	精神保健福祉援助演習B	A- I	
CW5159	精神保健福祉援助演習C	A- I	
CR3138・CR3148	精神保健福祉援助技術各論	A- I	
CR3156	精神保健福祉援助技術各論	A- I	
CR3153	精神保健福祉援助技術総論Ⅰ	A- I	
CR3154	精神保健福祉援助技術総論Ⅱ	A- I	
CR3137	精神保健福祉援助技術総論	A- I	
CX5902	精神保健福祉援助実習	A- I	
CX4908	精神保健福祉援助実習A	A- I	
CX5909	精神保健福祉援助実習B	A- I	
CX4188	精神保健福祉援助実習指導A	A- I	
CX5189	精神保健福祉援助実習指導B	A- I	
CX4262	精神保健福祉実習Ⅰ	277	
CX5263	精神保健福祉実習Ⅱ	281	
CX4260	精神保健福祉実習指導Ⅰ	263	
CX5261	精神保健福祉実習指導Ⅱ	270	
CT3187	精神保健福祉制度論	238	
CR3182	精神保健福祉の原理Ⅰ	212	
CR3183	精神保健福祉の原理Ⅱ	217	
CT3150	精神保健福祉のサービス	A- I	
CT4152	精神保健福祉の制度	A- I	
CS3155	精神保健福祉の理論	A- I	
CS3133	精神保健福祉論Ⅰ	A- I	
CT3134	精神保健福祉論Ⅱ	A- I	
CT4135	精神保健福祉論Ⅲ	A- I	
EC3707	生徒指導論（進路指導を含む）	学習期間終了	
AK1039	生命の科学	B	
AK1005・AK1042	生命の科学	学習期間終了	
AA1001	禅のこころ	学習期間終了	
AA1031	禅のこころ	B	
EC4709	総合演習	学習期間終了	
CN3251	ソーシャルワーク演習（社福）	157	
CW3283	ソーシャルワーク演習（精保）	242	
CN4252	ソーシャルワーク演習Ⅰ	165	
CN4253	ソーシャルワーク演習Ⅱ	171	
CP4256	ソーシャルワーク実習Ⅰ	191	
CP5257	ソーシャルワーク実習Ⅱ	194	
CP4254	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	178	
CP5255	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	184	
CC3087	ソーシャルワークの基盤と専門職	47	
CC3091	ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）	53	
CC3093	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	66	
CC3094	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	70	

CC3095	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ	75
CC3096	ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ	81
CS4184	ソーシャルワークの理論と方法（精神専門）Ⅰ	222
CS4185	ソーシャルワークの理論と方法（精神専門）Ⅱ	227
ZZ5991	卒業研究	B

タ行

CC3097	地域福祉と包括的支援体制 A	87
CC3098	地域福祉と包括的支援体制 B	92
CA3105	地域福祉論	A-I
FH3560	知覚・認知心理学	C
EF3727	知的障害教育	学習期間終了
EE4721	知的障害者の心理	学習期間終了
EE4722	知的障害者の生理・病理	学習期間終了
DD3119	知的障害者福祉論	随時登録終了
DD3242	知的障害がある人とのソーシャルワーク	B
EF3730	聴覚障害教育	学習期間終了
EE4725	聴覚障害者の心理	学習期間終了
EE4726	聴覚障害者の生理・病理	学習期間終了
EG4732	重複障害教育総論	学習期間終了
AB1035	データ分析とプレゼンテーション技法	B
AB1146・DA3146	統計情報を見る眼	B
EC3705	特別活動の指導法	学習期間終了
ET3771	特別支援教育支援員概論	学習期間終了
AT1029	特講（地域と生活）	B
DT2201	特講・社会福祉学Ⅰ（介護保険と社会福祉士の課題）	B
DT5205	特講・社会福祉学Ⅴ	学習期間終了
DT5206	特講・社会福祉学Ⅵ	学習期間終了
DT2210	特講・社会福祉学Ⅹ（ソーシャルワーク論）	B
DT2222	特講・社会福祉学Ⅻ（精神科多職種アウトリーチ支援）	B
DT2224	特講・社会福祉学Ⅻ（コミュニティ・ソーシャルワークⅤ）	B
DT2250	特講（防災士研修講座）	B
FT2605	特講・福祉心理学Ⅴ（自分さがしの心理学）	C
FT2608	特講・福祉心理学Ⅷ（ストレスとつきあう心理学）	C
FT2609	特講・福祉心理学Ⅸ（コミュニティ心理学）	C
FT2617	特講・福祉心理学Ⅺ（認知行動療法）	C

ナ行

FC2689	人間関係論	C
AH1017・AH1025	人間と教育	学習期間終了
DD2215	認知症介護論	B
FH3510・FH3530	認知心理学	学習期間終了

ハ行

EG4734	発達障害教育総論	学習期間終了
--------	----------	--------

EG4733	発達障害者の心理	学習期間終了
DD2211	発達障害者の地域支援	B
DD3161・DD3168	発達障害者の理解と支援	B
FD3543	発達心理学	C
FD3546	発達臨床心理学	C
FF3524	犯罪非行心理学	学習期間終了
EF3729	病弱教育	学習期間終了
EF4731	病弱教育総論	学習期間終了
EE4724	病弱者の心理、生理・病理	学習期間終了
EC3704	福祉科の指導法	学習期間終了
DH3121	福祉機器論→福祉用具と生活支援	B
CC4080	福祉行財政と福祉計画	A-I
CE4074	福祉経営論	A-I
CC4099	福祉サービスの組織と経営	97
DH2109	福祉思想論	B
CC2101	福祉社会学	A-I
CC2068	福祉心理学	25
FP5571	福祉心理学演習	C
AH1003	福祉と経済	学習期間終了
AH1021	福祉と生活	学習期間終了
CB3063	福祉法学	A-I
DA2142	福祉ボランティア活動	B
DF3121・DF3163	福祉用具と生活支援	B
DE3143・DE3162	福祉リスクマネジメント	B
AH1036	法の基礎	B
AH1007・AH1030	法の基礎（日本国憲法を含む）	学習期間終了
CD4075	保健医療サービス論	A-I
CE4173	保健医療と福祉	142
AB1002	ボランティア論	B

ラ行

FF2522	ライフサイクルと福祉心理学	C
DF3122	リハビリテーション論	B
FF3503・FF3564	臨床心理学	C
FF3552	臨床心理学概論Ⅰ	C
FF4555	臨床心理学概論Ⅱ	C
AJ1009	歴史を見る眼	学習期間終了
AJ1038	歴史を読み解く	B
DL3280	レクリエーション概論	学習期間終了
DL4282	レクリエーション事業	学習期間終了
DL4281	レクリエーション実技	学習期間終了
DK4691	労働法	学習期間終了
FD2517	老年心理学	学習期間終了
FD2544	老年心理学 A	C
FD2545	老年心理学 B	C

レポートのルール

I レポート学習とは

レポート課題に対し、教科書や参考図書等をもとに解答するもの。

※履修方法「R」および「SR」で科目単位を修得するために必ず取り組むものです。

レポートの種類

- ・客観式レポート ○×式や選択肢式にて解答するレポート。
- ・論述式レポート 論述式で解答するレポート。

レポート学習の進め方

- ・客観式レポート 教科書を読んで学習し、設問に解答する。
- ・論述式レポート レポート課題の意図に沿って、教科書を読み、必要に応じ参考図書、新聞、インターネットなどで調べ、そして自分で考え（考察し）ながら、学んだ内容や解答を文章で作成する。

レポート課題

- (1) 『レポート課題集』に、各科目毎に掲載されています。
- (2) 課題数は、科目毎に単位数分あります。
(例) 科目単位2単位の科目→2課題。 ※一部の科目に例外あり。

レポートの評価

レポートの成績は、「優」「良」「可」「再提出」の4段階（優・良・可が合格、再提出が不合格）。

不正レポートの禁止

- (1) 不正レポートと見なされた場合は、懲戒処分の対象となります（一定期間のレポート提出禁止、合格済みレポートの合格取消し等）。
- (2) 他のレポートと同一または酷似のものは不正レポートと見なします。
※学生同士のレポートの貸し借りやデータのやりとりは禁止です。
※不正レポートと見なした場合、貸した方も処分対象になります。
- (3) 教科書・参考図書・インターネット等から無断での丸写しは不正レポートと見なします。
※「引用」「要約」の場合を除く（『学習の手引き』の「引用と要約のルール」参照）。

Ⅱ レポート提出上のルール

論述式レポートの字数

- ・ 1 課題あたりの字数：2,000字程度（最低1,000字、最高3,600字）
 - ・ パソコン印字（40字×30行）の場合 3 枚以内、手書きで指定原稿用紙（600字詰）の場合は 6 枚以内、市販原稿用紙（400字詰）の場合は 9 枚以内。
- ※上記以外は受け付けられずに返却されます。
- ※字数には課題文や「引用・参考文献」、空きマスも含めます。
- ※一部の課題で、4,000字等の指定があります。

論述式レポートの書式

（１）パソコン印字・手書きに共通の書式

- ① 用紙は縦置き、文字は横書き。
- ② インクは黒色（消せるインクのペンや鉛筆等は使用不可）。
- ③ 各課題の1行目に、「科目名 ○単位め 学籍番号 氏名」を記入。
- ④ ③の下1行あけて課題文を、その下1行あけて解答文を記入。
- ⑤ 文頭および改行後の先頭は、1文字分あける。
- ⑥ 最下部中央に、全ページ通しのページ数を記入。
- ⑦ 完成したレポート用紙は、上部をレポート提出台紙へ正しくしっかりとのりづけする。

（２）パソコン印字の書式 ※上記（１）もご参照ください。

- ① A 4 サイズ白無地用紙を使用（ご自身でご用意ください）。
- ② 1 枚あたりの字数：1,200字
- ③ 文字サイズ10.5ポイント 左右40字×タテ30行
余白（上下左右）30ミリ
- ④ 片面印刷でプリントアウト（両面印刷不可）。

（３）手書きの書式 ※上記（１）もご参照ください。

- ① A 4 サイズ原稿用紙を使用（ご自身でご用意ください）。
※下記のいずれでも可。
 - ・ 指定原稿用紙（本冊子巻末の原稿用紙を A 4 判に拡大コピーしたもの、または通信教育部 HP よりプリントアウト [両面コピー、印刷不可]
 - ・ 市販原稿用紙
- ② 1 枚あたりの字数：600字（指定原稿用紙）or400字（市販原稿用紙）
- ③ 句点（。）、読点（、）、括弧「 」などは1マスを使用。
- ④ 行の最後に、句点（。）、読点（、）、括弧「 」などが来た場合は、その行末のマス内（or マス外）に記入。
- ⑤ 数字は1マスに2ケタずつ左詰めで記入。（例）

36	5	日
----	---	---

レポート提出台紙

- （１）作成したレポートを貼り付けて提出する台紙。
※提出後、教員からの添削や評価が記入され返却されます。
- （２）年度始めに20冊送付（無料）されます（4 年次まで）。
- （３）追加の購入方法。
郵送にて：「レポート提出台紙・教材購入申込書」（『試験・スクーリング情報ブック』巻末様式10）と、

代金分の定額小為替証書を通信教育部に送付。1セットあたり10冊（送料込300円）のセット購入。
通信教育部事務室にて：現金にて、1冊（30円）からの購入可能。

レポート提出時の注意事項

- (1) レポート提出台紙1冊につき、2課題ずつ貼り付ける。
 - ・ 2単位科目：1冊に1・2単位めレポート用紙を貼り付ける。
 - ・ 4単位科目：1冊に1・2単位めレポート用紙を貼り付け、もう1冊に3・4単位めを貼り付ける。

(例外)

 - ・ 1単位分ずつの提出が指定されている場合
 - ・ 1単位分のみ「客観式レポート」をWebで解答した場合
 - ・ 1単位分のみ「再提出」となった場合
- (2) 提出の際は、レポートのコピーやデータを手元に残すこと。
※郵便事故等の紛失時に再提出していただくため。
- (3) レポート提出台紙には、15円分の切手を提出用・返信用に貼付し、必要事項を記入する。
※通信教育部事務室等で直接提出する場合は、返信用にのみ切手貼付。
- (4) 提出したレポートの教員添削依頼は『試験・スクーリング情報ブック』1部「レポート受付締切日」の翌日に行います。

レポートの再提出

評価が「再提出」の場合、教員からの講評を踏まえ、再度レポートを作成・提出してください。

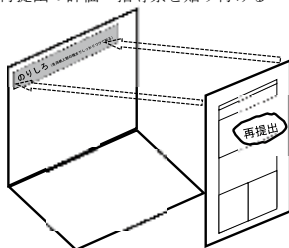
【再提出の方法】

- (1) 「再提出と評価された評価・指導票」を切り取る。
- (2) レポート提出台紙の「再提出の場合の評価・指導票貼付のりしろ」に、「再提出と評価された評価・指導票」を貼り付ける。
- (3) あらためて作成したレポートを、新規のレポート提出台紙の「評価・指導票」ウラ「のりしろ」に貼り付け、郵送する。

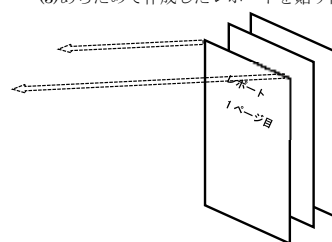
(1)再提出の評価・指導票 A を切り取る



(2)再提出の評価・指導票を貼り付ける



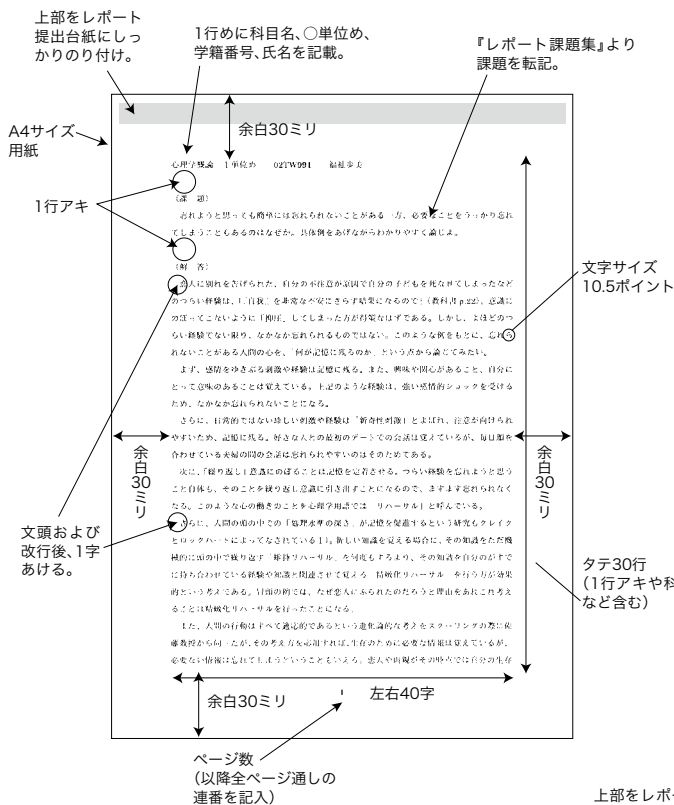
(3)あらためて作成したレポートを貼り付ける



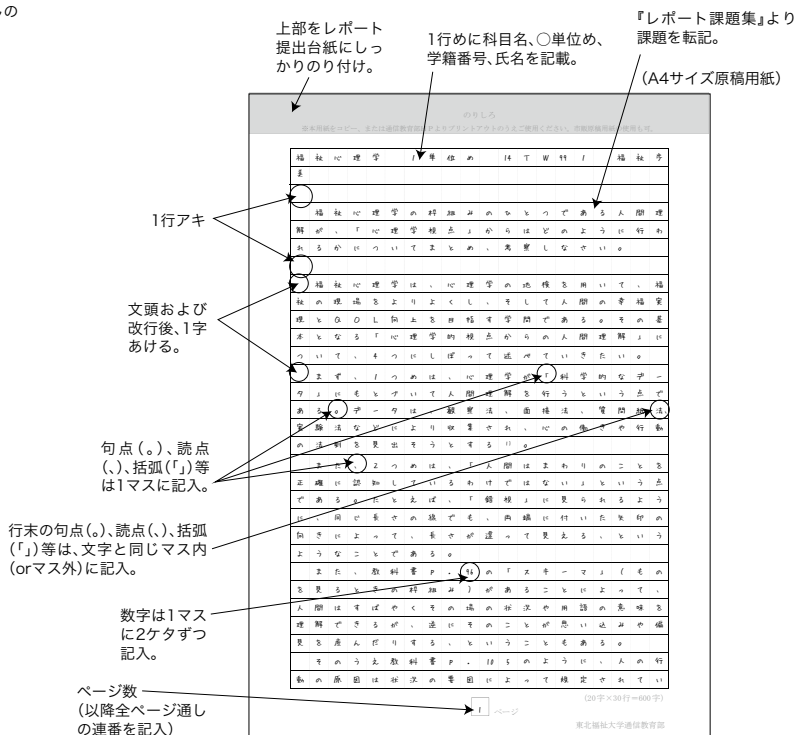
書式の不備や字数不足の場合、受け付けせず返送いたしますので、ご注意ください。

論述式レポート書式【作成・記入例（1ページめ）】

(パソコン印字用)



(手書きき用)



Ⅲ レポート提出台紙の使用方法

レポート提出台紙【記入例】

(提出用面)

10円

5円

9 8 3 8 5 1 1

文部科学省認可通信教育

仙台市宮城野区榴岡 2 丁目 5 番26号

東北福祉大学通信教育部

レポート係 御中

科目名 **教育の歴史と思想**

演習・実験・実習
科目の担当教員
(講義科目は不要)

先生

差出人
住所
氏名

学籍番号

封をする前にもう一度確認して下さい。
☒ 1 整理票に学籍番号・氏名、科目コード、科目名、課題番号（何単位のレポートか）を記入していますか。
☒ 2 返信用表紙に返信住所を記入し、返信切手を貼付していますか。
☒ 3 提出用表紙に必要事項（上記）を記入し、切手を貼付していますか。
☒ 4 解答記載の A 4 利用紙の貼り方はまちがっていませんか。

(返信用面)

10円

5円

9 8 1 8 5 2 2

文部科学省認可通信教育

住所 仙台市青葉区国見 1-8-1

福祉 歩美 様

(訂正不要)

■発信者

〒983-8511

仙台市宮城野区榴岡 2 丁目 5 番26号

東北福祉大学通信教育部

レポート係

15円分の切手貼付

各欄に所定の内容を記入

提出前にチェック

(評価・指導票・整理票面)

教員記入欄です。何も書かないでください。

学籍番号・氏名・提出する科目コード、科目名を記入該当する課題番号を○で囲む。

再提出の場合は○で囲む。

再提出レポートの場合は前回の評価・指導票を裏面の「のりしろ」に貼付してください。

評価・指導票		評価点 (1単位未満の場合は)	
評価・指導票	1 or 3 単位め	問題別 評価欄 A・B・C 問題別 評価欄 A・B・C 問題別 評価欄 A・B・C 引用・指導欄 A・B・C 1 or 3 単位め 評価	優 良 可 再提出 見た目の評価付 A・B・C
	2 or 4 単位め	問題別 評価欄 A・B・C 問題別 評価欄 A・B・C 問題別 評価欄 A・B・C 引用・指導欄 A・B・C 2 or 4 単位め 評価	優 良 可 再提出 見た目の評価付 A・B・C
	教員はこの面から読んでいきます。この紙をめくったところがレポートの1ページ目になるように貼り付けてください。レポートの下部にページ数を入れてください。		
	添削者名 (署名または捺印) 受付日 返却日		
	学籍番号 0 9 T Z 9 9 9 1 or 3 単位め 評価 2 or 4 単位め 評価 氏名 福祉 歩美 優 良 可 再提出 優 良 可 再提出 科目コード A H I I 1 0 1 3 1 7 受付日 返却日 科目名 教育の歴史と思想 課題番号 ①・②・③・④ ⑤・⑥・⑦・⑧・⑨・⑩ 課題 1・2・3・4・5		

再提出の場合 p.9 参照

再提出と評価された「評価・指導票」を必ず貼付してください。

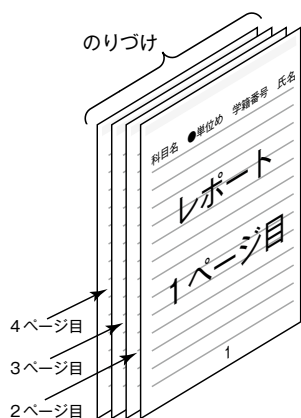
貼付されていない場合は受付しません。

11

レポート提出台紙【封の仕方】

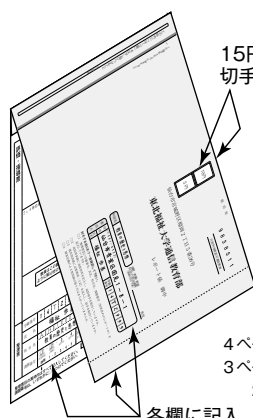
※レポート提出台紙の「評価・指導票」ウラ面も参考にしてください。

【レポート用紙】



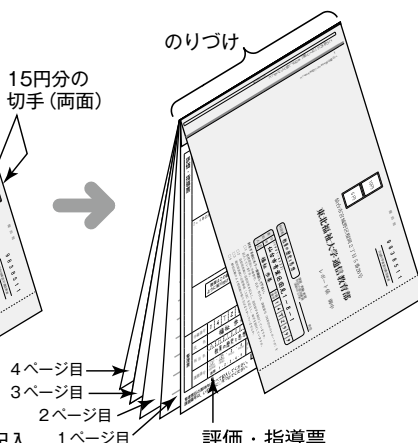
※全ページの上部を
しっかりのりつけする。

【レポート提出台紙】



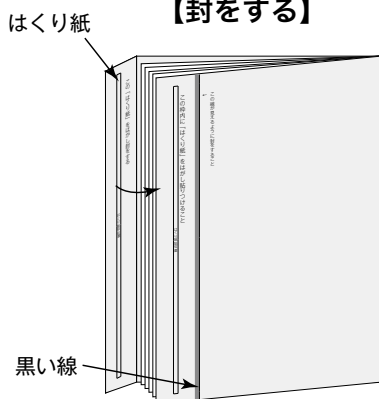
※提出用・返信用それぞれに、
切手を貼り付ける。
※各欄に所定の内容を記入する。

【レポート用紙＋ レポート提出台紙】



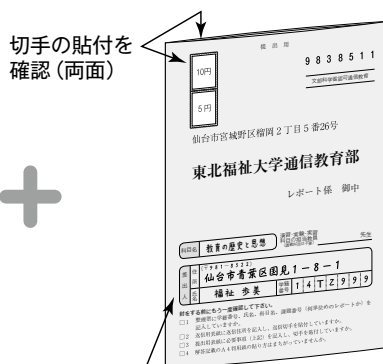
※「レポート用紙」と「レポート提出
台紙」の上部をしっかりとのりつけ。
※評価・指導票をめくると1ペー
ジ目になるように貼る。

【封をする】



※レポート提出台紙が外側にな
るように全体を折る。
※はくり紙をはがし、黒い線
が見えるように封をする。

【できあがり】



IV 客観式レポート

●問題形式 ○×式、選択肢式、穴埋め式など。

●解答方法

「TFU オンデマンド」上で解答

- ・初めて取り組む場合は「初期設定」を行ってください。
- ・手順は、「TFU オンデマンド」にログイン→「セミナー」より課題選択→解答→採点→解説にて復習。
- ・解答中に離席する際、「一時保留」ボタンを押す。その他、エラーの対処方法は「TFU オンデマンド・サポートページ」参照。
- ・解答は合格するまで何度でも可能。合格基準は8割以上の正答とします。正解や関連した解説もわかります。
- ・解答開始日 4～6、9～11月 履修登録が10日までに行われた科目は15日17時までに、25日までに
行われた科目は30日17時までに開始。
7～8、12～3月 履修登録が25日までに行われた科目は30日17時までに開始。
- ・合格した課題については、「Web 客観式レポート評価登録日」(『試験・スクーリング情報ブック』カレンダー参照)に Web 履修状況票に反映されます。

V レポート課題集の活用方法

科目名・担当教員名など

●単位数

単位修得方法にそって、レポートや試験が合格すると得られる、科目ごとに定められている単位数について、法令では1単位あたりの学習時間は45時間（2単位科目90時間・4単位科目180時間）と定められています。

通信教育部では、①教科書や参考文献を読んだり調べたりする時間、②学習内容について理解する時間、③レポートをまとめる時間、④スクーリングを受講する時間とその予習復習の時間、⑤科目修了試験の学習時間・試験時間などを確保して学習を進めていってください。

●履修方法

各科目の単位修得方法を記載しています。「R：レポート＋科目修了試験」「SR：スクーリング＋レポート」「RorSR：RかSRを自分で決める科目」「S：スクーリングのみ」となります。『学習の手引き』にて単位修得方法をご確認ください。

履修方法＝Sの科目については、レポート課題はなく、教科書もないものが大半です。スクーリング事前学習・スクーリング受講・スクーリング事後学習により、1単位あたり45時間の学習時間を確保するようにしてください。

●配当年次

履修登録・学習ができる年次を記載しています。たとえば、「1年以上」と記載のある科目は、1年生以上（2～4年生含む）の方が履修登録できます。

●担当教員

主としてレポート添削指導をおこなう教員名を記載しています（S科目はスクーリング担当教員）。スクーリング担当教員は受講会場により異なる場合があります。なお、一部科目のレポートは添削指導員が担当する場合があります。

また、担当教員が科目に関連する実務経験を有する場合は、「科目の内容」欄に表示しています。

科目の概要

●到達目標

各科目の学習を通じて、身につけてほしい目標を記載しています。意識して学習を進めてください。

●教科書

レポート学習やスクーリング時に使用する教科書を記載しています。在学中に変更になる場合もありますので、今年度学習するにあたり必ずご確認ください。

【スクーリング時の教科書について】

教科書が変更された科目について、通常変更後2年間は、変更直前の教科書を所持している方に対し、必要に応じて配慮いたします。

教科書が変更されて2年以上経過した科目について、スクーリング時に新規教科書の所持が求められたり、事前学習において新規教科書が必要とされる場合、所持していない方は事前に購入などをお願いいたします。

なお、通信教育部へ購入を申込む場合は、本冊子巻末の「教材購入申込書」をご利用いただき、事前に郵送で、料金分の定額小為替も同封のうえ余裕をもってお申込みください。当日の購入は原則としてできません。本冊子巻末の「教材購入申込書」に記載のない教科書の料金はお問い合わせください。

●学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

各科目の学習を通じてとくに伸ばしてほしい点を、社会福祉学科・福祉心理学科の「学位授与の方針＝ディプロマポリシー」との関連で記載したものです。

●科目評価基準

評価するにあたり、評価の計算方法を記載しています。

2018年度以降の科目評価の算出方法は次の通りです（入学年度により計算方法が異なります）。

■2014年度以降入学者の評価計算方法

計算上、「優」「良」「可」などの評価を4点満点で得点換算し、『レポート課題集』記載の評価割合で計算されます。

◇レポート評価

評価	優	良	可
レポートの得点換算	4	2	1

◇スクーリング評価 or 科目修了試験

評価	秀	優	良	可
試験の得点換算	4	3	2	1

※レポート評価に、「秀」はありません。

◇科目評価の計算式

例) 科目評価基準が、レポート a%+スクーリング試験 or 科目修了試験 b%の場合 (a%+b%=100%)

$$\text{科目評価得点} = \frac{\sum ((\text{レポートの得点換算の合計}) \times a\%)}{\text{レポート課題数}} + (\text{試験の得点換算}) \times b\%$$

◇科目の評価

科目評価得点	4.0	4.0未満～2.5以上	2.5未満～1.5以上	1.5未満～1.0以上
科目評価	秀	優	良	可
100点満点換算	100～90相当	89～80相当	79～70相当	69～60相当

※2017年度以前の単位修得科目の評価にも「秀」が加わります。2017年度以前の単位修得科目の科目評価の計算方法は、『レポート課題集2017』記載のとおりです（上記の方法では計算されません）。

※100点満点換算は「秀」「優」「良」「可」の位置づけの理解のために、参考に記載しております。

■2013年度以前入学者の評価計算方法

計算方法は2014年度以降入学者と同じですが、2013年度以前の入学者に「秀」の評価はつきません。

スクーリング

【会場によって担当教員が異なる科目】

会場により担当教員が異なる科目があります。会場ごとの講義概要を記載していますので、スクーリング受講前に必ずご確認ください。

【オンデマンド・スクーリングおよびビデオ・スクーリングの際のご注意】

オンデマンド・スクーリングおよびビデオ・スクーリングにおいて、録画が前年度以前である科目も多いため、以前の教科書にもとづく講義場合があります。その際は、最新の教科書を所持している方に対しては、必要に応じて配慮します。

また、講義内容も本冊子に記載の内容と若干異なる場合がありますが、ご了承ください。「オンデマンド・スクーリング用の講義概要」は、「TFU オンデマンド」の「各種申込」より確認してください。

【その他スクーリング受講上の留意点】

『学習の手引き』の「スクーリング」をご確認ください（掲載している章は入学年度により異なります）。

●スクーリングで学んでほしいこと

スクーリング時に、特に学んで欲しいポイントを記載しています。

●講義内容

コマごとのテーマ・内容が記載されています。なお、テーマの記載に当たって、スクーリング試験を分けていますので、たとえば、回数=1～9と表記されている科目のスクーリングのコマ数は8コマです。

●スクーリング 評価基準

評価するにあたり、判断基準の割合などを記載しています。スクーリング試験にあたっての補足事項（持込の可否など）も記載されています。

●スクーリング事前学習

スクーリングを受講するにあたり、事前に学習しておいてほしい事項を記載しています。記載されていなくても、教科書を一読したり不明な用語を調べておいたり、レポート課題について考察しておくことをお勧めします。また、受講中（後）も、疑問点について意欲的に調べることが望まれます。予習・復習により、学習が深まり、学習効果の向上が期待できます。

●スクーリング事後学習

スクーリング受講後に、学習（復習）してほしい事項を記載しています。その他、スクーリング受講で得た知識を踏まえ、未提出のレポートがある場合はレポート課題に取り組みましょう。また、「到達目標」を達成できるよう各自で知識をさらに深める学習をしてください。

講義中に紹介された参考図書を読んだり、スクーリングで得た知識を、受講後の職場や家庭での実践に役立て、知識を自分のものとすることも非常に大切な事後学習となります。

●在宅学習のポイント

主に教科書を読むポイントを15回（一部の科目を除く）に分けて記載しています。このポイントを身につけられれば、その科目の要点は十分理解したことになります。テーマ部分の（ ）内は現在使用している教科書の章立てまたはページ数です。

一部科目で、参考図書の内容が含まれる場合もあります。学習内容をより深めたい場合は、参考図書を活用することをお奨めします。なお、参考図書を読むことが必須の科目もありますので、レポートのアドバイス欄で確認してください。

●レポート課題

皆さんの学習の成果を先生に提出するものがレポートです。下記の「アドバイス」をよく読み、まとめてください。レポートの書き方は『学習の手引き』の「レポート学習」をご確認ください。

●アドバイス

レポート課題に取り組むにあたってのアドバイスが記載されています。よく読んでレポートに取り組んでください。大半の科目のレポート評価は「レポートにおける観点別ルーブリック評価」にもとづいて行います。レポートは学習の成果ですので、評価は自身の振り返りの材料、学習を深めるためのものとして利用してください。

【レポートにおける観点別ルーブリック評価】

評価の観点	A 十分満足できる	B やや努力が必要である	C かなり努力が必要である
題意把握・内容理解	①レポート課題そのものを理解している。②課題にそって解答がなされている。③答えるべきことがらの内容について正確に理解している。④専門用語の意味などについて、正確に理解している。	①～④のいずれか2つ以上が満たされている。	①～④の3つ以上が不十分である。
論理構成・考察力	①レポートが論理的に、わかりやすく展開されている。②自分なりの視点をもって、課題を考察している。③自分なりの考え方が書かれていて、独創性の芽が感じられる。	①～③のいずれか1つ以上が満たされている。	①～③のすべてが不十分である。
表現・文字の正確さ	①誤字・脱字がない。②文章の主語・述語が対応している。③適切な語彙を用いている。	①～③のいずれか1つ以上が満たされている。	①～③のすべてが不十分である。
引用・出典明示	引用・出典が明示され、引用した部分については、「」でくくり、どこから引用したのかを、著者名・『書名』・出版社名・出版年（初版）・引用ページ（引用の場合）を挙げて明示している。	引用・出典が明示されているが、表記方法が誤っている。	引用や参考文献が用いられているにもかかわらず、明示されていない。※教科書の出典明示も必須であるので、明記がなければ当評価となる。
現実との関連づけ（※課題により要求されない場合もある）	本学の建学の精神である「行学一如」に沿って、学問的な内容を、身近な出来事や職場での問題、時事問題に関連づけて（事例を挙げる等）まとめている。	学問的な内容を、身近な出来事や職場での問題、時事問題に関連づけてまとめようとしている努力は伺えるが、内容が不十分である。	レポート内容について、現実との関連づけを行った形跡が見られない。

科目修了試験

●評価基準

科目修了試験について、先生方からのアドバイスや評価する上での判断基準が記載されています。とくに指示がない場合は「在宅学習のポイント」「到達目標」「レポート課題」と関連した内容が出題される科目が大半ですので、ポイントをしばって学習してください。

医学概論			科目コード	CB3078
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	R or SR (講義)	2年以上	船渡 忠男(上)／澤田 悦子(下)	



※スクーリングを別教員が担当いたします。

(仙台・オンデマンド：井手貴治先生、東京：城戸裕子先生)

科目の概要

■科目の内容

社会福祉関係職種に従事する人にとって、生活支援技術の根拠となる人の身体構造と心身機能について理解することは不可欠です。人体や老化、疾病などの医療の基礎的な知識を持つことは、利用者の医療と一緒に考え、安全な介護サービスを提供できるためだけでなく、私たちがより健康的に生活するためにも大切です。

本科目では、基本的な人体の構造と機能を理解したうえで、ライフステージにおける心身の変化にともなう健康と疾病のとらえ方について理解します。また、直面する頻度の高い障害や疾病について医学的に理解し、人々の健康に及ぼす要因や健康課題を解決するための対策を考えます。

本科目は、予防対策や行政の取り組みなど、医療にかかわる広範囲な内容を含みますが、障害、リハビリテーション、国際生活機能分類（ICF）など、他の科目と重複する分野については、レポート課題には入れませんでした。しかし、非常に重要な分野ですので、教科書をしっかり読んで、医学概論で学んだことと結び付けて考えられるようにしておいてください。

■到達目標

- 1) 生活支援技術の根拠となる人体の主な器官とその生理的機能について説明できる。加齢に伴う生理的機能の低下と、高齢者に多い疾患（慢性腎臓病、高血圧、認知症など）との関連について説明できる。
- 2) 日本人の主な死因と、生活習慣や生活習慣病との関連について説明できる。
- 3) 介護保険及び、介護保険の特定疾病について説明できる。高齢者に多い神経疾患や精神疾患の特徴について説明できる。
- 4) 脳の機能と関連させて、認知症の中核症状と、その主な原因疾患について説明できる。
- 5) 公衆衛生学の観点から、日々直面する感染症と感染症対策について考え、対処法を説明できる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「専門的知識」「他者への関心と理解」「社会への関心と理解」「問題解決力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価10%＋スクーリング評価 or 科目修了試験90%

■教科書・参考図書

【教科書】

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座〔共通科目〕1 医学概論』中央法規出版、2021年

（スクーリング時の教科書）【各会場共通】 上記教科書は持参してください。配付資料を用いながら、講義を進めます。

【参考図書】

- 1) 辻一郎ほか著『シンプル衛生公衆衛生学2023』南江堂、2023年
- 2) 『NHK きょうの健康』月刊誌 NHK 出版
- 3) 岡田靖著『別冊 NHK 今日の健康・脳梗塞の再発を防ぐ』NHK 出版、2022年
- 4) 繁田雅弘著『別冊 NHK 今日の健康・家族のための認知症ケア』NHK 出版、2021年
- 5) 富野康日巳著『別冊 NHK 今日の健康・慢性腎臓病（CKD）』NHK 出版、2022年
- 6) 上妻謙監修『別冊 NHK 今日の健康・シニアの狭心症・心筋梗塞』NHK 出版、2020年
- 7) 田沼久美子ほか著『しくみと病気がわかるからだの辞典』成美堂出版、2007年（3D ビジュアル DVD 付、2013年）

スクーリング

▶仙台・オンデマンド開講分 井手 貴治

■スクーリングで学んでほしいこと

社会福祉関連の職種で将来必要となる、正常な人体の基本的な構造と機能、身近な疾病（生活習慣病など）、高齢者の特徴と高齢者に多い疾患などについて理解することを学習目標とします。また、講義では国家試験問題やその類題の解説なども行う予定です。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	ライフステージにおける心身の変化と健康課題	ライフステージにおける心身の特徴、心身の加齢・老化、ライフステージ別の健康課題
2	健康および疾病の捉え方	健康と疾病の概念、国際生活機能分類（ICF）
3	身体構造と心身機能	人体部位の名称、器官系と臓器の役割
4	疾病と障害の成り立ちおよび回復過程	疾病の発生原因と成立機序
5	リハビリテーションの概要と範囲	リハビリテーションの定義、目的、対象、方法

回数	テーマ	内容
6	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション①	感染症、神経疾患、認知症、高次脳機能障害、脳血管疾患、心疾患、内分泌・代謝疾患、呼吸器疾患、腎・泌尿器疾患、消化器・肝胆膵疾患、骨・関節の疾患、血液・免疫・アレルギー疾患
7	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション②	眼科疾患、視覚障害、耳鼻咽喉疾患、聴覚障害、平衡機能障害、口腔疾患、婦人科・産科、精神疾患、精神障害、発達障害、小児科疾患、肢体不自由、知的障害、高齢者に多い疾患、生活習慣病（総論）、内部障害、悪性腫瘍と緩和ケア
8	公衆衛生	公衆衛生の概要、健康増進と保健医療対策
9	スクーリング試験	

※オンデマンド・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

■講義の進め方

上記講義内容にそって、配付資料を用いながら、講義を進めます。

■スクーリング 評価基準

スクーリング試験100%（持込可）。配付資料から出題します。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

事前に教科書に目を通して、用語に慣れておいてください。

▶東京開講分 城戸 裕子

■スクーリングで学んでほしいこと

本科目では、基本的な人体構造と機能を理解し、人のライフステージにおける心身の変化と健康課題、健康・疾病の捉え方、疾病と障害の成り立ち及び回復過程、健康に影響を及ぼす要因や健康課題を解決するための対策などの知識と理解を深めることを目標とします。

また、わが国の高齢者、障がい者、児童など幅広い分野で抱える健康課題や問題について、講義内でDVD視聴を通して学びます。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	オリエンテーション ～人体の仕組みを学ぶこと～ ライフステージにおける心身の変化と健康課題	人体の仕組みを学ぶこと ライフステージごとの心身の特徴 加齢と老化について ライフステージと健康課題
2	健康と疾病	健康とは 国際生活機能分類と活用 生活習慣病

回数	テーマ	内容
3	人体の仕組みと機能	人体の構造と名称 器官と臓器の役割
4	疾病と障害の成り立ち・回復過程とリハビリテーション	疾病と障害・リハビリテーション
5	疾病並びに障害の理解 治療・予後・リハビリテーション・予防①	感染症・神経疾患・認知症・脳血管疾患・心疾患・内分泌・代謝疾患・呼吸器疾患、腎、泌尿器疾患
6	疾病並びに障害の理解 治療・予後・リハビリテーション・予防②	消化器疾患・骨、関節疾患・血液、免疫疾患・眼科疾患・聴覚器疾患・口腔疾患・子どもの病気
7	保健医療に関する対策	わが国の公衆衛生の実際
8	緩和ケアを考える（変更の予定あり）	DVD 視聴
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイントおよび資料の配付を中心に講義を進めます。イラストや穴埋め、課題を含めた資料の作成を予定しています。

尚、講義内で健康課題や社会問題に関する DVD 視聴を予定しています。

※尚、パワーポイントは資料として配付しません。

■スクーリング 評価基準

スクーリング中に学んだ内容から出題します（持込一切不可）。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

本科目は、「人体の仕組み」や「疾患名」が医学用語であり、やや苦手意識もあるかもしれませんが「からだの仕組み」を理解することは基本となります。事前にテキストに目を通してきてください。

現在、気になっている健康に関する社会問題を1つ取り上げ、なぜ気になったのかの理由と現状について考察してください。

■参考文献

- 1) 松村譲児著『イラスト解剖学 第10版』中外医学社、2021年
- 2) 『病気がみえるシリーズ』医療情報科学研究所、2020年～
- 3) 『からだが見えるー人体の構造と機能ー』、2023年2月 メディクメディア

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	ライフステージにおける心身の変化と健康課題 (第1章)	ライフステージにおける心身の特徴について理解し、ライフステージ別の健康課題について考える。 キーワード：遺伝子と環境、加齢と老化、生理機能の加齢変化、老年症候群	胎児期から青年・中年期までの身体および精神の成長・発達の特徴を知り、遺伝子と環境による影響を考える。 生理機能の加齢変化の特徴を知ること、高齢者の特徴や高齢者が老年症候群に陥りやすいことを理解する。
2	健康および疾病のとらえ方 (第2章)	健康の定義を学び、疾病と健康寿命について考える。国際生活機能分類（ICF）の基本的枠組みを学ぶ。 キーワード：ICF、健康状態、生活機能低下	国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要を学び、WHOによる健康状態と障害の分類を理解する。
3	身体構造と心身機能① (第3章)	人体各部位の名称と、人体を構成する器官系と臓器の名称を学ぶ。 キーワード：心臓、肺、脳、腎臓	医学の基礎用語、医学の基礎知識（器官、構造と機能）を学ぶ。特に加齢変化の大きい腎臓や肺、免疫系の機能について考える。
4	身体構造と心身機能② (第3章)	人体を構成する器官系と臓器の機能（生理機能）を学ぶ。身体機能の調節について学ぶ。 キーワード：循環器系、呼吸器系、神経系、内分泌系、ホルモン、血液、免疫	医学の基礎用語、医学の基礎知識（人体の恒常性、身体機能の調節）を学ぶことで、健康状態や疾病を理解しやすくなる。
5	疾病と障害の成り立ちおよび回復過程 (第4章)	疾病の発生原因を、大きく外的要因と内的要因に分類して考える。 キーワード：免疫反応、抗原、抗体	多くの疾病における発生原因と、さまざまな病因により起こる生体反応について学ぶ。
6	リハビリテーションの概要と範囲 (第5章)	リハビリテーションと医療的リハビリテーションについて学ぶ。対象となる疾患・障害の概要を学ぶ。 キーワード：ADL、IADL、QOL、内部障害、高次脳機能障害、廃用症候群	リハビリテーションの概要を理解し、傷害の概要、リハビリテーションにおける障害評価について学ぶ。
7	疾病と障害① (第6章第1節)	主な感染症について学ぶ。 キーワード：新型コロナウイルス感染症、結核、日和見感染症、院内・施設内感染対策、ワクチン	感染症には、それぞれ症状だけでなく、感染経路、潜伏期間に特徴がある。さらに病原体の特性を知ることによって感染予防対策を講じることができる。
8	疾病と障害② (第2節)	認知症の定義及び中核症状、行動・心理症状、代表的な認知症について学ぶ。 難病、神経難病、脳機能性疾患について学ぶ。 キーワード：中枢神経、高次脳機能、パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症	原因疾患により、認知症の症状が違ふことを理解する。 介護保険の特定疾病には、難病の特定疾患と重複している神経難病があるので、特に多いパーキンソン病などについて調べておくといふ。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
9	疾病と障害③ (第3、4節)	脳血管疾患について学び、予防を考える。虚血性心疾患や高血圧などの心疾患について学ぶ。 キーワード：生活習慣病、脳出血、脳梗塞、狭心症、心筋梗塞、高血圧	日本人の死因の上位を占める脳血管疾患や虚血性心疾患は、生活習慣と深くかかわる生活習慣病の一つであり、生活習慣との関連や発症予防についても考えておこう。
10	疾病と障害④ (第5、6節)	内分泌器官からのホルモン分泌異常による代謝疾患について理解する。 高齢者に多い肺疾患などの呼吸器疾患について理解する。 キーワード：糖尿病、糖尿病の合併症、脂質代謝異常、慢性閉塞性肺疾患	糖代謝異常による糖尿病と、その治療や合併症について学ぶ。 脂質代謝異常、尿酸代謝異常などの代謝疾患について学ぶ。 呼吸器疾患と生活習慣について考える。
11	疾病と障害⑤ (第7、8、9節)	腎・泌尿器疾患について学ぶ。 消化器・肝胆膵疾患について学ぶ。 加齢に伴い増加する骨・関節疾患の特徴を理解する。 キーワード：慢性腎臓病、骨粗鬆症	急性腎障害、慢性腎臓病について理解する。 高血糖だけでなく、加齢によっても腎機能が低下することを理解する。 消化器系（肝臓など）の疾患（癌など）について学ぶ。
12	疾病と障害⑥ (第10、11、12、13節)	血液・免疫・アレルギー疾患を学ぶ。 加齢変化による眼科疾患と視覚障害について学ぶ。 耳鼻咽喉疾患、聴覚障害、平衡機能障害口腔疾患について学ぶ。 キーワード：嚥下障害、誤嚥性肺炎	白血球やリンパ球は、免疫を担う重要な作用を持つが、過剰な免疫反応をおこし、食物アレルギーなどの原因となることを理解する。
13	疾病と障害⑦ (第14、15、16節)	婦人科疾患と産科疾患について学ぶ。 発達障害、精神疾患、精神障害について学ぶ。 小児科疾患の特徴について学ぶ。 キーワード：発達障害、うつ病、統合失調症	子宮頸癌、子宮体癌などの定期検診について考える。 先天性疾患の原因には、環境要因と遺伝的要因があることを理解する。
14	疾病と障害⑧ (第17、18、19節)	高齢者に多い疾患について学ぶ。 生活習慣病の病態と予防について学ぶ。内部障害の概要を学ぶ。 悪性腫瘍と緩和ケアについて学ぶ。 キーワード：老化、老年症候群、廃用症候群、フレイル、フレイルサイクル、生活習慣病、メタボリックシンドローム、内部障害	加齢による生理的な機能の変化を学び、老年症候群との関連を理解する。 内臓脂肪の過剰蓄積によって生じるメタボリックシンドロームについて理解する。
15	公衆衛生 (第7章)	公衆衛生の目的について理解する。 予防医学について学び、公衆衛生の保健対策、疾病対策について理解する。 キーワード：介護保険、特定健康診査	疾病の予防対策の一次予防、二次予防、三次予防について理解する。

■レポート課題

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	【説明型レポート】 下記①～⑥を全て説明しなさい（各300字を目安に計1,800字以上2,000字程度にまとめる）。 ①生活習慣病の定義、および生活習慣との関連について説明せよ。特に、死因に関わる重大な生活習慣病（がん、虚血性心疾患、脳血管疾患）については詳しく説明せよ。 ②加齢に伴う生理機能の低下について述べよ（腎臓など、特に低下が顕著な器官については詳しく）。 ③認知症およびその主な原因疾患と中核症状について説明せよ。 ④感染症と感染症対策（感染症法については簡単に、または省いても良い）について説明せよ。 ⑤高齢者に多い神経疾患について述べよ（認知症は③と重複するので省く）。可能なら、特定疾患や特定疾病に関係する疾患について調べてみる。 ⑥健康寿命を延伸するために、教科書『医学概論』pp.206のフレイルサイクルにおいて、どの段階で介入するか例を考えよ。自分なりに考えることを評価するので、間違えてもかまわない。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

◆注意◆

- 1) 論述式の【説明型レポート】は年度により問題が異なり、問題文も長いので、レポート用紙の「課題」欄には、「2024年の問題に解答する」というように、課題の年度のみを記入し、問題文は記入しないでください。「解答欄」にも、問題の番号のみを記入し、問題文は記入しないでください。
- 2) 簡潔明瞭にまとめてください。定義を最初に記述し、詳細や例はその後に記述するとわかりやすくなります。
- 3) 教科書や文献をそのまま写すのではなく、自分自身の言葉で、要点をまとめなおしてください。

■アドバイス

医学概論では、人体の構造と機能について学び、疾病や障害についての基本的な理解をします。ここで学ぶ医学の基礎知識は、広い範囲のごく一部をまとめてあり、簡略化されているが故に、分かりにくい面が避けられません。

テキストを、まず一通り最後まで目を通し、概略を理解したうえで課題に取り組んでください。機能と関連する疾病が別に記載されていたり、同じ疾病が何か所かに分れて記載されていたりすることがありますが、総合的に関連付けられるような学び方が大切です。例えば、医学概論には、「介護保険の特定疾病」や、「難病の特定疾患」の記述はありませんが、関連する神経疾患などについては記載されています。他の科目で出てきたときに、「医学概論のあそこに記載されていた」と再度確認できるような学び方が大切です。レポートを書くにあたって、もし余力があれば、他の教科書で特定疾病や特定疾患について調べてまとめると良いレポートになります。他から関連した情報を集めるのは、後の仕事にも役に立ちます。努力の評価を心がけますので、疑問について調べてみることをお勧めします。

1 単位め アドバイス

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

2 単位め アドバイス

課題①：生活習慣病については14回目で簡単にふれています。具体的な疾病は9回目などに記載されています。他にも、②の腎臓の機能なども分散された記載が多いので、自分で関連させてまとめてください。

課題⑤：パーキンソン病は必ず記載してください。高齢者に多い神経疾患であり、進行してレビー小体型認知症を発症することが多いです。

課題⑥：例えば、「週一回の外出が寝たきり予防になる」という報告があります。悪循環のどこを断ち切る可能性があるか考える参考にしてください。内容的には、社会福祉法第4条と社会福祉法第109条を軸に、地域福祉の定義に照らしてまとめていくと良いでしょう。

■レポート評価の基準

- 1) 2単位めは説明型レポートなので、要点を簡潔に、自分の言葉でまとめる（教科書の丸写しはしない）。
- 2) 例えば「Aについて説明せよ」と問われたら、「Aの定義」を記述する（Aを含む文ではないので注意する）。

科目修了試験

■評価基準

- 1) 教科書などから学んだ知識が感じられる答案であること。一般常識や、仕事上で得た知識だけでは不十分なので注意する。
- 2) 問いに対する答えが十分であれば、少々字数が不足してもかまわない。内容で判断するので、字数を正確に数える必要はない。内容や字数が不足しているときには、学んだ他のことと関連させて述べるとよい。

福祉心理学			科目コード	CC2068
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	R or SR (講義)	1年以上	渡部 純夫	



科目の概要

■科目の内容

人間を取り巻き、目まぐるしく変化する社会の中で、私たちは自己形成を目指しながら生きていくために多種多様な問題と取り組まなければなりません。この世に生を受けた瞬間から死を迎えるまで、ライフサイクルを通して抱えなければならない問題や課題は山のようにあります。「福祉心理学」は、このような時代を生き抜く人々の、一人一人が求める「幸せの追求」をサポートし、「生活の質」の向上のために貢献する必要不可欠な学問ということができます。一人一人の生命と生活を守るための取り組みを行いながら、社会全体にも働きかけていくことが「福祉心理学」には求められます。一人一人の心理面を心理アセスメントから深く理解し、日常生活に散見するたくさんの問題に実践的見地からの分析と対応を行うことが求められます。人間生活の基本にかかわる、「福祉心理学」をしっかりと学びましょう。

【教員等の実務経験による指導内容】

心理的支援の経験をいかし、事例をもとに「心理学」の理論や手法を身につけ人々の福祉に対処できる人材を育成します。

■到達目標

- 1) 人の心の基本的な仕組みと機能を理解し、環境との相互作用の中で生じる心理的反応を理解し、説明できる。
- 2) 人の成長・発達段階の各期に特有な心理的課題を理解し、説明できる。
- 3) 日常生活と心の健康との関係について理解し、説明できる。
- 4) 心理学の理論を基礎としたアセスメントの方法と支援について理解し、理解できる。
- 5) 公認心理師に関する内容について理解し、説明できる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「他者への関心と理解」「社会への関心と理解」「自己尊重力的コミュニケーション力」「他者配慮表現力」「社会貢献力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価60%＋スクーリング評価 or 科目修了試験40%

■教科書・参考図書

【教科書】

小松紘・木村進・渡部純夫・皆川州正編著『現代と未来をつなぐ見地からの心理学 改訂版』八千代出版、2019年（改訂版でなくても可）

（最近の教科書変更時期）2019年4月

（スクーリング時の教科書）上記教科書を参考程度に使用します。

【参考図書】

中山哲志・稲谷ふみ枝・深谷昌志編『福祉心理学の世界 人の成長を辿って』ナカニシヤ出版、2018年

佐藤泰正・中山哲志・桐原宏行編著『福祉心理学総説』田研出版、2011年

今城周造編著『福祉の時代の心理学』ぎょうせい、2004年

岡田明著『福祉心理学入門』学芸図書、1995年

水島恵一編著『人間科学入門』有斐閣双書、1976年

村上陽一郎著『生と死への眼差し』青土社、1993年

藤森和美編『子どものトラウマと心のケア』誠信書房、1999年

岩城宏之著『いじめの風景』朝日新聞社、1996年

村瀬嘉代子著『子どもと大人の心の掛け橋』金剛出版、1995年

佐藤泰正・山根律子編著『福祉心理学』学芸図書、1998年（改訂版、2005年）

白樫三四郎編著『現代心理学への招待』ミネルヴァ書房、1995年

小林重雄監修『福祉臨床心理学』コレール社、2002年

安藤治著『福祉心理学のこころみ』ミネルヴァ書房、2003年

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

人の心の基本的な仕組みと機能、環境との相互作用の中で生じる心理的反応、および成長・発達段階の各期に特有な心理的課題、および日常生活と心の健康との関係について理解するため、「心理学」の理論や手法を応用して、人々の福祉に対処するための方法、福祉現場において生じる問題及びその背景、心理社会的課題及び支援について学びます。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	心理学の視点	心理学の歴史と対象、心理学の未来、心を探求する方法の発展
2	人の心の基本的仕組みと機能①	心理学における諸理論と形成過程、心の生物学的基盤、感情・動機づけ・欲求、感覚・知覚
3	人の心の基本的仕組みと機能②	学習・行動、認知

回数	テーマ	内容
4	人の心の基本的仕組みと機能③	個人差、人と環境
5	人の心の発達過程	生涯発達、心の発達の基盤、生きがいと問題行動への対応
6	日常生活と心の健康	生活環境と心の健康、心の不適応、健康生成論、喪失体験
7	心理学の理論を基礎としたアセスメントと支援の基本①	心理アセスメント、心理的支援の基本的技法
8	心理学の理論を基礎としたアセスメントと支援の基本②	心理アセスメントとその技法、心理療法におけるアセスメントと介入技法の概要、心理の専門職、まとめ
9	スクーリング試験	

※オンデマンド・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

■講義の進め方

一人ひとりの幸せを考えていくために、心理学がどのように貢献できるか、具体例をあげながら講義をしていきます。その中で理論と実践がどう融合していくのかについても考えていきます。

■スクーリング 評価基準

授業への参加状況（20％）＋スクーリング試験（80％：持込不可）

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

教科書を読み、人の一生と心理学がどのように結びつきを持つのかについてまとめてきてください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

自分の身近な福祉の問題を取り上げ、「福祉心理学」の理論や技法から、どのような援助が可能かまとめてみてください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	心理学の歴史から未来を考える①	心の学の誕生とその歩み キーワード：行動主義、ゲシュタルト、精神分析	心理学の歴史を振り返る事により、心理学がどのような発展を遂げてきたかを学ぶ。
2	心理学の歴史から未来を考える②	現代の心理学から未来へ キーワード：環境・社会心理学、発達心理学、臨床心理学、倫理	現代の心理学とその課題を理解することにより、未来における心理学の可能性を考える。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
3	人は現実世界をどうとらえ、経験し、困難を克服するか①	「知る」ことの仕組みとその応用 キーワード：知覚、認知	「知る」という心理機能と行動の基本的メカニズムについて学び、日常生活への活用について考える。
4	人は現実世界をどうとらえ、経験し、困難を克服するか②	「学び、覚える」事の仕組みとその応用 キーワード：学習、条件づけ、行動主義、記憶	社会・文化的な側面の理解についての結びつきを踏まえ、「学習、記憶」という心理機能と行動のメカニズムについて学ぶ。
5	人は現実世界をどうとらえ、経験し、困難を克服するか③	「考え行ふ」事の仕組みとその応用 キーワード：知能、問題解決	「知能」とは何か、「問題を解決する」時の心の働きに着目し、「思考」のメカニズムについて学ぶ。
6	心の成り立ちと個性の形成を考える①	「行動」から見た心と個性 キーワード：動機づけ、感情、社会的認知	人間の「行動」を、心理学的に理解していくための諸理論について学ぶ。
7	心の成り立ちと個性の形成を考える②	「パーソナリティ」から見た心と個性 キーワード：パーソナリティ、自我・自己、自己実現	人を特徴づける「パーソナリティ」の様々な考え方について学ぶ。
8	心の成り立ちと個性の形成を考える③	「人間性」から見た心と個性 キーワード：人間性心理学、感性、コミュニケーション、適応	「人間性心理学」の各理論と「コミュニケーション」の基礎概念について学ぶ。
9	ともに生きるための心理学の役割①	生活環境作りと心理学の役割 キーワード：父性原理・母性原理、ウェルビーイング、分化心理学、パーソナル・スペース	心理学的アプローチに基づいて、人と人、家族、社会・文化、環境との関連性を学び、心理学の役割を考える。
10	ともに生きるための心理学の役割②	人の健康と心理学の役割 キーワード：ストレス、予防	健康と「ストレス」の関連性について、様々な生活場面における問題と、心理的側面からの対処について考える。
11	ともに生きるための心理学の役割③	心理臨床の現場から キーワード：DSM-IV、ICD-10、アセスメント、心理療法、福祉と心理	単純に因果関係を特定できない「心の問題」を学び、「アセスメント」「心理療法」について考える。
12	「人生」を生きていくということ①	生涯発達 キーワード：変化、積み重ね、可塑性	「生涯発達心理学」という視点から「発達」についての考え方を学ぶ。
13	「人生」を生きていくということ②	障害をもって生きるということ キーワード：WHO、受容	「障害」とは何かを正確に理解する。「障害」の意味・援助の在り方考える。
14	「人生」を生きていくということ③	思春期を生きる キーワード：同一性、自我、モラトリアム	「思春期の変化」を、「身体的変化」と「心理的变化」に分けて考える。また、その過程で、心理学がどのように貢献できるかを考察する。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
15	「人生」を生きていくということ④	老年期を生きる キーワード：個人差、パーソナリティ、生きがい、死、幸福、福祉	加齢が及ぼす身体的・心理的变化を学び、心理学・社会福祉学の両面からのアプローチを考える。

■レポート課題

【2018年度以降入学者】

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	福祉心理学の枠組みのひとつである人間理解が、「心理学的視点」からはどのように行われるかについてまとめ、考察しなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

【2017年度以前入学者】

1 単位め	福祉心理学の枠組みのひとつである人間理解が、「心理学的視点」からはどのように行われるかについてまとめ、考察しなさい。
2 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

「福祉心理学」では、深い人間理解が必要になります。人間は発達を通していろいろなものを身に付け、自己形成の課題に取り組んでいきます。課題に直面し不応答を起こすこともあります。そのような人々に対して援助を行うにあたっては、一般的な発達においての特徴と課題をしっかりと押さえておく必要があります。しかし、人間には個性や個人差があります。個としての見方やとらえ方も同時に必要になります。

この「福祉心理学」では、まず心理学の視点から人間理解を深めていくことを行います。その上で、何らかの援助を必要としている人に対して、どのような援助方法があるのか、ひとりひとりのニーズにどのように応えていけばよいかについて、理念と実践から考えていくことにしたいと思います。

「福祉心理学」を考えると、「社会福祉」と「心理学」の二面性の問題と向き合うことになりますが、ここでは「心理学」を「福祉」にどう活用するかという観点から考えていただきたいと思います。

客観式課題
アドバイス

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

論述式課題
アドバイス

(1) テキスト『現代と未来をつなぐ実践的見地からの心理学』の第1部「心理学の歴史から未来を考える」から第3部「心の成り立ちと個性の形成を考える」までをよく読み、人間の心理的活動がどうなっているかを理解するための努力をしてください。

- (2) 次に、参考図書にあたり人間理解のための方法や視点の共通点と違いについてまとめ、考えを膨らませてください。あなた自身が今まで行ってきた理解の仕方についてもふりかえりを行ってください。
- (3) それらを、分析・考察しながら自分なりにまとめていくことにより、深い人間理解にもとづいたレポートができあがると思います。
- (4) 人間のすべての行動面に「心理学」は関わりをもちますから、日々の生活の中で気になる人間の行動をとりあげ、「心理学」とつないで学んでみるとよいと思います。

科目修了試験

■評価基準

- 1) 人生のライフステージの課題を理解しているか。
- 2) 福祉心理学の視点が理解されているか。
- 3) テキスト以外の文献で発展的学習をしているか。
- 4) 自分の考えをまとめる力があるか。
- 5) 専門的内容をどれくらい理解しているか。

社会学と社会システム			科目コード	CC2169
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	R or SR (講義)	1年以上	牛渡 亮	



科目の概要

■科目の内容

近代以降の社会の発展は、それまでよりも豊かで便利な生活を私たちにもたらしました。しかしその一方で、近代社会に特有の社会構造は様々な問題を生み出し、私たちの家族関係や生活環境を脅かしています。とりわけ、20世紀末葉以降の福祉国家の衰退と新自由主義の台頭は、社会の結びつきを揺るがし、「ソーシャル」(社会的なるもの)のあり方を大きく変容させています。

そこで本講義では、社会学の知見を通して、私たちの生きる社会について考察します。社会学は、19世紀から20世紀に生きた人々がみずからの生きる社会を理解しようと努力する中で鍛え上げられてきた学問です。その成果を活用しながら、ひとりひとりが現代社会における「福祉」について考えるための視角を身につけてほしいと思います。

【スクーリングで学ぶ内容】

スクーリングは、内容のつながりを理解しやすいように、教科書の内容を再構成した2部構成となっています。第1部では、社会学の基本的な問題関心や分析視角を学習します。第2部では、福祉について議論する上で土台となる家族生活に関わる諸問題と現代の社会問題を取り上げ、福祉との関わりについて議論します。授業内容をみずからの生活や問題関心に引き寄せながら、積極的に考えてほしいと思います。

【教科書・レポート学習で学ぶ内容】

教科書は、重要語句を覚えるだけではなく、どのような議論の中でその言葉が使われているのかを確認しながら読み進めてください。また、わからない言葉や興味を持った内容については、辞書や参考図書を活用して積極的に調べてください。

レポート学習は、授業内容を復習すると同時に、みずからの考えを表現する機会です。考えていることを文章にまとめようとすると、内容理解の不十分な箇所がはっきりします。その場合は、教科書や参考図書を読み直して、再度自分の考えを整理してください。

■到達目標

- 1) 社会学の概念や語句を正しく理解し、説明できる。
- 2) 近代以降の家族の変容を理解し、今日の家族に生じている問題との関連性を説明できる。
- 3) 現代社会に生じている問題を理解し、それに対するみずからの考えを他者に表現できる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「専門的知識」「他者への関心と理解」「社会への関心と理解」「自他尊重的コミュニケーション力」「他者配慮表現力」「クリティカルシンキング力」「アセスメント力」「社会貢献力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価50%＋スクーリング評価 or 科目終了試験50%

■教科書・参考図書

【教科書】

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座〔共通科目〕3 社会学と社会システム』中央法規出版、2021年

（スクーリング時の教科書）スクーリング時は上記教科書を使用せず、資料を配付します。

【参考図書】

- 1) 長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志著『社会学 新版』有斐閣、2019年
- 2) アンソニー・ギデンズ著『社会学 第五版』而立書房、2009年
- 3) 大澤真幸著『社会学史』講談社、2019年
- 4) 宮島喬編著『岩波小辞典 社会学』岩波書店、2003年

その他、教科書の節ごとに掲載されている参考文献も参照してください。

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

第1回から第4回までの第1部では、社会学を学ぶ上で土台となる用語や考え方について学習します。社会学の誕生は、近代社会の成立と切り離して考えることができません。そこで、近代化の背景や近代化による社会の変化を中心に学習します。単に用語や人名を覚えるだけではなく、なぜそれが重要なのかを説明できるように文脈の中で把握してください。

第5回から第7回までの第2部では、近代以降の家族に関わる問題と現代の社会問題を学習します。私たちは家族の一員として生まれ、生活し、またみずからも家族を形成し、育んでいきます。しかし、家族とは私たちがイメージするほど自明な存在ではありません。そこで、家族という身近な存在に対して、みずからの経験から一歩距離をとって冷静に観察し、理論やデータをふまえた客観的な議論ができるようになってほしいと思います。また、今日生じている社会問題には、近代社会に特有の構造的特徴が色濃く反映されています。そのため、第1部で学習した知識を総動員して、多面的に社会問題について検討してほしいと思います。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	社会学の視点	構築主義、相対主義、役割理論、社会学の歴史
2	近代化と社会的連帯	社会変動、組織と集団、社会的連帯
3	地域とコミュニティ	都市化、過疎化、コミュニティ、環境問題、高齢化
4	自己と他者	自己の形成、社会化、相互行為
5	家族とジェンダー	家族の概念・機能・形態、近代家族、ジェンダーロール
6	格差と労働	労働の概念、就業形態、格差と貧困、社会階層
7	差別と偏見	逸脱、ラベリング、スティグマ、社会的排除・包摂
8	質疑応答	ここまでのまとめ
9	スクーリング試験	

※オンデマンド・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

■講義の進め方

配付資料をもとに板書しながら進めます。

■スクーリング 評価基準

到達目標記載内容に関連した問題を出題します（教科書・配付資料持込可）。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

教科書を一通り読んでください。難しい言葉や議論については読み飛ばして構いません。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

教科書をもう一度読んでください。事前学習の時とは違った発見があるはずです。また、関心を持った節の末尾に記載されている参考文献を読み進めてください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	社会学の視点 (第1章第1節・第2節)	社会学の意義と対象、社会学の歴史	代表的な社会学者とその理論を中心に学習しましょう。
2	社会システム (第2章第1節)	社会秩序の構成、社会をシステムとしてみる、社会階層システム	パーソンズとマーソンの議論を中心に学習しましょう。
3	組織と集団 (第2章第2節)	集団と組織、組織の合理化と官僚制、全制的施設、非営利セクターと非営利組織	社会学者たちが集団をどのように分析しているのかを比較しましょう。また、官僚制の特徴を整理しましょう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
4	人口 (第2章第3節)	人口増加の時代と人口減少の時代、日本の人口高齢化、日本の少子化、日本の移動	人口転換と少子高齢化を中心に学習しましょう。
5	グローバリゼーション (第2章第4節)	グローバリゼーション、日本における医療・福祉部門の外国人	ヒト・モノ・カネの移動を軸に、グローバリゼーションを整理しましょう。
6	社会変動 (第2章第5節)	社会変動とは何か、前近代社会から近代社会へ、社会変動の要因と諸相、現代社会におけるソーシャルワーカーの役割	前近代社会から近代社会への変化を、社会学者たちがどのように描いているのかを比較してみましょう。
7	地域 (第2章第6節)	地域とコミュニティ、地域社会をめぐる課題の背景、地域コミュニティと福祉コミュニティ	限界集落やソーシャルキャピタルを中心に学習しましょう。
8	環境と災害 (第2章第7節・第3章第4節)	環境破壊と再生・保全、持続可能な地域社会、被災地支援の考え方、災害の定義、発災後の被災地社会の変化	環境については持続可能性を、災害については被災体験を中心に学習しましょう。
9	社会的格差 (第3章第1節)	格差、格差と貧困、雇用格差、教育格差、健康格差	貧困や非正規雇用を中心に学習しましょう。
10	社会政策と社会問題 (第3章第2節)	産業社会の社会問題と社会政策、社会政策（福祉国家）の三つのタイプ、社会政策への批判と新しい社会政策	福祉国家の三つのタイプを中心に学習しましょう。また、ソーシャルガバナンスについても整理してください。
11	差別と偏見 (第3章第3節)	社会的排除・社会的包摂とは何か、偏見、差別、ソーシャルワーカーは偏見・差別にどう向き合うべきか	ラベリング理論を踏まえて、現代の差別について考えてみましょう。
12	家族とジェンダー (第4章第1節)	家族に関する基本的な概念、ジェンダーと近代家族論、近年における家族変動	家族の分類と機能、近代家族におけるジェンダー役割を中心に学習しましょう。
13	健康と労働 (第4章第2節・第3節)	自殺、依存症、心身の障害、慢性疾患、治療と仕事の両立、賃労働の誕生、労働市場の性質とルールの導入	健康については当事者概念を、労働については労働法を中心に学習しましょう。
14	世代 (第4章第4節)	世代と社会、ライフサイクルとライフステージ、ライフコース、個人化する社会と「社会問題」	ライフサイクル、ライフステージ、ライフコースなどの概念を整理しましょう。
15	自己と他者 (第5章)	自己と他者、社会化、相互行為	ミードによる自己の形成に関する議論を中心に学習しましょう。

■レポート課題

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	前近代社会から近代社会へと変化するきっかけとなった出来事をまとめた上で、近代化によって社会がどのように変化したのかを多面的に論じてください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

社会学を学ぶ上で大切にしたいことは、ひとつの社会現象を様々な視点から分析するという事です。特に、福祉に関わる社会問題を考える場合、一問一答式にただひとつの「正解」があることは稀で、ほとんどはその問題を考える人の立場ごとに異なる解答があります。そのため、ひとつの問題を色々な側面から検討し、比較し、客観的なデータを参照しながら考察する多面的な視角が求められます。

今回出題しているレポートは、教科書の一部を参照するだけでは不十分です。近代化の影響は、社会の様々な領域に及んでいます。したがって、それを分析するためには、色々な視点から考察を加える必要があります。採点する際には、どれだけ広い視野から問題を考えているのかを評価します。

また、教科書の内容に関する理解が正確かどうかを評価します。確かに、社会学で使用される概念や社会学者たちの理論には、難解なものもあります。そこで、教科書を読んでもよくわからない事柄については、辞書や参考図書で関連する内容を確認したり、スクーリングの資料を復習したりして、正確に理解できるよう努めましょう。

1 単位め アドバイス

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

2 単位め アドバイス

このレポートでは、前半でなぜ前近代社会から近代社会への変化が生じたのか、きっかけとなった出来事は何だったのかを簡潔にまとめてください。その上で、後半では近代化が社会にどのような変化をもたらしたのかを論じてください。

なお、教科書の第2章第5節に「社会変動」という項目がありますが、この部分だけではなく、教科書の様々なところで近代化による社会変動が議論されています。そのため、第2章第5節を中心としながらも、教科書や参考図書をよく読んで、色々な問題を視野に収めたレポートを作成してください。

科目修了試験

■評価基準

- 1) 授業で学習した社会学の用語や概念を正確に理解し、解答する際に活用できている。
- 2) 現代社会に生じている社会問題の歴史的背景を理解し、考察に反映できている。
- 3) 問題解決に向けて、授業内容をふまえた建設的な議論ができている。
- 4) 文章が読みやすく、適切な分量でまとめられている。

社会福祉原論A			科目コード	CC3085
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	R or SR(講義)	2年以上	元村 智明	



科目の概要

■科目の内容

社会福祉にかかわる全般的な基礎知識の学修と、社会福祉観の変遷についての理解を目的とします。「社会福祉」という言葉は広く使われるため、その実態の学問的把握は曖昧になりやすく、ともすると主観的な幸福論や通俗的な人生論に終始しやすいと思われます。しかし、多種多様な社会福祉事象および具体的な社会福祉実践の本質は、まぎれもなく他者の人生へのかかわりであり、理念的には人類史上の文化的創造の営為の一つとも解せます。したがって、「社会福祉原論A」では具体的な政策展開を中心に社会福祉に関する専門用語・知識の確認を行いながら、常に「社会福祉とは何か」「社会福祉をいかに捉えていくのか」等を思考しながら学修することを望みます。大切なことは、自らの社会福祉観の涵養にあるといえます。

■到達目標

- 1) 社会福祉の全般的な基礎知識（社会福祉士・精神保健福祉士国家試験科目『社会福祉の原理と政策』の合格水準）を解説できる。
- 2) 社会福祉の歴史の概要を説明することができる。
- 3) 社会福祉の政策に関して理解し、説明することができる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「専門的知識」「他者への関心と理解」「社会への関心と理解」「クリティカルシンキング力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価60%＋スクーリング評価 or 科目修了試験40%

■教科書・参考図書

【教科書】（「社会福祉原論B」と共通）

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座〔共通科目〕4 社会福祉の原理と政策』中央法規出版、2021年

（スクーリング時の教科書）上記教科書を参考程度に使用し、配付資料を中心に講義を行います。

【参考図書】

厚生労働統計協会編『厚生指標・臨時増刊 国民の福祉と介護の動向』厚生労働統計協会、各年版

なお、詳細な参考図書は、スクーリング時に適宜紹介します。

■事前に学習してほしい内容

日々の報道において社会事象に十分に関心をもってふれてください。また、それが社会福祉の対象となる問題か、否かについて常に考えてみてください。

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

自らの社会福祉観を問い直しながら、社会福祉のあるべき姿について他人事ではなく自分事として考えてみたいと思います。具体的には以下の3点について検討することによります。

- 1) 社会福祉とは何か（基本的性格、存立の根拠、そこに包摂される理念や原理、原則などを含む）
- 2) 社会福祉が歴史的社会的にどのようにして形成され、展開してきたか
- 3) 福祉国家および福祉社会の方向性と福祉政策の展開について、考察する

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	福祉政策の概念・理念と社会福祉学	社会福祉学を学ぶ基本的視点を政策から学ぶ意義や必要性
2	社会福祉の歴史視点と時期区分	＜社会福祉＞を認識する視点と方法としての段階・時期区分
3	日本の社会福祉の歴史的展開①	前近代社会の福祉理念と具体的な福祉実践
4	日本の社会福祉の歴史的展開②	近代社会における福祉理念と具体的な福祉実践
5	欧米の社会福祉の歴史的展開	欧米の近代社会の成立と市民社会の形成における福祉実践
6	社会福祉の現代的展開	現代社会の福祉理念と社会保障制度とソーシャルワーク
7	福祉政策の国際比較①	福祉国家を国際比較するための視点と方法
8	福祉政策の国際比較②	欧米と東アジア社会における福祉政策
9	スクーリング試験	

※オンデマンド・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

■講義の進め方

配付資料を中心に講義を進めます。教科書は参考程度に使用します。

■スクーリング 評価基準

とくに＜社会福祉＞の成立についての理解を問います（教科書・配付資料、自筆ノートの持込可）。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

「社会福祉はなぜ必要なのか」「福祉と社会福祉は異なるのか」について考えながら、受講されてください。なお、教科書の「序章 社会福祉の原理」「第1章 社会福祉の歴史」「第4章 福祉政策の基本的な視点」「第7章 福祉政策の動向と課題」「第10章 福祉政策の国際比較」を一読して受講されてください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

講義内容をさらに発展させて、日々の時事問題に関心をもち、それが社会福祉の対象範囲となり得るか、否かについて考え続けながら他の科目を受講されてください。また、教科書の該当頁を再読されてください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	現代社会と社会問題 (第3章第1節)	現代社会における社会問題を考える キーワード：非正規雇用問題、核家族、社会的孤立、社会的排除、リーマンショック、ヴァルネラビリティ、リスク	社会が抱える問題の全体像を理解し、個人問題ではなく個別・具体的な社会問題として理解を行い、社会問題の解決策について考えてみましょう。
2	福祉政策とは何か (第4章第1節)	福祉政策の基本的な視点 キーワード：狭義の福祉、広義の福祉、最高善、選好	＜狭義の福祉＞と＜広義の福祉＞を理解したうえで、＜幸福＞＜徳＞＜選好＞＜功績＞等の価値を含む概念との関連性で社会福祉とニーズ（必要）の概念について考えてみましょう。
3	福祉政策の概念・理念 (第4章第2節)	福祉政策における概念と理念 キーワード：パターナリズム、自由、平等、自立、フェミニズム、人権	＜自由＞や＜平等＞の概念を踏まえたうえで、＜自立＞と＜依存＞の関係をおさえ、自由主義思想とその変質・変容を理解し、新自由主義が福祉政策に与える影響を理解しましょう。
4	社会福祉の歴史① (第1章第1節)	社会福祉の歴史を学ぶ視点 キーワード：社会関係、段階論、時期区分論	＜社会福祉＞の成立を社会福祉の歴史を学ぶことを通して考えてみます。その際に、＜個人＞と＜社会＞のありようを歴史的視点から学びながら、社会福祉を段階的に理解しましょう。
5	社会福祉の歴史② (第1章第2節)	欧米における社会福祉のあゆみ キーワード：救貧税、慈善組織協会、友愛訪問、貧困調査、ナショナル・ミニマム、5人の巨人、貧困の再発見、公民権運動、新自由主義	資本主義の社会体制の先駆けとなったイギリス社会と急激に発展したアメリカ社会において、社会問題の創出とその対応としての政策として、社会福祉の歴史的展開について把握しましょう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
6	社会福祉の歴史③ (第1章第3節)	日本における社会福祉のあゆみ キーワード：四箇院、戸令、慈善事業、感化救済事業、社会事業、厚生事業	日本の社会福祉のあゆみを段階的に理解し、社会福祉の歴史的展開のなかに、その連続性と非連続性の双方の側面を考えてみましょう。
7	福祉政策の構成要素と過程① (第6章第1節)	福祉政策の構成要素 キーワード：政策、第三の道、レジリエンス、逆機能、資源配分、準市場	福祉政策の構成要素について、政策分野と各分野の目的から理解したうえで、福祉政策の資源配分の諸形態を学び、福祉サービスの提供方式の多元化と各々役割について理解しましょう。
8	福祉政策の構成要素と過程② (第6章第2節)	福祉政策の諸過程と方法・評価 キーワード：住民参加、PDCA サイクル	福祉政策の全体像とその諸過程を踏まえ、福祉政策の方法・手段・評価をおさえたうえで、さらに福祉政策と福祉計画、福祉行財政の関連性について把握しましょう。
9	福祉政策の動向と課題① (第7章第1節)	福祉政策と包括的支援の現状 キーワード：社会福祉基礎構造改革、措置（委託）制度、契約、社会福祉法、地域共生社会、多文化共生（社会）、持続可能な社会	福祉政策の起点である社会福祉基礎構造改革の基本的方向性への理解と社会福祉法の成立を踏まえ、近年の福祉政策の動向と社会の方向性についておさえましょう。
10	福祉政策の動向と課題② (第7章第2節)	福祉政策と包括的支援の課題 キーワード：SDGs、地方創生、インクルーシブな社会	＜地域共生社会＞の実現と地域づくりへの課題を踏まえ、福祉人材確保と多文化共生社会の課題、社会的課題解決の新たな方法を学びましょう。
11	福祉政策と関連政策① (第8章第1節・第2節)	福祉政策と保健医療政策・教育政策 キーワード：医療ソーシャルワーカー、子どもの貧困、スクールソーシャルワーカー、貧困の世代的再生産	人が人に係わる隣接領域の保健医療政策と教育政策の概要を踏まえて、それらが福祉政策といかに関連しているかについて考えながら、他業種・多職種が連携する必要性や必然性について考えてみましょう。
12	福祉政策と関連政策② (第8章第3節・第4節・第5節)	福祉政策と住宅政策・労働政策・災害政策 キーワード：ライフサポートアドバイザー、サービス付き高齢者向け住宅、第二のセーフティーネット、就労支援員、福祉避難所	人が生きていくうえで必要不可欠な住まいと労働、そして災害時の各政策概要を踏まえて、それらが福祉政策といかに関連しているかについて考えてみましょう。
13	福祉サービスの供給と利用の過程① (第9章第1節)	福祉サービスと福祉供給部門 キーワード：レッセフェール、バターナリズム、CSR（企業の社会的責任）	福祉サービスの供給が多面的な供給主体によって担われている点をふまえながら、その供給主体のものの特徴として長所や短所についておさえてみましょう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
14	福祉サービスの供給と利用の過程② (第9章第2節)	福祉サービスと福祉供給過程 キーワード：情報の非対称性、新自由主義	福祉サービスにおける供給過程の仕組みの全体像を把握しながら、福祉行財政の役割や市場の仕組みの導入がもたらす功罪について考えてみましょう。
15	福祉サービスの供給と利用の過程③ (第9章第3節)	福祉サービスと福祉利用過程 キーワード：社会権、資力調査、ステイグマ、アウトリーチ	利用者が福祉サービスを利用する視点を学び、権利保障の観点から福祉サービスの利用過程の課題を確認し、権利保障のためのソーシャルワークの機能を理解しましょう。

■レポート課題

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	学修者自らが理解した社会福祉の概念（定義）について、時代背景を踏まえて生活保障の観点から福祉政策の戦後の展開のなかで説明してください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

「社会福祉原論」は、長年にわたり社会福祉学の教育研究における必要不可欠な基礎科目です。しかし、「社会福祉士および介護福祉士法」の施行に伴い、大学教育の観点からの「社会福祉原論」の講義は困難になっていると思われます。むしろ社会福祉士等の資格取得を目指し、国家試験受験科目の一つとして履修されている方も多いと推察しております。

担当教員としては、「社会福祉原論 A」が、学問としての大学教育として、また国家試験受験科目〈社会福祉の原理と政策＝本学対応科目：社会福祉原論 A・B〉としても、双方に配慮したレポート学習およびスクーリングの授業内容としたいと考えております（そのため「社会福祉原論 A」を履修する方は、できましたらスクーリングも、是非受講していただききたいと存じます）。以上の点を勘案し、以下のレポート課題を設定しました。

1 単位めは、社会福祉の政策についての課題です。社会福祉にかかわる歴史的事象の《全般的な把握と肝要な細部》を目的としております。2 単位めは、社会福祉のあゆみの全体像の整理を目的としております。1～2 単位めのレポート学習を通して、学習者に社会福祉に対する一定の心象（イメージ）が形成されればと思います。教科書を十分活用してまとめてください。レポート作成においては、教科書のみで対応できます。

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

1 単位め
アドバイス

2 単位め
アドバイス

教科書「第 1 章 社会福祉の歴史 第 3 節 日本の社会福祉の歴史的展開」および「第 7 章 福祉政策の動向と課題」を参考に要約してまとめてください。社会福祉の概念を福祉政策との関連からの理解と、社会福祉の固有性の理解を目的とします。

科目修了試験

■評価基準

教科書の内容理解に努めること。

社会福祉原論B			科目コード	CC3086
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	R or SR(講義)	2年以上	元村 智明	



■履修登録条件

「社会福祉原論 A」をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をする方のみが履修登録できます。

科目の概要

■科目の内容

社会福祉にかかわる全般的な基礎知識の学修と、社会福祉観の変遷についての理解を目的とします。“社会福祉”という言葉は広く使われるため、その実態の学問的把握は曖昧になりやすく、ともすると主観的な幸福論や通俗的な人生論に終始しやすいと思われます。しかし、多種多様な社会福祉事象および具体的な社会福祉実践の本質は、まぎれもなく他者の人生へのかかわりであり、理念的には人類史上の文化的創造の営為の一つとも解せます。したがって、「社会福祉原論 B」では抽象度のやや高い社会福祉の原理・思想・哲学、そして社会福祉の諸理論とその展開を確認しながら専門用語・知識の確認に留まらず、常に「社会福祉とは何か」「社会福祉をいかに捉えていくのか」等を思考しながら学修することを望みます。大切なことは、自らの社会福祉観の涵養にあるといえます。

■到達目標

- 1) 社会福祉の全般的な基礎知識（社会福祉士・精神保健福祉士国家試験科目『社会福祉の原理と政策』の合格水準）を解説できる。
- 2) 社会福祉理論の要点を述べることができる。
- 3) 社会福祉の原理に関して理解し、説明することができる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「専門的知識」「他者への関心と理解」「社会への関心と理解」「クリティカルシンキング力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価60%＋スクーリング評価 or 科目修了試験40%

■教科書・参考図書

【教科書】（「社会福祉原論 A」と共通）

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座〔共通科目〕4 社会福祉の原理と政策』中央法規出版、2021年

※「社会福祉原論 A」で配本のため、この科目での教科書配本はありません。
(スクーリング時の教科書) 上記教科書を参考程度に使用し、配付資料を中心に講義を行います。

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

自らの社会福祉観を問い直しながら、社会福祉のあるべき姿について他人事ではなく自分事として考えてみたいと思います。具体的には以下の3点について検討することによります。

- 1) 社会福祉とは何か(基本的性格、存立の根拠、そこに包摂される理念や原理、原則などを含む)
- 2) 社会福祉が理論的かつ思想的にいかに議論され、展開してきたか
- 3) 社会福祉の原理について、考察する

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	社会福祉学の構造と特徴	社会福祉学を学ぶ基本的視点、歴史性から学ぶ意義と必要性
2	社会福祉の原理	基本的人間理解にもとづく他者支援の観点からの利他的行為
3	社会福祉の思想	人間の尊厳と社会正義、平和主義にもとづく社会福祉の思想
4	社会福祉の哲学	人間の尊厳と社会正義、平和主義にもとづく社会福祉の哲学
5	社会福祉理論の基本的な考え方	戦後社会福祉の理論の成立に係わる基本的考え方と枠組み
6	社会福祉の理論①	社会福祉の必要性を論じた政策論と技術論
7	社会福祉の理論②	社会福祉の必要性を論じた固有論と統合論
8	社会福祉の理論③	社会福祉の必要性を論じた運動論と経営論
9	スクーリング試験	

※オンデマンド・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

■講義の進め方

配付資料を中心に講義を進めます。教科書は参考程度に使用します。

■スクーリング 評価基準

とくに<社会福祉>の成立論拠についての理解を問います(教科書・配付資料、自筆ノートの持込可)。

■スクーリング事前学習(学習時間の目安: 5~10時間)

「社会福祉はなぜ必要なのか」「福祉と社会福祉は異なるのか」について考えながら、受講してください。

なお、教科書の「第2章 社会福祉の思想・哲学・理論」「第5章 福祉政策におけるニーズと資源」「終章 これからの社会福祉」を一読して受講してください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

講義内容をさらに発展させて、日々の時事問題に関心を持ち、それが社会福祉の対象範囲となり得るか、否かについて考え続けながら他の科目を受講されてください。また、教科書の該当頁を再読されてください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	社会福祉の論点 (第2章第3節)	社会福祉の論点と基本用語 キーワード：公私関係、普遍主義、選別主義、準市場、格差原理、正義論	社会福祉をめぐる論点を整理し、形式的に把握したうえで、社会福祉の公私関係から多元的供給主体について理解を深め、社会福祉の普遍主義と選別主義についてその意味を考えてみましょう。
2	社会福祉の原理 (序章)	社会福祉の原理とその問い キーワード：パラダイム、援助関係、社会福祉の対象	社会福祉の原理とは何か、原理がいかに問われてきたか、原理が問われることの理由と必要性について考えてみましょう。
3	社会福祉の思想・哲学 (第2章第1節)	社会福祉の思想・哲学への問い キーワード：イデオロギー、自由主義、フェミニズム	人間の尊厳と社会正義、平和主義にもとづく基本的考え方から、社会福祉の思想を創出した自由主義、その克服を図るフェミニズムについておさえてみましょう。
4	社会福祉理論の基本的な考え方 (第2章第2節)	戦後の社会福祉理論と社会福祉の定義 キーワード：パラダイム、目的概念、実体概念、社会事業論	戦後日本における社会福祉の定義、戦後の社会福祉理論の歴史的展開とその特徴について把握しましょう。
5	社会福祉の理論① (第2章第2節)	社会福祉の政策論と技術論 キーワード：社会事業、専門社会事業	戦後社会福祉理論のなかで、社会福祉の必要性を論じた政策論（孝橋正一）と技術論（竹内愛二）について理解しましょう。
6	社会福祉の理論② (第2章第2節)	社会福祉の固有論と統合論 キーワード：固有の視点、人格の確立	戦後社会福祉理論のなかで、社会福祉の必要性を論じた固有論（岡村重夫）と統合論（嶋田啓一郎）について理解しましょう。
7	社会福祉の理論③ (第2章第2節)	社会福祉の運動論と経営論 キーワード：三元構造論、生活権、ニーズ論、サービス供給（体制）論	戦後社会福祉理論のなかで、社会福祉の必要性を論じた運動論（真田是・一番ヶ瀬康子）と経営論（三浦文夫）について理解しましょう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
8	社会福祉の理論④ (第2章第2節)	海外の社会福祉・福祉政策に関する理論 キーワード：福祉の社会的分業論、福祉多元主義、福祉ミックス、NPM（新公共経営論）	海外の社会福祉および福祉政策の理論概要について福祉の分業論（ティトマス）、福祉多元主義（ウルフェンデン報告）、新公共経営論、準市場（ルグラン）等について理解しましょう。
9	社会福祉の対象とニーズ (第2章第4節)	社会福祉の対象把握とニーズ キーワード：近代化、脱工業社会、包摂と排除、ニーズ論	社会福祉の対象としてのニーズ（必要）の特徴、社会福祉の対象の史的变化、対象としてのニーズの捉え方と現代的課題について把握しましょう。
10	現代社会と社会問題の背景 (第3章第2節)	社会問題の構造的背景 キーワード：少子化、高齢化、複合喪失、情報化社会、就職氷河期世代、性別役割分業	社会問題が創出しているその社会構造と社会背景をふまえて、社会問題を理解するための多面的視点と社会問題の複合要因への理解、そこに社会福祉が係わる価値について理解しましょう。
11	福祉政策におけるニーズ (第5章第1節)	福祉政策におけるニーズとは何か キーワード：ニーズの5段階、有効需要、フェルトニーズ、主権、ベーシックインカム	社会福祉におけるニーズ概念を理解するために、福祉政策におけるニーズ（必要）とデマンド（需要）の差異について考えながら、そのうえで福祉政策におけるニーズの把握・種類について理解しましょう。
12	福祉政策における資源 (第5章第2節)	福祉政策における資源とは何か キーワード：絶対的貧困、5人の巨人、社会関係資本	福祉政策におけるニーズ（必要）を充足するための資源（リソース）の考え方、その資源の性質や資源の種類、その開発や配分について理解しましょう。
13	欧米の社会福祉の理論① (第10章第1節)	国際比較の視点と方法 キーワード：福祉レジーム論、脱商品化、21世紀型福祉政策	福祉政策の3類型としての福祉レジーム論（自由主義レジーム・保守主義レジーム・社会民主主義レジーム）を理解し、＜20世紀型福祉政策＞と＜21世紀型福祉政策＞の特徴を把握しましょう。
14	欧米の社会福祉の理論② (第10章第4節)	福祉政策の潮流と課題 キーワード：所得保障、サービス保障	福祉政策の国際比較をするうえで新たな展開として＜所得保障＞から＜サービス保障＞へ重視される背景を理解し、＜サービス保障＞の国際比較の課題について考えてみましょう。
15	21世紀社会と社会福祉 (終章)	21世紀社会の社会福祉の必要性和方向性 キーワード：福祉の複合体、宗教的慈善、ボランティア、セツルメント、ソーシャルワーク機能	社会福祉の原型、社会福祉の歴史的展開、社会福祉の到達点、社会福祉の方向性について理論・歴史・政策の観点から再確認し、社会福祉の必要性について再確認・再学修しながら、把握してみましょう。

■レポート課題

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	現代社会における社会福祉の原理・理論・論点を踏まえて、自らの社会福祉観（対象観と対象者観）をまとめてみてください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

「社会福祉原論」は、長年にわたり社会福祉学の教育研究における必要不可欠な基礎科目です。しかし、「社会福祉士および介護福祉士法」の施行に伴い、大学教育の観点からの「社会福祉原論」の講義は困難になっていると思われます。むしろ社会福祉士等の資格取得を目指し、国家試験受験科目の一つとして履修されている方も多いと推察しております。

担当教員としては、「社会福祉原論 B」が、学問としての大学教育として、また国家試験受験科目〈社会福祉の原理と政策＝本学対応科目：社会福祉原論 A・B〉としても、双方に配慮したレポート学習およびスクーリングの授業内容としたいと考えております（そのため「社会福祉原論 B」を履修する方は、できましたらスクーリングも、是非受講していただきたいと存じます）。

以上の点を勘案し、以下のレポート課題を設定しました。

1 単位めは、社会福祉の原理についての課題です。社会福祉にかかわる原理の《全般的な把握と肝要な細部》を目的としております。2 単位めは、社会福祉理論および論点の全体像の整理を目的としております。1 単位めのレポート学習を通して、学習者に社会福祉に対する一定の心象（イメージ）が形成されればと思います。教科書を十分活用してまとめてください。

レポート作成においては、教科書のみで対応できます。

1 単位め アドバイス

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

2 単位め アドバイス

教科書「第2章 社会福祉の思想・哲学・理論」終章「これからの社会福祉」を参考に要約してください。

科目修了試験

■評価基準

教科書の内容理解に努めること。

ソーシャルワークの基盤と専門職			科目コード	CC3087
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	R or SR (講義)	2年以上	二渡 努	



科目の概要

■科目の内容

現代の我が国では孤独死や引きこもりなど、福祉ニーズが複雑化、多様化、高度化しており、従来の縦割り、分野別の対応ではなく、総合的かつ包括的な対応が必要とされています。そのような福祉ニーズを充足するための実践活動をソーシャルワークといい、ソーシャルワーク実践の担い手である社会福祉士、精神保健福祉士に課せられた使命は大きなものであるといえます。

本科目は、ソーシャルワーク実践の基盤となる価値観の涵養を図り、理論、方法に関する知識、技術について学習するものです。具体的には、社会福祉士と精神保健福祉士の法的な位置づけ、ソーシャルワークのグローバル定義、ソーシャルワークの形成過程、ソーシャルワーク実践における原理と理念、ソーシャルワークの倫理綱領、ソーシャルワーク実践において直面するジレンマ等について、現状のみならず、それらが必要とされる社会的背景についても学習します。

■到達目標

- 1) ソーシャルワークの専門職である社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけを述べることができる。
- 2) ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程を説明できる。
- 3) ソーシャルワーク実践を支える価値規範と倫理について説明することができる。
- 4) ソーシャルワーカーが倫理的ジレンマに直面した際の対応について説明することができる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「専門的知識」「他者への関心と理解」「社会への関心と理解」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価40%＋スクーリング評価 or 科目修了試験60%

■教科書・参考図書

【教科書】（「ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）」と共通）

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座〔共通科目〕11ソーシャルワークの基盤と専門職（共通・社会専門）』中央法規出版、2021年
（スクーリング時の教科書） 上記教科書と配付資料を用いて講義を行いますので、上記教科書は必ず持参してください。

【参考図書】

1) 宮本節子著『ソーシャルワーカーという仕事』筑摩書房、2013年

2) 相川章子、田村綾子、廣江仁著『かかわりの途上で—こころの伴走者、PSW が綴る19のショートストーリー』へるす出版、2009年

3) 勝部麗子著『ひとりぼっちをつくらない—コミュニティソーシャルワーカーの仕事』全国社会福祉協議会、2016年

4) 右田紀久恵、高澤武司、古川孝順編『社会福祉の歴史—政策と運動の展開（新版）』有斐閣、2001年

5) メアリー・E. リッチモンド著、小松源助訳『ソーシャル・ケース・ワークとは何か』中央法規出版、1991年

6) 全米ソーシャルワーカー協会編、竹内一夫訳『ソーシャル・ケースワーク：ジェネリックとスペシフィック—ミルフォード会議報告—』相川書房、1993年

7) H・M・バートレット著、小松源助訳『社会福祉実践の共通基盤』ミネルヴァ書房、2009年

8) カレル・ジャーメイン他著、小島蓉子編訳『エコロジカル・ソーシャルワーク：カレル・ジャーメイン名論文集』学苑社、1992年

9) 日本社会福祉士会編『改訂社会福祉士の倫理—倫理綱領実践ガイドブック—』中央法規出版、2009年

10) 本多勇、木下大生、後藤広史他著『ソーシャルワーカーのジレンマ～6人の社会福祉士の実践から～』筒井書房、2009年

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

スクーリングでは、ソーシャルワークの基盤・理論・方法についてイメージがもてるよう、具体的な事例を用いて講義を行います。ソーシャルワークは時代の要請に応じて変化するものであるため、国内・外を問わず、常に社会問題に関心を持つことを心掛け、どのような社会的背景からその内容が誕生、発展したのか、暗記ではなく考えながら学習する視点をもってスクーリングに臨んでください。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	社会福祉士及び介護福祉士法	社会福祉士及び介護福祉士法成立の背景、定義、義務、法制度見直しの背景等について学習する。
2	精神保健福祉士法	精神保健福祉士法成立の背景、定義、義務、法制度見直しの背景等について学習する。
3	ソーシャルワークの概念と基盤となる考え方	ソーシャルワークのグローバル定義について学習し、ソーシャルワークの全体像を理解する。ソーシャルワークの原理である、社会正義、人権尊重等について学ぶ。

回数	テーマ	内容
4	ソーシャルワークの形成過程	ソーシャルワークの萌芽となった背景を理解し、その基礎が確立していく過程を理解する。ソーシャルワークの発展、展開、統合化までの流れ、理論展開について理解する。
5	ソーシャルワークの理念①	ソーシャルワークの理念である、当事者主権、尊厳の保持、権利擁護について学ぶ。
6	ソーシャルワークの理念②	ソーシャルワークの理念である、自立支援、ソーシャルインクルージョン、ノーマライゼーションについて学ぶ。
7	ソーシャルワークの価値、倫理①	専門職倫理の概念と、ソーシャルワーク実践の基盤となるソーシャルワーカーの倫理綱領、社会福祉士、精神保健福祉士の倫理綱領について学ぶ。
8	ソーシャルワークの価値、倫理②	倫理的ジレンマの内容や判断プロセスについて学ぶ。
9	スクーリング試験	

※オンデマンド・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

■講義の進め方

教科書、パワーポイント、配付資料を用いて講義を進めます。

■スクーリング 評価基準

スクーリング中に学んだ内容から出題します（教科書・配付資料持込可）。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

スクーリング学習の講義内容に該当する教科書を読んできてください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	社会福祉士の法的な位置づけ (第1章)	法制度成立の背景、定義、義務、法制度の見直しの背景等について学習する。 キーワード：社会福祉士及び介護福祉士法、名称独占、秘密保持義務、連携、地域共生社会	ソーシャルワークの専門職である社会福祉士が誕生した背景と現状、その変遷等について理解しましょう。法改正の内容については、改正の背景についても併せて理解しましょう。
2	精神保健福祉士の法的な位置づけ (第1章)	法制度成立の背景、定義、義務、法制度の見直しの背景等について学習する。 キーワード：精神保健福祉士法、名称独占、秘密保持義務、連携、地域移行支援	ソーシャルワークの専門職である精神保健福祉士が誕生した背景と現状、その変遷等について理解しましょう。法改正の内容については、改正の背景についても併せて理解しましょう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
3	ソーシャルワークの定義 (第2章)	ソーシャルワーク専門職のグローバル定義について学習し、ソーシャルワークの全体像を理解する。 キーワード：ソーシャルワーク専門職のグローバル定義、ミクロレベル、メゾレベル、マクロレベル	ソーシャルワーク実践の基本となる、ソーシャルワークのグローバル定義について、その内容と変遷等について理解しましょう。また、ソーシャルワーク専門職のグローバル定義の日本における展開についても理解しましょう。
4	ソーシャルワークの構成要素 (第2章)	ソーシャルワークを構成する要素について学習し、ソーシャルワーク実践の具体的な内容を理解する。 キーワード：クライアントシステム、社会資源、ニーズ、ソーシャルワーク・コンピテンシー	ソーシャルワークの構成要素について、ソーシャルワーク実践の具体的な事例に当てはめて理解しましょう。
5	ソーシャルワークの原理 (第3章)	ソーシャルワークの原理である、社会正義、人権尊重等について学ぶ。 キーワード：社会正義、人権尊重、多様性尊重	ソーシャルワーク実践の原理となる、社会正義、人権尊重等について、ソーシャルワーク実践の具体的な事例に当てはめて理解しましょう。
6	ソーシャルワークの理念1 (第3章)	ソーシャルワークの理念である、当事者主権、尊厳の保持、権利擁護等について学ぶ。 キーワード：当事者主権、愚行権、尊厳の保持、権利擁護	ソーシャルワーク実践の原理となる、当事者主権、尊厳の保持、権利擁護について具体的な事例に当てはめて理解しましょう。
7	ソーシャルワークの理念2 (第3章)	ソーシャルワークの理念である、自立支援、ソーシャルインクルージョン、ノーマライゼーション等について学ぶ。 キーワード：自立支援、ソーシャルインクルージョン、バンクーミケルセン、ニイリエ、ノーマライゼーション	ソーシャルワーク実践の際の原理となる自立支援、ソーシャルインクルージョン、ノーマライゼーションについて、具体的な事例に当てはめて理解しましょう。
8	ソーシャルワークの形成過程：萌芽期 (第4章)	ソーシャルワーク萌芽の背景を理解する。 キーワード：慈善組織協会、セツルメント、バーネット、ジェーン・アダムス	ソーシャルワークの形成過程について、その萌芽となる慈善組織協会、セツルメント活動について理解しましょう。また、これらの活動が必要とされた社会的な背景も併せて学習しましょう。
9	ソーシャルワークの形成過程：基礎確立期 (第4章)	ソーシャルワークの基礎が確立していく背景を理解する。 キーワード：リッチモンド、ミルフォード会議、ジェネリック、スペシフィック	リッチモンドが体系化したソーシャル・ケース・ワークの経緯と内容について理解しましょう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
10	ソーシャルワークの形成過程：発展期 (第4章)	ソーシャルワークが発展していく流れ、理論について理解する。 キーワード：診断学派、機能学派、フロイト、ハミルトン、タフト、ロビンソン、グループワーク、コミュニティオーガニゼーション	ソーシャル・ケース・ワークが診断主義と機能主義に分化していく経過とその背景、グループワークとコミュニティオーガニゼーションの源流について、社会的な背景も併せて学習しましょう。
11	ソーシャルワークの形成過程：展開期 (第4章)	ソーシャルワークが展開していく流れ、理論について理解する。 キーワード：パールマン、問題解決アプローチ、心理社会的アプローチ、生活モデル、パートレット、エコロジカル・アプローチ、ジャーメイン、ギッターマン	生活モデルなど、ソーシャルワークの各種アプローチやモデルについて理解しましょう。
12	ソーシャルワークの形成過程：統合化 (第4章)	ソーシャルワークの統合化に関する時代的背景、統合化までの流れについて理解する。 キーワード：システム理論、統合化、ジェネラリスト・アプローチ、ジェネラリスト・ソーシャルワーク	ケースワーク、グループワーク、コミュニティオーガニゼーションの各技法が統合化される過程と背景について理解しましょう。
13	ソーシャルワークの倫理1 (第5章)	専門職倫理の概念と、ソーシャルワーク実践の基盤となるソーシャルワーカーの倫理綱領、社会福祉士の倫理綱領について学ぶ。 キーワード：ソーシャルワーカーの倫理綱領、社会福祉士の倫理綱領、社会福祉士の行動規範	ソーシャルワーカーと社会福祉士の倫理綱領の意義と内容について理解し、実践場面においてどのように活用するか、具体的な事例を想定して理解しましょう。
14	ソーシャルワークの倫理2 (第5章)	ソーシャルワーク実践の基盤となる精神保健福祉士の倫理綱領について学ぶ。 キーワード：精神保健福祉士の倫理綱領、精神保健福祉士業務指針、Y問題	精神保健福祉士の倫理綱領の意義と内容について理解し、実践場面においてどのように活用するか、具体的な事例を想定して理解しましょう。
15	ソーシャルワークの倫理3 (第5章)	倫理的ジレンマの内容と判断プロセスについて学ぶ。 キーワード：倫理的ジレンマ、守秘義務、タラソフ事件、バーンアウト	ソーシャルワーク実践において、倫理的ジレンマに直面した際、どのようなプロセスを経て対応するか、具体的な事例を想定して考えてみましょう。

■レポート課題

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	ソーシャルワーク実践において倫理綱領が必要とされる理由と、ソーシャルワーカーが倫理的ジレンマに直面した際の対応について、その過程と留意点について述べなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

課題のテーマについて正しく理解し、規定の文字数の範囲内で、誤字・脱字のない読み手に配慮した文章を記述することに留意してください。記述内容については、教科書等の要約のみとならないよう、課題テーマに対して自身の考察を客観的に記述することに留意してください。

1 単位め アドバイス

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

2 単位め アドバイス

ソーシャルワーク実践においては、生命の保護、自己決定の尊重、秘密保持義務などの様々な価値が複数存在し、それらの価値が衝突する倫理的ジレンマに遭遇することがあります。ソーシャルワーカーとして、そのような状況に直面した際の対応について、そのプロセス、判断基準、留意点について具体的な事例と対応例をイメージしながら記述してください。倫理的ジレンマについて具体的な事例や対応例がイメージできない場合は、ソーシャルワーカーやソーシャルワーカー以外の対人援助職の実践内容が記載された書籍、論文などを参考にしてください。

教科書の第5章「ソーシャルワークの倫理」を参考にしてください。

<キーワード>

ソーシャルワーカーの倫理綱領、社会福祉士の倫理綱領、社会福祉士の行動規範、精神保健福祉士の倫理綱領、倫理的ジレンマ

科目修了試験

■評価基準

- 1) 課題のテーマについて正しく理解し、規定の解答用紙の範囲内で、誤字・脱字のない読み手に配慮した文章を記述することに留意してください。
- 2) 記述内容については、課題テーマについて事実誤認なく現状を理解した上で記述してください。
- 3) 現状整理にとどまらず、自身の考察が客観的に記述されているかという点を重点的に評価します。

ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）			科目コード	CC3091
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	R or SR（講義）	2年以上	清水 冬樹	

科目の概要

■科目の内容

実践場面を事例として取り上げつつ、ソーシャルワークに関わる基本的なことについて、主に以下の点に着目しながら学ぶ

- 1) 社会福祉士の現場の現状と課題
- 2) ソーシャルワークの価値と倫理
- 3) ソーシャルワークの及ぶ範囲
- 4) ワーカーとクライアントの関係性
- 5) ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と関連性、それぞれのレベルへの介入

■到達目標

- 1) ソーシャルワークの価値と倫理について説明できる
- 2) 事例からソーシャルワークの実践について説明できる
- 3) ワーカーとクライアントの関係性の捉え方について理解できる
- 4) 事例を踏まえて、ミクロ・メゾ・マクロレベルを一貫して捉えつつ、ソーシャルワークの実践のあり方を説明することができる

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「専門的知識」「他者への関心と理解」「社会への関心と理解」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価40%＋スクーリング評価 or 科目修了試験60%

■教科書・参考図書

【教科書】（「ソーシャルワークの基盤と専門職」と共通）

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座〔共通科目〕11ソーシャルワークの基盤と専門職（共通・社会専門）』、中央法規出版、2021年

※「ソーシャルワークの基盤と専門職」で配本のため、この科目での教科書配本はありません。

（スクーリング時の教科書）上記教科書を参考程度に使用し、配付する資料を中心にして講義を行います。

【参考図書】

- 1) 東洋大学福祉社会開発研究センター編著『社会を変えるソーシャルワーク 制度の枠組みを越え社会正義を実現するために』ミネルヴァ書房、2020年
- 2) 稲沢公一、岩崎晋也『社会福祉をつかむ 第3版』有斐閣、2019年
- 3) 稲沢公一『援助関係論入門』有斐閣、2017年
- 4) フレデリック・G・リーマー(2001)『ソーシャルワークの価値と倫理』中央法規出版、2001年
- 5) 日本社会福祉士会編『改定社会福祉士の倫理—倫理綱領実践ガイドブッケー』中央法規出版、2009年
- 6) 久保紘章・副田あけみ編著『ソーシャルワークの実践モデル 心理社会的アプローチからナラティブまで』川島書店、2005年
- 7) 太田義弘・秋山薊二編著、中村佐織・齊藤順子・谷口泰史・佐野真紀共著『ジェネラル・ソーシャルワーク』光生館、2002年
- 8) 山辺朗子著『ジェネラリスト・ソーシャルワークにもとづく社会福祉のスーパービジョン：その理論と実践（新・MINERVA 福祉ライブラリー）』ミネルヴァ書房、2015年

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

今日、社会福祉が対象として捉えてきた人たちへの支援について、社会的な同意や理解が得られない場面に遭遇することがあります。私たちの問題として捉え、社会的な解決を目指すために、ソーシャルワークではどのようなことが求められるのか、事例等を用いて一緒に考えていきます。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	社会福祉士の現場【第6章第2節】	自治体・民間の社会福祉サービス実施機関等を学ぶ 社会福祉士の業務に見られる「拡大と限定」について理解する ソーシャルワーカーと社会福祉士の差異について学ぶ
2	専門職論【第6章第1節】	専門職の成立条件を理解する 認定社会福祉士制度が説明できるようになる 「脱専門職化」の苦境を理解する
3	ジェネラリストソーシャルワーク【第8章第1節、第2節】	ジェネラリストソーシャルワークの変遷を踏まえながら、日本で求められているソーシャルワークについて学ぶ マネジメントとソーシャルワークの差異を学ぶ
4	援助関係論【教員配付資料】	援助関係の構造について現象学を手がかりに学ぶ
5	ソーシャルワーク実践の構造【第7章】	エコマップを描きながら、ソーシャルワークの構造を理解する
6	ソーシャルワーク実践の視点【第7章】	ミクロ・メゾ・マクロ実践の展開のあり方を理解する
7	多職種連携【第8章第3節】その1	他の専門職との連携について、言葉の共有を手がかりに学ぶ

回数	テーマ	内容
8	多職種連携【第8章第3節】その2	市民（団体）との連携について、個人情報保護を手がかりに学ぶ
9	スクーリング試験	

※オンデマンド・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

■講義の進め方

スライドおよび配付資料を中心に講義を進めます。教科書も使用します。

■スクーリング 評価基準

とくに到達目標記載内容についての理解を問います（自筆のノートのみ持込可）。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

スクーリングの講義内容に記載してあるキーワードについて、事前に学ぶようにしてください。また、様々な媒体を手がかりにソーシャルワーカーの実践について理解して、スクーリングに臨むようにしてください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

配付資料やテキストを見直しつつ、自筆ノートの作成をするようにしてください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	ソーシャルワーク専門職の概念と範囲【第6章第1節】	ソーシャルワーカーが専門職として位置づく上で、今日までどのような議論がなされてきたのかを理解する。 キーワード：フレックスナー、グリーンウッド、秋山智久、専門職の条件、仲村優一、「ソーシャルワーク専門職である社会福祉士に求められる役割等について」	ソーシャルワーカーが専門職であるための条件について、その歴史に着目しつつ整理してください。
2	ソーシャルワーク専門職の概念と範囲【第6章第1節】	ソーシャルワーカーの独自性と専門性について、生活という観点から理解する。 キーワード：生活者、職能団体	社会生活支援・地域支援の専門性とその必要性について、身近な事例や福祉系の特集番組などを参考にして理解を深めてください。 職能団体については、HP等を検索してみてください。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
3	社会福祉士の職域と役割 【第6章第2節】	社会福祉士が活躍する様々な領域について、その範囲が拡大した背景も踏まえて理解する。 キーワード：児童福祉法、介護保険法、障害者総合支援法、生活困窮者自立支援法、MSW、SSW、地域生活定着支援センター、独立型社会福祉士	社会福祉士が働く職域の拡大していく一方で、限定的なサービスが構築されてきていることが、近年の社会福祉サービスの特徴です。この点を自身の言葉で説明ができるようになると良いです。
4	多様な組織・機関・団体における専門職 【第6章第3節】	ソーシャルワーカーが関わるのが想定される社会資源について理解する。 キーワード：ハローワーク、特定非営利活動法人、福祉事務所、児童相談所、身体障害者更生相談所、知的障害者更生相談所、配偶者暴力相談支援センター、社会福祉協議会、地域包括支援センター、国際 NGO	ソーシャルワークの実践を担うさまざまな職種や職場、他業種などを具体的に調べてみてください。その際、都市部と地方の違いについても整理できると良いと思います。
5	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象 その1 【第7章第1節】	ミクロ、メゾ、マクロの意味について理解する。 キーワード：ミクロレベル、メゾレベル、マクロレベル	他の対人援助専門職とソーシャルワークが対象とする範囲を比較しながら理解を深めてください。
6	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象 その2 【第7章第1節】	ミクロ、メゾ・マクロレベルの相互関係性について、概念図や事例を探しながら理解する。 キーワード：システム	ミクロ、メゾ・マクロレベルの相互関係性を福祉系の番組などを参考しながら考えてみてください。
7	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの展開 その1 【第7章第2節】	ミクロレベルのソーシャルワークの捉え方を理解する。 キーワード：診断主義、機能主義、環境モデル、物語モデル	ソーシャルワークにおけるクライアントの生活課題の捉え方について、キーワードを手がかりとしながら整理してください。
8	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの展開 その2 【第7章第2節】	メゾレベルのソーシャルワークの捉え方を理解する。 キーワード：家族、地域、コミュニティ、学校、職場、組織	メゾレベルにおけるソーシャルワークの展開について、キーワードを手がかりとしながら整理してください。
9	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの展開 その3 【第7章第2節】	ソーシャルワークのグローバル定義を踏まえて、マクロレベルのソーシャルワークの捉え方を理解する。 キーワード：社会変革、社会開発、社会的結束、エンパワメントの解放と促進	ソーシャルアクションの事例を探しながら理解を深めてください。
10	総合的かつ包括的な支援におけるジェネラリストの視点 その1 【第8章第1節】	これまでの社会福祉の議論で着目されてきた児童福祉や障害者福祉といった縦割りによる理解ではなく、各領域を貫く実践の視点について学ぶ。 キーワード：ジェネラリスト	テキストに記載されている事例を手がかりに、生活問題はどのように発生したり発見されたりしているのか考えてみてください。普遍的な生活課題の捉え方が見えてくると思います。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
11	総合的かつ包括的な支援におけるジェネラリストの視点 その2 【第8章第1節】	ジェネラリストソーシャルワークの変遷について踏まえた上で、共通基盤としてとしてのソーシャルワークの価値と倫理、知識、技術の体型について学ぶ。 キーワード：ケースワーク、グループワーク、コミュニティ オーガニゼーション	ジェネラリストソーシャルワークの変遷について確実に理解できるようにしておいてください。
12	ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援の意義と内容 その1 【第8章第2節】	地域共生社会の実現に関わる資源の捉え方について学ぶ。 キーワード：フォーマルサポート、インフォーマルサポート、資源開発	地域共生社会の実現について、導入の経過や課題について確実に理解・説明できるようにしておいてください。
13	ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援の意義と内容 その2 【第8章第2節】	多機関・多職種の連携、協働による包括的支援体制の構築のあり様について理解する。 キーワード：コンボイモデル、コミュニティ デベロップメント	ソーシャルサポートネットワーキングについて、まずは概念としてしっかりと理解できるようにしておいてください。また、テキストにはフードバンクについての記載があります。ぜひ、どのような実践なのか、実施団体の HP 等を見ながら考えてみてください。
14	多職種連携およびチームアプローチの意義と内容 その1 【第8章第3節】	多職種連携、チームアプローチの意義と内容について理解をする。 キーワード：協働、共同、協同	キーワードに挙げた3つの言葉の意味について必ず理解しておいてください。また、テキスト p.290 から記載がある事例を読んだ上で、多職種をつなぐ視点について考えてみましょう。
15	多職種連携およびチームアプローチの意義と内容 その2 【第8章第3節】	多職種連携・多機関連携によるソーシャルアクションについて、事例を手がかりに理解をする。 キーワード：ソーシャルアクション、情報の共有	テキスト p.294にある表8-3の意味について、具体的に説明できるようにしておきましょう。

■レポート課題

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	①具体的な事例を取り上げながら、ソーシャルワーカーがクライアントの生活の構造を把握する意義について、あなたの考えを1,000字以内で論じなさい。 ②地域共生社会の課題を、「市民」「ソーシャルワーク」「ケースマネジメント」という語句を用いて、あなたの考えを1,000字以内で論じなさい。 【①②両方必要】

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

レポートの書き方に関する一般的なマナーやルールをしっかりと守って記述してください。特に引用や参考にした文献等は必ず記載しましょう。

1 単位め アドバイス

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

2 単位め アドバイス

①事例はテキスト等以外も参考にして大丈夫です。出典等を必ず記載するようにしてください。生活の構造を捉えなければならない理由について、ソーシャルワークの変遷も触れられると、より説得力が出てくると思います。この課題がきちんと説明できるようになると、ソーシャルワークの固有性が語れるようになります。

②地域共生社会について、政府の意図と地域社会の現状を踏まえた上で課題を明らかにしてみましょう。

科目修了試験

■評価基準

- 1) 科目の内容、ポイントを十分に理解できているか。
- 2) 出題の内容を理解し、設題の意図をきちんと踏まえ、論じられているか。
- 3) 単なる説明ではなく、自身の意見や考えを十分に示すことができているか。
- 4) 適切な文章表現であり、一定量以上の分量でまとめられているか。

社会福祉調査の基礎			科目コード	CC3092
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	R or SR (講義)	2年以上	村山 くみ	



※会場によりスクーリングを別教員が担当します（東京：熊本博之先生）。

科目の概要

■科目の内容

ソーシャルワークとは、実践に基づいた専門職であり学問である。そのため、ソーシャルワーカーには学問としてのソーシャルワークの発展を支えるとともに、専門職として自らのソーシャルワーク実践を適切に評価する能力が必要とされている。場当たりの実践や経験値のみに頼った実践から脱却し、客観的方法によってソーシャルワーク実践を評価し、知識を蓄積していくことが求められており、それを可能とするのが社会福祉調査である。

そこで本科目では、社会福祉調査に関する知識と技術の習得を目的とする。具体的には、社会福祉調査の意義と目的、倫理と個人情報保護、具体的な調査方法や分析手法などについて学習する。また、社会福祉調査の知識と技術をソーシャルワーク実践の評価に適用させる方法についても事例などを用いて実践的に学んでいく。

■到達目標

- 1) 社会福祉調査の意義を近代史に位置付けて述べることができ、今日におけるその目的を説明できる。
- 2) 社会福祉実践における社会福祉調査、評価法の意義と役割について説明することができる。
- 3) 統計法の目的と主な内容について解説することができる。
- 4) 社会福祉調査における倫理と個人情報保護に関する基本的な考え方について説明することができる。
- 5) 社会福祉調査及び評価法の基本的プロセス（データ分析法も含む）について説明することができる。
- 6) 目的に応じた社会福祉調査を企画・設計することができる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「専門的知識」「他者への関心と理解」「社会への関心と理解」「問題解決力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価40%＋スクーリング評価 or 科目修了試験60%

■教科書・参考図書

【教科書】

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座〔共通科目〕5 社会福祉調査の基礎』中央法規出版、2021年

(スクーリング時の教科書)【各会場共通】 プリントをスクーリング時に配付します。また、上記教科書も参照します。

【参考図書】

- 1) 佐藤郁哉『社会調査の考え方〔上〕』東京大学出版、2015年
- 2) 佐藤郁哉『社会調査の考え方〔下〕』東京大学出版、2015年
- 3) 大谷信介、木下栄二、後藤範章、小松洋編著『新・社会調査へのアプローチ―理論と方法―』ミネルヴァ書房、2013年
- 4) 小田利勝『社会調査法の基礎』プレアデス出版、2009年

スクーリング

▶仙台・オンデマンド開講分 村山 くみ

■スクーリングで学んでほしいこと

スクーリング（講義）では、社会福祉調査の意義と目的及び方法について学習するとともに社会調査における倫理や個人情報保護についての理解を深めます。また、量的調査、質的調査の特徴と方法について学んだうえでそれらの知識と技術をソーシャルワークの評価に適用させて実施する方法について事例を用いながら解説していきます。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	社会福祉調査の意義と目的	社会調査の意義と目的、社会調査の歴史
2	社会福祉調査における倫理	社会福祉調査における倫理と個人情報保護
3	量的調査の種類と方法	全数調査、標本調査、横断調査、縦断調査、二次分析
4	質問紙の作成、配布、回収	質問紙の作成方法、測定水準、コーディング、自記式と他記式、配布と回収方法
5	量的調査の集計と分析	データの整理、基本統計量、推定と検定
6	質的調査の種類と方法	観察法、面接法
7	質的調査のデータ分析方法	事例研究、ナラティブアプローチ、エスノグラフィー、GTA、アクションリサーチ
8	ソーシャルワークにおける評価	評価の種類、実験計画法、シングル・システム・デザイン
9	スクーリング試験	

※オンデマンド・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

■講義の進め方

パワーポイントと配付資料を中心に講義を進めます。講義中の教科書使用は参考程度です。

■スクーリング 評価基準

スクーリング試験は、スクーリング中に学んだ内容から出題します（持込不可）。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

教科書の第4章、第5章に目を通してきてください。

▶東京開講分 熊本 博之

■スクーリングで学んでほしいこと

- ・社会福祉士が社会調査を学ぶことの意義
- ・社会調査を実施する上で配慮すべき倫理
- ・社会調査の歴史、社会調査の必要性
- ・量的調査の基礎
- ・質的調査の基礎

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	社会福祉調査の必要性	社会福祉調査が必要である理由を考察する
2	社会調査の歴史と倫理	社会調査の歴史と調査における倫理を考察する
3	量的調査の基礎①	調査手法の種類とサンプリングの手法を学ぶ
4	量的調査の基礎②	仮説の立て方について学ぶ
5	量的調査の基礎③	仮説検証に向けた調査票作成の基本を学ぶ
6	質的調査の基礎①	質的調査の特徴、手法、意義について学ぶ
7	質的調査の基礎②	インタビューの実践とドキュメンタリーの分析
8	質疑応答	
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

配付するレジюмеがテキストとなります。レジюмеを元にしたスライドで進めます。教科書も適宜参照します。

■スクーリング 評価基準

スクーリング中に学んだ内容から出題します（教科書・配付資料持込可）。スマートフォンなどの電子機器の持込は不可とします。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

教科書を読んだ上で、社会調査についての知識をどのように社会調査士としての仕事に役立てたいか、考えてきてください。初回講義において発表してもらう予定です（1人あたり2分程度）。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

レポート学習に取り組んでください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	社会福祉調査の意義と目的（第1章第1、2、3節）	ソーシャルワークの役割も視野に入れて社会福祉調査の意義や有効性について理解する。 キーワード：社会調査、福祉サービス、ソーシャルワーク実践、社会踏査、貧困調査など	社会調査と社会福祉調査の関係を踏まえて、社会福祉調査の意義や有効性について考えてみましょう。さらに、社会保障や社会福祉の発展過程において社会調査が果たしてきた役割から、社会福祉調査の今日的意義について考えてみましょう。
2	統計法（第1章第4節）	日本における統計調査の基幹法となる統計法について理解する。 キーワード：社会の情報基盤、基幹統計、基幹統計調査、統計委員会など	日本における統計調査の基幹法となる統計法の基本構造とポイントについて整理してみましょう。
3	社会福祉調査における倫理と個人情報保護（第2章）	調査対象者の人権を保護するという観点から社会福祉調査における倫理や個人情報の保護について理解する。 キーワード：倫理規定、社会福祉士の倫理綱領、精神保健福祉士の倫理綱領など	社会福祉調査の成立とプライバシーの関係について把握するとともに、調査対象者の人権を保護するために社会調査を実施する者に求められる倫理的な行動規範にはどのようなものがあるか確認してみましょう。
4	社会福祉調査のデザイン（第3章）	ソーシャルワークの過程における調査の知識と技術の適用について理解するとともに調査計画書の作成について学習する。 キーワード：ソーシャルワーク・リサーチ、アセスメント、評価、演繹法、帰納法、因果関係、妥当性、仮説など	ソーシャルワークを専門職として展開するためには、社会福祉調査の知識と技術が必要となります。ソーシャルワークにおける理論、実践、調査の関係について整理してみましょう。また、ソーシャルワークにおける調査のプロセスについても確認してみましょう。
5	量的調査の概要と方法（第4章第1、2節）	ソーシャルワーク実践における量的調査の意義や貢献について理解を深めるとともに、量的調査の方法について学習する。 キーワード：全数調査、標本調査、横断調査、縦断調査、二次分析など	量的調査では、数値化することによってクライアントの特徴や環境などを可視化するとともに、実践の効果を測定していきます。量的調査がソーシャルワークの技術の一つであることを意識しながら、具体的な調査方法を整理してみましょう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
6	質問紙の作成 方法と留意点 (第4章第3節)	質問紙を作成する方法と手順、回答形式について学習する。また、測定に用いられる尺度の水準についても学習する。 キーワード：ワーディング、尺度水準、コーディングなど	ソーシャルワーク実践に関する量的調査の多くは、質問紙調査によって実施されています。質問紙調査では、調査対象者が理解しやすい文章表現によって質問文を作成する必要があります。どのような点に注意し質問紙を作成すればよいか具体例を挙げながら確認してみましょう。
7	質問紙の配布・回収 (第4章第4節)	自記式と他記式の違いを学習するとともに、質問紙の配布と回収の方法について、それぞれの特徴を踏まえて理解する。 キーワード：自記式、他記式など	社会福祉調査では、さまざまな方法を用いて質問紙の配布と回収が行われています。それぞれの方法の特徴を整理し、適切な方法を選択するための要件を具体的に考えてみましょう。
8	量的調査の集計と分析 (1)(第4章第5節)	調査目的と収集したデータに合致した分析手法を選定するための方法を理解する。 キーワード：エディティング、コーディング、クリーニング、基本統計量（代表値、散布度）、クロス集計、相関関係など	量的調査では、データの傾向を把握するために統計的処理を行うことが求められます。社会福祉学領域の調査で多用される平均値や中央値などについては教科書にあるデータを用いて実際に代表値を算出してみましょう。また、2変数間の関係性を記述するための代表的な方法についても確認してみましょう。
9	量的調査の集計と分析 (2)(第4章第5節)	引き続き、調査目的と収集したデータに合致した分析手法を選定するための方法を学習するとともに、量的調査の分析によって出力されたデータの解釈方法についても理解する。 キーワード：推定、検定、平均値の差の検討、関連の検討、分類の検討	推定や検定に関する分析手法は多岐にわたり、使用するデータの変数の種類や調査目的に応じて、適切に使い分けられるようになることが求められます。特に、社会福祉学領域において多用される分析手法にどのようなものがあるか、選択基準などを整理してみましょう。
10	質的調査の概要と方法 (第5章第1、2節)	量的調査と対比させることで質的調査の目的と諸方法の特徴について理解する。また、質的調査におけるサンプリングの特徴についても理解を深める。 キーワード：事例研究、ナラティブアプローチ、エスノグラフィー、GTA、アクションリサーチ、有意標本抽出	ソーシャルワークで扱う問題のなかには数値で表し、理解することが困難な領域も少なくありません。適切な方法を選択し調査を実施できるよう質的調査の諸方法の特徴についてまとめてみましょう。また、質的調査を用いてまとめられた調査報告書などに目を通してみましょう。
11	質的調査のデータ収集方法－観察法・面接法－ (第5章第3節)	質的調査における主なデータ収集方法である観察法と面接法の特徴を理解する。 キーワード：参与観察法、非参与観察法、構造化面接、半構造化面接、非構造化面接	質的調査におけるデータ収集はおもに、観察法と面接法の二つである。調査目的・調査対象に応じて適切なデータ収集法を選択できるよう観察法と面接法の特徴をまとめてみましょう。また、ソーシャルワーク実践における面接と調査における面接の相違について考えてみましょう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
12	質的調査における記録の方法と留意点（第5章第4節）	質的調査における記録方法とソーシャルワーク実践現場の資料の活用について理解する。また、調査により収集したデータの取り扱いについても学習する。 キーワード：フィールドノーツ、トランスクリプト、ICTの活用	観察や面接では、どのような記録方法が用いられているのか、それぞれの方法の特徴と記録上の工夫などについて例を参考にしながら把握しましょう。また、質的調査では、様々な資料も有効なデータとなります。関心のあるテーマについてデータベースを使って実際に資料を収集してみましょう。
13	質的調査のデータ分析方法（第5章第5節）	質的研究における各種の分析方法を理解する。また、ソーシャルワークにおける具体的な分析方法について学習する。 キーワード：事例研究、ナラティブアプローチ、エスノグラフィー、TEM、GTA、アクションリサーチ	例えば、事例研究は人々の個別的な状況を重要視するソーシャルワークにおいて欠かすことのできない方法の一つとなっています。ソーシャルワーク実践における具体的な分析方法について理解するため各種の分析方法を用いた研究をデータベースで探して読んでみましょう。
14	ソーシャルワークにおける評価の意義（第6章第1節）	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク実践の評価について理解する。 キーワード：EBP、NBP、アカウンタビリティ	ソーシャルワークはミクロからマクロレベルまで連続性のある実践であるという点に特徴があります。ソーシャルワークの発展においてはあるレベルにおいて焦点化された実践を評価することが求められます。各レベルにおける実践の評価について事例をもとに把握してみましょう。
15	ソーシャルワークにおける評価対象と方法（第6章第2、3節）	ソーシャルワークにおける評価対象ならびに評価の種類について把握する。また、評価において用いられる手法について学習する。 キーワード：実験計画法、シングル・システム・デザイン	ソーシャルワークにおける評価の対象は実践に限られるものではなく、その対象はプログラム、政策、構造に分類することができます。また、評価方法の選択は、評価の対象がどの段階あるかを基準に考えることが重要となります。評価において用いられる手法については具体例を踏まえて把握していきましょう。

■レポート課題

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	社会福祉調査の今日的役割について、社会福祉の発展過程において社会調査が果たしてきた役割を踏まえ説明しなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

レポートの作成にあたっては、テキストや文献等の丸写しにならないように気を付けてください。引用する場合には、「」を使用し、引用であることを明らかにするとともに、必ず出典を表記します。また、レポートは読みやすい文章であることが大前提となります。一分が長くなり過ぎていないか、他者に伝わりやすい表現となっているか、事実と意見は区別されているか、誤字脱字はないかなど、推敲したうえで提出するようにしましょう。

1 単位め
アドバイス

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

2 単位め
アドバイス

社会調査の歴史的な流れを概観し、社会保障や社会福祉の発展過程において社会調査が果たしてきた役割を踏まえ社会福祉調査の今日的役割について述べてください。従来は社会福祉援助技術の中で間接援助技術として位置づけられ、主にメゾ、マクロ領域の実践を中心に用いられていましたが、近年ではミクロ領域においても社会調査を基礎とする社会福祉調査に関する知識と技術が求められています。ミクロ、メゾ、マクロレベルのそれぞれのレベルのソーシャルワーク実践をよりよくするために、どのような社会福祉調査が必要となるのか、具体例をあてはめながらレベル別に考えることでより理解が深まります。

科目修了試験

■評価基準

- 1) 本科目全体の内容についての理解を問います。
- 2) 問題の題意に適しているかどうかを問います。
- 3) 解答字数は、800字以上を基準とします。

ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ		科目コード	CC3093
単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	R or SR(講義)	2年以上	狩野 俊介

科目の概要

■科目の内容

ソーシャルワークの専門性と基盤や倫理の理解の上に、ソーシャルワークの視点（人と環境の相互作用への視点）、モデル、アプローチについて、対面授業や履修者間での意見交換、印刷教材などによる授業で学ぶ。

■到達目標

- 1) ソーシャルワークの基盤的な人と環境の交互作用に関する視点と、それに関連する理論、ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて説明できる。
- 2) ソーシャルワークのさまざまな実践モデルとアプローチについて説明できる。
- 3) ソーシャルワークのプロセスと活用する知識や技術、価値について説明できる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「専門的知識」「クリティカルシンキング力」「アセスメント力」「問題解決力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価40%＋スクーリング評価 or 科目修了試験60%

■教科書・参考図書

【教科書】（「ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ」と共通）

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座〔共通科目〕12 ソーシャルワークの理論と方法（共通科目）』中央法規出版、2021年
（スクーリング時の教科書） 上記教科書は参考程度に使用します。

【参考図書】

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座〔共通科目〕13 ソーシャルワーク演習（共通科目）』中央法規出版、2021年

■事前に学習してほしい科目

「ソーシャルワークの基盤と専門職」を学習しておくことが望ましい。

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

ソーシャルワークの専門性と基盤や倫理を理解し、ソーシャルワークの視点（人と環境の相互作用への視点）、モデル、アプローチ、プロセスについて学ぶ。

また、ソーシャルワークのプロセスや専門性についても、具体的な理解が進むように学んでほしい。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	人と環境との交互作用に関する理論について	人と環境の交互作用について理解するために、生態学的な視点とその背景理論としてシステム理論について学ぶ。
2	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ 1	治療モデル、生活モデル、ストレングスモデルを取り上げ、それぞれの特徴と適用時の留意点について理解する。
3	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ 2	心理社会的アプローチ、機能的アプローチ、問題解決アプローチ、課題中心アプローチなど主要なアプローチを取り上げ、それぞれの特徴と違い、適用時の留意点について理解する。
4	ソーシャルワークの過程 1	ソーシャルワークのプロセスの全体像を確認した上で、「ケース発見」及び「インテーク」、「アセスメント」及び「プランニング」について目的や意義、実施の留意点について理解する。
5	ソーシャルワークの過程 2	ソーシャルワークのプロセスのうち、「支援の実施」、「モニタリング」、「評価」、「集結とアフターケア」について目的や意義、実施の留意点について理解する。
6	ソーシャルワークにおける面接 1	ソーシャルワーク面接の目的や特性、形態、場所等を確認する。
7	ソーシャルワークにおける面接 2	ソーシャルワーク面接におけるコミュニケーション技法や面接技法を確認する。
8	ソーシャルワークにおける記録の目的や意義、記録の方法	ソーシャルワークにおける記録の目的や意義、記録の方法、留意点について学ぶ。記録の実際に触れることで理解を深める。
9	スクーリング試験	

※オンデマンド・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めます。教科書は参考程度に使用します。

■スクーリング 評価基準

スクーリング中に学んだ内容から出題します（自筆ノートと配付資料のみ持ち込み可）。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

教科書の第1章から第10章まで読んでください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	ソーシャルワーク理論と枠組み1（第1章、他参考図書等）	ソーシャルワークの背景理論であるシステム理論、生態学理論について	教科書をよく読み、理解すること。
2	ソーシャルワーク理論と枠組み2（第1章、他参考図書等）	ソーシャルワークのモデルについて	バイオ・サイコ・ソーシャルモデルについて、事例を参照しながら、具体的に学んでください。
3	ソーシャルワーク理論と枠組み3（第1章、他参考図書等）	ミクロからマクロ・レベルまでの連続性、共生社会作りにつながるソーシャルワークの目標、展開過程について	ミクロ、メゾ、マクロの各視点と連続性について、事例を参照しながら具体的に学び、開発機能の重要性について理解してください。
4	ソーシャルワークのプロセス（第2章、他参考図書）	ケースの発見からインターク、契約まで	ソーシャルワークのプロセスにおけるこの段階を、事例を参照しながら具体的に理解してください。
5	ソーシャルワークのプロセス（第3章、他参考図書）	アセスメント	アセスメントの意義、目的、重要性について理解し、ソーシャルワーク・プロセス全体における意味を具体的に理解してください。
6	ソーシャルワークのプロセス（第3章、他参考図書）	アセスメント	アセスメントの方法と留意点を、事例を参照しながら、具体的に理解してください。
7	ソーシャルワークのプロセス（第4章、他参考図書）	プランニング	プランニングの意義と目的、およびメゾ、マクロ・レベルにつながる視点を学び、事例を通してその方法を具体的に学ぶ。
8	ソーシャルワークのプロセス（第5章、他参考図書）	支援の実施（介入）とモニタリング	支援の実施を、特にメゾ、マクロ・レベルへの連続性を意識しながら具体的に理解してください。また、モニタリングの重要性を、目的、方法とともに理解してください。
9	ソーシャルワークのプロセス（第5、6章、他参考図書）	効果測定（プロセス評価、結果評価）と終結、アフターケア	効果測定の意義、意味、必要性和その方法を、教科書を読んで理解してください。また、終結に至るプロセスを、事例を通して具体的に理解してください。
10	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ1（第7章、他参考図書）	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ	史的展開をふまえ、その考え方と今日的課題について、教科書を読んで学んでください。
11	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ2（第7章、他参考図書）	様々なアプローチ	心理社会的アプローチ以下、様々なアプローチについて、事例を通して具体的に理解してください。
12	ソーシャルワークの面接（第8章、他参考図書）	ソーシャルワーク面接の意義と目的、および方法	ソーシャルワーク面接の意義と目的を、教科書を読んで理解してください。面接事例をとおして、具体的にその構造や留意点について学んでください。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
13	ソーシャルワークの記録（第9章、他参考図書）	ソーシャルワークの記録の意義、目的と方法	ソーシャルワークの記録の意義と目的を、教科書を読んで学び、実例を通して、フォーマットや記録の内容を学んでください。
14	ケースマネジメント1（第10章、他参考図書）	ケースマネジメントの原則、意義	史的展開もふまえ、教科書を読んでケースマネジメントの原則、意義について理解してください。
15	ケースマネジメント2（第10章、他参考図書）	ケースマネジメントの実際	事例を参照して、ケースマネジメントの方法を具体的に理解してください。

■レポート課題

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	ソーシャルワークの基盤となる視点と専門性について説明し、ソーシャルワークの過程とその留意点をまとめなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

課題の概念を正確に理解し把握することは当然のこととして、事例などに触れながら具体的なイメージを持つこと。

1 単位め アドバイス

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

2 単位め アドバイス

教科書以外に参考図書などを用いて、これらが具体的に理解できるようにしましょう。また、概念を個別に説明するだけでなく、ソーシャルワークの枠組み、ミクロからマクロ・レベルへの連続性などへも視線を向けてください。

科目修了試験

■評価基準

- 1) 科目全体の内容について問います。
- 2) 各概念について、正確に理解できていなくてはなりません。
- 3) 題意を正確に把握するように努めてください。
- 4) 800字以上が必要な記述の分量です。

ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ			科目コード	CC3094
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	R or SR(講義)	2年以上	三浦 剛	



■履修登録条件

「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ」をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をする方のみが履修登録できます。

科目の概要

■科目の内容

面接授業や印刷教材を用いた授業において、総合的かつ包括的支援の意味を理解し、そこで用いられるグループワークやコミュニティワークといった方法について、概念とプロセスを学ぶ。

また、ソーシャルワークにおけるケアマネジメントやスーパービジョン、コンサルテーションといった関連技術についても、その概念を学ぶ。

■到達目標

- 1) ソーシャルワークが総合的かつ包括的な相談援助であることを説明することができる。
- 2) 集団やコミュニティを対象として支援の概念とその展開について説明ができる。
- 3) ソーシャルワークにおけるスーパービジョンとコンサルテーションについて理解し説明できる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「専門的知識」「クリティカルシンキング力」「アセスメント力」「問題解決力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価40%＋スクーリング評価 or 科目修了試験60%

■教科書・参考図書

【教科書】（「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ」と共通）

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座〔共通科目〕12 ソーシャルワークの理論と方法（共通科目）』中央法規出版、2021年

※「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ」で配本のため、この科目での教科書配本はありません。

（スクーリング時の教科書）上記教科書は参考程度に使用します。

【参考図書】

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座〔共通科目〕13 ソーシャルワーク演習（共通科目）』中央法規出版、2021年

■事前に学習してほしい科目

「ソーシャルワークの基盤と専門職」を学習しておくことが望ましい。

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

ソーシャルワークの専門性と基盤や倫理を理解し、ソーシャルワークの視点（人と環境の相互作用への視点）、生活モデル、アプローチについて学ぶ。

また、ソーシャルワークのプロセスや専門性についても、具体的な理解が進むように学んでほしい。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	集団に対する援助 1	集団援助技術の原理、定義、意義を理解する。さらに、集団をシステムとして捉えた際の、分析方法や介入方法について学ぶ。
2	集団に対する援助 2	集団援助技術の展開過程を準備期、作業期、終結期と評価それぞれについて学び、グループダイナミクスに基づいた自助グループや SST など介入の実際、小地域福祉活動やチームアプローチについても学ぶ。
3	コミュニティワーク	地域に対する援助技術の定義、目的、意義、役割、展開過程について理解する。 事例から支援の実際が理解できる。
4	ケアマネジメント 1	ケアマネジメントの概念、プロセスについて学ぶ。
5	ケアマネジメント 2	ケアマネジメントの概念をミクロ・メゾ・マクロの視点で考察する。
6	スーパービジョンとコンサルテーション 1	ソーシャルワーカーが機能する職場を一つのシステムとして考える視点を学ぶ。そこから人材育成の必要性と方法について理解を深める。
7	スーパービジョンとコンサルテーション 2	社会福祉分野における人材育成の方法としてのスーパービジョンと、支援の質を向上させるためのコンサルテーションについて学ぶ。
8	事例研究	これまでの学びをもとに、ソーシャルワーク研究の諸方法を確認し、事例検討により支援の実際を学ぶ。
9	スクーリング試験	

※オンデマンド・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めます。教科書は参考程度に使用します。

■スクーリング 評価基準

スクーリング中に学んだ内容から出題します（自筆ノートと配付資料のみ持ち込み可）。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

教科書の第11章から第15章まで読んできてください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	グループを活用した支援1（第11章）他参考図書等	グループワークの意義と目的	グループワークの歴史その実践の意義、ジェネラリスト実践との関係を整理しましょう。また、その目的と目標について理解しましょう。
2	グループを活用した支援2（第11章）他参考図書等	グループワークの展開過程	グループワークのプロセスについて、具体的に理解できるように、その実際を参考書などから学びながら、意識しましょう。
3	グループを活用した支援3（第11章）他参考図書等	グループワークとセルフヘルプグループ	セルフヘルプグループの実践例などを通して、グループワークの実際を学びましょう。
4	コミュニティワーク1（第12章）他参考図書等	コミュニティワークの意義と目的	コミュニティワークとは何か、ソーシャルワークにおけるコミュニティワークの意義を学びましょう。また、住民主体の原則について、ごみ屋敷問題などの支援事例を通して理解しましょう。
5	コミュニティワーク2（第12章）他参考図書等	コミュニティワークの展開	地域アセスメントから支援計画の策定までのプロセスを、実際に意識して理解しましょう。
6	コミュニティワーク3（第12章）他参考図書等	コミュニティワークの展開	地域組織化、社会資源開発などの方法、評価と再アセスメントを、実際に意識して理解しましょう。
7	コミュニティワーク4（第12章）他参考図書等	コミュニティワークの理論的系譜とモデル	コミュニティワークの史的展開を通して、その理論とモデルを理解しましょう。
8	ソーシャルアドミニストレーション1（第13章）他参考図書等	ソーシャルアドミニストレーションの概念、定義とその意義	教科書を読み、ソーシャルアドミニストレーションの概念、定義を理解しましょう。
9	ソーシャルアドミニストレーション2（第13章）他参考図書等	組織介入・組織改善の実践モデル	組織運営の実際を、事例などを通して、具体的に理解しましょう。
10	ソーシャルアドミニストレーション3（第13章）他参考図書等	組織運営の実際と財源の確保	組織運営の実際を、財源確保を中心に、その方法を具体的に学びましょう。
11	ソーシャルアクション1（第14章）他参考図書等	ソーシャルアクションの概念、定義	教科書を読み、ソーシャルアクションの概念、定義について理解しましょう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
12	ソーシャルアドミニストレーション2 (第14章) 他参考図書等	コミュニティ・オーガナイズング	ソーシャルアクションの実際を、コミュニティ・オーガナイズングなどの例を通して、具体的に理解しましょう。
13	スーパービジョンとコンサルテーション1 (第15章) 他参考図書等	スーパービジョンの意義、目的、方法	教科書を読み、スーパービジョンの意義や目的、方法を学びましょう。
14	スーパービジョンとコンサルテーション2 (第15章) 他参考図書等	スーパービジョンの実際	実例などを通し、スーパービジョンが具体的にイメージできるよう、理解しましょう。
15	スーパービジョンとコンサルテーション3 (第15章) 他参考図書等	コンサルテーションの意義、目的、方法	ソーシャルワークにおけるコンサルテーションについて、教科書を読み理解し、実例などを通して具体的にイメージできるようにしましょう。

■レポート課題

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	グループワーク、コミュニティワーク、スーパービジョンについて、その概念（定義、目的、展開過程）を具体的に説明し、ソーシャルワーク実践を展開するうえでこれらがなぜ必要か（意義）述べなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

概念を正確に理解し把握することは当然のこととして、事例などに触れながら具体的イメージを持つこと。

また、これまで学んだソーシャルワークの枠組みを意識して、体系的に理解することに努めてください。

1 単位め アドバイス

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

2 単位め アドバイス

教科書以外に参考図書などを用いて、これらが具体的に理解できるようにしましょう。また、概念を説明するだけでなく、ソーシャルワーク実践における意味にも必ず言及してください。

科目修了試験

■評価基準

- 1) 科目全体の内容について問います。
- 2) 各概念について、正確に理解できていなくてはなりません。
- 3) 題意を正確に把握するように努めてください。
- 4) 800字以上が必要な記述の分量です。

ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ			科目コード	CC3095
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	R or SR (講義)	2年以上	竹之内 章代	



科目の概要

■科目の内容

スクーリングや印刷教材による授業で、多様化・複雑化する課題に対応するためのソーシャルワークの様々な理論と方法について、ここでは関係形成の基礎となるコミュニケーション、面接技法を学ぶ。次いでアウトリーチやネットワーク形成に焦点を当てその方法を学ぶ。具体的には、

- 1) 社会福祉士として多様化・複雑化する課題に対応するため、より実践的かつ効果的なソーシャルワークの様々な理論と方法を理解する。
- 2) 支援を必要とする人との援助関係の形成やニーズの掘り起こしを行うための、知識と技術について理解する。

■到達目標

- 1) 多様化・複雑化する課題に対応するためのソーシャルワークの様々な理論と方法について説明できる。
- 2) 支援を必要とする人との援助関係の形成や、ニーズ把握の知識と技術について説明できる。
- 3) 事例研究を通じて、ソーシャルワーカーとしての社会福祉士の専門職として必要な価値や技術、知識について説明できる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「専門的知識」「クリティカルシンキング力」「アセスメント力」「問題解決力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価40%＋スクーリング評価 or 科目修了試験60%

■教科書・参考図書

【教科書】（「ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ」と共通）

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座〔専門科目〕6 ソーシャルワークの理論と方法（社会専門）』中央法規出版、2021年

（スクーリング時の教科書）上記テキストは必ず持参してください。テキストや配付資料をもとに講義を実施します。

【参考図書】

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座〔専門科目〕7 ソーシャルワーク演習（社会専門）』中央法規出版、2021年

■事前に学習してほしい科目

「ソーシャルワークの基盤と専門職」「ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）」「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ」「ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ」を学習しておくことが望ましい。

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

社会福祉士として多様化・複雑化する課題に対応するため、より実践的かつ効果的なソーシャルワークの様々な理論や方法について、事例を通じて学ぶことを期待します。また、支援を必要とする人との援助関係の形成やニーズの掘り起こしを行うために必要な知識や技術の確認を各自行えるよう講義の振り返りを行ってほしいと思います。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	ソーシャルワークにおける援助関係の意義と概念を理解する①	1 援助関係の意義と概念 ・ソーシャルワーカーとクライアントシステムの関係
2	ソーシャルワークにおける援助関係の形成方法を理解する②	2 援助関係の形成方法 ・自己覚知と他者理解 ・コミュニケーションとラポール
3	ソーシャルワークにおける援助関係の形成方法を理解する③	3 面接技術 ・面接の意義、目的、方法、留意点 ・面接の場面と構造 ・面接の技法
4	ソーシャルワークに関連する技法①	1 ネゴシエーション ・ネゴシエーションの意義、目的、方法、留意点 2 ファシリテーション ・ファシリテーションの意義、目的、方法、留意点
5	ソーシャルワークに関連する技法②	3 プレゼンテーション ・プレゼンテーションの意義、目的、方法、留意点 4 カンファレンス ・カンファレンスの意義、目的、留意点 ・カンファレンスの運営と展開
6	事例研究①	1 事例分析 ・事例分析の意義、目的 2 事例検討、事例研究 ・事例検討、事例研究の意義、目的、方法、留意点

回数	テーマ	内容
7	事例研究②	1 総合的かつ包括的な支援の考え方 ・多様化、複雑化した生活課題への対応 ・今日的な地域福祉課題への対応 ・分野、領域を横断する支援 2 家族支援の実際 ・家族が抱える複合的な生活課題 ・家族支援の目的、方法、留意点
8	まとめ	講義内容に関して修得状況を確認する。
9	スクーリング試験	試験により自己の理解の到達度を確認する。

※オンデマンド・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

■講義の進め方

テキストや配付（配信）資料をもとに講義を進めます。

■スクーリング 評価基準

事前学習およびスクーリングで学んだ内容から出題します（持ち込み不可）。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

テキストのスクーリングの内容に該当する部分を事前に読んでから講義に臨んでください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	ソーシャルワークにおける援助関係（第2章）	ソーシャルワークにおける援助関係の意義と概念を理解する 1 援助関係の意義と概念 ・ソーシャルワーカーとクライアントシステムの関係	人間関係と援助関係の違いを理解し、ソーシャルワークにおける援助関係の重要性を確認してください。クライアントシステム及び実践レベルにおいて援助関係の重要性を確認してください。
2	ソーシャルワークにおける援助関係（第2章）	2 援助関係の形成方法 ・自己覚知と他者理解 ・コミュニケーションとラポール	援助関係形成には、信頼関係の構築とそのためコミュニケーションが大切です。援助関係形成の技法を確認してください。
3	ソーシャルワークにおける援助関係（第2章）	3 面接技術 ・面接の意義、目的、方法、留意点 ・面接の場面と構造 ・面接の技法	相談援助において「面接」を中心に援助が展開されていきますが、面接で援助関係を形成するためにはどのような点に留意をすればよいかを考えながら、学びの確認をしてください。
4	ソーシャルワークに関連する技法（第7章）	1 ネゴシエーション ・ネゴシエーションの意義、目的、方法、留意点	ミクロ・メゾ・マクロ、それぞれのレベルにおいて、さまざまな人や環境に働きかける上での必要とされる技法のうち、交渉の総体として「ネゴシエーション」の技法を学びます。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
5	ソーシャルワークに関連する技法 (第7章)	2 ファシリテーション ・ファシリテーションの意義、目的、 方法、留意点	ミクロ・メゾ・マクロ、それぞれのレベルにおいて、さまざまな人や環境に働きかける上での必要とされる技法のうち、集団や組織に働きかける『ファシリテーション』の技法を学びます。
6	ソーシャルワークに関連する技法 (第7章)	3 プレゼンテーション ・プレゼンテーションの意義、目的、 方法、留意点	ミクロ・メゾ・マクロ、それぞれのレベルにおいて、さまざまな人や環境に働きかける上での必要とされる技法のうち、利用者や家族、あるいは団体や自治体への紹介や提案をするときの技法である「プレゼンテーション」について学びます。
7	ソーシャルワークに関連する技法 (第5章)	4 カンファレンス ・カンファレンスの意義、目的、留意点 ・カンファレンスの運営と展開	ミクロ・メゾ・マクロ、それぞれのレベルにおいて、さまざまな人や環境に働きかける上での必要とされる技法のうち、他者との協議を行う目的での会議「カンファレンス」の方法を学びます。
8	事例分析・事例検討・事例研究① (第6章)	1 事例分析 ・事例分析の意義、目的	事例分析・事例検討・事例研究との関係性を整理します。その上で、事例分析は事例検討と事例研究の一部をなすものとして不可欠なものです。意義や目的を確認してください。
9	事例分析・事例検討・事例研究② (第6章)	2 事例検討、事例研究 ・事例検討、事例研究の意義、目的、 方法、留意点	事例検討は、事例分析で事例への理解を深め、具体的な取り組みについて考えるものです。また、事例研究は事例分析を通じて、課題を明らかにし、理論やモデルの生成や、実践の評価にも役立つものです。それぞれの違いを確認してください。
10	事例研究① (第1章)	1 総合的かつ包括的な支援の考え方 ・多様化、複雑化した生活課題への対応 ・今日的な地域福祉課題への対応 ・分野、領域を横断する支援	地域共生社会の実現に向けて、総合的で包括的な支援とは何かを事例を通して理解します。具体的な手法や技法、どのような価値観が事例の課題解決につながったのかを考えながら学びましょう。
11	事例研究② (第1章)	1 総合的かつ包括的な支援の考え方 ・多様化、複雑化した生活課題への対応 ・今日的な地域福祉課題への対応 ・分野、領域を横断する支援	地域共生社会の実現に向けて、総合的で包括的な支援とは何かを事例を通して理解します。具体的な手法や技法、どのような価値観が事例の課題解決につながったのかを考えながら学びましょう。
12	事例研究③ (第1章)	2 家族支援の実際 ・家族が抱える複合的な生活課題 ・家族支援の目的、方法、留意点 ・家族を取り巻く複合的な課題について	地域共生社会の実現に向けて、総合的で包括的な支援とは何かを事例を通して理解します。具体的な手法や技法、どのような価値観が事例の課題解決につながったのかを考えながら学びましょう。ここでは、さまざまな家族を取り巻く社会的な課題について理解します。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
13	事例研究④ (第1章)	2 家族支援の実際・家族が抱える複合的な生活課題・家族支援の目的、方法、留意点 ・家族に関する理論の理解 ・家族理解のためのツール	地域共生社会の実現に向けて、総合的で包括的な支援とは何かを事例を通して理解します。具体的な手法や技法、どのような価値観が事例の課題解決につながったのかを考えながら学びましょう。家族に関する理論を整理してみましょう。また、エコマップなどをソーシャルワークの理論と方法Ⅰ・Ⅱで学んだことを復習してみましょう。
14	事例研究⑤ (第1章)	2 家族支援の実際・家族が抱える複合的な生活課題・家族支援の目的、方法、留意点 ・事例から学ぶ	地域共生社会の実現に向けて、総合的で包括的な支援とは何かを事例を通して理解します。具体的な手法や技法、どのような価値観が事例の課題解決につながったのかを考えながら学びましょう。
15	振り返りとまとめ	15回の学びを通じて自己の学びの深度を確認する	各回のキーワードとなることを抽出し、自分のことばで説明できるかどうか、確認してみてください。

■レポート課題

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	多様化・複雑化する課題に対応するためのソーシャルワークにおける援助関係の形成において、その基盤となるコミュニケーションや他者理解や自己覚知の重要性についてまとめてください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

ソーシャルワーカーとして社会福祉士が持つべき価値や技術、知識について確認してください。その上で具体的な援助技法を実践において活用するために、理論やモデルの整理をしてみるとよいでしょう。



教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。



テキストの第2章を中心に学習してください。また、レポート作成に当たっては、ソーシャルワークの理論と方法（共通科目）で学んだ理論やモデルなどを確認して作成するとよいでしょう。

科目修了試験

■評価基準

- 1) 出題された課題に対して、ポイントを押さえて論述されているかどうか
- 2) テキストや参考文献、レポート作成で学んだことが理解され、説明されていること
- 3) 論旨がとおっていること
- 4) 規程の分量を満たしていること

ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ			科目コード	CC3096
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	R or SR (講義)	2年以上	竹之内 章代	



■履修登録条件

「ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ」をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をする方のみが履修登録できます。

科目の概要

■科目の内容

スクーリングや印刷教材による授業で、多様化・複雑化する課題に対応するためのソーシャルワークの様々な理論と方法について、ここでは社会資源の活用、調整、開発の方法と、ネットワークの形成及びコーディネーションの方法等について学ぶ。具体的には、

- 1) 多様化・複雑化する課題に対応するためのソーシャルワークの様々な理論と方法を理解する。
- 2) 地域における社会資源の開発やソーシャルアクションについて理解する。

■到達目標

- 1) 多様化・複雑化する課題に対応するためのソーシャルワークの様々な理論と方法を説明できる。
- 2) 地域における社会資源の開発やネットワークの形成、コーディネーションやソーシャルアクションについてその方法について具体的に説明できる。
- 3) 個別の事例の具体的な解決策及び事例の共通性や一般性を見出すための、事例分析の意義や方法を具体的に展開できる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「専門的知識」「ICT 活用力」「クリティカルシンキング力」「アセスメント力」「問題解決力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価40%＋スクーリング評価 or 科目修了試験60%

■教科書・参考図書

【教科書】（「ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ」と共通）

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座〔専門科目〕6 ソーシャルワークの理論と方法（共通科目）』中央法規出版、2021年

※「ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ」で配本のため、この科目での教科書配本はありません。
(スクーリング時の教科書) 上記テキストは必ず持参してください。テキストや配付資料をもとに講義を実施します。

【参考図書】

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座〔専門科目〕7 ソーシャルワーク演習 (社会専門)』中央法規出版、2021年

■事前に学習してほしい科目

「ソーシャルワークの基盤と専門職」「ソーシャルワークの基盤と専門職 (専門)」「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ」「ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ」を学習しておくことが望ましい。

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

社会福祉士として多様化・複雑化する課題に対応するため、より実践的かつ効果的なソーシャルワークの様々な理論と方法について、講義を通じて確認してください。とくに、社会資源の活用の意義を踏まえ、地域における社会資源の開発やソーシャルアクションなど、マクロレベルに働きかけるアプローチについて理解を深めてください。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	ソーシャルワークにおける援助関係の意義と概念を理解する	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲで学んだ専門的援助関係について確認する。
2	ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発①	1 社会資源の活用・調整・開発 ・社会資源の活用・調整・開発の意義、目的、方法、留意点 ・ニーズの集約、提言、計画策定、実施、評価
3	ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発②	2 ソーシャルアクション ・ソーシャルアクションの意義、目的、方法、留意点
4	ネットワークの形成①	1 ネットワーキング ・ネットワーキングの意義、目的、方法、留意点 ・セーフティネットの構築とネットワーキング ・家族や住民、サービス提供者間のネットワーキング ・重層的な範囲 (ミクロ・メゾ・マクロ) におけるネットワーキング ・多様な分野の支援機関とのネットワーキング
5	ネットワークの形成②	1 コーディネーション ・コーディネーションの意義、目的、方法、留意点
6	アウトリーチの意義と方法	1 アウトリーチ ・アウトリーチの意義、目的、方法、留意点 ・アウトリーチを必要とする対象 ・ニーズの掘り起こし

回数	テーマ	内容
7	事例研究	1 ソーシャルワークにおける総合的かつ包括的な支援の実際 ・地域支援の実際として ・地域が抱える課題 ・多機関協働 ・地域住民との協働 ・地域アセスメント
8	まとめと振り返り	講義全体を振り返り、学びの確認を行う
9	スクーリング試験	試験により自己の理解の到達度を確認する

※オンデマンド・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

■講義の進め方

テキストや配付（配信）資料をもとに講義を進めます。

■スクーリング 評価基準

事前学習及びスクーリングで学んだ内容から出題します（持ち込み不可）。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

テキストのスクーリングの内容に該当する部分を事前に読んでから講義に臨んでください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	ソーシャルワークにおける援助関係とは	ソーシャルワークにおける援助関係の意義と概念を理解する	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲで学んだ内容の確認をしてください。
2	ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発①（第4章）	1 社会資源の活用・調整 ・社会資源の活用・調整の意義、目的、方法、留意点	社会資源の活用や調整・開発が、ソーシャルワーク実践の一つと特徴づけられていることを理解しましょう。その意義や目的を確認し、具体的な方法について、事例（第1章3節）と参考にしながら理解出来ると良いでしょう。
3	ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発②（第4章）	2 社会資源の活用・調整 ・ニーズの集約、提言、計画策定、実施、評価	社会資源の活用や調整・開発が、ソーシャルワーク実践の一つと特徴づけられていることを理解しましょう。その意義や目的を確認し、具体的な方法について、事例（第1章3節）と参考にしながら理解出来ると良いでしょう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
4	ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発③ (第4章)	3 ソーシャルワーク実践と社会資源 ・ソーシャルワーク実践における社会資源とは ・社会資源の開発の意義、目的、方法、留意点	社会資源の活用や調整・開発が、ソーシャルワーク実践の一つと特徴づけられていることを理解しましょう。その意義や目的を確認し、具体的な方法について、事例（第1章3節）と参考にしながら理解出来ると良いでしょう。
5	ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発④ (第4章)	4 社会資源開発の様々な方法 ・社会資源開発の方法 ・サービスの改善 ・社会資源開発に必要なソーシャルワーカーのスキルとは	社会資源開発の方法を学びます。ミクロからメゾ、マクロへの連続面でニーズを捉え、それらを社会資源開発の実践として展開するためのスキルとは何かを考えて見ましょう。事例（第1章第3節）を参照しながら学んでください。
6	ネットワークの形成① (第3章)	1 ネットワーキング・ネットワーキングの意義、目的、方法、留意点 ・セーフティネットの構築とネットワーキング ・家族や住民、サービス提供者間のネットワーキング ・重層的な範囲（ミクロ・メゾ・マクロ）におけるネットワーキング ・多様な分野の支援機関とのネットワーキング	複雑で多様な課題をかかえたクライアントシステムを支援する際、そのニーズに対応した社会資源とつなぐ役割を果たすための一つの方法として「ネットワーキング」があることを学びましょう。さまざまな対象との間でのネットワークの特徴を確認してください。
7	ネットワークの形成② (第3章)	1 コーディネーション ・コーディネーションの意義、目的、方法、留意点	複雑で多様な課題をかかえたクライアントシステムを支援する際、ネットワークを形成しそれらが有機的に働くためには「コーディネーション」の技術が必要であることを学びましょう。
8	ソーシャルワークに関連する技法①	1 ネゴシエーション ・ネゴシエーションの意義、目的、方法、留意点	ミクロ・メゾ・マクロ、それぞれのレベルにおいて、さまざまな人や環境に働きかける上での必要とされる技法のうち、交渉の総体として「ネゴシエーション」の技法を学びます。
9	ソーシャルワークに関連する技法②	2 コンフリクト・レゾリューションの意義、目的、方法、留意点	ミクロ・メゾ・マクロ、それぞれのレベルにおいて、さまざまな人や環境に働きかける上での必要とされる技法のうち、紛争や葛藤状況を解決するための技法としての「コンフリクト・レゾリューション」の技法を学びます。
10	ソーシャルワークに関連する技法③	3 ソーシャル・マーケティングの意義、目的、方法、留意点	ミクロ・メゾ・マクロ、それぞれのレベルにおいて、さまざまな人や環境に働きかける上での必要とされる技法のうち、社会的課題をビジネスの手法で捉える「ソーシャル・マーケティング」の技法について学びます。
11	事例研究① (第6章)	2 事例検討、事例研究 ・事例検討、事例研究の意義、目的、方法	「ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ」で学んだ事例研究や事例検討について、再度確認してください。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
12	事例研究② (第1章)	1 総合的かつ包括的な支援の考え方 ・多様化、複雑化した生活課題への対応 ・今日的な地域福祉課題への対応 ・分野、領域を横断する支援	地域共生社会の実現に向けて、総合的で包括的な支援とは何かを事例を通して理解します。具体的な手法や技法、どのような価値観が事例の課題解決につながったのかを考えながら学びましょう。
13	事例研究③ (第1章)	1 地域支援の実際 ・地域が抱える課題 ・多機関協働 ・地域住民との協働 ・地域アセスメント	地域共生社会の実現に向けて、総合的で包括的な支援とは何かを事例を通して理解します。具体的な手法や技法、どのような価値観が事例の課題解決につながったのかを考えながら学びましょう。
14	事例研究④ (第1章)	2 非常時や災害時支援の実際 ・非常時や災害時の生活課題 ・非常時や災害時における支援の目的、方法、留意点	地域共生社会の実現に向けて、総合的で包括的な支援とは何かを事例を通して理解します。具体的な手法や技法、どのような価値観が事例の課題解決につながったのかを考えながら学びましょう。
15	振り返りとまとめ	15回の学びを通じて自己の学びの深度を確認する	各回のキーワードとなることを抽出し、自分のことばで説明できるかどうか、確認してみてください。

■レポート課題

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	社会資源活用・調整・開発について、その意義、必要性、方法についてまとめてください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

社会資源活用・調整・開発について、その意義、必要性、方法についてまとめてください。

1 単位め
アドバイス

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

2 単位め
アドバイス

テキストの第3章及び第4章を参考にしながら、レポート課題に取り組んでください。

科目修了試験

■評価基準

- 1) 出題された課題に対して、ポイントを押さえて論述されているかどうか
- 2) テキストや参考文献、レポート作成で学んだことが理解され、説明されていること

- 3) 論旨がとおっていること
- 4) 規程の分量を満たしていること

地域福祉と包括的支援体制A			科目コード	CC3097
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	R or SR (講義)	2年以上	都築 光一(上) / 大石 剛史(下)	



※会場によりスクーリング担当が異なります（仙台：大石剛史先生、オンデマンド：都築光一先生、盛岡：柴田邦昭先生）。

科目の概要

■科目の内容

これまでの歴史的経緯を踏まえ、地域共生社会を含む福祉コミュニティの構築に向けた地域住民等や地方公共団体並びに関係機関の役割を理解し、人々の繋がりや地域社会の機能力が脆弱化してきていると指摘されている今日、地域福祉実践の理論と実際を理解し、具体的に実践するための手法を学びます。

具体的には、各地域における様々な実践事例や、エピソードなどを交えて、地域福祉の基本的な考え方と、その考え方が具体的な実践でどのように活かされているのか講義を通じて紹介します。

これらの事例等を通じて、地域福祉の実践によってどのような効果や成果が望まれているのか等に関し、地域住民が取り組む意義と、地域福祉実践が絶えず動的に展開される必要性について理解を深めます。

【教員等の実務経験による指導内容】(大石 剛史先生)

自治体、社会福祉協議会等への地域福祉の進め方に関するスーパーバイズ経験等を活かして、小地域福祉活動の進め方、地域共生社会に向けた包括的支援体制の構築方法、地域福祉計画の策定プロセス等、具体的な事例等を交えて解説する。

■到達目標

- 1) 地域福祉は、地域住民等が推進主体であることを説明できる。
- 2) 地域福祉は、福祉コミュニティ実現に向けた実践であることを説明できる。
- 3) 地域福祉実践のために、包括的な支援体制を含む人的社会的資源のシステム形成の必要性を説明できる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「他者への関心と理解」「社会への関心と理解」「他者配慮表現力」「自己コントロール力」「問題解決力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価50%＋スクーリング評価 or 科目修了試験50%

■教科書・参考図書

【教科書】(「地域福祉と包括支援体制B」と共通)

都築光一著『福祉ライブラリ 現代の地域福祉 (第2版)』建帛社、2022年

(最近の教科書変更時期) 2023年4月

(スクーリング時の教科書)【各会場共通】上記教科書は必ず持参してください。旧教科書を所持している場合でも受講に支障がないよう資料などを配付します。

【参考図書】

- 1) 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 [共通科目] 6 地域福祉と包括的支援体制』中央法規出版、2022年
- 2) 野口定久著『人口減少時代の地域福祉』ミネルヴァ書房、2016年
- 3) 平野隆之著『地域福祉推進の理論と方法』有斐閣、2008年

スクーリング

▶仙台開講分 大石 剛史・オンデマンド開講分 都築 光一

■スクーリングで学んでほしいこと

地域福祉の主体は、あくまでの住民主体です。地域住民が主体となって福祉コミュニティづくりを進めていけるように支援するための基本的な考え方と、具体的な実践手法について事例を交えて解説します。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	地域福祉の概念と理念	住民自治・福祉コミュニティ
2	地域福祉とは	概念・定義
3	地域福祉の原理と実践	住民主体、地域性、人的社会的資源
4	地域福祉の歴史（欧米編）	デンマーク、イギリス、アメリカ
5	地域福祉の歴史（日本編）	日本における地域福祉のあゆみ
6	社会福祉協議会	社会福祉協議会の概要、歴史、現状、課題
7	福祉行政	国と市町村の福祉行政の仕組み、特別地方公共団体
8	福祉財政	福祉関係の一般会計、特別会計、寄付金その他
9	スクーリング試験	

※オンデマンド・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

■講義の進め方

教科書をわかりやすくパワーポイントにまとめた資料を中心に進めます。

■スクーリング 評価基準

とくに到達目標記載内容についての理解を問います（教科書および自筆のノート、配付資料のみ持込可）。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

教科書の第1章・第2章・第3章は読んでください。

▶盛岡開講分 柴田 邦昭

■スクーリングで学んでほしいこと

地域福祉の定義や概念を理解するとともに、地域福祉の歴史的な経過や地域福祉の基本について学びます。地域福祉の主体は、あくまでも住民主体です。地域住民が主体となって福祉コミュニティづくりを進めていけるように支援するための基本的な考え方と、具体的な実践手法について事例を交えて解説します。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	地域福祉の概念と理念	住民自治・福祉コミュニティ
2	地域福祉とは	概念・定義
3	地域福祉の原理と実践	住民主体、地域性、人的社会的資源
4	地域福祉の歴史（欧米編）	デンマーク、イギリス、アメリカ
5	地域福祉の歴史（日本編）	日本における地域福祉のあゆみ
6	社会福祉協議会	社会福祉協議会の概要、歴史、現状、課題
7	福祉行政	国と市町村の福祉行政の仕組み、特別地方公共団体
8	福祉財政	福祉関係の一般会計、特別会計、寄付金その他
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

教科書をわかりやすくパワーポイント資料にまとめ、それを配付し講義を進めます。

■スクーリング 評価基準

とくに到達目標記載内容についての理解を問います（教科書および自筆のノート、配布資料のみ持込可）。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

教科書の第1章・第2章・第3章は読んでください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	地域福祉を学ぶ（序章）	地域福祉を学ぶことの現代的意義について理解する	・今地域福祉を学ぶ意義の理解 ・地域福祉の具体的な展開の意味を理解する
2	地域福祉の理念（第1章）	地域福祉の理念としての住民自治と福祉コミュニティを理解する	・民主主義の基本としての住民自治 ・社会福祉のコミュニティ論としての福祉コミュニティ
3	地域福祉とは（第1章）	地域福祉の定義を理解する	地域福祉とは、地域住民等が、人的社会的資源を活用して、福祉コミュニティ構築を目指す、実践をいう。
4	地域福祉の原理と実践（第1章）	・住民主体・地域性・人的社会的資源の意味を理解する	以下の3点について理解する ・地域福祉における住民の主体性の原理 ・内発的發展と地域性の原理 ・人的社会的資源のシステム形成の原理
5	外国における地域福祉のあゆみ（第2章）	・デンマーク ・イギリス ・アメリカ	・実践理念としてのノーマライゼーション ・地域福祉の精度のあゆみ ・ソーシャルワーク理論の発展
6	日本における地域福祉のあゆみ1（第2章）	第二次世界大戦までの日本の地域福祉のあゆみを振り返る	・幕末まで……国家としての取り組みのない時代 ・明治～大正期…地域福祉の萌芽期 ・大正～終戦期…停滞期
7	日本における地域福祉のあゆみ2（第2章）	戦後の制度構築期からこんにちまでのあゆみを振り返る	・戦後～2000年…地域福祉模索期 ・2000年～……地域福祉形成期
8	地域社会と最近の動向（第2章）	日常生活課題と地域共生社会について理解する	・多様化する生活問題 ・地域共生社会の実現
9	社会福祉協議会1（第3章）	社会福祉協議会の存在意義とこれまでのあゆみを理解する	・設立の背景と機能 ・わが国における社会福祉協議会の歴史
10	社会福祉協議会2（第3章）	社会福祉協議会の法的規定と市区町村社会福祉協議会	・社会福祉協議会の法的根拠（社会福祉法） ・市区町村社会福祉協議会
11	社会福祉協議会3（第3章）	都道府県および全国社会福祉協議会と今日の課題	・都道府県社会福祉協議会 ・全国社会福祉協議会 ・社会福祉協議会の今日の課題
12	社会福祉行政1（第5章）	福祉行財政の原則と原則	社会福祉法と地方自治法の2つの法令から理解する。 ・福祉行政と財政 ・行政運営の原則

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
13	社会福祉行政 2 (第 5 章)	福祉行財政のあゆみと構造	・戦後における福祉行財政のあゆみ ・福祉行財政の構造
14	社会福祉行政 3 (第 5 章)	福祉行政機関と組織	・国・都道府県・市町村における福祉行政機関 ・多様な行政機関の組織
15	社会福祉行政 3 (第 5 章)	行政の展開過程と財政	・行政実務の類型 ・行政実務の意思決定過程 ・財政の仕組み

■レポート課題

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	今日の地域社会の状況を踏まえつつ、住民主体にて福祉コミュニティの構築を目指して実践する意義について、市町村社会福祉協議会の役割を軸に説明しなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

地域福祉の制度と、地域福祉に関する理論等に関し、テキストをよく読んで確認して解答してください。



教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。



内容的には、社会福祉法第 4 条と社会福祉法第109条を軸に、地域福祉の定義に照らしてまとめていくと良いでしょう。

科目修了試験

■評価基準

地域福祉の定義に照らし、地域住民、福祉コミュニティ、人的社会的資源の活用、実践の各項目のいずれかが欠落している場合は、説明していることにはならないので、注意しましょう。

地域福祉と包括的支援体制B

科目コード

CC3098

単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	R or SR(講義)	2年以上	都築 光一(上)／大石 剛史(下)



■履修登録条件

「地域福祉と包括支援体制A」をすでに履修登録済みか、同時に履修登録する方が履修登録できます。

※仙台会場は大石剛史先生、オンデマンド・スクーリングは都築光一先生が担当します。

科目の概要

■科目の内容

これまでの歴史的経緯を踏まえ、地域共生社会を含む福祉コミュニティの構築に向けた地域住民等や地方公共団体並びに関係機関の役割を理解し、人々の繋がりや地域社会の機能力が脆弱化してきていると指摘されている今日、地域福祉実践の理論と実際を理解し、具体的に実践するための手法を学びます。

具体的には、各地域における様々な実践事例や、エピソードなどを交えて、地域福祉の基本的な考え方と、その考え方が具体的な実践でどのように活かされているのか講義を通じて紹介します。

これらの事例等を通じて、地域福祉の実践によってどのような効果や成果が望まれているのか等に関し、地域住民が取り組む意義と、地域福祉実践が絶えず動的に展開される必要性について理解を深めます。

【教員等の実務経験による指導内容】(大石 剛史先生)

自治体、社会福祉協議会等への地域福祉の進め方に関するスーパーバイズ経験等を活かして、小地域福祉活動の進め方、地域共生社会に向けた包括的支援体制の構築方法、地域福祉計画の策定プロセス等、具体的な事例等を交えて解説する。

■到達目標

- 1) 地域福祉は、地域住民等が推進主体であることを説明できる。
- 2) 地域福祉は、福祉コミュニティ実現に向けた実践であることを説明できる。
- 3) 地域福祉実践のために、包括的な支援体制を含む人的社会的資源のシステム形成の必要性を説明できる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「他者への関心と理解」「社会への関心と理解」「他者配慮表現力」「自己コントロール力」「問題解決力」「社会貢献力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価50%＋スクーリング評価 or 科目修了試験50%

■教科書・参考図書

【教科書】(「地域福祉と包括支援体制A」と共通)

都築光一著『福祉ライブラリ 現代の地域福祉 (第2版)』建帛社、2022年

※「地域福祉と包括支援体制A」で配本のため、この科目での教科書配本はありません。

(最近の教科書変更時期) 2023年4月

(スクーリング時の教科書) 上記教科書は必ず持参してください。旧教科書を所持している場合でも受講に支障がないよう資料などを配付します。

【参考図書】

- 1) 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 [共通科目] 6 地域福祉と包括的支援体制』中央法規出版、2022年
- 2) 野口定久著『人口減少時代の地域福祉』ミネルヴァ書房、2016年
- 3) 平野隆之著『地域福祉推進の理論と方法』有斐閣、2008年

スクーリング

▶仙台開講分 大石 剛史・オンデマンド開講分 都築 光一

■スクーリングで学んでほしいこと

地域福祉の主体は、あくまでの住民主体です。地域住民が主体となって福祉コミュニティづくりを進めていけるように支援するための基本的な考え方と、具体的な実践手法について事例を交えて解説します。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	地域社会の概念と理論	地域社会の概念と理論、地域社会の変化について学ぶ
2	福祉計画の意義・目的と展開	福祉行財政と福祉計画や福祉計画の種類や歴史を学ぶ
3	福祉計画の策定過程と方法・評価	計画の課題把握や実施に向けた合意形成・評価について学ぶ
4	包括的支援体制と地域包括ケアシステム	各種制度による対応システムについて学ぶ
5	地域共生社会の実現に向けた多機関協働	多機関協働と多職種連携について学ぶ
6	非常時や災害時における法制度	災害と地域福祉について法制度等を通じて学ぶ
7	非常時や災害時における総合的な支援	災害時の福祉的支援について事例を通じて学ぶ
8	地域福祉と包括的支援体制の課題と展望	地域共生社会の構築・福祉ガバナンスについて学ぶ
9	スクーリング試験	

※オンデマンド・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

■講義の進め方

教科書を用いながら、配付資料をもとに板書もしながら進めます。

■スクーリング 評価基準

とくに到達目標記載内容についての理解を問います（教科書および自筆のノートのみ持込可）。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

教科書の第1章・第2章は読んできてください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	地域共生社会実現の必要性（第2章）	今日の地域社会の動向を踏まえ、地域共生社会への取組みの必要性を理解する	・地域共生社会の必要性 ・脆弱化した地域社会 ・都市における高齢化の進行
2	民生委員1	民生委員制度の概要と歴史について理解を深める	・民生委員制度の概要 ・民生委員制度の歴史 ・民生委員の職務内容
3	民生委員2	民生委員活動の現状と課題を理解する	・民生委員の位置づけと働き ・民生委員制度の課題
4	地域福祉関係団体	地域福祉活動に関係する様々な団体の種類や役割について理解する 各種団体のネットワーク形成のあり方や考え方を理解する	・地域関係団体（自治会・町内会等） ・当事者団体（老人クラブ・子ども会・各種障害者団体など） ・職能団体やサービス提供者団体 ・企業やJAなどその他
5	福祉教育1	福祉教育の理念・目的・概念の理解	・福祉教育の理念 ・福祉教育の概念と各種理論
6	福祉教育2	福祉教育の取組みの歴史と具体的な事例	・福祉教育のあゆみ ・福祉教育の取組み事例（地域と学校）
7	地域福祉計画1	地域福祉計画の概要と目的・法的根拠	・地域福祉計画の目的と概要 ・地域福祉計画の法的根拠
8	地域福祉計画2	地域福祉計画の策定プロセスと用いられる調査・統計	・地域福祉計画の策定プロセス ・計画策定に活用される調査や統計と活用上の留意点
9	地域福祉活動計画	行政と違った社会福祉協議会が策定する地域福祉活動計画の意義と地域福祉計画との関係	・地域福祉計画と地域福祉活動計画の関係 ・地域福祉活動計画策定の必要性 ・地域福祉活動計画の特長
10	包括的支援体制1	福祉専門職による地域における様々な活動について理解する	・包括的支援体制と重層的支援体制 ・相談支援の特長と具体的な事例

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
11	包括的支援体制 2	就労、学習など、様々な機会に参加することができるよう支援する参加支援	①多様な社会参加・就労の支援 ②住まいの確保のための支援 ③権利擁護のための支援 ④社会との接点の確保・包摂の支援
12	包括的支援体制 3	地域活動や地域づくりに関する支援のあり方を理解する	・「地域」そのものの働きとしての「場」の機能 ・「地域」づくりへの取組としての「地域づくりをコーディネートする機能」 ・住民自身が主体的に取り組むよう支援する
13	災害時福祉支援体制 1	災害時におけるフラジリティとヴァルネラビリティの理解	・災害は社会事象であることと様々な脆弱性の克服が求められていること ・様々な災害法制の理解
14	災害時福祉支援体制 2	レジリエンスとしての災害福祉の取組みの理解	・フォーマルな取組み ・インフォーマルな取組み ・災害福祉としての当事者を包摂した取組み
15	今後の地域福祉の方向性	現代社会の様々な問題と解決に向けた地域福祉の取組みの方向	現代社会の様々な問題について事例を紹介する様々な事例の解決に向けた地域福祉の取組み事例を通じて、今後の実践の方向性を探る

■レポート課題

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	住民主体で市町村地域福祉計画を策定する際に求められる相談支援・参加支援および地域支援の概要について述べなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

計画策定プロセスと重層的支援体制の概要を把握し、機関や人的資源の果たすべき役割と、計画の目標をしっかりと記載することが重要です。

1 単位め アドバイス

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

2 単位め アドバイス

内容的には、社会福祉法第4条と社会福祉法第109条を軸に、地域福祉の定義に照らしてまとめていくと良いでしょう。

科目修了試験

■評価基準

地域福祉の基本的な考え方に基づいて、どこまで地域福祉計画を説明できているかによって評価が分かります。

福祉サービスの組織と経営			科目コード	CC4099
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	R or SR(講義)	3年以上	高橋 誠一	



※会場によりスクーリングを別教員が担当します（札幌：石田力先生）。

科目の概要

■科目の内容

この科目では、福祉サービス提供組織の多様性を理解し、共通して必要となる福祉サービス提供組織の経営に津いて学んでいきます。福祉サービス提供組織の存在理由は、利用者へのサービス提供にあります。利用者を中心とした福祉サービスは、利用者のニーズを理解し、本人や家族、地域の住民と協力して提供していくことが多いので、画一的ではない柔軟なサービス提供が求められます。経営者や管理者は、小規模な事業所以外では、直接利用者にサービスを提供することは多くありませんが、生活支援や介護、相談援助を行う職員を通して利用者に貢献しています。ですから、経営者や管理者は職員が働きやすい環境を作り、人材を育成し、必要な資源や組織環境を整えることが重要な仕事になります。そのためには、利用者中心の理念を明確にし、組織的な事業経営に取り組む必要があります。

■到達目標

- 1) 福祉サービス経営者としての法人の役割を説明できる。
- 2) 職員をサポートしリードしていく管理者の役割を理解し、説明できる。
- 3) 福祉サービスの質を保証し、利用者の選択と意見を取り入れていく仕組みや第三者評価を説明できる。
- 4) 職員の待遇、人材の確保、人材の育成を理解し、説明できる。
- 5) 会計財務管理の基本を理解し、説明できる。
- 6) 経営学の基礎知識を理解し説明できる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「専門的知識」「クリティカルシンキング力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価50%＋スクーリング評価 or 科目修了試験50%

■教科書・参考図書

【教科書】

『新・社会福祉士シリーズ11 福祉サービスの組織と経営』弘文堂、2024年

(最近の教科書変更時期) 2024年 4 月

(スクーリング時の教科書) 上記教科書を参考程度に使用し、配付する資料を中心に講義を行います。

【参考図書】

教科書の「文献」欄参照

スクーリング

▶仙台・オンデマンド開講分 高橋 誠一

■スクーリングで学んでほしいこと

福祉サービスの特徴を理解した上で、福祉サービスを提供する法人形態を営利、非営利を含め、多面的に理解する。福祉サービス提供組織として利用者をどのように支援していくのか、そのための組織のあり方を学ぶ。利用者に直接関わる職員、職員を支援する管理機能の役割を人事システム、労務管理の視点も含めて理解する。会計の仕組みを理解する。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	福祉サービスにおける組織と経営	福祉サービスと制度
2	福祉サービスにかかわる組織や団体	法人一般、社会福祉法人、特定非営利活動法人、その他の組織や団体
3	福祉サービスの組織の基礎理論	戦略、事業計画
4	福祉サービスの経営の基礎理論	集団の力学、リーダーシップ、モチベーション
5	福祉サービスの管理運営の方法（サービス）	サービスマネジメント、サービスの質の評価
6	福祉サービスの管理運営の方法（人事等）	人事労務管理、人材育成
7	福祉サービスの管理運営の方法（会計）	会計管理と財務管理
8	質疑応答	補足とまとめ
9	スクーリング試験	

※オンデマンド・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めます。教科書は参考程度に使用します。

■スクーリング 評価基準

スクーリング試験100%（持込可）。試験では、とくに到達目標記載内容について理解を問います。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

教科書は読んできてください。講義内容の関心あるテーマについて、自分なりに学びたいことを考えてきてください。

▶札幌開講分 石田 カ

■スクーリングで学んでほしいこと

1. 社会福祉法人、特定非営利活動法人について、その成り立ちと法律・制度について理解する。非営利ホールディングカンパニーについて理解し、地域医療連携推進法人および社会福祉連携推進法人の必要性と役割について、地方における社会福祉施設の実情を例にあげながら理解する。
2. リーダーシップの時代的な変遷を理解し、管理職が組織に求められているリーダーシップについて学び、グループダイナミクスを理解し、組織と個人のモチベーションをいかに向上させるかについて学ぶ。また、社会福祉施設に埋もれている貴重な暗黙知を形式知へと顕在化させる SECI モデルについて理解する。
3. リスクマネジメントにおいて、単に規則やルールによる管理ではなく、組織の構造を科学的な社会実験を例にあげながら理解し、社会福祉施設において虐待や事故を未然に防止する方法と解決策を理解する。
4. 自然災害における被害を最小限に防ぎ、さらには、被災後における事業の継続について、BCP（事業継続計画）の必要性と役割を理解する。また、被災地での救援活動の実際について学ぶ。
5. 感染症対策について、予防だけではなく感染後の対応について、事例をもとに実践的に理解する。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	福祉サービスを提供する組織や団体の概要と役割①	福祉サービスを提供する組織 ・社会福祉法人 ・社会福祉連携推進法人
2	福祉サービスを提供する組織や団体の概要と役割②	・特定非営利活動法人 ・医療法人・地域医療連携推進法人 ・非営利ホールディングカンパニー
3	福祉サービスを提供する組織や団体の概要と役割③	福祉サービスの沿革と概況 ・社会福祉基礎構造改革 ・社会福祉法人改革制度
4	福祉サービスの組織と集団力学に関する理論	・集団力学に関する基礎理論 ・コンフリクト SECI モデル ゲーム理論 ・モチベーション／ERG
5	福祉サービスの組織とリーダーシップに関する理論	リーダーシップに関する基礎の理論 ・リーダーシップ、フォロワーシップ ・リーダーの機能とサービスマネジメント
6	福祉サービスの組織と人材マネジメントの理論	経営戦略と福祉経営の理論 ・福祉人材の評価と育成 ・子育て・介護休業・ハラスメント
7	福祉サービスの運営におけるコンプライアンスとリスクマネジメントの理論	・施設内虐待報道について ・虐待発生の組織的構造とガバナンス ・災害への対応、感染症対策、BCP
8	福祉サービス会計・財管理に関する基礎理論	・社会福祉法人における会計基準
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイントおよび配布資料を中心に講義をすすめます。教科書は参考程度に使用します。

■スクーリング 評価基準

スクーリング試験100%。スクーリング中に学んだ内容から出題します（配付資料の持ち込み可）。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

下記の内容について事前にテキストなどで学習しておいてください。

- ・リーダーシップの変遷と類型（PM理論、サーバントリーダーシップ、パスゴール理論）
- ・組織における集団力学（ハーズバーグの二要因理論、マクレランドの欲求理論、デシの内発的動機理論）
- ・経営戦略における分析（SWOT分析、3C分析、バランススコアカード）
- ・リスクマネジメントの理論（ハインリッヒの法則、リーゼンの軌道モデル、アッシュの同調圧力）

■参考図書

ジェームズ・リーゼン著 塩見弘監訳 高野研一 佐相邦英訳『組織事故』日科技連、1999年
株式会社日本総合研究所経営戦略研究会著『経営戦略の基本』日本実業出版社、2008年
安部徹也著『最強の「ビジネス理論」集中講義』日本実業出版社、2011年
藤田康範著『最強の「経済理論」集中講義』日本実業出版社、2012年
小野善生著『最強の「リーダーシップ理論」集中講義』日本実業出版社、2013年

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	福祉サービスの制度改革と経営	1) 社会福祉サービスの歴史 2) 社会福祉基礎構造改革 3) 社会福祉事業の「運営」から「経営」への転換 キーワード：社会福祉基礎構造改革、措置制度、契約制度、福祉三法、社会福祉法、福祉六法、社会福祉法人制度改革	社会福祉基礎構造改革のポイントを踏まえ、「措置から契約へ」の流れのなかで福祉サービスに「経営」の視点が求められるようになった背景を理解しよう。
2	法人の基本形態と社会福祉	1) 法人とは 2) 法人の基本形態 3) さまざまな法人設立の方式 4) 社会福祉事業の概要 キーワード：法人、営利法人、非営利法人、財団法人、社団法人、公益財団法人、公益社団法人、ガバナンス、コンプライアンス、認可主義、認証主義、準則主義、第一種社会福祉事業、第二種社会福祉事業	今日におけるわが国の社会福祉サービスの提供主体を担っているさまざまな法人の基本形態やその設立方式に着目し、法人とは何かについて学びを深めていこう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
3	福祉サービスを提供する組織や団体 社会福祉法人	戦後、わが国の社会福祉サービスの提供主体として大きな役割を果たしてきた社会福祉法人について理解する。 キーワード：社会福祉法人の基本理念、評議員、評議員会、理事、理事会、監事	社会福祉法において社会福祉法人の役割はどのように考えられているか学ぼう。
4	福祉サービスを提供する組織や団体 特定非営利活動法人	特定非営利活動法人について理解する。 キーワード：特定非営利活動法人（NPO 法人）、特定非営利活動法人（NPO 法人）の課税	1. 特定非営利活動法人が生まれた背景は何か。 2. 認証の仕組みはどのようなものか。
5	福祉サービスを提供する組織や団体 医療法人	医療法人の特徴を理解する。 キーワード：医療法人、医療法人の設立、医療法人改革	1. 医療法人の法人としての多様性を理解する。 2. 医療法人の根拠法を理解する。
6	福祉サービスを提供する組織の設置基準	1) 社会福祉施設（福祉サービス事業所）を開設すること 2) 社会福祉施設設置基準 3) 社会福祉施設の運営費用の内訳と負担割合 4) 社会福祉施設における監査 5) 持続可能な社会福祉施設の運営 キーワード：コンプライアンス、ステークホルダー、行政監査、内部監査、指導監査、特別監査	児童・高齢者・障害者施設等の社会福祉施設を設置する際のさまざまな基準や、社会福祉施設等の運営の仕組みやその財源について学び、適切な運営が客観的にどう担保されているかについても学ぼう。
7	福祉サービスの運営と経営に関する基礎理論	1) 福祉サービスの経営と組織とは 2) 社会福祉法人の経営体制の見直しと強化 3) 組織が機能していくための構造 キーワード：組織構成の3要素、基本理念、社会福祉法人の経営に関する検討報告書（2000年）、社会福祉法人制度改革、組織構造の5原則、組織形態	組織が成立するために必要な要素を考え、優れた組織を構築するための原理・原則について学ぶ。さらに、今後求められる福祉サービスの経営に関する視点を経営に関するいくつかの基礎理論から考えよう。
8	福祉サービスの組織に関する基礎理論	1) 組織に関する基礎理論 2) 集団力学に関する基礎理論 3) リーダーシップに関する基礎理論 キーワード：欲求階層説、XY 理論、動機づけ・衛生理論	サービス事業者は、定期的に福祉サービス内容を見直し、将来を見据えた目標を達成できるよう、組織に関するさまざまな理論や知識を習得し実践する必要があることを学ぼう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
9	福祉サービスの運営と経営管理に関する基礎理論	1) サービスマネジメントの考え方 2) 福祉サービスの質を支える評価と情報公開 3) 中長期計画の策定 キーワード：PDCA サイクル、SDCA サイクル、SECI モデル、第三者評価制度、護サービス情報公表制度、域密箔型サービス外部評価	サービス提供者中心による福祉サービスの提供から、利用者本位の支援へと考え方が転換され、事業者は、利用者のニーズに沿った組織の経営管理、サービスの提供をマネジメントしていくことが求められるようになったことを学ぼう。
10	福祉サービスの危機管理に関する基礎理論	1) 福祉サービスにおける危機管理（リスクマネジメント） 2) 苦情解決と情報管理 3) 危機管理としての業務継続計画（BCP） キーワード：リスク、リスクマネジメント、アドボカシー、アカウンタビリティ、ICT、運営適正化委員会、VISIT、CHASE、LIFE、BCP 業務継続計画、サプライチェーン（供給網）	リスクマネジメントについて現場からの視点で学びを深めていこう。
11	福祉サービスの人事管理に関する基礎理論	1) 福祉サービスにおける人事管理とは 2) 福祉人材の確保 3) 福祉人材の評価 4) 福祉人材の育成 5) 福祉人材の育成とキャリアパス キーワード：OJT、OFF-JT、SDS、スーパービジョン、キャリアパス、目標管理制度	組織における人事管理の基本について社会福祉専門職として学びを深めよう。
12	福祉サービスの労務管理に関する基礎理論	1) 労務管理の概要 2) 労働法と労務管理 3) 子育て・介護と労務管理 4) メンタルヘルスおよびハラスメント対策と労務管理 キーワード：科学的管理法、出来高払、高年齢者雇用安定法、若者雇用促進法、裁量労働制、ストレスチェック制度、フレックスタイム制	労務管理に関連する重要な法律、特に基本となる労働基準法と労働安全衛生法については十分に理解できるよう努めよう。
13	福祉サービスの会計・財務管理に関する基礎理論	1) 福祉サービスの会計の基本 2) 社会福祉事業における資金の確保 3) 社会福祉法人における会計基準 4) 福祉サービスにおける財務管理 キーワード：非営利組織、寄付、法定代理受領、資金収支計算書、貸借対照表	国が定める社会福祉法人等に対する会計基準について理解するとともに、行政による補助金や交付金、事業収入や寄付制度の仕組み、その他財源についての理解を深めよう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
14	福祉サービスにおける人材育成の実際	1) キャリアを重ねる 2) 福祉現場で活用されている多様な人材育成の方法 3) PDCA を活用した人材育成 4) スーパービジョンを用いた人材育成の実際 キーワード：キャリアパス、プリセプター制度	福祉サービスを提供する現場においてどのような人材育成が行われているのかを学ぼう。
15	福祉サービスの現状と課題	1) 社会福祉関連分野の法人数の推移 2) 労働課題に関する状況 3) 虐待関係の状況と対策 4) 福祉サービスのマンパワーに関する課題 キーワード：社会福祉関連分野の法人（社会福祉法人、医療法人、特定非営利活動法）の法人数の推移と法人の内訳と活動分野、失業率と完全失業率、労働者数、高齢者虐待と障害者虐待、外国人人材の受け入れ状況	統計データを用いて、福祉サービスの現状と課題を整理しよう。

■レポート課題

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	利用者中心の福祉サービス提供を実現するために必要と考えられる組織的取り組みを述べよ。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

1 単位め アドバイス

2 単位め アドバイス

利用者中心の福祉サービスとは何かを考えてください。利用者中心は利用者本位、利用者主体と呼ばれることもあります。利用者中心の福祉サービスを考えるために、そうではない場合、すなわち提供者中心の福祉サービスを考え、対比すると、はっきりすると思います。一般のサービスでは、消費者主権という言葉が使われますが、これは利用者中心と同じでしょうか。ここでは、直接サービスを提供する職員の立場だけでなく、福祉サービス提供組織の経営者の立場からも考えてください。どのような理念や事業経営が必要になるでしょうか。

科目修了試験

■評価基準

内容を理解した上で書かれているかを重視しますが、キーワードが書かれており、適切に使用されているか、を評価します。

社会保障論Ⅰ			科目コード	CD4088
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	R or SR(講義)	3年以上	阿部 裕二	



科目の概要

■科目の内容

日本の社会保障制度は、進展している少子高齢化のなかで構造的な転換期を迎えており、「社会保障革命」というべき各種の見直しが行われてきました。近年においても年金制度や医療（保険）制度などが改革の道を歩んでいます。まさに新しい生活保障システムが求められている時代ともいえます。とはいえ、「構造的な転換期」だからこそ原点に立ち返り、「社会保障とは何か」の古典的な議論も必要であると思われます。

そこで、社会保障論Ⅰでは、少子高齢化や労働環境等の変化を踏まえつつ、社会保障の枠組み（概念と対象）と民間保険との関係性の理解に努めます。また、社会保障を支える理念と財政の内容とそれぞれが抱える課題についても考察します。そして、社会保障の歴史をみる中で、現代社会における社会保障制度の役割と取り組む課題について把握します。

【教員等の実務経験による指導内容】

市民向けの講座において、年金保険や医療保険の改正内容を解説してきた。また、介護保険制度創設時には、市民のみならず行政職員に対しても解説もしてきた。現在は、ある都市においては介護保険運営協議会に20年にわたり関わってきた。このような経験を活かし、介護保険の現状と諸問題について講義をする。

■到達目標

- 1) 生活の変容を説明できる。
- 2) 社会保障制度の枠組みと現代社会において取り組むべき課題を説明できる。
- 3) 社会保障制度の理念や財政の内容と問題点を説明できる。
- 4) 民間保険の重要性と公的保険制度の関係性を説明できる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「専門的知識」「社会への関心と理解」「クリティカルシンキング力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価50%＋スクーリング評価 or 科目修了試験50%

■教科書・参考図書

【教科書】(「社会保障論Ⅱ」と共通)

福祉臨床シリーズ編集委員会編『新・社会福祉士シリーズ12 社会保障』弘文堂、2023年
(スクーリング時の教科書) 上記教科書を参考程度に使用し、配付する資料を中心にして講義を行います。

【参考図書】

- 1) 阿部裕二監修『すぐに役立つ! ケアマネ、生活相談員、生活支援員のための社会保障制度がわかる本』ナツメ社、2021年
- 2) 椋野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障(最新版)』有斐閣アルマ

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

本講義のテーマは「社会保障の考え方と仕組みを理解し、自分なりの『社会保障観』を構築しよう」です。日本の社会保障は、少子・高齢化をはじめとするさまざまな環境の変化のなかで、構造的転換期を迎えています。その際、「私たちの生き方(価値観の転換)」も同時に問われています。そこで、講義ではこのような問題意識の下、社会保障の考え方や成立過程を考察しつつ、日本の社会保障の枠組みと役割等について考えてみたいと思います。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	私たちの生活の変容	少子高齢化、人口減少などの人口動態、家族形態、経済、労働環境等について学びます。
2	社会保障の枠組みと範囲	定義と範囲および役割について、歴的背景を含めて学びます。
3	社会保障を支える理念	ナショナル・ミニマム、オプティマム、普遍主義と選別主義、ノーマライゼーションなどについて
4	社会保障制度の展開過程	イギリスを中心とした欧米の歴史、日本の歴史について、それぞれ学びます。
5	社会保険と社会扶助	社会保障の中核にある社会保険と社会扶助の内容と関係性および機能について学びます。
6	社会保障と財政	国と地方、社会保障給付費と社会支出の関係、国民負担率、経済と社会保障の相互作用等について
7	公的保険制度と民間保険制度	自助の一つの形態としての民間保険の仕組みと社会保険との関係などについて学びます。
8	現代社会における社会保障制度の役割と取り組むべき課題	社会保障・税一体改革、一億総活躍社会などについて整理しつつ、自らの社会保障観について考えます(まとめ)。
9	スクーリング試験	

※オンデマンド・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

■講義の進め方

スクーリング時には、作成した『理解しやすい社会保障論Ⅰ講義資料集』を配付して、この資料集を中心にして講義を行います。教科書は参考程度に使用します。

■スクーリング 評価基準

スクーリング試験のみ（100％）（持込不可）で評価します（稀ですが受講態度を加味する場合もあります）。試験では2題を選択して解答（記述式）していただきます。なお、試験では単なる知識の確認ではなく、スクーリングで学んだ内容を踏まえた上で、試験テーマに沿って皆さん自身の見解をどれだけ論述できるかについて問います。詳しくはスクーリング時に示します。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

「スクーリング講義内容」（8項目）の項目に該当する部分を教科書に沿ってある程度読んで出席してください。つまり、少ない講義回数のなかで、少しでも内容の理解を深めるためには、予習・事前学習が欠かせません。もちろん、すべて完璧に覚えてきてくださいというわけではありません。受講した際に、「なんかその言葉は聞いたこと、見たことがあるぞ。なるほど、あそこを書いてあったことは、そういうことだったのか」という程度で結構です。

私としては、ある程度、予習・事前学習をされてきたことを前提として講義を進めたいと考えています。万一、事前学習なし（準備不足）の場合は、苦痛でしかも怒濤のように時間だけが過ぎ去ってしまうかもしれません。皆さんにとって、有意義な時間が共有できるように努めますし、同時に祈念しております。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	社会の変容 (第1章)	社会保障を学ぶ前に、社会保障を取り巻く私たちの生活環境の変化を理解する。 キーワード：少子高齢化、家族形態、就業構造、経済、ワークライフバランスなど	少子高齢化、人口減少、家族形態の変化、就業構造（形態）の多様化など、私の生活環境は変化し続けています。これらの生活環境の変化を理解し、これから学ぶ社会保障の前提を把握しましょう。
2	社会保障の概念と範囲及び対象者 (第2章)	社会保障はどのようにとらえるのか。社会保障の概念と範囲、対象者を確認する。 キーワード：歴史的形成体、アメリカ社会保障法、ベヴァリッジ報告など	歴史的形成体である社会保障をどのように理解するのか、また範囲には何が含まれるのか、そしてそれは各国で異なるのかなどを学びます。
3	社会保障の役割と意義 (第2章)	現代社会における社会保障の役割と意義について理解する。 キーワード：生活安定・向上機能、所得再分配機能、経済安定機能など	現在の社会保障には、国民の生涯にわたって健やかで安心できる生活を保障する役割があるが、そのために社会保障はどのように機能するのかについて学びます。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
4	社会保障の理念 (第2章)	社会保障を支える理念にはどのようなものがあるのかについて考えてみましょう。 キーワード：ミニマムとオブティマム、普遍主義と選別主義、ノーマライゼーションなど	社会保障の理念を単に整理するのではなく、それらの理念に問題点はないかという視点でまとめることが重要です。
5	社会保障制度の展開（欧米） (第2章)	イギリスを中心とした欧米の社会保障の歴史を理解する。 キーワード：救貧法、社会調査、失業法など	貧困観の変遷及び社会保険と公的扶助の統合の視点から、イギリスを中心とした欧米の社会保障の歴史（特徴）について学びましょう。
6	社会保障制度の展開（日本） (第2章)	日本の社会保障の歴史を理解する。 キーワード：恤救規則、GHQ、国民皆保険・皆年金など	イギリスを中心とした欧米の歴史と同様の視点から、日本の社会保障の展開過程について学びます。
7	社会保障の財源 (第3章)	社会保障における給付と負担の関係について理解する。 キーワード：一般会計、地方経費、保険料、租税など	社会保障における財源を国と地方の側面から学びます。また、財源構成の内容特徴についても理解深めます。
8	社会保障給付費の動向と特徴 (第3章)	社会支出と社会保障給付費の相違を把握しつつ、現状を把握する。 キーワード：社会支出、社会保障給付費など	OECD 基準の社会支出と ILO 基準の社会保障給付費から日本の特徴と今後の見通しを学びます。
9	国民負担率と社会保障と経済の関係性 (第3章)	国民負担率の定義と日本の現状および国際比較について理解する。 キーワード：国民負担率、潜在的国民負担率など	国民負担率や潜在的国民負担率の意味を理解するとともに、日本の現状と国際的な位置づけを学びます。
10	社会保険と社会扶助の成立要件 (第4章)	保険や社会保険の成立要件や社会保険の理論と実際について理解します。 キーワード：大数の法則、給付反対給与均等の原則、強制加入など	社会保険といえども保険の一つであるため、まず、保険の成立要件を把握したうえで、社会保険の成立要件を学びます。そして、仕組み上の社会保険の理論と実際について学びます。
11	社会保険と社会扶助の特徴と関係性 (第4章)	社会保険の特徴と社会扶助の仕組みとその関係性について理解します。 キーワード：社会保険方式、社会扶助方式など	社会保険と社会扶助を比較しながらそれぞれの特徴を明確にし、両者の関係性についてまとめます。
12	社会保険と社会扶助の範囲 (第5章)	社会保障の中核にある社会保険と社会扶助の範囲について理解する。 キーワード：制度別体系、選別的給付と普遍的給付、機能別・給付形態別	制度別体系、僭越的給付と普遍的給付体系、機能別・給付形態別体系の側面から社会保険と社会扶助の範囲について学びます。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
13	民間保険の仕組みと社会保険との関係 (第5章)	民間保険の仕組みと公的（社会）保険との関係性について理解する。 キーワード：保険の原則、第一分野、第二分野、第三分野など	民間保険の仕組みや成立するための原則、そして民間保険を分類するとともに、社会保険とどのような関係性にあるのかについて学びます。
14	企業年金等の役割と機能 (第5章)	企業年金の枠組みと概要について理解する。 キーワード：確定給付企業年金、確定拠出年金（企業型・個人型）	企業年金の役割を理解したうえで、企業年金の種類を学びます。また、近年拡大傾向にある確定拠出年金（個人型：iDeCo）の内容と現状についても学びます。
15	社会保障とは何か (全体)	社会保障の理解について整理します。 キーワード：社会保障・税一体改革、一億総活躍社会など	第1章から第5章までの内容から、社会保障をどのように理解したのかを整理します。

■レポート課題

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	私たちの生活環境の変化を踏まえながら、社会保障をどのように理解したらよいか。そして、現代社会において社会保障（制度）が果たしている役割について述べなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

1 単位め アドバイス

2 単位め アドバイス

私たちは、あまり意識せず「社会保障」という言葉を使っていますが、改めて社会保障とは何かを考えてみましょう。今日の私たちの生活（社会保障を取り巻く環境）は、少子・高齢化、逼迫する財政問題などを背景にして荒波の中にありますが、まずこのような環境の変化の中で、社会保障がどのように定義づけられるのかを整理してみてください。その上で、社会保障（個別制度ではなく、総体として）が現代社会の中でどのような役割（機能）を果たしているか、をまとめてください。

科目修了試験

■評価基準

- 1) 題意を正確に把握し、指示に従って述べられているか。
- 2) 単に暗記したものを記述するのではなく、自分なりの視点からまとめられているか。
- 3) 抽象的な表現にとどまらず、現実との関連づけの視点からもまとめられているか。
- 4) 結論は感想にとどまらず、根拠をもって述べられているか。

社会保障論Ⅱ			科目コード	CD4089
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	R or SR (講義)	3年以上	阿部 裕二	



■履修登録条件

「社会保障論Ⅰ」をすでに履修登録済みか、同時に履修登録する方のみが履修登録できます。

科目の概要

■科目の内容

時代とともにそして私たちの社会の変容とともに、社会保障制度は改正され続けてきました。介護保険のように新たに創設された制度もあります。本科目においては、これら社会保障制度の体系を踏まえた上で、それぞれの制度（社会保険、公的扶助、社会福祉、公衆衛生及び医療）の概要と問題点について考察します。その際、各制度を縦割りではなく横断的視点から考察していくことが重要です。それは、私たちの生活において制度が担当で存在するわけではなく、各制度が関連性をもちながら関わるからに他なりません。

さらに、日本との比較の観点から、諸外国の社会保障制度の概要についても触れつつ、日本の社会保障制度の国際的な位置づけについても学びます。

【教員等の実務経験による指導内容】

市民向けの講座において、年金保険や医療保険の改正内容を解説してきた。また、介護保険制度創設時には、市民のみならず行政職員に対しても解説もしてきた。現在は、ある都市においては介護保険運営協議会に20年にわたり関わってきた。このような経験を活かし、介護保険の現状と諸問題について講義をする。

■到達目標

- 1) 社会保障制度の概要を理解し説明できる。
- 2) 諸外国の社会保障制度を理解したうえで、日本の位置づけを説明できる。
- 3) 少子高齢社会におけるあるべき生活保障システムを自らの言葉で説明することができる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「専門的知識」「社会への関心と理解」「クリティカルシンキング力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価50%＋スクーリング評価 or 科目修了試験50%

■教科書・参考図書

【教科書】(「社会保障論Ⅰ」と共通)

福祉臨床シリーズ編集委員会編『新・社会福祉士シリーズ12 社会保障』弘文堂、2023年

※「社会保障論Ⅰ」で配本のため、この科目での教科書配本はありません。

(スクーリング時の教科書) 上記教科書を参考程度に使用し、配付する資料を中心にして講義を行います。

【参考図書】

- 1) 阿部裕二監修『すぐに役立つ！ ケアマネ、生活相談員、生活支援員のための社会保障制度がわかる本』ナツメ社、2021年
- 2) 棕野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障（最新版）』有斐閣アルマ
- 3) 厚生統計協会編『保険と年金の動向（最新版）』厚生統計協会
- 4) 『社会保険のてびき（最新版）』社会保険研究所

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

本講義のテーマは、「社会保障制度の仕組みと課題を理解し、あるべき社会保障のシステムを考えてみよう」です。スクーリングの際に提示される内容の理解にとどまらず、それらを素材としながら、受精の皆さんがあるべき社会保障のシステムを考えていくことが重要なのです。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	社会保障制度の体系と年金保険の概要	社会保障制度の体系を改めて確認するとともに、年金保険の仕組みを学びます。
2	年金保険制度の諸問題	年金保険（国民年金、厚生年金）の概要と諸問題について学びます。
3	医療保険制度の概要	医療保険制度の仕組みと健康保険や国民健康保険などの制度概要について学びます。
4	医療保険制度の諸問題	高齢者医療や公費負担医療、医療供給体制を考察しつつ、医療保険の諸課題について学びます。
5	雇用保険制度と労働者災害補償保険制度の概要と諸問題	雇用保険や労働者災害補償保険などの労働保険の仕組みと諸課題について最近の状況を交えながら学びます。
6	介護保険制度の概要と諸問題	介護保障という観点から介護保険の限界と、その他の受け皿の在り方および諸課題について学びます。
7	社会手当と公的扶助の概要と諸問題	社会手当としての児童手当などの仕組みと諸課題について学びます。
8	社会保障制度の課題と将来（まとめ）	2025年問題、2040年問題など、社会保障が直面する社会状況を踏まえながら、あるべき社会保障システムを考えます。
9	スクーリング試験	

※オンデマンド・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

■講義の進め方

スクーリング時には、作成した『理解しやすい社会保障論Ⅱ講義資料集』を配付して、この資料集を中心にして講義を行います。教科書は参考程度に使用します。

■スクーリング 評価基準

スクーリング試験のみ（100％）（持込不可）で評価します（稀ですが受講態度を加味する場合もあります）。試験では2題を選択して解答（記述式）していただきます。なお、試験では単なる知識の確認ではなく、スクーリングで学んだ内容を踏まえた上で、試験テーマに沿って皆さん自身の見解をどれだけ論述できるかについて問います。詳しくはスクーリング時に示します。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

「スクーリング講義内容」（8項目）の項目に該当する部分を教科書に沿ってある程度読んで出席してください。つまり、少ない講義回数のなかで、少しでも内容の理解を深めるためには、予習・事前学習が欠かせません。もちろん、すべて完璧に覚えてきてくださいというわけではありません。受講した際に、「なんかその言葉は聞いたこと、見たことがあるぞ。なるほど、あそこを書いてあったことは、そういうことだったのか」という程度で結構です。

私としては、ある程度、予習・事前学習をされてきたことを前提として講義を進めたいと考えています。万一、事前学習なし（準備不足）の場合は、苦痛でしかも怒濤のように時間だけが過ぎ去ってしまうかもしれません。皆さんにとって、有意義な時間が共有できるように努めますし、同時に祈念しております。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	公的年金の構造（第6章）	二階建てとしての年金保険の構造について理解する。 キーワード：賦課方式と積立方式、二階建て構造など	公的年金の財政方式とともに、国民年金と厚生年金の二階建て構造であることを学ぶ。
2	公的年金保険（国民年金）の仕組み（第6章）	年金保険制度特に国民年金の仕組みを理解する。 キーワード：第3号被保険者、基礎年金、国民年金基金など	国民年金の給付内容を含めた仕組みについて理解を深めましょう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
3	公的年金保険（厚生年金保険）の仕組みと諸問題（第6章）	厚生年金保険の仕組みと、公的年金が抱える問題点について理解する。 キーワード：標準報酬、保険料率、老齢厚生年金、障害厚生年金、遺族厚生年金、厚生年金基金、空洞化など	厚生年金保険の仕組み、つまり保険者、被保険者、保険料、給付内容等について学びます。その際、国民年金と比較しながら整理をすると理解が深まります。また、同時に、公的年金が抱える問題点についても人口の変動、空洞化、国際化の観点から考察してみてください。
4	医療保険制度の仕組みと制度体系（第7章）	わが国の医療保険制度の仕組みを理解しつつ、医療保険制度の体系について整理する。 キーワード：診療報酬、審査支払機関、出来高払い、薬価基準など	私たちの生命や身体そして健康を保持するための医療とそれを支える社会保障はどのような構造か、さらにわが国の国民医療を支える医療保険はどのような仕組みで作られているのか等について学びます。その際、世界の中で日本はどのような特徴をもっているのかという観点からも考察してみてください。
5	被用者保険の仕組み（第7章）	被用者保険の一つとしての健康保険などの仕組みについて理解する。 キーワード：健康保険、現物給付、現金給付、立替払いなど	被用者保険（健康保険等）の内容の理解に努めます。その際、健康保険制度の給付は、現物給付だけではなく、多様な給付形態が含まれていることに注意が必要です。
6	国民健康保険、高齢者医療の仕組み（第7章）	国民健康保険と高齢者医療制度の仕組みについて理解する。 キーワード：前期高齢者、後期高齢者、特定健康診査及び特定保健指導など	地域保健である国民健康保険の仕組みを学びます。また、高齢者の医療制度を前期高齢者医療と後期高齢者医療制度の側面からまとめます。その際、各々の制度の類似点と相違点を意識しながら整理することが肝要です。
7	公費負担医療と医療の供給体制および諸問題（第7章）	特定目的のため、国や地方自治体の公費により、医療費の一部または全部負担する制度を理解するとともに、医療の供給体制について理解する。 キーワード：公費負担医療、公衆衛生、医療提供施設、医療計画、医療従事者、メディカル、コメディカル、インフォームド・コンセントなど	医療保険以外の保健事業を概観します。また、国民に対して、良質かつ適切な医療を提供するための医療施設と、医療を担う医療関係者について学ぶとともに、医療保険が抱える諸問題について理解することが重要です。
8	労働保険制度（雇用保険）の仕組みと諸問題（第8章）	労働保険の一つである雇用保険の仕組みと諸問題を理解する。 キーワード：ハローワーク、失業等給付、育児休業給付、二事業など	雇用保険の仕組みと諸問題を学びますが、雇用保険の対象者が失業者のみならず現職者をも対象としていることから、自らの生活に身近な制度あるという意識で学んでください。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
9	労働保険制度（労災保険）の仕組みと諸問題（第8章）	労働保険の一つである労働者災害補償保険の仕組みと諸問題について理解する。 キーワード：労働基準監督署、メリット制、社会福祉促進等事業など	労働者災害補償保険の仕組みと諸課題について学びます。その際、労働者災害補償保険は、正規、非正規を問わず雇用される労働者すべてが対象となる制度あるという理解が重要です。
10	介護保険制度の仕組みと諸問題（第9章）	介護保険の成立背景と理念およびその内容、諸問題について理解する。 キーワード：高齢者介護、スティグマ、社会的入院、介護の社会化、自立支援、利用者本位、地域包括ケアなど	介護保険がいかなる背景において登場したのか、そして現在ある介護保険はどのような理念のもとに展開されているのかを学びます。その際、その理念に潜む問題点についても制度の仕組みとともに考察してください。
11	社会扶助（社会手当：児童手当）の仕組みと諸問題（第10章）	社会手当の特徴と、社会手当の一つである児童手当の仕組みと諸問題について理解する。 キーワード：社会手当、児童手当、子ども手当、所得制限など	ここでは、初めに社会扶助の一形態である社会手当の意味を理解することに努めます。その上で、社会手当としての児童手当の仕組みと日本の特徴および諸問題について理解を深めてください。
12	社会扶助（公的扶助と社会福祉）の仕組みと諸問題（第10章）	公的扶助および社会福祉の仕組みと特徴と諸問題を理解する。 キーワード：生活保護、ミーンズ・テスト、措置と契約など	その際、社会保険と比較しつつ理解するとよいでしょう。また、社会福祉の制度が「措置」から「契約」へと基本的なサービス提供の方法において、大きく変化を遂げていることに留意しながら理解することが肝要です。
13	諸外国の社会保障制度（第11章）	諸外国の社会保障を概観しながら、日本社会保障および福祉国家の特徴を把握する。 キーワード：エスピン・アンデルセン、自由主義的福祉レジーム、保守主義的福祉レジーム、社会民主主義的福祉レジームなど	諸外国における社会保障制度をみる際に、類型化させながらみると特徴の把握がしやすくなります。したがって、エスピン・アンデルセンの類型に従って、各国の社会保障の特徴の把握に努めましょう。そして、わが国と比較してみるとよいでしょう。
14	社会保障制度の将来（終章）	直面する課題から社会保障制度への影響について理解する。 キーワード：2025年問題、2040年問題など	2025年問題や2040年問題などが社会保障に及ぼす影響について考えてください。
15	まとめ	あるべき社会保障システムについて考える。	この学びを通じて、受講生の皆さんなりのあるべき社会保障のシステムを考えてみてください。

■レポート課題

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	「年金保険」「医療保険」「雇用保険」「労働者災害補償保険」「介護保険」「社会手当としての児童手当」のなかから一つ選び、仕組みとその制度が抱えている諸問題について述べなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

1 単位め アドバイス

2 単位め アドバイス

「年金保険」「医療保険」「雇用保険」「労働者災害補償保険」「介護保険」「社会手当としての児童手当」の制度から一つを選び、特徴を踏まえながら仕組みをまとめるとともに、制度がもつ諸問題について皆さんなりにまとめてください。その際に、単にテキストをまとめるだけではなく、自分なりに調べて課題を追加的に論述することが重要です。

科目修了試験

■評価基準

- 1) 題意を正確に把握し、指示に従って述べられているか。
- 2) 単に暗記したものを記述するのではなく、自分なりの視点からまとめられているか。
- 3) 抽象的な表現にとどまらず、現実との関連づけの視点からもまとめられているか。
- 4) 結論は感想にとどまらず、根拠をもって述べられているか。

高齢者福祉			科目コード	CD2170
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	R or SR(講義)	1年以上	石附 敬	



※会場によりスクーリングを別教員が担当します（盛岡：中里仁先生、東京：椎名清和先生）。

科目の概要

■科目の内容

本科目は、高齢期の特徴、超高齢社会の諸課題について理解した上で、高齢者とその家族に対する諸制度と支援の方法について体系的に理解することを目的とします。全体的な学習の流れとしては、高齢者福祉の理念および目的について学習し、あわせて現行の高齢者福祉施策の体系の全般的理解を図り、それらを基礎知識として活用しながら、高齢者とその家族に対する支援方法についても学んでいきます。

スクーリングでは、高齢者（老い）の定義と特性、少子高齢社会と高齢者を取り巻く諸問題、高齢者保健福祉の発展過程、介護保険制度の概要とサービス体系、高齢者と家族に対する支援体制と方法について重要なポイントを中心に講義します。スクーリングの前と後に教科書を読むことでさらに学びを深めて行きます。レポート学習ではスクーリングや教科書で得た知識の活用と定着を目指します。

■到達目標

- 1) 高齢者（老い）の定義と特性について理解し説明できる。
- 2) 少子高齢社会の現状と高齢者を取り巻く諸問題について理解し説明できる。
- 3) 高齢者に対する諸制度について理解し説明できる。
- 4) 介護保険制度とサービスの体系について理解し説明できる。
- 5) 高齢者を支援する組織と専門職の役割を理解し説明できる。
- 6) 高齢者支援の方法について理解し説明できる。
- 7) 高齢者福祉に関わる諸問題に関心を持ち、今後の課題について考えることができる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「専門的知識」「他者への関心と理解」「社会への関心と理解」「クリティカルシンキング力」「問題解決力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価40%＋スクーリング評価 or 科目修了試験60%

■教科書・参考図書

【教科書】

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座〔専門科目〕2 高齢者福祉』中央法規出版、2021年

（スクーリング時の教科書）上記教科書を参考程度に使用します。

【参考図書】

- 1) 内閣府編『高齢社会白書』※毎年発行 内閣府 <https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/index-w.html>
- 2) 萩野浩基・長岡福祉会編『小山剛の拓いた社会福祉』中央法規出版、2016年

スクーリング

▶仙台・オンデマンド開講分 石附 敬

■スクーリングで学んでほしいこと

「老いとは」「高齢者とは」何か、日本の高齢化の現状と高齢者を取り巻く諸問題、これまで高齢者福祉がどのように発展してきたのかについて学びます。その上で、高齢者の特に介護問題に焦点をあてて、対応する制度と高齢者とその家族への支援方法について学びます。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	高齢者（老い）の定義と特性①	身体的、精神的、社会的な老い
2	高齢者（老い）の定義と特性②	総合的な視点、事例
3	少子高齢社会と高齢者を取り巻く諸問題	少子高齢社会、健康・介護・経済・生活意識等
4	高齢者福祉の発展	戦後から介護保険制度の成立まで
5	介護保険制度の概要	制度の特徴、保険の仕組み、要介護認定、ケアマネジメント
6	介護保険サービスの体系	在宅サービス、施設サービス、事例
7	高齢者と家族に対する支援体制と方法	関係機関、専門職の役割、支援方法と留意点
8	スクーリングのまとめ、質疑応答	
9	スクーリング試験	

※オンデマンド・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めます。教科書は参考程度に使用します。

■スクーリング 評価基準

スクーリング試験のみ（持込全て可）。スクーリング講義で説明した内容について理解を問います。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

教科書の講義テーマに関係する箇所を事前に読んで、自分なりに学びたいことを考えてきてください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

受講後は、体系的に知識を整理することと、それぞれの関心のあるテーマについて、書籍、論文、新聞記事など読み学びを深めてください。

▶東京開講分 椎名 清和

■スクーリングで学んでほしいこと

高齢者福祉の基本理念や制度の全体像を学んでいきます。その際、現在の制度等を覚えるだけでなく、超高齢（化）社会のわが国において、長寿を素直に喜べるようになるために必要な仕組みについても考察していきましょう。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	高齢者と少子高齢社会	高齢化社会と高齢社会、老いること
2	高齢者の生活実態	収入と就労、医療と介護、住まい [視聴覚資料の利用]
3	高齢者福祉の歴史と理念	敬老とエイジズム、アクティブエイジング等
4	高齢者福祉の法体系と関係機関の役割	老人福祉法と老人福祉施設、関係機関と各専門職
5	介護保険制度（1）	法の目的や理念、制度の概要、財政と介護報酬等
6	介護保険制度（2）	居宅サービス、施設サービス、地域密着型サービス
7	関連諸制度（1）	〈高齢者医療確保法〉、〈高齢者虐待防止法〉 ほか
8	関連諸制度（2）	〈バリアフリー法〉、〈高齢者住まい法〉 ほか
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

教科書は参考程度の使用とし、パワーポイントを中心に進めていきます。また、視聴覚資料や配付資料を補助的に使用します。

■スクーリング 評価基準

スクーリング試験100%：自ら作成したノートのみ持込可。試験は多肢選択式（法制度等の理解）および記述式（理念等に関する考察）にて行います。なお、多肢選択式の問題は教科書第4章（介護保険制度）と第5章（高齢者に対する関連諸制度）からの出題が多くなります。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

『高齢社会白書（各年版）』には、高齢化の状況や政府が講じた高齢社会対策の実施の状況が取りまとめ

られています。内閣府のホームページで閲覧できるので、事前に最新版の内容を確認しておいてください。

また、教科書第1章から第6章を通読し、不明点を明確にできるように留意してノートをまとめてください。ただし、ノートは余白を多めにし、スクーリング中の学習内容等を追記できるようにしておきましょう。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

教科書に記載されている法律について、各出版社の社会福祉小六法（福祉小六法）といった書籍やデジタル庁のe-Gov 法令検索を利用して、条文そのものを読みながら復習してください。

また、居住地等でどのように高齢者福祉が展開されているのかをホームページで閲覧したり、イベントに参加したりして、具体的に確認してみましょう。

■参考文献

- 1) デジタル庁『e-Gov 法令検索』<https://elaws.e-gov.go.jp>
- 2) 内閣府『高齢社会白書』<https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/index-w.html>
- 3) 筧裕介・認知症未来共創ハブほか『認知症世界の歩き方』ライツ社、2021年
- 4) 六角僚子『アセスメントからはじまる高齢者ケア—生活支援のための6領域ガイド』医学書院、2008年
- 5) 渡部律子『高齢者援助における相談面接の理論と実際 第2版』医歯薬出版、2011年

▶盛岡開講分 中里 仁

■スクーリングで学んでほしいこと

制度や政策の内容を、テキストをとおし学ぶことも大切ですが、なによりも対象者となる高齢者（人間）の福祉、すなわち高齢者の「人権・尊厳・自立とはどのようにあるべきなのか」について、受講者の皆様ひとりひとりが感じ考えていただきながら、高齢者福祉の捉え方、その際に必要な視点について、学んでいただきたいと考えております。

なぜなら、高齢者の方々の人権・尊厳・自立のあるべき姿についての学ぶことは、結果、私たちの親を含めた自身の将来、そして、子どもたちの将来にも通ずる大切な学びであると考えからです。

具体的な講義の内容については、高齢者の方々が抱える生活上の諸問題について、視聴覚教材を中心に、その現状理解を図っていただくとともに、実践事例の紹介を交えながら、高齢者福祉の現状と課題、改善策、今後のあるべき姿について、受講生の皆さんと共に感じ考えることのできる、スクーリングにしたいと考えております。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	高齢者福祉とは何か（その捉え方）	福祉を1本の木の成長に例え
2	高齢者の尊厳について	貧困・年金問題・孤独死等
3	高齢者福祉施設の課題について	介護人材不足、集団ケア等

回数	テーマ	内容
4	高齢者福祉施設の今後について	ユニットケア、ユニットケアの課題、地域分散サテライトケア等
5	高齢者福祉の今後について①	地域共同ケア、地域支え合いの視点等
6	高齢者福祉の今後について②	集合住宅の支え合い等、集落における地域支え合い
7	高齢者福祉の今後について③	認知症の「人」の居場所づくり、地域公益事業等
8	まとめ	
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

視聴覚教材を中心に進めます。

■スクーリング 評価基準

スクーリング試験100%（レポート形式）：持込可

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

テーマと講義内容に記された「尊厳、高齢者福祉、虐待、孤独死、認知症、高齢者福祉施設、地域福祉等」のキーワードについて、教科書の巻末のIndex（索引）を参考に、事前に目を通しておいください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

- 1) 講義内容で関心を持った内容については、あくまでも自主的なものではありませんが、文献や他の視聴覚教材などから学びを深めてください。
- 2) 講義で学んだ内容が実践に反映できるとするならば、可能な限り実践に応用してください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	高齢者の定義と特性	高齢者の定義、老いの社会的、身体的、精神的側面について学ぶ。	教科書 P.1-15を読み、老いの諸側面について理解したうえで、身近な高齢者を例に当てはめ高齢期に幸せに暮らすために何か重要か考えてみてください。
2	少子高齢社会	人口統計に基づく少子高齢化の実態について学ぶ。	P.16-21を読み、日本の人口の高齢化の特徴、地域間格差の問題等について理解をしてください。内閣府の『高齢社会白書』も参考にしてください。
3	高齢者の生活実態	高齢者の経済・就業、健康、介護、社会参加、生活環境について学ぶ。	P.24-33を読み、高齢者を取り巻く諸問題について理解する。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
4	高齢者を取り巻く社会環境	高齢者世帯の特徴、家族による介護の状況、家族介護者への支援の問題について学ぶ。	P.34-44を読み、現代における高齢者を支える家族の脆弱化と必要な支援の視点について理解する。
5	高齢者福祉の理念	高齢者観の変遷、エイジズム、生涯発達、サクセスフルエイジング、高齢者福祉の理念等について学ぶ。	P.45-50、62-67を読み、高齢者観の変遷と現代における高齢者像、高齢者福祉の理念について理解する。
6	高齢者福祉の発展①	明治以降から老人福祉法制定前までの高齢者保健福祉の発展の流れについて学ぶ。	P.51-55を読み、明治以降から1963年の老人福祉法制定までの流れについて理解する。
7	高齢者福祉の発展②	老人福祉法制定から現在までの高齢者保健福祉の発展の流れ、近年の介護保険制度の改正の方向性について学ぶ。	P.55-61を読み、老人福祉法制定以降、人口に占める高齢者の割合の増大とともに制度がどのように改正されてきたのか理解する。
8	介護保険制度の概要	介護保険制度の枠組み、財政、保険者と被保険者、保険料、認定のプロセス等について学ぶ。	P.70-86を読み、介護保険制度の仕組みについて理解する。
9	地域支援事業	地域支援事業、地域包括支援センターの役割について学ぶ。	P.87-95を読み、市町村が取り組む地域支援事業と地域包括支援センターの機能、三職種、役割について理解する。
10	介護保険サービスの体系	居宅サービス、介護予防サービス、地域密着型サービス、施設サービスについて学ぶ。	P.96-110を読み、サービスの4つの枠組み毎に具体的サービスの内容を一覧にまとめて理解する。
11	高齢者に対する関連諸制度①	高齢社会対策基本法、高齢社会対策大綱、老人福祉法について学ぶ。	P.111-127を読み、高齢社会対策基本法に基づき、様々な法律が関連していること、老人福祉法の理念等を理解する。
12	高齢者に対する関連諸制度②	高齢者医療確保法、高齢者虐待防止法、バリアフリー法について学ぶ。	P.128-144を読み、各法律の概要について理解する。
13	高齢者に対する関連諸制度③	高齢者住まい法、高齢者雇用安定法、育児・介護休業法、市町村独自の高齢者支援について学ぶ。	P.145-167を読み、各法律や市町村独自の支援の概要について理解する。
14	関係機関と専門職の役割	高齢者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割について学ぶ。	P.170-188を読み、各機関や専門職の役割について理解する。
15	高齢者と家族に対する支援方法	アセスメントとコミュニケーション、個人へのソーシャルワークとケアマネジメント、家族への支援などについて学ぶ。	P.189-209を読み、高齢者と家族への支援方法と留意点等について理解する。

■レポート課題

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	我が国の人口の高齢化の特徴と高齢者を取り巻く諸課題を述べたうえで、今後どのような取り組みが必要となるのか、学んだ知識をいかしてあなたの考えを述べなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

高齢者福祉は、「老い」「高齢者」とは何か、なぜ高齢者に対する支援（制度）が必要なのか、世界との比較で日本の人口の高齢化はどのような特徴があって、それによってどのような課題に直面しているのかという老いと社会の問題を学ぶことが第1段階です。その理解をベースに、次に高齢者と家族を支援する介護保険等の制度やサービス、支援の方法について学びます。この科目で学ぶ内容は、単に知識として学ぶだけでなく、身近な高齢者やお住いの地域の実情に当てはめて考えることが大切です。また、皆さん自身がどのような老いを迎えたいか、もし介護が必要になった時にどこでどのように暮らしたいか、親に介護が必要になった時自分でできることは何か、またそのような希望に近づけるために今から何ができるのかなど、知識と経験をいかして考えることが大切です。

1 単位め アドバイス

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

2 単位め アドバイス

我が国の人口の高齢化の特徴は、高齢化率が世界で最も高く、その進行が急速であること、都道府県や市町村レベルでの格差が大きいことなどがあります。また、世帯構造の変化という点では高齢者のみ世帯、高齢単身世帯の増加も見られます。これら人口構造の変化を背景に、高齢者の生活がどう変わりどのような課題が浮上しているのか、そしてそれらの課題に対してどのような取り組みが今後必要となるのか、学んだ知識をいかしてあなたの考えを述べてください。参考資料としては、教科書や『高齢社会白書』などを活用すると良いでしょう。

字数は、1,800字以上でまとめてください。1,800字未満では再提出になる可能性が高くなります。

科目修了試験

■評価基準

〈アドバイス〉

テキストの内容を自身で要約することにより、下記の項目について理解を深めてください。

- 1) 「地域包括支援センターの役割と業務内容」について記述してください。(第4章第2節 p.91-94)
※地域包括支援センターの役割と業務について理解しているか。
- 2) 「地域密着型サービスの内容」について記述してください。(第4章第3節 p.103-106)
※地域密着型サービスについて理解しているか。
- 3) 「エイジズムとは何か」について記述してください。(第3章第1節 p.47)
※エイジズムについて理解しているか。
- 4) 「高齢者とコミュニケーションをとる際の留意点」について記述してください。(第7章第1節 p.190-192)
※高齢者とコミュニケーションをとる際の留意点について理解しているか。

〈評価基準〉

問題は1問ですが、以下を評価の基準とします。

- 1) キーワードを適切に使用しているか。
- 2) 自分の言葉で整理して述べられているか。
- 3) 現実との関連づけがされているか。

障害者福祉			科目コード	CD2171
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	R or SR(講義)	1年以上	関川 伸哉	



※会場によりスクーリングを別教員が担当します（東京：椎名清和先生）。

科目の概要

■科目の内容

社会における諸課題を理解し課題解決に取り組むために、障害のある人を取り巻く現状を理解するとともに、関係する法律や制度について理解し考察する力を身につけます。そのため、障害者福祉に関する基本から実際（現状）まで幅広く学修してください。

【スクーリングで学ぶ内容】

障害者福祉の基本について制度、歴史、支援の在り方等について広く学修します。スクーリングでは、随時、振り返りを行いながら専門用語について「言葉（専門用語）と言葉の仕組み」について学修していきます。

【教科書・レポート学習で学ぶ内容】

障害及び各種障害の定義、人的・物的・社会的環境からの支援内容等について幅広く学修します。レポート学習の際には、一つ一つの専門用語を整理しながら知識の習得を図ります。

■到達目標

- 1) 障害者福祉の理念と障害の概念について説明することができる。
- 2) 障害当事者を取り巻く現状やこれまでの歴史を踏まえ、当事者が抱える問題への認識を深めつつそれを説明することができる。
- 3) 障害者福祉制度、関連施策への理解を深め、当事者が抱える問題の軽減・解決に向けた取り組みについて説明することができる。
- 4) 障害者福祉に関する基本用語（障害とは、差別、偏見、自立、自律等）について自身の言葉で説明することができる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「専門的知識」「社会への関心と理解」を身につけてほしいです。

専門的知識は、多職種連携の際などに使える知識とすることが大切です。

社会への関心と理解は、今後のわが国の障害者形態（高齢障害等）を理解し、将来を考える力が大切です。

■科目評価基準

スクーリング評価 or 科目修了試験評価を100%とします。

■教科書・参考図書

【教科書】

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座〔共通科目〕8 障害者福祉』中央法規出版、2021年

（スクーリング時の教科書）上記図書は、参考程度に使用します。スクーリング時は、必要に応じて資料を配付します。

【参考図書】

- 1) 福島智『ぼくの命は言葉とともにある 9歳で失明18歳で聴力も失ったぼくが東大教授となり、考えてきたこと』致知出版社、2015年
- 2) 伊是名 夏子『ママは身長100cm』ハフポストブックス、2019年

スクーリング

▶仙台・新潟・オンデマンド開講分 関川 伸哉

■スクーリングで学んでほしいこと

「障害とは何か？」といった基本的なところから皆さんと一緒に考え、主に社会モデルの側面から障害について整理・学修したいと思います。また、障害者福祉の歴史・制度について整理・学修する中で、今後の障害者福祉の在り方や各種専門職の役割について考察していただきたいと思います。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	障害者を取り巻く社会環境及び偏見と差別について考える	偏見と差別について考える中で、社会的障害と共生社会について考察します
2	3 障害（発達障害含）に関する整理	身体障害、知的障害、精神障害、発達障害から障害者の定義と特性について学修します
3	障害者福祉の歴史①	ノーマライゼーション、知的障害者・障害者の権利条約、IL 運動等、国際障害者年前後の障害者福祉の変化について学修します
4	障害者福祉の歴史②	障害者の権利に関する条約と障害者基本法について、歴史的背景を踏まえ整理し、ソーシャルインクルージョンの視点から、これからの障害者福祉について考察します
5	障害者福祉の法制度①	身体障害児者及び知的障害者の現状と推移予測について学修します 身体障害者福祉法、知的障害者福祉法及び児童福祉法の概要等について学修します
6	障害者福祉の法制度②	精神障害児者及び発達障害者の現状と推移予測について学修します 精神障害者福祉法及び発達障害者支援法の概要等について学修します

回数	テーマ	内容
7	障害者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割	ICF（ICIDH との違い含）から考える障害者支援と関係機関（社会環境）の役割について学修します
8	障害者と家族等に対する支援の実際 まとめ及び質疑応答	ICF から考える障害者支援、専門職（人的環境）の役割について学修します スクーリング内容について整理します
9	スクーリング試験	

※オンデマンド・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

■講義の進め方

パワーポイント（複数事例含む）および配付資料を中心に講義を進めます。指定図書は参考程度に使用します。

講義の途中に確認問題（テスト）等を実施し、学習内容の振り返りを行います（試験ではなく学修のための振り返りです）。

■スクーリング 評価基準

スクーリング試験は、基本的にスクーリング中に学修した内容から出題します（一部持込可：スクーリング時指定します）。評価基準は、スクーリング受講後のスクーリング試験を100%とします。

■スクーリング事前学修（学修時間の目安：5～10時間）

- ・「障害とは何か？」について調べ、自分なり考えてきてください。
- ・戦後のわが国の障害者福祉施策の歴史について学修・整理してきてください。
- ・障害者福祉に関係する各種用語について学修・整理してきてください。
- ・身近な差別や偏見について取り上げ、考察してみてください。
- ・上記は、可能な範囲でノートにまとめスクーリング時に持参してください。

■スクーリング事後学修（学修時間の目安：20～25時間）

- ・スクーリング時に配付した資料を全て読み返し、必要に応じてノートにまとめてください。
- ・その際には、参考図書等を用いて内容の確認・追記を行うようにしてください。
- ・スクーリングで学んだ内容は、自身の言葉で他者に伝えられるように、言葉にして繰り返し学修してください。
- ・上記を終えた後にレポート学修に取り組んでください。

▶東京開講分 椎名 清和

■スクーリングで学んでほしいこと

社会のなかにある差別や偏見に飲み込まれず、生きることを包括的に支援できるようになることを目的に、障害者福祉の基本理念や制度の全体像を学んでいきます。どのような制度が形作られてきた

のか、何が必要とされているのか、共生社会をともにするために他人事ではなく我が事として「障害」を考えてみましょう。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	障害概念と特性	法的定義等、ICIDHとICF、手帳制度
2	障害者福祉の理念と歴史	ノーマライゼーション、障害者権利条約と障害者基本法
3	障害者の生活実態等	貧困と就労、共生社会と差別、親亡き後と「きょうだい」
4	関係機関と専門職等	フォーマルな支援、インフォーマルな支援
5	障害者に対する法制度（１）	身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、 ほか
6	障害者に対する法制度（２）	〈障害者総合支援法〉、児童福祉法 ほか
7	障害者に対する法制度（３）	〈障害者雇用促進法〉、〈障害者虐待防止法〉 ほか
8	支援の実際	触法障害者への支援〔視聴覚資料の利用〕
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

教科書は参考程度の使用とし、パワーポイントを中心に進めていきます。また、視聴覚資料や配付資料を補助的に使用します。

■スクーリング 評価基準

スクーリング試験100%：自ら作成したノートのみ持込可。試験は多肢選択式（法制度等の理解）および記述式（理念等に関する考察）にて行います。なお、多肢選択式の問題は教科書第5章（障害者に対する法制度）からの出題が多くなります。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

『障害者白書（各年版）』には、障害者の状況や政府が講じた障害者施策の状況が取りまとめられています。内閣府のホームページで閲覧できるので、事前に最新版の内容を確認しておいてください。

教科書を通読し、不明点を中心にノートをまとめてみましょう。ただし、ノートは余白を多めにし、スクーリング中の学習内容等を追記できるようにしておいてください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

教科書に記載されている法律について、各出版社の社会福祉小六法（福祉小六法）といった書籍やデジタル庁のe-Gov法令検索を利用して、条文そのものを読みながら復習してください。

また、居住地等でどのように障害者福祉が展開されているのかをホームページで閲覧したり、イベントに参加したりして、具体的に確認してみましょう。

■参考文献

- 1) デジタル庁『e-Gov 法令検索』<https://elaws.e-gov.go.jp>
- 2) 内閣府『障害者白書』<https://www8.cao.go.jp/shougai/whitepaper/index-w.html>
- 3) 二本柳覚『図解でわかる障害福祉サービス』中央法規、2022年
- 4) 渡辺一史『こんな夜更けにバナナかよー筋ジス・鹿野靖明とボランティアたち』文藝春秋、2013年

レポート学習

■在宅学修15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	障害概念と特性①	各種制度、難病、各種手帳	・障害及び各種障害の定義、支援内容について学修してください ・難病等の種類、特性、支援内容について学修してください ・各種手帳について表などを作成して整理してください
2	障害概念と特性②	ICD、ICIDH、ICF、人と環境の相互作用	・ICIDH について学習してください ・ICIDH の特徴を踏まえながら ICF について学修してください ・医学モデルと社会モデルの違いと整理し、具体的な活用方法について学修してください
3	障害者福祉の理念①	スティグマ、優生学	・差別と偏見の関連性について学修してください ・優生思想の背景と今後の障害者福祉について学修してください
4	障害者福祉の理念②	8つの原理、SRV、自立	・ノーマライゼーション以降の障害者福祉の基本にあるものについて多角的に学修してください
5	障害者福祉の歴史①	恤救規則、肢体不自由、救護法	・過去の障害者への処遇について学修してください ・障害者福祉の制度について歴史的背景を踏まえながら学修してください
6	障害者福祉の歴史②	親の会、コロニー、完全参加と平等	・障害者福祉制度と当事者運動について学修してください ・障害者権利条約と障害者基本的について学修してください
7	障害者の生活実態とこれを取り巻く社会環境と課題①	地域生活、就労、8050	・障害者の生活実態と就労・自立を含めた支援について学修してください ・障害者家族のニーズや支援について学修してください
8	障害者の生活実態とこれを取り巻く社会環境と課題②	ソーシャルインクルージョン、コンフリクト、テクノロジー	・インクルーシブな社会とは何かについて学修してください ・障害者を取り巻く社会環境と課題について学修してください
9	障害者に対する法制度①	障害者基本法、障害者総合支援法、障害等級	・障害者基本法及び障害者総合支援法を踏まえた各種障害者・児（身体・知的・精神）に関する制度について学修してください

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
10	障害者に対する法制度②	手帳、入院、発達障害者支援法	・障害者基本法及び障害者総合支援法を踏まえた各種障害者・児（児童・発達）に関する制度について学修してください
11	障害者に対する法制度③	障害者福祉計画、合理的配慮、意思の表明	・障害者虐待防止法及び障害者差別解消法について学修してください ・バリアフリー法について学修してください
12	障害者に対する法制度④	アクセシビリティ、共生社会、差別の禁止	・障害者雇用促進法及び障害者優先調達推進法について学修してください
13	障害者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割①	各種機関の役割、トータルサポート、ライフステージ	・障害者と家族等の支援における関係機関の役割について学修してください
14	障害者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割②	各種専門職、多職種連携、利用計画	・関連する専門職の役割について学修してください
15	障害者と家族等に対する支援の実態	ソーシャルワーク、エンパワーメント、コーディネーター	・障害領域におけるソーシャルワークの役割と障害者と家族等に対する支援の実態について学修してください

■レポート課題

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	「障害とは何か？」及び「障害者福祉に関わる理念の変遷」についてまとめ、障害者を取り巻く現状やその抱える問題について考察してください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

- ・学修内容は、ノートにまとめ定期的に振り返りを行うようにしてください。
- ・レポート作成時に疑問に感じた点は重要な学修課題ですので、しっかりと調べて理解できるように努めてください。
- ・論述式のレポートを作成する際には、予め章立て（構成）を確認・理解した後に作業を開始してください。
- ・スクーリングの際には、事前学修のノート等を忘れずに持参してください。

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

1 単位め
アドバイス

2 単位め アドバイス

- ・レポート作成の際には、3つ以上の参考・引用文献を用い、最後に記載してください。
- ・レポート作成の際、引用個所がわかるように本文中に引用文献番号を必ず記載してください。

例) 2023年厚生労働省〇〇調査によれば、〇〇〇〇とされている¹⁾。

- ・必ず、以下の章立てを行ってください。

1. 障害とは何かについて
2. 障害者福祉に関わる理念の変遷について
3. 障害者を取り巻く現状やその抱える問題について
4. まとめ

引用・参考文献

注意) HP 以外の参考・引用文献も使用してください。

■レポート評価の基準

適切な章立てを行い、各章がバランス良く記載されるように努めてください。

科目修了試験

■評価基準

- ・基本的には、科目修了試験の点数を100%として評価を行います。
- ・指定図書の中身をしっかり学修してください。
- ・学修の際には、全体を広く学修することが大切です。
- ・学修内容は、ノートにまとめながら整理すると良いと思います。
- ・専門用語については、他の科目含め学修時の基本となるため「言葉と言葉の仕組み」をしっかりと理解してください。

児童・家庭福祉			科目コード	CD2172
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	R or SR(講義)	1年以上	君島 昌志(上)/千葉 伸彦(下)	



※会場によりスクーリングを別教員が担当いたします（仙台：君島昌志先生、新潟：千葉伸彦先生）。

科目の概要

■科目の内容

本科目では、人権保護や権利擁護といった権利保障の捉え方をふまえて、児童家庭福祉施策の史的展開を学習していきます。具体的には、貧困家庭、要保護児童、ひとり親家庭、障害児、児童虐待対策、DV対策、社会的養護など様々な状況にある児童や家庭について支援について、法律やサービスの枠組みを体系的に学びます。

【スクーリングで学ぶ内容】

児童施策や児童の人権・権利保障の変遷をふまえ、多岐にわたる児童福祉の法制度の体系を学びます。また児童や家庭への支援についての実際を学びます。

【教科書・レポート学習で学ぶ内容】

教科書により児童家庭福祉施策について法律的、制度的枠組みを体系的に学びます。

レポート作成については、児童虐待対応などの重要施策についてはインターネットを活用して近年の現状を把握し、教科書や他の教科書、資料等を活用して、課題に対する解答を論述する。

■到達目標

- 1) 児童福祉や権利保障の歴史をふまえ、我が国の児童家庭施策の全体像を理解しその内容を説明することができる。
- 2) 多岐にわたる児童に関する法律や制度を把握し、ソーシャルワークにつながる知識を体系的に説明することができる。
- 3) 児童や保護者への支援の実際を理解しながら、児童福祉分野の専門職、専門機関の役割や機能を説明することができる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「専門的知識」「他者への関心と理解」「社会への関心と理解」「クリティカルシンキング」を身に付けてほしい。

■科目評価基準

レポート評価50%＋スクーリング評価 or 科目修了試験50%

■教科書・参考図書

【教科書】

福祉臨床シリーズ編集委員会編『新・社会福祉士シリーズ15 児童・家庭福祉』弘文堂、2022年
(最近の教科書変更時期) 2023年 4 月

(スクーリング時の教科書)【各会場共通】 上記教科書は必ず持参してください。参考資料として使用します。旧教科書を所持している場合でも受講に支障がないよう資料などを配付します。

【参考図書】

- 1) 『厚生労働白書』各年号

厚生労働省 HP

https://www.mhlw.go.jp/toukei_hakusho/hakusho/index.html



- 2) 厚生労働省編『子ども虐待対応の手引き』平成25年改定

https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kodomo/kodomo_kosodate/dv/dl/120502_11.pdf



- 3) こども家庭庁「社会的養育の推進に向けて」令和5年4月5日

https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/8aba23f3-abb8-4f95-8202-f0fd487fbe16/e979bd1e/20230401_policies_shakaiteki-yougo_67.pdf



4) こども家庭庁「子ども・子育て支援制度」

<https://www.cfa.go.jp/policies/kokoseido/>



スクーリング

▶仙台・オンデマンド開講分 君島 昌志

▶新潟開講分 千葉 伸彦

■スクーリング留意事項

児童虐待やDVに関する事柄、養子縁組等の出自に関する解説やDVDの視聴があります。

スクーリングでは無理に聴講、視聴しないようにしてください。当日、事前に事務局に伝えてください。授業中、一時退席してもかまいません。

■スクーリングで学んでほしいこと

どんな時代でも必ず子どもはいました。どんな大人でも必ず子ども時代がありました。

当たり前のことなのですが、子どもの人権や権利が考えられるようになってきたのはおよそ120年前からです。人類の長い歴史、日本人の長い歴史のなかではつい最近のことといってもよいかもしれません。

この講義ではどうしても児童家庭福祉に関する法律や制度の概要を説明することが多くなりますが、そのなかで子どもの「最善の利益」とは何か、ということを常に考えながら学んでほしいと思います。最善の利益と言い換えれば「子どもにとってどうか」「子どもにとって一番よい方法はなにか」ということです。

子どもの人権や権利をどう捉え、どう守っていくか、子どもの主体性を尊重するということはどういうことか、そのために必要な法律や制度は何か、という順番で考えてみてください。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会環境 少子化問題と次世代育成支援	少子化の要因、少子化対策、子育て家庭の変容、 子育ての不安、ワーク・ライフ・バランスなど
2	児童福祉の歴史（日本・欧米） 児童の定義、権利保障	我が国および諸外国における、児童に対する施策 の歴史的展開、権利保障の体系
3	児童福祉の法制度（1）組織・サービス 児童福祉法	国、地方公共団体、民間福祉事業の役割と機能、 児童福祉法の理念、責務、定義

回数	テーマ	内容
4	児童福祉の法制度（2）児童虐待の実態と対策 児童福祉の法制度（3）DV 防止対策	児童虐待の定義、実態、防止施策、DV の定義、 実態、防止施策、困難女性支援
5	児童福祉の法制度（4）要保護児童対策・非行少年への対応	要保護児童の実態と支援の枠組み、非行少年に対する児童福祉、少年司法
6	児童福祉の法制度（5）ひとり親家庭への支援 児童福祉の法制度（6）子どものいる貧困家庭への支援	ひとり親家庭の定義、実態、支援、貧困の定義、 実態、子どものいる貧困家庭への支援
7	児童福祉の法制度（7）障害児 児童福祉の法制度（8）社会的養護の必要な児童	障害をもつ児童やその家族に対する施策、社会的 養護の体系（施設・里親）
8	児童福祉の法制度（9）母子保健、子育て支援	母子保健制度の体系、子育て支援
9	スクーリング試験	

※オンデマンド・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

■講義の進め方

配付資料を中心にテキストを参考程度に使用します。

板書はスライドを投影します。

グループワーク、受講者どうしの対話は行いません。

■スクーリング 評価基準

通信機器以外すべて持ち込み可とします。

児童の権利保障の捉え方について理解を問います。

スクーリングで学んだことと自分自身の実践や日常生活と結びつけて論じることも良しとします。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

教科書のなかで自分の興味・関心のあるところを読んでください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

配付された資料や教科書に目を通して、復習してください。

レポート学習にも取り組んでください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	子どもを取り巻く社会環境	社会や子育て家庭の変容、働き方の変化	少子化社会、少子化対策の理解、男女共同参画社会の理解
2	子どもの権利保障	児童の最善の利益、受動的権利、能動的権利	権利保障の変遷、権利の捉え方の理解

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
3	子ども家庭福祉の発展過程	「子ども」とはなにか、保護、育成	諸国や時代による子ども観の違い
4	子ども家庭福祉の基本的な法律	児童福祉法と関連法	各法における児童の定義、目的、制定の背景
5	行政のしくみ	国と地方公共団体の役割	国の役割、都道府県、市町村の役割
6	児童福祉施設	施設の種別、目的	対象児童の状況、援助、専門職の役割
7	非行少年への対応	少年法、犯罪少年、触法少年、特定少年	家庭裁判所の機能、保護処分の種類
8	障害児への支援	障害者総合支援法、手帳制度	障害の種別、サービス利用
9	子育て支援・児童健全育成	育児不安、子どもの成長・発達、保護者支援	地域子育て支援事業、児童健全育成
10	母子保健	母子保健法、こども家庭センター	母子保健法にもとづく事業、妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援
11	ひとり親家庭	母子家庭、父子家庭、自立促進	母子及び父子並びに寡婦福祉法の定義
12	子どもの貧困対策	子どもの貧困対策推進法、生活保護法	相対的貧困、貧困の連鎖、学習、生活支援
13	児童虐待防止	児童虐待防止法、定義、児童福祉法	各法による定義、対応の法的根拠、児童相談所、市町村の役割、被害児童の保護
14	DV 防止	DV 防止法、定義、暴力のサイクル、保護命令、困難女性支援	関係機関の対応と連携、被害者の保護
15	いじめ・不登校	いじめ防止対策推進法、スクールソーシャルワーク	いじめの現状と対応、不登校の現状と対応

■レポート課題

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	課題名「子ども虐待の現状と対策」 日本における子ども虐待の現状とその対策について述べて。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

1 単位め アドバイス

レポート作成について

2 単位め アドバイス

- ・定義や対策の根拠となる法律を示しながらまとめてください。
- ・相談件数のデータは過去3年以内のものを引用してください。
- ・報道された事例は自分自身が強く印象に残ったものでかまいません。

- ・箇条書きではなく、考察しながら論述してください。

科目修了試験

■評価基準

- ・本科目全体の内容についての理解を問います。
- ・問題の題意に適しているかどうかを問います。
- ・解答字数は、800字以上を基準といたします。

公的扶助論			科目コード	CD4175
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	R or SR(講義)	3年以上	阿部 裕二	



科目の概要

■科目の内容

本科目は、貧困や公的扶助の概念を踏まえ、貧困に係る法制度と支援の仕組みについて理解するとともに、貧困問題を抱えている人々への社会福祉士としての適切な支援のあり方について学ぶことを目的としています。

日本は、近年は景気の低迷、雇用環境の悪化などを背景にして、国民生活の不安は深化し、貧困や格差も拡大しています。その意味では、「貧困」問題は国民生活の身近なところにあるといえるでしょう。このような現状を考えると、国民生活のラスト・セーフティネットとして位置づけられている公的扶助は、私たちの生活において重要な役割を果たしているのです。

そこで、本講義においては、貧困や公的扶助の概念を踏まえ、貧困状態にある人の生活実態とこれを取り巻く社会環境について概観します。次に、貧困の歴史と貧困観の変遷について整理します。そして、貧困・低所得者に係る法制度と支援の仕組みについて理解を深めます。最後に就労支援や相談支援の在り方について理解を深めます。

【教員等の実務経験による指導内容】

主に家庭の抱える経済格差から生まれる子どもの教育格差の解消を目的とした公益社団法人やNPO法人のアドバイザーとしての経験をいかし、生活困窮（者）の状況と生活保護制度を関連する諸制度にまで視野を広げて講義する。

■到達目標

- 1) 貧困概念や貧困を取り巻く環境が説明できる。
- 2) 貧困に係る法制度や支援の仕組みが理解でき、第三者へ説明できる。
- 3) 知識だけではなく、対象者の支援に活用できる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「専門的知識」「他者への関心と理解」「社会への関心と理解」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価50%＋スクーリング評価 or 科目修了試験50%

■教科書・参考図書

【教科書】

福祉臨床シリーズ編集委員会編『新・社会福祉士シリーズ16 貧困に対する支援』弘文堂、2022年（スクーリング時の教科書）上記教科書を参考程度に使用し、配付する資料を中心にして講義を行います。

【参考図書】

- 1) 湯浅誠『半貧困ー「すべり台社会」からの脱出』岩波新書、2008年
- 2) 駒村康平『大貧困社会』角川 SSC 新書、2009年
- 3) 厚生統計協会編『国民の福祉と介護の動向（最新版）』厚生統計協会
- 4) 全国社会福祉協議会編『生活保護手帳（最新版）』全国社会福祉協議会

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

講義のテーマは、「豊かな社会における貧困・低所得の様相と支援の現状・課題」です。社会の基本的なセーフティ・ネットである生活保護の仕組みや現実、豊かさのなかに潜在化し、十分に知られていないとはいえません。しかし、貧困が私たちの生活上に直面する共通な危険（リスク）の一つであるとすれば、貧困に対応する公的扶助（生活保護）は、年金や医療と同様に身近な制度ともいえるのです。そこで本講義においては、拡大しつつある貧困概念（様相）を踏まえながら、生活保護の考え方（目的、原理、原則など）、制度の内容、そして現代社会における生活保護および生活困窮者支援の課題そして子どもの貧困について、受講生の皆さんとともに考えていきたいと思います。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	拡大する貧困の概念と公的扶助の役割	貧困概念の変遷と社会保障制度体系における公的扶助の役割について学びます。
2	生活実態と社会環境および貧困の歴史	貧困状態にある人びとの生活実態について概観し、貧困に対する制度の発展過程の特徴を学びます。
3	貧困に対する法制度：生活保護制度の概要	貧困に対する法制度の中核に位置付けられる生活保護制度の概要について学びます。
4	貧困に対する法制度：生活保護制度における自立支援と近年の生活保護の動向	生活保護における自立支援の内容と近年の生活保護の動向について学びます。
5	貧困に対する法制度：生活困窮者自立支援法	第2のセーフティ・ネットとしての生活困窮者自立支援制度の概要と、その他の低所得者支援の制度を学びます。
6	貧困に対する法制度：低所得対策とホームレス自立支援法	低所得者に対しする各種制度とホームレス実態を踏まえながら、ホームレス支援の実際を学びます。
7	貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割	国や自治体および福祉事務所等の役割や、各種専門職の役割について学びます。

回数	テーマ	内容
8	貧困に対する支援の実際	支援の実際を教科書の事例にとどまらず、私自身の経験を踏まえて提示します。
9	スクーリング試験	

※オンデマンド・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

■講義の進め方

スクーリング時には、作成した『理解しやすい公的扶助論講義資料集』を配付して、この資料集を中心に講義を行います。教科書は参考程度に使用します。

■スクーリング 評価基準

- ・スクーリング中に学んだ内容から出題します。(持込不可)。試験では2題を選択して解答(記述式)していただきます。
- ・スクーリング試験(100%)(評価基準：①題意を踏まえているか、②スクーリングで学んだことを踏まえているか、③内容は適切か、④自分なりの言葉で表現されているか)

■スクーリング事前学習(学習時間の目安：5～10時間)

「スクーリング講義内容」(8項目)の項目に該当する部分を教科書に沿ってある程度読んで出席してください。つまり、少ない講義回数のなかで、少しでも内容の理解を深めるためには、予習・事前学習が欠かせません。もちろん、すべて完璧に覚えてきてくださいというわけではありません。受講した際に、「なんかその言葉は聞いたこと、見たことがあるぞ。なるほど、あそこに書いてあったことは、そういうことだったのか」という程度で結構です。

私としては、ある程度、予習・事前学習をされてきたことを前提として講義を進めたいと考えています。万一、事前学習なし(準備不足)の場合は、苦痛でしかも怒濤のように時間だけが過ぎ去ってしまうかもしれません。皆さんにとって、有意義な時間が共有できるように努めますし、同時に祈念しております。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	貧困概念と公的扶助の役割(第1章)	貧困概念の変遷を概観し、公的扶助の役割を理解する。 キーワード：絶対的貧困、相対的貧困(はく奪)、社会的排除、子どもの貧困、ラスト・セーフティネット、スプリングボードなど	貧困に対する支援理解の前提として、貧困の考え方を学び、対策の中心的政策である公的扶助(生活保護)の性格と役割について把握してください。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
2	貧困の状態にある人の生活実態と社会環境 (第2章)	貧困状態にある人の生活実態と貧困状態にある人を取り巻く社会環境を理解する。 キーワード：健康、居住、就労、社会関係資本、経済構造、家族・地域の変化など	健康、住居、就労、教育そして社会関係資本の観点から貧困状態にある人の生活実態を理解するとともに、経済構造の変化、家族・地域の変化、格差の拡大、社会的孤立などの社会環境についても理解を深めてください。
3	貧困の歴史 (第3章)	イギリスにおける公的扶助の歴史を「救貧法」を始点として学ぶ。 キーワード：1547年法、エリザベス救貧法、改正救貧法、失業扶助、国民扶助法、スティグマなど	イギリス資本主義の発展過程において、救貧法はどのように変質していったのか、その際、貧困に対する価値観はいかに転換していったのか（そのきっかけは何か）等に留意しつつまとめることが重要です。また、貧困観の変遷に影響を及ぼした人物の理解も肝要です。
4	貧困の歴史 (第3章)	日本における公的扶助の歴史を「恤救規則」を始点として学ぶ。 キーワード：恤救規則、救護法、社会救済、旧生活保護法、生活保護法など	日本における公的扶助の歩みを恤救規則を始点として学ぶが、年表的な整理の仕方ではなく、貧困観を背景とした各制度の特徴と時代背景や、戦後の制度における GHQ の果たした役割を意識してまとめることが重要です。
5	貧困に対する法制度 ①生活保護制度の枠組み (第4章)	生活保護制度の仕組みを理解する。 キーワード：目的、基本原理、原則、扶助の内容など	生活保護制度の目的、基本原理、原則、8種類の扶助（現物給付・現金給付）の内容等を整理・理解してください。
6	貧困に対する法制度 ①保護施設と保護基準 (第4章)	生活保護制度の仕組みを理解する。 キーワード：保護施設、保護基準（扶助の算定方式）など	生活保護における保護施設の内容、また、保護基準はいかなる時代背景のもとで変遷していったのか、そして現在の基準額等を学んでください。
7	貧困に対する法制度 ①生活保護の動向 (第4章)	現在の生活保護の現状を統計数字で理解するとともに、近年の生活保護の見直し内容について理解する。 キーワード：被保護人員、被保護世帯数、保護率	現在の生活保護の現状（被保護人員などを含め）を統計数字で把握します。また、近年の生活保護の見直し内容について整理してください。
8	貧困に対する法制度 ①生活保護における自立 (第4章)	生活保護における自立支援プログラムの意味と相談援助活動との関連性について学ぶ。 キーワード：就労自立、日常生活自立、社会生活自立、自立支援プログラムなど	自立支援プログラムとはどのような手順で作成され、そのような内容・方法のもと個々の利用者に提供されるのかなどについて学びます。そして、自立支援プログラムと相談支援の関係性についてまとめてください。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
9	貧困に対する法制度 ②生活困窮者自立支援法 (第5章)	生活困窮者自立支援法の概要について学ぶ。 キーワード：第2のセーフティ・ネット、自立相談支援事業、任意事業	第2のセーフティ・ネットとしての生活困窮者自立支援制度の仕組みと現状について整理し、理解してください。
10	貧困に対する法制度 ③低所得者対策 (第6章)	低所得者対策の中心的な制度である生活福祉資金貸付制度などについて理解する。 キーワード：生活福祉資金貸付制度、無料低額診療事業、無料低額宿泊所、公営住宅、求職者支援制度、法律扶助など	低所得者対策には多様な政策があるが、そのなかでも、生活福祉資金貸付制度を中心とした諸制度を整理し、理解してください。
11	貧困に対する法制度 ③低所得者対策、ホームレス対策 (第6章)	ホームレスの定義と現状と支援の方向性を理解する。 キーワード：ホームレス、社会的孤立など	ホームレスの意味とホームレス問題を整理しつつ、自立支援の現状についてまとめてください。
12	貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割 (第7章)	実施体制を支える各種関係機関をそれぞれ理解する。 キーワード：公私関係、法定受託事務、自治事務、福祉事務所、自立相談支援機関など	生活保護における法定受託事務と自治事務を理解するとともに、国家の責任である貧困支援にかかわる各種機関の役割について学びを深めてください。
13	貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割 (第7章)	貧困支援における専門職の内容と役割について学ぶ。 キーワード：現業員、査察指導員、社会福祉主事、社会福祉士、精神保健福祉士など	福祉事務所に置かれている現業員や査察指導員の役割と関係性を含めて、様々な専門職が連携しながら貧困（低所得）支援を行っていることを理解してください。
14	貧困に対する支援の実際 (第8章)	事例を参考にして支援実際と留意点を学ぶ。 キーワード：ソーシャルワーク倫理綱領、多職種、多機関の連携、地域づくり、場づくりなど	テキストで取り上げられている事例を参考にしながら、どのような視点で支援に取り組むべきか、そこでの留意点は何かについてまとめてください。その際、連携や地域づくり、場づくりの視点からも考察してみてください。
15	まとめ (全体)	全体的な学びを通して、あるべき支援を考える。 キーワード：貧困概念の拡大、伴奏型支援、連携、地域づくりなど	これまでの学びから、多様化する貧困に対してどのような支援が望ましいのか、その際に、新たな施策の開発も含めて皆さんなりに考えてみてください。

■レポート課題

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	貧困に対する法制度の枠組みを述べるとともに、支援における関係機関とその役割について整理しなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

1 単位め アドバイス

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

2 単位め アドバイス

現代社会においては、さまざまな意味での貧困が存在します。それらの意味を踏まえながら、どのような法制度が整備されているのか、また、その法制度を実施する機関にはどのようなものがあり、どのような役割を果たしているのかをまとめてください。その際、多機関、多職種の連携という視点からも考察してください。

なお、理論上の考察のみならず、実際上の問題点や課題についてまとめることも重要です。

科目修了試験

■評価基準

- 1) 題意を正確に把握し、指示に従って述べられているか。
- 2) 単に暗記したものを記述するのではなく、自分なりの視点からまとめられているか。
- 3) 抽象的な表現にとどまらず、現実との関連づけの視点からもまとめられているか。
- 4) 結論は感想にとどまらず、根拠をもって述べられているか。

保健医療と福祉			科目コード	CE4173
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	R or SR(講義)	3年以上	佐藤 英仁	



科目の概要

■科目の内容

日本における保健医療サービスはいつでも安心して医療を受けられる国民皆保険によって支えられてきた。しかし、高齢社会の進行とともに医療保険制度をはじめ、保健医療サービスはさまざまな分野で変更がなされている。医療は我々に非常に身近であり、誰にでも必要なものであるが、意外と知られていないことも多い。例えば、「病院と診療所はどう違うのか」、「出産したときにもらえるお金はいくらか」などについて自信を持って回答できるだろうか。

本講義ではそのような身近な疑問に答えられるように、医療現場の現状や医療・保健分野の仕組みを理解する。また、医療に関する様々な課題を見ることで、現在求められている医療について考察する。

■到達目標

- 1) 医療・保健分野における諸制度を説明することができる。
- 2) 診療報酬制度を説明することができる。
- 3) 医療保険について理解し、さまざまな具体的事例に対応できる。
- 4) 医療ソーシャルワーカーの業務を説明することができる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「専門的知識」「社会への関心と理解」「問題解決力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価50%＋スクーリング評価 or 科目修了試験50%

■教科書・参考図書

【教科書】

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新・社会福祉養成講座 5 保健医療と福祉』中央法規出版、2021年

（スクーリング時の教科書）上記教科書を参考程度に使用し、配付する資料を中心に講義を行います。

【参考図書】

- 1) 公益財団法人日本医療総合研究所『コロナ禍で見えた保健・医療・介護の今後』新日本出版社、2022年

- 2) 本田宏編『日本の医療はなぜ弱体化したのか 再生は可能なのか』合同出版、2021年
- 3) 末永カツ子編著『アフターコロナの公衆衛生 ケアの権利が守られる地域社会をめざして』自治体研究社、2022年

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

医療は私たちに非常に身近でありながら、意外と知られていない制度も少なくありません。特に、診療報酬制度や医療保険制度には知らないと損をしてしまう場面が多々あります。スクーリングでは、今後、損をしないために知っておくべき医療・保健制度を中心に講義します。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	医療法・医療政策・医療計画	医療法や医療政策、医療計画の概要を学ぶ。特に近年変化した部分について重点的に理解する。
2	保健医療サービスの専門職の概要と役割	業務独占と名称独占の解説および医師、看護師等の仕事の概要を理解する。
3	医療機関の概要	病院と診療所、特定機能病院、地域医療支援診療所などについて学ぶ。
4	診療報酬制度の概要—診療報酬点数表	「診療報酬制度とはどのようなものか」について学ぶ。また、具体的な点数についても取り上げる。
5	診療報酬制度の概要—出来高払い制と包括払い制	診療報酬制度の近年の改定、出来高払い制と包括払い制などについて学ぶ。
6	医療保険制度の概要—療養の給付・高額療養費	療養の給付、入院時食事療養費、入院時生活療養費、保険外併用療養費、高額療養費などについて学ぶ。
7	医療保険制度の概要—傷病手当金・出産育児一時金	傷病手当金、埋葬費、出産育児一時金、出産手当金などについて学ぶ。
8	国民医療費の概要	国民医療費とはどういうものを理解したうえで、国民医療費の現状（制度区分別、財源別）や推移について学ぶ。
9	スクーリング試験	

※オンデマンド・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めます。講義中表示したパワーポイントのスライドはすべて配付します。教科書は参考程度に使用します。

■スクーリング 評価基準

スクーリング試験は択一式にて実施します。出題範囲はスクーリング中に学んだ内容となります。教科書や資料、ノートの持ち込みは可能です。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

教科書の第4章第3節は読んできてください。また、講義内容の関心あるテーマについて、自分なりに学びたいことを考えてきてください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	疾病構造の変化 (第3章第1節)	人口や死亡率、平均寿命、合計特殊出生率などの指標を見ることで、医療需要の変化について理解する。 キーワード：人口構造、少子高齢化、人口減少、死亡率、平均寿命、合計特殊出生率	人口（高齢化率）や死亡率、合計特殊出生率など、医療に関係しているデータを見ることで医療需要の変化を確認しましょう。また、医療需要の変化に合わせて、そのような医療・保健制度が必要となったのかを考えてみましょう。
2	医療法 (第4章第1節)	医療法に関して改正に留意しながら理解する。また、医療政策や医療計画についても理解する。 キーワード：医療法、地域医療構想、医療政策、医療計画	医療法とはどのような法律なのかを把握するとともに、疾病構造の変化や医療水準の進歩に合わせてどのような改正がなされてきたのかを理解しましょう。また、都道府県が策定する医療計画の内容についても把握しましょう。
3	医療提供施設 (第4章第2節)	病院と診療所の違いに注意しながら、医療提供施設について理解する。また、ベッドの種類についても理解する。 キーワード：診療所、病院、地域医療支援病院、特定機能病院	病院と診療所の違いについて理解しましょう。特に、病院には地域医療支援病院や特定機能病院など、いくつかの種類がありますが、その特徴や要件について整理しましょう。また、一般病床や療養病床などベッドの種類についても把握しましょう。
4	在宅医療サービス (第4章第2節)	在宅医療の役割や課題するとともに、在宅療養支援診療所や地域包括支援システムに理解する。 キーワード：地域医療支援診療所、地域包括支援システム	在宅療養支援診療所や在宅療養支援病院の特徴や要件を理解したうえで、なぜこれらの医療提供施設が必要になったのかを考えてみましょう。また、地域包括ケアシステムの特徴を把握したうえで、課題についても考えてみましょう。
5	医療専門職 (第5章第1節)	医師や保健師、助産師、看護師などの医療専門職について、業務独占や名称独占に留意しながら理解する。 キーワード：業務独占、名称独占	医師や保健師、助産師、看護師、理学療法士、作業療法士、視能訓練士、救急救命士などの医療専門職について根拠となっている法律に留意しながら、それぞれの仕事の内容について理解しましょう。また、業務独占や名称独占があるのかについても考えてみましょう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
6	診療報酬制度 (第4章第3節)	出来高払い制と包括払い制の違いに留意しながら診療報酬制度について理解する。 キーワード：診療報酬、点数表、薬価基準、出来高払い制、包括払い制	私たちが医療提供施設で医療を受けたときの支払いは診療報酬によって決まっています。この診療報酬の特徴について理解しましょう。特に、私たちが窓口で負担している金額は、一つひとつの医療行為の点数が合計されたもの（実際はその3割）であることを認識しましょう。また、出来高払い制と包括払い制の違いについても把握しましょう。
7	介護保険制度 (第4章第4節)	要介護認定について理解するとともに、介護保険制度について理解する。 キーワード：介護保険、要介護認定、介護報酬	介護保険制度について内容を理解するとともに、介護保険制度が導入された背景についても考えましょう。特に、要介護認定や利用者負担（保険給付）については重点的に学習してください。
8	医療保険制度の概要 (第4章第1節)	保険者と被保険者に留意しながら医療保険の種類について理解する。 キーワード：保険者、被保険者、健康保険、国民健康保険	医療保険にはさまざまな種類があります。国民健康保険、健康保険（協会、組合）、船員保険、共済、後期高齢者医療制度の加入者や保険者について整理しましょう。そのうえで、自分の医療保険の種類について確認し、保険料などについて調べてみてください。
9	医療保険制度の実際 (第4章第3節)	療養の給付や高額療養費、傷病手当金、出産手当金などについて理解する。 キーワード：療養の給付、家族療養費、高額療養費制、傷病手当金、出産手当金	医療保険により医療費の3割の自己負担で医療を受けることができますが、医療保険はそれ以外にも様々な場面で活用することができます。医療保険があることで給付を受けられる制度もありますが、申請が必要な場合も少なくありません。今後、損を知らないためにも高額療養費や傷病手当金など、医療保険のさまざまな給付について理解しましょう。
10	公費負担医療制度 (第4章第3節)	公費負担医療や自立支援医療、生活保護における医療扶助などについて理解する。 キーワード：公費負担医療、自立支援医療、特定医療費、措置入院、医療扶助	私たちはかかった医療費の3割を自己負担しますが、その一部あるいは全額、国が負担してくれる公費負担医療があります。その特徴や種類について理解しましょう。
11	国民医療費の概要 (第4章第3節)	国民医療費について理解するとともに、国民医療費の現状について理解する。 キーワード：国民医療費、制度区分別、財源別、診療種類別、疾病分類別	国民医療費の内容を理解しましょう。そのうえで最近の国民医療費の特徴や変化、制度区分別国民医療費、財源別国民医療費、診療種類別国民医療費、年齢階級別国民医療費、傷病分類別医科診療医療費について把握しましょう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
12	保健医療サービスにおける多職種連携 (第5章第1節)	保健医療サービスにおける多職種連携について理解する。 キーワード：医療チーム、マルチディシプリナリモデル、インターディシプリナリモデル、トランスディシプリナリモデル	ヘルスケアと連携の意味について理解しましょう。また、多職種の望ましい連携の在り方を考えてください。
13	保健医療領域におけるソーシャルワーカーの役割 (第6章第1節)	医療ソーシャルワーカーの歴史と仕事について理解する。 キーワード：MSWの業務指針、倫理綱領、スチュワート、浅賀ふさ	医療ソーシャルワーカーの歴史と仕事の内容について理解してください。特に、受診受療援助や退院援助、他の専門職や地域との連携について把握してください。そのうえで、様々な事例に対応できるようになりましょう。
14	病者の理解と家族の理解 (第1章)	病者の理解や健康の定義、疾病の概念について理解する。また、家族の概念について理解するとともに、疾病や障害が家族に与える生活上の影響について理解する。 キーワード：病者、健康、疾病、非親族構成員、ダブルケア、五大疾病、ALS	近年、患者を一括りに捉えるのではなく、病気を持つ人として、その人の性格や生活まで理解することが重要となっています。医療ソーシャルワーカーにとって必要な病者の理解とは何かを考えてみてください。また、WHOによる健康の定義や疾病の三つの概念についても把握してください。他方、ライフスタイルの変化や世帯構成の変化により、家族の介護機能は低下しています。家族介護者の実態や課題について調べてみましょう。
15	医療倫理 (第2章)	医療倫理について理解する。 キーワード：医療倫理の4原則、インフォームド・コンセント、生命維持処置、安楽死	医療法にインフォームド・コンセントに係ることが明記されるなど、近年は患者の権利が重要視されています。また、医療では様々な場面で倫理的課題に直面します。これらの内容を把握するとともに、あるべき医療の姿を考えましょう。

■レポート課題

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	現物給付と現金給付の違いについて留意しながら、高額療養費制度について説明しなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

1 単位め
アドバイス

2 単位め
アドバイス

この課題に関しては、テキスト第4章第3節を参考にしてください。高額療養費制度は私たちの自己負担を軽減するための優れた制度ですが、非常に難解な制度でもあります。現金給付が基本とはなりますが、活用の仕方によって現物給付にもなり得ますし、70歳未満と70歳以上で内容が異なります。それらに留意しながら整理してください。

また、頻繁に変更される制度でもあります。テキストの情報が古い可能性がありますので、必ずインターネットや保険者が発行するパンフレット等で最新の制度を確認してください。

科目修了試験

■評価基準

科目修了試験の問題は教科書から出題しています。教科書の重要なキーワードに留意して丁寧に教科書を読んでください。特に「疾病構造の変化」、「保健医療サービスの提供体制」、「医療保険」、「診療報酬制度」、「保健医療領域におけるソーシャルワーカーの役割」を丁寧に学習してください。

権利擁護を支える法制度

科目コード

CE3090



単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	R or SR(講義)	2年以上	菅原 好秀

科目の概要

■科目の内容

本講義は権利擁護の本質を学修し、よりよい支援につなげていくために、法学の本質的理解の獲得を目的とします。認知症、知的障害、精神障害等により判断能力が低下した者の権利が侵害された場合に、権利擁護を支える担い手として社会福祉士、精神保健福祉士への期待が高まっています。

憲法では日本国憲法の中核である「個人の尊重」を踏まえて権利擁護の視点から基本的人権を概説します。民法では紛争解決のために必要となる法原理を概説します。行政法では権利擁護に必要な法原理を概説します。成年後見制度では判断能力が不十分な人々の生活全般の支援方法を、事例を挙げて概説します。権利擁護の意義と支える仕組み、権利擁護活動と意思決定支援については権利擁護活動を実践する過程で直面しうる問題を、法学の視点から何が必要なのかについて説明します。

なお、社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験問題を学問的視点から解説しますので、受験する方はスクーリング受講をおすすめします。

■到達目標

- 1) 権利擁護の概念と関連する法律・制度の概要を理解する。そのうえで、権利擁護の重要な概念である意思決定支援、本人の最善の利益について実践と結び付けて説明、考察することができるようになる。
- 2) 成年後見制度の関連法、法定後見・任意後見制度の内容、手続き方法、制度上の問題・課題、実践上の課題を理解し、事例を挙げて説明、考察できるようになる。
- 3) 日常生活自立支援事業や虐待防止・対応等社会福祉サービスにおける権利擁護の現状と課題を理解し、事例を挙げて説明、考察できるようになる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「専門的知識」「他者への関心と理解」「社会への関心と理解」「問題解決力」「社会貢献力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価30%＋スクーリング評価 or 科目修了試験70%

■教科書・参考図書

【教科書】(「刑事司法と福祉」と共通、1)は「精神保健福祉制度論」と共通、2)は「家庭法」と共通)

- 1) 菅原好秀著『司法と福祉』建帛社、2023年
- 2) 菅原好秀著『権利擁護と法』建帛社、2022年

(最近の教科書変更時期) 2023年4月

(スクーリング時の教科書) 上記教科書は必ず持参してください。旧教科書を所持している場合でも受講に支障がないよう資料などを配付します。

【参考図書】

- 1) 菅原好秀著『リスクマネジメントと法』建帛社、2020年
- 2) 菅原好秀編著『福祉ライブラリ 福祉法学 第2版』建帛社、2020年

■事前に学習してほしい科目

この科目を学ぶにあたり、事前に「法の基礎」「刑事司法と福祉」「家族法」「福祉リスクマネジメント」の教科書を読み、わからないところとわかるところをある程度、分類把握し、わからない用語は参考図書等を活用して調べてください。

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

- 1) 権利擁護を支える憲法、民法、行政法の仕組みを理解する。
- 2) 権利擁護の意義と仕組みについて理解する。
- 3) 権利擁護活動と意思決定支援について理解する。
- 4) 権利擁護活動に必要な組織・団体・専門職について理解する。
- 5) 成年後見制度を支える諸制度を理解する。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	権利擁護の基本原理	福祉と個人の尊重の意義について
2	基本的人権と判例	社会権に関する判例について
3	民法の基本原理	総則、物権、債権、家族法の各意義について
4	成年後見制度の全体像	後見、保佐、補助の各意義について
5	成年後見制度の現状と課題	成年後見制度の現実的な問題点について
6	権利擁護活動	意思決定支援について
7	権利擁護の専門職の役割	権利擁護に関わる組織、団体について
8	権利擁護と法制度	権利擁護を支える法制度の問題点について
9	スクーリング試験	

※オンデマンド・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

■講義の進め方

法律は用語が難解であるため、一度で理解し覚えることは難しいため、できるだけ板書を中心に、教科書を用いながら講義を進めます。しっかりと講義を聴き、ノートをとるようにしてください。

■スクーリング 評価基準

授業への参加状況（20％）とスクーリング試験（80％）で評価します。スクーリング試験は教科書・ノート・配付資料の持込可ですが、パソコンや携帯など電子機器類の持込はできません。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

事前に教科書を読んでわからないところとわかるところをある程度、分類把握し、わからない用語は参考図書等を活用して調べてください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	権利擁護の基本原則	日本国憲法第13条の「個人の尊重」と権利擁護について理解する。	個人の存在価値とは何か、また、個人の差異はなぜ必要なのかについて考えてみましょう。
2	基本的人権と自由権	自由権の制度趣旨と判例を中心に法の解釈について理解する。	エホバの証人事件の事案の概要を踏まえて判旨の内容を理解することが重要です。
3	基本的人権と社会権	社会権の制度趣旨と判例を中心に法の解釈について理解する。	朝日訴訟と堀木訴訟の事案の概要を踏まえて判旨の内容を理解することが重要です。
4	行政法	行政法の概要について理解する。	行政不服申立て、行政事件訴訟法の概要を判例の事案を通じて理解することが重要です。
5	民法の基本原則	民法の全体像について理解する。	民法の総則・物権・債権・親族・相続の相互の関係性について理解することが重要です。
6	成年後見制度	成年後見制度の概要について理解する。	法定後見制度（後見・保佐・補助）について事例を挙げて理解することが重要です。
7	任意後見制度	任意後見制度の概要について理解する。	法定後見制度と任意後見制度の相違について理解することが重要です。
8	成年後見制度の現状と課題	成年後見制度の最近の動向と課題について理解する。	成年後見制度の現状と課題を踏まえて、今後求められる対応策について理解することが重要です。
9	日常生活自立支援事業	日常生活自立支援事業の概要について理解する。	日常生活自立支援事業の概要と成年後見制度との連携について理解することが重要です。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
10	権利擁護の意義と支える仕組みについて	権利擁護の意義と支える法制度の概要について理解する。	苦情解決制度、児童虐待防止法、高齢者虐待防止法、障害者虐待防止法、障害者差別解消法について理解することが重要です。
11	権利擁護にかかわる組織、団体、専門職	権利擁護にかかわる組織、団体、専門職の全体像について理解する。	家庭裁判所、社会福祉協議会、児童相談所、中核機関、弁護士、司法書士、社会福祉士、精神保健福祉士について理解することが重要です。
12	権利擁護活動と意思決定支援	権利擁護活動と意思決定支援の全体像について理解する。	意思決定支援の意義、意思決定支援ガイドライン、インフォームドコンセントについて理解することが重要です。
13	意思決定支援と個人情報保護法	意思決定支援と個人情報保護法の全体像について理解する。	個人情報保護法の制度、秘密保持義務の課題について理解することが重要です。
14	権利擁護と法制度	権利擁護に関する法と制度について理解する。	法と規範、法の体系、種類、機能について理解することが重要です。
15	権利擁護と法制度の現状と課題	権利擁護と法制度の最近の動向と課題について理解する。	権利擁護と法制度の現状と課題を踏まえて、今後求められる対応策について理解することが重要です。

■レポート課題

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	次の課題のなかから1題を選び、論述しなさい。 ①日本国憲法の基本原理の基本的人権と国民主権について述べなさい。 ②成年後見制度について、事例を挙げながら、説明しなさい。 ③意思決定支援について説明しなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

論述にあたっては、法制度の意義、内容を具体的に説明した上で、自分の考えが述べられるようにしてください。

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

1 単位め アドバイス

2 単位め アドバイス

- 1) 基本的人権と国民主権の内容を説明した上、判例についても具体的に言及してください。
- 2) 法定後見制度、任意後見制度の各制度の内容について説明した上で、後見、保佐、補助の各事例について具体的に言及してください。
- 3) 意思決定支援の内容を説明した上で、いわゆる「エホバの証人事件」の裁判事例を挙げて自分なりの視点から具体的に言及してください。

科目修了試験

■評価基準

当該科目の内容理解がなされているかが重要であり、論述の分量（1問あたり400～800字程度）も評価の対象となります。また、法の制度趣旨、意義を述べた上で、現状を踏まえて自分なりの視点から論じられることも評価の対象となります。

刑事司法と福祉			科目コード	CF3174
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	R or SR (講義)	2年以上	菅原 好秀	



■履修登録条件

「権利擁護を支える法制度」をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をする方のみが履修登録できます。

科目の概要

■科目の内容

「刑事司法と福祉」の目的は、高齢者の犯罪や精神障害者の犯罪、非行少年などの諸問題に対して刑事司法機関だけでは対応できないため、福祉関係機関と刑事司法機関が密に連携しながら社会全体で一体となって再犯を防止し社会復帰させることです。犯罪者・非行少年の改善更生を図るために、「再犯防止」「社会復帰」に必要な担い手として社会福祉士や精神保健福祉士が期待されています。

講義では犯罪者、非行少年の事例を挙げて、刑事司法・少年司法分野で活躍する組織、団体及び専門職、刑事司法・少年司法分野の他機関等との連携のあり方、更生保護の概要・担い手、保護観察制度、医療観察制度、犯罪被害者等支援を中心に学んでいきます。

刑事司法全体を概観し、相談援助活動に必要な更生保護制度について学ぶことにより、論理的・創造的な法的思考能力を図り、修得した知の経験を社会や他者のために還元できる意欲と能力の向上を図ることを目的とします。

なお、社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験問題を学問的視点から解説しますので、受験する方はスクーリング受講をおすすめします。

■到達目標

- 1) 刑事司法と福祉の概要について説明することができる。
- 2) 更生保護制度の担い手について説明することができる。
- 3) 医療観察制度の制度趣旨と問題点について説明することができる。
- 4) 保護観察制度の制度趣旨と問題点について説明することができる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「専門的知識」「他者への関心と理解」「社会への関心と理解」「アセスメント力」「問題解決力」「社会貢献力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価30%＋スクーリング評価 or 科目修了試験70%

■教科書・参考図書

【教科書】(「権利擁護を支える法制度」と共通、1)は「精神保健福祉制度論」と共通、2)は「家庭法」と共通)

- 1) 菅原好秀著『司法と福祉』建帛社、2023年
- 2) 菅原好秀著『権利擁護と法』建帛社、2022年

※「権利擁護を支える法制度」で配本のため、この科目での教科書配本はありません。

【参考図書】

- 1) 菅原好秀編著『福祉ライブラリ 福祉法学 第2版』建帛社、2020年
- 2) 菅原好秀著『リスクマネジメントと法』建帛社、2020年
- 3) 犯罪白書(インターネットの検索サイトで各年度を参照してください)

■事前に学習してほしい科目

この科目を学ぶにあたり、事前に「法の基礎」「権利擁護を支える法制度」「家族法」「福祉リスクマネジメント」の教科書を読み、わからないところとわかるところをある程度、分類把握し、わからない用語は参考図書等を活用して調べてください。

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

スクーリングでは犯罪者、非行少年が共生社会の一員として、社会に貢献できる人材として総合的支援をするためには何が必要なのか、また更生への意欲を妨げている現状と課題について重点的に学んでください。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	刑事司法と福祉の全体像について	施設内処遇と社会内処遇について
2	保護観察制度	保護観察制度の現状と課題について
3	更生保護の担い手	保護司・更生保護女性会・BBS会について
4	医療観察制度	医療観察制度の手続きについて
5	犯罪被害者等支援	犯罪被害者等支援に関する法制度について
6	高齢犯罪者	高齢犯罪者の実態と処遇について
7	少年非行	少年非行の現状と課題について
8	刑事司法と福祉の課題	刑事司法における福祉の役割と今後の展望について
9	スクーリング試験	

※オンデマンド・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

■講義の進め方

法律は用語が難解であるため、一度で理解し覚えることは難しいため、できるだけ板書を中心に、教科書を用いながら講義を進めます。しっかりと講義を聴き、ノートをとるようにしてください。

■スクーリング 評価基準

授業への参加状況（20％）とスクーリング試験（80％）で評価します。スクーリング試験は教科書・ノート・配付資料の持込可ですが、パソコンや携帯など電子機器類の持込はできません。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

事前に教科書を読んでわからないところとわかるところをある程度、分類把握し、わからない用語は参考図書等を活用して調べてください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	更生保護制度	更生保護制度の概要について学びます。	刑事司法の中の更生保護の位置づけについて説明できることが重要です。
2	仮釈放等	仮釈放等の制度概要について学びます。	仮釈放等の種類、手続きについて理解することが重要です。
3	保護観察制度	保護観察制度の概要について学びます。	保護観察の目的・方法について理解することが重要です。
4	保護観察対象者の現状と課題	保護観察対象者の現状と課題について学びます。	保護観察対象者の現状と課題を踏まえて今後求められる対応策について説明できることが重要です。
5	生活環境の調整	生活環境の調整について学びます。	収容中の者に対する生活環境の調整について説明できることが重要です。
6	更生緊急保護制度	更生緊急保護制度の概要について学びます。	更生緊急保護制度の意義、対象となる者について理解することが重要です。
7	更生緊急保護制度の現状と課題	更生緊急保護制度の現状と課題について学びます。	更生緊急保護制度の現状と課題を踏まえて今後求められる対応策について説明できることが重要です。
8	犯罪被害者等支援	犯罪被害者等支援について学びます。	犯罪被害者等にかかわる支援機関とその役割を理解し犯罪被害者等が活用できる制度を説明できることが重要です。
9	保護観察官	保護観察官について学びます。	保護観察官の意義と役割について説明できることが重要です。
10	保護司	保護司について学びます。	保護司の意義と役割について説明できることが重要です。
11	更生保護施設	更生保護施設について学びます。	更生保護施設の意義と役割について説明できることが重要です。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
12	民間協力者	民間協力者について学びます。	更生保護女性会、BBS会、協力雇用主について説明できることが重要です。
13	更生保護制度における関係機関・団体との連携	更生保護施設における関係機関・団体との連携について学びます。	裁判所、検察庁、矯正施設、児童相談所との関わりについて説明できることが重要です。
14	医療観察制度	医療観察制度の概要について学びます。	医療観察制度の制度背景、各制度趣旨について理解することが重要です。
15	医療観察制度の現状と課題	医療観察制度の現状と課題について学びます。	医療観察制度の現状と課題をふまえて今後求められる対応策について説明できることが重要です。

■レポート課題

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	医療観察制度について論ぜよ。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

論述にあたっては、法制度の意義、内容を具体的に説明した上で、自分の考えが述べられるようにしてください。

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

1 単位め
アドバイス

医療観察制度の背景、目的、手続き、社会復帰調整官の業務を述べた上で、医療観察制度の現状と課題について言及してください。

2 単位め
アドバイス

科目修了試験

■評価基準

当該科目の内容理解がなされているかが重要であり、論述の分量（1問あたり400～800字程度）も評価対象となります。また、法の制度趣旨、意義を述べた上で、現実との関連から自分なりの視点が述べられていることも評価の対象となります。

ソーシャルワーク演習 (社会福祉士)			科目コード	CN3251
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	SR(演習)	2年以上	三浦 剛/君島 昌志/眞嶋 智彦/高野 亜紀子/ 二渡 努/芳賀 恭司/齋藤 征人/須田 仁 ほか	

◇科目コード

目的資格	科目コード	掲載ページ
社会福祉士受験資格	CN3251	p.157(当ページ)
精神保健福祉士受験資格	CW3283	p.242

※目的資格によって異なります。履修登録の際、ご注意ください。

※両方の資格希望者は「ソーシャルワーク演習 (社会福祉士)」**科目コード：CN3251のみ**を履修してください。

科目の概要

■科目の内容

この科目では、ソーシャルワーク専門職に求められる相談援助に係る基本的知識と技術について、実践的に習得することを目的としています。単なる理論的な学習では、支援を必要としている人たちが抱える課題の解決やニーズの充足を満たすことはできません。理論を実践に役立てるためには、ソーシャルワークについて事例検討や疑似体験などを通して専門的に学習することが重要です。

本演習では、ソーシャルワークにおける理論や専門知識を踏まえた上で、特に、倫理観、価値観、援助の原理、展開過程などの基本的なソーシャルワーク実践の知識と技術を中心に、ロールプレイなどの疑似体験、グループ討議などアクティブラーニングを通して、能動的、主体的に学習することを目的としています。

■到達目標

- 1) 視点、モデル、アプローチなどソーシャルワークの枠組みが説明できる
- 2) 社会福祉専門職としての「自己」について、自己覚知を通して客観的な視点から説明できる
- 3) 社会福祉の倫理、価値規範について説明できる
- 4) 言語的、非言語的コミュニケーションの基礎を身につけ、基本的な面接技術を学習の場で実践できる
- 5) 相談援助の過程について事例を通して具体的にイメージすることができ、説明できる
- 6) 相談援助の基盤と専門性について説明できる

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「専門的知識」「他者への関心と理解」「社会への関心と理解」「自尊尊重的コミュニケーション力」「他者配慮表現力」「アセスメント力」「問題解決力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価40%＋スクーリング評価60%

■教科書・参考図書

【教科書】

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座〔共通科目〕13 ソーシャルワーク演習（共通科目）』中央法規出版、2021年

（スクーリング時の教科書）上記教科書を使用します。

【参考図書】

- 1) 山縣文治・柏女霊峰編『社会福祉用語辞典 第9版』ミネルヴァ書房、2013年
- 2) 社会福祉法人大阪ボランティア協会編『福祉小六法2022』中央法規出版、2021年

スクーリング

■スクーリング受講申込上の注意

- ・この科目は、スクーリングの受講が必須となります。
- ・1クラス20人以内の少人数で開講します。
- ・受講料は10,000円となります。
- ・受講許可証・納入依頼書は、各受講判定日（申込締切日）以降に発送いたします。
- ・スクーリング開講日・申込締切日は、『試験・スクーリング情報ブック』または『With』を参照ください。
- ・申込方法は、『With』でご案内します。
- ・クラス分けは無作為に行いますので、教員の指定はできません。
- ・申込締切後の受講日・受講地の変更は受け付けません。必ずしも第一希望での受講ができない場合があります。ご了承ください。
- ・公共交通機関の延着を除き、遅刻・欠席は認められません。また、スクーリング終了時間前の退席も認められません。

■スクーリング受講条件

受講判定日までに

- ①（入学後1年以上経過した方は）卒業要件単位数20単位以上（認定単位を除く）の修得
- ②「ソーシャルワーク演習」1単位めレポートの提出
- ③「ソーシャルワークの基盤と専門職」1単位めレポートの提出（客観式のため要合格）

※各提出期日は『試験・スクーリング情報ブック』または『With』を参照。

※各受講条件は、見直しにより変更となる場合があります。

■スクーリング受講・単位認定について

演習のスクーリングにおいては、自己紹介、学生同士の話し合いや発表・ロールプレイング等の実

施を予定しており、積極的な参加が求められます。

また、スクーリング時間内およびスクーリング試験において、ソーシャルワーク実践に関する基本的な視点や態度をどの程度修得することができたかについて確認をしていただきます。その確認内容が、スクーリングで学んだことと著しく相違していると思われる内容である場合には再履修となります（スクーリング試験は60点以上が必須。持ち込み不可。追試験等は一切ありません）。

出席、演習への取り組み、レポートなどにより総合的に評価し単位認定します（前項「■科目評価基準」参照）。

※単位修得できなかった方が再受講する場合、当該スクーリングの申込みは改めて必要になりますが、既に合格済みのレポートは有効となります。

■体験学習

詳細は、「ソーシャルワーク演習」スクーリング時の「体験学習・実習ガイダンス」において説明します（実習希望者出席必須）。

※実習免除者は、「体験学習・実習ガイダンス」の出席は不要。

■養成課程履修費について

「ソーシャルワーク演習」スクーリング受講が許可された方へ納入依頼書を送付します。期限までに納入してください。

※納入されない場合、「演習」、「実習指導」、「実習」の受講ができなくなりますので、ご注意ください。

■スクーリングで学んでほしいこと

- 1) ソーシャルワークの基盤となる倫理、価値規範について体験的に理解する
- 2) 能動的な参加姿勢による自己覚知を体験する
- 3) コミュニケーション能力や基本的な面接技術を身につける
- 4) 事例検討を通して実際の相談援助の過程を理解する

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	オリエンテーション ソーシャルワーク専門職としての価値規範及び倫理の理解①	演習の目的、内容、評価基準等の確認 ロールプレイや援助場面を想定した事例研究、価値規範、倫理についてのディスカッション
2	ソーシャルワーク専門職としての価値規範及び倫理の理解②	上記の学習を通して、専門職の活動を具体的にイメージしたプレゼンテーション
3	援助関係の基盤となる他者理解、自己理解	事例研究、面接場面のロールプレイ、専門職としての他者理解、自己理解を通じた自己覚知
4	ソーシャルワークの展開過程の理解	インテークから終結までのソーシャルワークの過程を事例研究、ロールプレイを通じたプレゼンテーション
5	基本的なコミュニケーション技術の習得①	面接場面のシナリオを使用して役割取得訓練を行い、コミュニケーション技術の基本を確認、表現する

回数	テーマ	内容
6	基本的なコミュニケーション技術の習得②	非言語の意味を理解し、トータル・コミュニケーションとしての面接を役割取得、ロールプレイ場面で表現する
7	面接技術の基礎を学ぶ①	ソーシャルワークにおける面接の目的と特性について学び、場面設定などの具体的な留意点に関するディスカッション
8	面接技術の基礎を学ぶ②	事例、シナリオを使用して、面接場面を役割取得、ロールプレイを行い、振り返りを通して面接技術の基礎を習得する
9	スクーリング試験	提示された論題について筆記試験を行う

■講義の進め方

- 1) パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めます。
- 2) 教科書は参考程度に使用し、配付資料をもとに板書もしながら進めます。
- 3) グループになって取り組むことがあります
- 4) ロールプレイ（役割演技、疑似体験）を行うため、動きやすい服装、靴が望ましい。
- 5) 児童虐待やDV等に関する事例検討がありますので、苦手な人は無理せず一時的に退室してください。

■スクーリング 評価基準

スクーリングの最後に試験を行います。スクーリング中に学んだ内容とソーシャルワークの専門知識を結びつけて論じる内容になります（持ち込み不可）。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

教科書の第1章を読んでください

講義内容の関心あるテーマについて、自分なりに学びたいことを考えてください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

教科書の第2章～第5章を復習してください。また、レポート学習に取り組んでください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	社会福祉士に求められる役割①	社会福祉士に求められる役割について、法制度の成立から今日まで、時代の要請の変遷を理解する。 キーワード：国家資格、名称独占	複雑化、多様化するニーズに応えるために、ソーシャルワーク、ソーシャルワーカーに求められているものはなにか、考えてみましょう。 (テキスト第1章)

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
2	社会福祉士に求められる役割②	社会福祉士に求められる倫理について「日本社会福祉士会の倫理綱領」を読み、理解する。 キーワード：倫理綱領	「ソーシャルワーカーの倫理綱領」の意義やソーシャルワーカーのあるべき姿について考えてみましょう。 (テキスト第3章)(公益社団法人日本社会福祉士会 HP)
3	社会福祉士に求められる役割③	社会福祉士に求められる倫理について「日本ソーシャルワーカー連盟(JFGSW)の倫理綱領」を読み、理解する。 キーワード：倫理綱領	「ソーシャルワーカーの倫理綱領」の意義やソーシャルワーカーのあるべき姿について考えてみましょう。 (テキスト第3章)(日本ソーシャルワーカー連盟 HP)
4	人と環境の交互作用	生活モデル、システム理論、バイオ・サイコ・ソーシャルモデルの3つのモデルの基本的な理解 キーワード：交互作用	それぞれの事例に取り組み、ソーシャルワークが人と環境の交互作用に焦点をあてながら、どのように利用者理解や現状の把握を行い、支援につなげるのか、考えてみましょう。 (テキスト第2章)
5	コミュニケーション技術と面接技術	ソーシャルワークにおけるコミュニケーション技術の基本的な理解 キーワード：言語、非言語コミュニケーション	利用者との基本的な関わりにおけるコミュニケーション技術には構造があり、また、言語的、非言語的なコミュニケーションそれぞれの役割があることを考えてみましょう。 (テキスト第4章)
6	ソーシャルワークの原理・原則①	ソーシャルワークを实践する上でのソーシャルワーカーが取るべき行動規範であるバイスティックの7つの原則を理解する。 キーワード：ケースワーク、ラポール	バイスティックの7つの原則のうち「個別化」「意図的な感情表出」「統制された情緒関与」の原則について、概要をまとめてみましょう。 (テキスト第3章、他のテキスト等)
7	ソーシャルワークの原理・原則②	ソーシャルワークを实践する上でのソーシャルワーカーが取るべき行動規範であるバイスティックの7つの原則を理解する。 キーワード：ケースワーク、ラポール	バイスティックの7つの原則のうち「受容」「非審判的態度」「自己決定」「秘密保持」の原則について、概要をまとめてみましょう。 (テキスト第3章第2節、他のテキスト等)
8	ソーシャルワークの展開過程①	ソーシャルワークの展開過程のなかでもケースの発見、エンゲージメント(インテーク)について理解する。 キーワード：通告、要援護者の発見、アウトリーチ、保護、インテーク	ソーシャルワークの展開過程の各段階について確認しましょう。事例を通して演習課題に取り組み、解説を確認してみましょう。 (テキスト第5章第1節、他のテキスト等)
9	ソーシャルワークの展開過程②	ソーシャルワークの展開過程のなかでもアセスメント(現状把握)について理解する。 キーワード：フェイスシート、アセスメント表	ソーシャルワークの展開過程の各段階について確認しましょう。事例を通して演習課題に取り組み、解説を確認してみましょう。 (テキスト第5章第2節、他のテキスト等)

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
10	ソーシャルワークの展開過程③	ソーシャルワークの展開過程のなかでもアセスメント（現状把握）について理解する。 キーワード：エコマップ、ジェノグラム	ソーシャルワークの展開過程の各段階について確認しましょう。自分自身のエコマップ、ジェノグラムの作成に取り組み、ビジュアル的に現状を把握する方法について確認してみましょう。 (テキスト第5章第2節、他のテキスト等)
11	ソーシャルワークの展開過程④	ソーシャルワークの展開過程のなかでもプランニング（支援計画）について理解する。 キーワード：支援計画書、多職種・多機関との連携	ソーシャルワークの展開過程の各段階について確認しましょう。事例を通して演習課題に取り組み、解説を確認してみましょう。 (テキスト第5章第3節、他のテキスト等)
12	ソーシャルワークの展開過程⑤	ソーシャルワークの展開過程のなかでもプランニング（支援計画）について理解する。 キーワード：支援計画書、多職種・多機関との連携・協力	ソーシャルワークの展開過程の各段階について確認しましょう。テキストに記載されたプランニング案をもとに、プランニングの実施に必要なとされる専門機関、専門職について確認してみましょう。 (テキスト第5章第3節、他のテキスト等)
13	ソーシャルワークの展開過程⑥	ソーシャルワークの展開過程のなかでも支援の実施とモニタリングについて理解する。 キーワード：実施状況の確認、課題や目標に対する評価	ソーシャルワークの展開過程の各段階について確認しましょう。事例を通して演習課題①に取り組み、解説を確認してみましょう。 (テキスト第5章第4節、他のテキスト等)
14	ソーシャルワークの展開過程⑦	ソーシャルワークの展開過程のなかでも支援の実施とモニタリングについて理解する。 キーワード：再アセスメント、再プランニング	ソーシャルワークの展開過程の各段階について確認しましょう。事例を通して演習課題②に取り組み、解説を確認してみましょう。 (テキスト第5章第4節、他のテキスト等)
15	ソーシャルワークの展開過程⑧	ソーシャルワークの展開過程のなかでも支援の終結と結果評価について理解する。 キーワード：評価、分析	ソーシャルワークの展開過程の各段階について確認しましょう。事例を通して演習課題に取り組み、解説を確認してみましょう。 (テキスト第5章第5節、他のテキスト等)

■レポート課題

※次ページの「レポートの提出方法」を参照のうえ、作成・提出すること。

1 単位め	(スクーリング事前課題) 心理社会的アプローチ、機能的アプローチなど主要なアプローチの特徴と共通基盤を説明してください。
-------	---

2 単位め	(スクーリング事後課題) 社会福祉実践において、なぜ、ソーシャルワーカーには自己覚知が大切なのか。演習での体験を踏まえながら述べてください。
-------	--

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

レポートは自分の考えを自分の言葉で表現してください。

自分の経験、エピソードを引用しながら考察することは理論と実践の接続の試みでもあるので推奨しますが、個人や団体等が特定されて、後にトラブルにならないよう、支障のない範囲での記述を心がけてください。

引用または参考にした文献、資料の出典は必ず記載するようにしてください。

1 単位め アドバイス

ケースワークは100年ほどの歴史をもっています。人々の生活環境の変化とともに、ケースワークの理論は実践を通して発展してきました。社会が複雑化、多様化するなかで様々なアプローチが登場し、これまで、およそ15のアプローチが築かれたと言われています。

このレポートでは受講者自身が関心をもった、いくつかのアプローチについてのその系譜を紹介しながら、その時代背景と結びつけて論じてください。そのなかでアプローチごとの相違点と共通点についてまとめてください。

2 単位め アドバイス

社会福祉実践において他者を援助するに当たっては、適切な他者理解が必要です。他者理解を得るためには、適切な自己理解が援助者としてはとても大切になります。利用者と向き合った時に自分自身の考え方や、性格、価値観などについての「気づき・自己覚知」が出てきます。過去の出来事が自分の性格や、癖、行動傾向などによって現在の自分が作り上げられています。ここでの「気づき・自己覚知」についてまとめてみることによって、自己理解に役立てることができます。このような視点からの「気づき・自己覚知」について論じても結構です。

また、社会福祉実践において援助者は、コミュニケーションを通して効果的な援助を展開していきます。コミュニケーションについては、言語コミュニケーション、非言語コミュニケーションの理解が必要です。ここでは、言語コミュニケーションにおける自分自身についての「気づき・自己覚知」や非言語コミュニケーション（視線、姿勢、表情、音声、距離、位置）などについての「気づき・自己覚知」なども大切です。これらを通しての自分自身のコミュニケーションの特性についての「気づき・自己覚知」について感じたことをまとめてみることも大切です。このような視点からの「気づき・自己覚知」について論じても結構です。

あるいはこのレポート課題について、あらためて自分自身の日常生活における行動や考え方、癖などについての新たな「気づき・自己覚知」や、これまでの生活を振り返って感じた「気づき・自己覚知」、社会福祉専門職を目指すものとしての「気づき・自己覚知」について論じても結構です。

■レポートの提出方法

- 1) 1 課題につき、1 冊のレポート提出台紙を使用してください。
- 2) 1 単位のレポート文字数は、2,000字程度ですが、最長4,000字程度まで記入していただいても結構です。パソコン印字の場合→左右40字×30行×2～4枚まで可。
- 3) 教員名の欄には記入しないでください。
- 4) 各レポートは、所定の提出締切日までに提出してください（『試験・スクーリング情報ブック』または『With』参照）。
- 5) 1 単位めレポート（スクーリング事前課題）は、スクーリング申込・受講条件達成を確認後、教員が添削します。

ソーシャルワーク演習Ⅰ			科目コード	CN4252
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
3	SR(演習)	3年以上	三浦 剛/関川 伸哉/高野 亜紀子/清水 冬樹/ 芳賀 恭司/二渡 努/眞嶋 智彦/石田 力/須田 仁 ほか	

■履修登録条件

「ソーシャルワークの基盤と専門職」「ソーシャルワーク演習」をすでに履修登録済みか、同時に履修登録する方のみが履修登録できます。

※実習を受講予定の方は「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」「ソーシャルワーク実習Ⅰ」を同時に履修登録してください。

科目の概要

■科目の内容

社会福祉士として求められる専門的資質、専門知識、専門技術の習得を図ることを目的とする。社会福祉士の専門知識、専門技術として求められる相談援助の一連の過程について、具体的事例（社会的排除、児童問題、高齢者問題、家庭内問題、低所得者、ホームレス等）を通してその内容を熟知する。また、地域づくりに関しての基本的知識・技術の習得を図ることに焦点をあて、社会資源の活用や開発、利用者理解・社会生活上の課題理解を深めていくことを目的とする。

- 1) ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得する。
- 2) 社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を養う。
- 3) 支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解する。
- 4) 地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解する。
- 5) ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する。
- 6) 実践の質の向上を図るため、スーパービジョンについて体験的に理解する。

■到達目標

ソーシャルワーク（社会福祉援助技術）の具体的実践の習得に焦点をあて、利用者理解・社会生活上の課題理解を深められ、ロールプレイなどで実践できる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「専門的知識」「他者への関心と理解」「社会への関心と理解」「自己尊重のコミュニケーション力」「他者配慮表現力」「自己コントロール力」「アセスメント力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価40%＋スクーリング評価60%

■教科書・参考図書

【教科書】(「ソーシャルワーク演習Ⅱ」と共通)

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座〔専門科目〕7 ソーシャルワーク演習（社会専門）』中央法規出版、2021年

(スクーリング時の教科書) 上記教科書は必ず持参してください。

【参考図書】

- 1) 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座〔共通科目〕12 ソーシャルワークの理論と方法（共通科目）』中央法規出版、2021年
- 2) 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座〔共通科目〕11 ソーシャルワークの基盤と専門職（共通・社会専門）』中央法規出版、2021年
- 3) 稲沢公一、岩崎晋也編著『社会福祉をつかむ【第3版】』有斐閣、2019年
- 4) 東洋大学福祉社会開発研究センター編集『社会を変えるソーシャルワーク（新・MINERVA 福祉ライブラリー35）』ミネルヴァ書房、2020年
- 5) 木村容子、小野眞知子編著『ソーシャルワーク論Ⅰ：基盤と専門職』法律文化社、2023年

スクーリング

■スクーリング受講申込上の注意

- 1) この科目は、スクーリングの受講が必須となります。
- 2) 1クラス20人以内の少人数で開講します。
- 3) 受講料は10,000円となります。
- 4) 受講許可証・納入依頼書は、各受講判定日（申込締切日）以降に発送します。
- 5) スクーリング開講日・申込締切日は、『試験・スクーリング情報ブック』または『With』を参照ください。
- 6) 申込方法は、『With』でご案内します。
- 7) クラス分けは無作為に行いますので、教員の指定はできません。
- 8) 申込締切後の受講日・受講地の変更は受け付けしません。必ずしも第一希望での受講ができない場合があります。ご了承ください。
- 9) 公共交通機関の延着を除き、遅刻・欠席は認められません。また、スクーリング終了時間前の退席も認められません。

■スクーリング受講条件

受講判定日（＝スクーリング申込締切日）までに

- ①「ソーシャルワークの基盤と専門職」の2単位めレポート提出

- ② 「ソーシャルワーク演習」の2単位めレポート提出
- ③ 「ソーシャルワーク演習Ⅰ」の1単位めレポート提出
- ④ 「ソーシャルワーク演習」スクーリング試験の合格
- ⑤ (入学後1年以上経過した方は) 認定単位を除き20単位以上の修得

※各提出期日は『試験・スクーリング情報ブック』または『With』を参照。

※各受講条件は、見直しにより変更となる場合があります。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	ソーシャルワークの実際を理解する① (虐待、ひきこもり)	支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する支援について、事例を用いて理解する。事例研究の発表を行い、グループディスカッションを行う。
2	ソーシャルワークの実際を理解する② (貧困、認知症)	支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する支援について、事例を用いて理解する。事例研究の発表を行い、グループディスカッションを行う。
3	ソーシャルワークの実際を理解する③	これまでの事例をふまえ、ソーシャルワークの価値、倫理的な判断をテーマとしたピアスーパービジョン（グループスーパービジョン）を行う。
4	ソーシャルワークの実際を理解する④ (終末期ケア、災害時支援)	支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する支援について、事例を用いて理解する。事例研究の発表を行い、グループディスカッションを行う。
5	ソーシャルワークの実際を理解する⑤ (虐待、権利擁護、アドボカシー)	支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する支援について、事例を用いて理解する。事例研究の発表を行い、グループディスカッションを行う。
6	ソーシャルワークの実際を理解する⑥ (地域の基盤整備と開発)	支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する支援について、事例を用いて理解する。事例研究の発表を行い、グループディスカッションを行う。
7	ソーシャルワークの実際を理解する⑦	1～6回で学習した事例を振り返り、ソーシャルワークにおける総合的包括的支援についてディスカッションし、発表する。
8	ソーシャルワークの実際を理解する⑧	これまでの事例をふまえ、ソーシャルワークの価値、倫理的な判断をテーマとしたピアスーパービジョン（グループスーパービジョン）を行う。
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

教科書や配布資料の事例などを用いて演習を進めます。

なお、演習のスクーリングでは「参加」の姿勢が大切です。

■スクーリング 評価基準

スクーリングの最後に試験をおこないます。「技術」がどの程度身についたかを直接テストすることはできませんが、このスクーリングを通して、どの程度ソーシャルワークの価値・倫理、知識、技術が、

具体的に理解できたかを問います。スクーリング中に学んだ内容から出題します。スクーリング中はこれまで学修した内容を具体的に理解するよう努めてください。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

「ソーシャルワークの基盤と専門職」、「ソーシャルワークの理論と方法」など、ソーシャルワークについてのこれまでの復習を必ずしてください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	ソーシャルワークの価値・規範(1)	ソーシャルワークの価値、倫理について	ソーシャルワーク専門職のグローバル定義、社会正義や多様性の尊重などの具体的理解をめざす
2	ソーシャルワークの価値・規範(2)	ソーシャルワーカー(社会福祉士等)としての倫理、行動規範について	職能団体の倫理綱領、行動規範などを参考にする
3	ソーシャルワークの価値・規範(3)	倫理的ジレンマの解決など、価値規範にかかわるソーシャルワークの実際について	当該箇所の事例などを用いて学習する
4	ソーシャルワークの知識と技術(1)	ソーシャルワークの知識と技術について	教科書等で確認し、体系的理解と概念化を目指す
5	ソーシャルワークの知識と技術(2)	ソーシャルワークの過程について	教科書等で確認し、具体的理解を目指す
6	ソーシャルワークの知識と技術(3)	実践について	ソーシャルワーク体系を意識し、実践事例を探し、あてはめる
7	ソーシャルワークを利用する人、状況の理解(1)	社会的排除による重層的な問題について	8050問題、ゴミ屋敷問題、引きこもりなど関係性からの排除によって起こる今日的な社会課題について、その発生のメカニズムなどを調べる
8	ソーシャルワークを利用する人、状況の理解(2)	現代的な課題解決の方法について	総合的、包括的な支援とは何か、調べる
9	ソーシャルワークを利用する人、状況の理解(3)	そのためのソーシャルワーク実践について	実際の実践事例などを探してみる
10	地域課題の把握と解決の方法(1)	地域の特性や課題の理解について	現代的な地域課題について、文献などから学ぶ
11	地域課題の把握と解決の方法(2)	地域特性や課題の把握の方法について	地域アセスメントの方法などについて、具体的に調べる
12	地域課題の把握と解決の方法(3)	地域課題解決の方法について	実際の実践事例などを探し、検討する

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
13	ミクロからマクロ・レベルまでのソーシャルワークの連続性(1)	ミクロからマクロ・レベルまでのソーシャルワークの連続性について	それぞれのレベルの意味を知り、課題がどのように発生するか調べる
14	ミクロからマクロ・レベルまでのソーシャルワークの連続性(2)	ミクロからマクロ・レベルまでのソーシャルワークの展開過程について	実際の実践事例を調べ、検討する
15	ミクロからマクロ・レベルまでのソーシャルワークの連続性(3)	ミクロからマクロ・レベルまでのソーシャルワークの実践について	実践モデルやアプローチを調べる

■レポート課題

1 単位め	社会問題、社会福祉の課題とされている事例を選び（ご自身が関わったこと、新聞や文献などから得たこと、これまで受けた講義、演習などから）、ソーシャルワークの価値、展開過程について解説し、考察を行ってください。 *事例とは特定の個人、家族などのことではなく、社会問題、社会福祉の課題を取り上げてください。（担当：関川 伸哉）
2 単位め	地域におけるソーシャルワークについて、アウトリーチが用いられた事例を取り上げながらその実践展開過程（プロセス）をまとめ、クライアントが自らの社会福祉課題と向き合う機会をソーシャルワーカーはどのように構築することが求められるのか、あなたの考えを述べてください。（担当：清水 冬樹）
3 単位め	複合的、重層的な課題を抱える人への包括的支援について、その特徴と支援に携わるソーシャルワーカーに求められる専門性についてまとめてください。（担当：二渡 努）

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

1 単位め アドバイス

事例とは特定の個人、家族、地域などのことではなく、そこで展開されたソーシャルワークのことをいいます。ソーシャルワークの展開過程をしっかりと意識して、自分のことばで、文章構成を明確に述べましょう。使用した事例などの出所を明示してください。

- ・レポート作成の際には、3つ以上の参考・引用文献を用い、最後に記載してください。
- ・レポート作成の際、引用個所がわかるように本文中に引用文献番号を必ず記載してください。
例) 2023年厚生労働省〇〇調査によれば、〇〇〇〇とされている¹⁾。
- ・必ず、以下の章立てを行ってください。

1. 事例概要について
2. 本事例を用いたソーシャルワークの価値について
3. 本事例を用いたソーシャルワーク展開過程について
4. まとめ

引用・参考文献

注意) HP 以外の参考・引用文献も使用してください。

2 単位め アドバイス

アウトリーチを展開していく中でクライアント自身が直面している社会福祉課題を自分事として向き合い、解決に向かっていくために、ソーシャルワーカーはどのような役割を担うことが求められるのか、地域における社会福祉実践の事例を手がかりにしながらまとめてみましょう。その際、(1) 事例の概要、(2) ソーシャルワーカーによるアウトリーチの実際と展開について、自身の考えを交えず客観的に記述し、(3) 自身の考えを述べてください。自身の考えを整理する際、エンパワメントの4つのフェーズ（個人、集団、コミュニティ、政治の各レベル）について触れられると良いです。なお、事例について何か参考にしたものがあれば、必ず出典を明記してください。

3 単位め アドバイス

人と人、人と制度などの「関係性」が切られた状態が、8050問題、引きこもり、ゴミ屋敷、虐待、ワーキングプアなどの問題を引き起こす、社会的排除の状態です。近年のソーシャルワークの目的は、その排除の解決、いいかえれば「社会的包摂」の実現を目指すことです。

ソーシャルワークでは「重層的、包括的」にこれらの問題に対応しようとしませんが、その具体的方法、過程、それを行うための組織運営などについて、具体的イメージができるように事例なども参考にまとめてみましょう。

引用、参考共に文献は本文中に明示し、巻末リストと対応させましょう。

■レポートの提出方法

- 1) 1 課題につき、1 冊のレポート提出台紙を使用してください。
- 2) 1 単位のレポート文字数は、2,000 字程度ですが、最長4,000 字程度まで記入していただいても結構です。パソコン印字の場合→左右40 字 × 30 行 × 2 ～ 4 枚まで可。
- 3) 教員名の欄には、課題ごとの担当教員名を記載してください。
- 4) 各レポートは、所定の提出締切日までに提出してください（『試験・スクーリング情報ブック』または『With』参照）。

実習選考試験

■実習選考試験

- 1) 実習受講希望者を対象に、スクーリング1 日目の講義終了後に実習選考試験を実施します。

スクーリング1 日目、講義終了後	実習選考試験
スクーリング2 日目、最終コマ	スクーリング試験

- 2) 実習選考試験またはスクーリング試験が不合格となった場合、当年度の「ソーシャルワーク実習Ⅰ」の申込は無効となります。
- 3) 実習免除者は実習選考試験の対象外となり、スクーリング試験のみ受講します。
- 4) 前年度までに選考試験の合格にいたらず、今年度再受験を希望する場合は、本スクーリングの申込書にて選考試験の申込みをしてください。

ソーシャルワーク演習Ⅱ			科目コード	CN5253
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
3	SR(演習)	4年以上	三浦 剛／元村 智明／高野 亜紀子／清水 冬樹／ 眞嶋 智彦／二渡 努／芳賀 恭司 ほか	

■履修登録条件

受講条件の達成に必要な科目をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をする方のみが履修登録可能です。

科目の概要

■科目の内容

社会福祉士に求められるソーシャルワークに係る知識と技術について、総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例（社会的排除、児童問題、高齢者問題、家庭内問題、低所得者、ホームレス等）を取り上げ、個別指導並びに集団指導を通して、ソーシャルワークの知識・技術の習得を図る。また、地域づくりに関しての基本的知識・技術の習得を図ることに焦点をあて、社会資源の活用や開発、利用者理解・社会生活上の課題理解を深めていくことを目的とする。

- 1) ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得する。
- 2) 社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を養う。
- 3) 支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解する。
- 4) 地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解する。
- 5) ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する。
- 6) 実践の質の向上を図るため、スーパービジョンについて体験的に理解する。

■到達目標

ソーシャルワーク実習で習得した知識と技術をより実践的なものへと成長させ、演習の場面で実践できる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「専門的知識」「他者への関心と理解」「社会への関心と理解」「自尊尊重的コミュニケーション力」「他者配慮表現力」「自己コントロール力」「アセスメント力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

演習・スクーリングへの取り組み、レポートなどにより総合的に評価する。

■教科書・参考図書

【教科書】(「ソーシャルワーク演習Ⅰ」と共通)

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新 社会福祉士養成講座〔専門科目〕7 ソーシャルワーク演習(社会専門)』中央法規出版、2021年

(スクーリング時の教科書) 上記教科書は必ず持参してください。

【参考図書】

- 1) 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座〔共通科目〕12 ソーシャルワークの理論と方法(共通科目)』中央法規出版、2021年
- 2) 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座〔共通科目〕11 ソーシャルワークの基盤と専門職(共通・社会専門)』中央法規出版、2021年

スクーリング

■スクーリング受講申込上の注意

- 1) この科目は、スクーリングの受講が必須となります。
- 2) 1クラス20人以内の少人数で開講します。
- 3) 受講料は10,000円となります。
- 4) 受講許可証・納入依頼書は、各受講判定日(申込締切日)以降に発送します。
- 5) スクーリング開講日・申込締切日は、『試験・スクーリング情報ブック』または『With』を参照ください。
- 6) 申込方法は、『With』でご案内します。
- 7) クラス分けは無作為に行いますので、教員の指定はできません。
- 8) 申込締切後の受講日・受講地の変更は受け付けません。必ずしも第一希望での受講ができない場合があります。ご了承ください。
- 9) 公共交通機関の延着を除き、遅刻・欠席は認められません。また、スクーリング終了時間前の退席も認められません。

■スクーリング受講条件

受講判定日(=スクーリング申込締切日)までに

(1) 実習受講者

- ① 実習申込受理判定に合格していること。
- ② 「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ-1」スクーリングを受講していること。
- ③ その他、『ソーシャルワーク実習』の手引き 第1分冊も参照してください。

(2) 実習免除者

- ① 「ソーシャルワーク演習Ⅰ」「ソーシャルワーク演習Ⅱ」の単位修得
- ② 「ソーシャルワーク演習Ⅱ」の1・2単位めのレポート提出
- ③ 指定科目40単位以上の修得見込み（分割型希望者は20単位以上）
- ④ 卒業要件単位90単位以上の修得見込み（分割型希望者は80単位以上）

■スクーリング申込手続き

※開講日・会場は『試験・スクーリング情報ブック』を参照してください。

(1) 実習受講者

※申込みに関係のご案内はおよび申込用紙は、「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ-2」スクーリング時に配付します。

「演習Ⅱ-1」申込締切：2/15

➡ 「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ-2」とセットでの申込みおよび受講となります。

「演習Ⅱ-2」申込締切：6/30

➡ 「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ-4」とセットでの申込みおよび受講となります。

(2) 実習免除者

※申込みに関係のご案内および申込用紙は、『With』に掲載いたします。

※早めに受講条件を達成した方が希望の会場で受講できる可能性が高くなります。

分割型 申込締切：4/1

➡ 「演習Ⅱ-1」を4月に、「演習Ⅱ-2」を11月に各地で、1日ずつ計2日間受講。

連続型（2日間） 申込締切：6/30または10/31

■スクーリングで学んでほしいこと

社会福祉士として必要とされる専門的知識や技術、方法について再確認するために、ソーシャルワーク実習での経験を前提として、実習先のソーシャルワークにおいて用いられた知識や技術を再確認するとともに、事例検討や質疑を通してその視点と方法、技術について実践能力を習得してください。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合	実習体験から得た内容を共有し、実習先で使われていたソーシャルワークの知識・技術をまとめる。ピアスーパービジョン、教員とのスーパービジョンを行う。
2	ソーシャルワークの場面及び過程で必要とされる実践能力の習得①（ケース発見から評価・終結までのプロセスを通して）	支援を必要とする人が抱える複合的課題（社会的排除、児童問題、高齢者問題、家庭内問題、低所得者、ホームレス等）について個別または集団を対象とした相談援助事例を用い、ソーシャルワークで必要とされる実践能力を習得する。コミュニケーション技法、面接技法、記録技法、アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整等の実技指導を行う。

回数	テーマ	内容
3	ソーシャルワークの場面及び過程で必要とされる実践能力の習得②（地域のニーズ把握）	支援を必要とする人が抱える複合的課題について個別または集団を対象とした相談援助事例を用い、ソーシャルワークで必要とされる実践能力を習得する。コミュニケーション技法、面接技法、記録技法、アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング等の実技指導を行う。
4	ソーシャルワークの場面及び過程で必要とされる実践能力の習得③（地域アセスメント、地域組織化、社会資源開発）	支援を必要とする人が抱える複合的課題について個別または集団を対象とした相談援助事例を用い、ソーシャルワークで必要とされる実践能力を習得する。コミュニケーション技法、面接技法、記録技法、チームアプローチ、ネットワーキング、サービス評価等の実技指導を行う。
5	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程の理解	実習記録等を用いて、ソーシャルワークの対象についてまとめる。その内容について共有し、実習種別による違いや共通点を話し合う。
6	ソーシャルワークの実践活動の意義や方法の理解	実習で体験した社会福祉士のソーシャルワーク活動や倫理的ジレンマ、援助場面について、逐語記録やプロセスシート、ロールプレイなどを用いて場面を再構成し、援助方法等を演習生同士でディスカッションし検討する。
7	スーパービジョンの機能について理解する	実習記録等を用いて、実習中受けたスーパービジョンの内容についてまとめる。またその内容を共有し、スーパービジョンの意義について理解する。
8	社会福祉施設・機関・団体の役割について、またソーシャルワーク機能が求められる領域について理解を深める	実習記録等を用いて、実習先の役割・機能についてまとめ、その内容を演習生と共有し、役割や機能の違いについて話し合う。
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

教科書や配布資料の事例などを用いて演習を進めます。

なお、演習のスクーリングでは「参加」の姿勢が大切です。

■スクーリング 評価基準

スクーリングの最後に試験をおこないます。「技術」がどの程度身についたかを直接テストすることはできませんが、このスクーリングを通して、どの程度ソーシャルワークの価値・倫理、知識、技術が、具体的に理解できたかを問います。スクーリング中に学んだ内容から出題します。スクーリング中はこれまで学修した内容を具体的に理解するよう努めてください。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

「ソーシャルワークの基盤と専門職」、「ソーシャルワークの理論と方法」など、ソーシャルワークについてのこれまでの復習を必ずしてください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	ソーシャルワーク演習の意義と目的 (第1章第1節・第2節)	ソーシャルワークのコンピテンシー(実践能力)、多職種連携コンピテンシーについて理解する。	社会福祉士に求められる役割と地域を基盤としたソーシャルワークの機能、ソーシャルワークのコンピテンシー(実践能力)について学んでください。
2	事例の基本情報 (第1章第3節・第2章第1節)	事例を通じた学びやアクティブ・ラーニングと事例展開の全体像を把握することについて理解する。	事例に学びながらコンピテンシーの習得と社会福祉士の所属先のこと、クライアント理解(場所・状況・家族・地域)、社会福祉士のアクション(活動)について学んでください。
3	ケースの発見とエンゲージメント(インテーク) (第2章第2節)	ケースの発見とエンゲージメント(インテーク)段階の社会福祉士のアクション(活動)について理解する。	支援を求める人を把握し、援助関係の形成への着手、その際の波長合わせ・インテーク面接・信頼関係の形成・生活歴の把握について学んでください。
4	アセスメント (第2章第3節)	アセスメントのための面談と各記録について学ぶ。	アセスメントにおけるフェイスシート・アセスメント記録・自己決定の原則・意思決定支援について学んでください。
5	プランニング (第2章第4節)	クライアントの選択や決定のプロセスに参加する権利とニードについて理解する。	プランニングにおける思いを確認する・ストレングス・プランニング案・意向・支援目標・支援計画(ニーズ・優先度・目標・支援内容)・支援計画の共有・守秘義務について学んでください。
6	支援の実施とモニタリング (第2章第5節)	日々の変化するクライアントの状況への対応について理解する。	支援の実施とモニタリングにおいて生活状況の確認と今後について考えることクライアントと取り巻く環境(人・状況)への理解と気持ちの確認について学んでください。
7	支援の終結と結果評価アフターケア (第2章第6節)	支援終結と結果評価、アフターケアについて理解する。	支援の終結においてエンゲージメント(インテーク)からソーシャルワークの展開過程と結果について支援を振り返り、短期目標や長期目標の設定のあり方について学んでください。
8	ソーシャルワークの展開過程とコンピテンシー (第2章第7節)	ソーシャルワークの展開過程と課題認識、アクション(活動)に対するコンピテンシー(実践能力)について理解する。	アセスメント・支援実施とモニタリング・支援終結・マクロレベルのソーシャルワーク実践・多職種連携におけるコンピテンシーについて学んでください。
9	地域社会の社会的孤立と支援 (第3章第1節)	社会的孤立におけるソーシャルワークのコンピテンシーの習得と多職種連携コンピテンシーの習得について理解する。	ソーシャルワーク専門職の価値や原則、ひきこもり支援、エコマップ作成、コーディネート目的と方法、社会資源の活用・調整・開発アウトリーチ、エンパワーメントアプローチ、ナラティブアプローチ、包括的な支援体制の整備、多職種連携コンピテンシーについて学んでください。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
10	服役者（高齢者・障がい者）への多機関・多職種による支援（第3章第2節）	服役者の福祉ニーズへのソーシャルワークのコンピテンシーの習得と多職種連携コンピテンシーの習得について理解する。	振り返りと自己規制、スーパービジョンの活用、多職種・多機関との連携・協同による支援について学んでください。
11	メンタルヘルス課題と社会福祉士の役割・機能（第3章第3節）	メンタルヘルス課題へのソーシャルワークのコンピテンシーの習得と多職種連携コンピテンシーの習得について理解する。	多様な生活のしづらさに寄り添う支援、症状だけではなくストレスへの意識、社会資源の活用・開発、多様な専門職・非専門職との連携・協働について学んでください。
12	子どもや親のSOSへの支援（第3章第4節）	SOSへのソーシャルワークのコンピテンシーの習得と多職種連携コンピテンシーの習得について理解する。	子どもと家族との関係形成とニーズキャッチ、子どものストレス、家族の不安や困難へのアセスメント、SOS発見やアウトリーチ、代弁について学んでください。
13	クライアントの気になる問題への支援（第3章第5節）	クライアントの気になる問題へのソーシャルワークのコンピテンシーの習得と多職種連携コンピテンシーの習得について理解する。	主体性の尊重や人間の社会性、社会構造、人と環境の相互作用、家族問題の発生、家族の努力や社会資源について学んでください。
14	災害支援とソーシャルワーカーの役割（第3章第6節）	災害支援とソーシャルワークのコンピテンシーの習得と多職種連携コンピテンシーの習得について理解する。	災害時のストレス視点、要配慮者の主体形成、社会的課題の可視化・構造化・施策化、調査方法、災害時の支援機関・団体の連携・協働、医療・保健機関・団体の価値観・思考・行動特性について学んでください。
15	地域ニーズに対応したサービス・事業開発（第3章第7節）	地域ニーズへのソーシャルワークのコンピテンシーの習得と多職種連携コンピテンシーの習得について理解する。	地域アセスメントや社会調査、ソーシャルインクルージョン、地域的取り組み、就労困難者のソーシャルファームの意義について学んでください。

■レポート課題

1 単位め	支援を必要とする人が抱える複合的課題（社会的排除、児童問題、高齢者問題、家庭内問題、低所得者、ホームレス等）について1つ選び、アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整等を用いて支援していく過程を説明してください。
2 単位め	ケース発見から評価・終結までのソーシャルワークのプロセスをミクロ・メゾ・マクロレベルでの展開を踏まえてまとめてください。
3 単位め	ソーシャルワークにおけるスーパービジョンの意義についてまとめてください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

支援を必要とする人々が抱える課題は、必ずしも1つの生活課題だけではありません。それまでの生活歴や家族関係、地域社会とのつながりなど複合的です。そのため複合的課題を1つ取り上げて、そこで展開されるソーシャルワークとして、アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整等を用いてソーシャルワークの展開過程を

しっかり意識して、自らのことばで明確に述べましょう。使用した事例などの出所を明示してください。使用に際して、守秘義務の観点から実際の例ではなく、個人情報that匿名化された事例として加工しながら創造的にレポートしてください。

2 単位め
アドバイス

指定教科書では、第2章がソーシャルワークの展開過程となっていますので、各展開過程における基本用語をおさえながら、ソーシャルワークの展開についてミクロレベルからメゾレベル、マクロレベルの展開について整理してみてください。

3 単位め
アドバイス

スーパービジョンについては、教科書『最新 社会福祉士養成講座〔専門科目〕7 ソーシャルワーク演習（社会専門）』（中央法規出版2021年）の第3章第2節の事例で再確認したり、社会福祉の辞典・事典で確認することでソーシャルワークのスーパービジョンの意義が再確認できます。

■レポートの提出方法

- 1) 1単位につき、1冊のレポート提出台紙を使用してください。
- 2) 1単位のレポート文字数は2,000字程度ですが、最長4,000字程度まで記入していただいても結構です。※パソコン印字の場合は、左右40字×30行×2～4枚まで可。
- 3) 教員名の欄には記入しないでください。
- 4) 各レポートは、所定の提出締切日までに提出してください（『試験・スクーリング情報ブック』または申込時の『With』参照）。

ソーシャルワーク実習指導Ⅰ			科目コード	CP4254
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	SR(演習)	3年以上	三浦 剛/元村 智明/石附 敬/高野 亜紀子/ 清水 冬樹/芳賀 恭司/眞嶋 智彦/二渡 努 ほか	

■履修登録条件

「ソーシャルワーク演習Ⅰ」をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をする方が履修登録できます。

- ・本科目は、当年度の「ソーシャルワーク実習Ⅰ」申込者を対象とします。
- ・本科目のスクーリングは、「実習指導Ⅰ-1」「実習指導Ⅰ-2」「実習指導Ⅰ-3」「実習指導Ⅰ-4」に分割されており、すべてのスクーリングを同一年度内に受講しなければなりません。同一年度内に受講ができなかった場合は、次年度以降「実習指導Ⅰ-1」から再受講となります（「実習Ⅰ」も要再申込）。
- ・「実習指導Ⅰ-1～3」は実習事前指導、「実習指導Ⅰ-4」は実習事後指導になります。

※実習事前指導スクーリングを欠席した場合、「ソーシャルワーク実習Ⅰ」は受講できません。また実習事後指導を欠席した場合も単位修得できません。

※今後の実習受け入れ状況などにより、ここに記載の内容・日程を変更する場合があります。『実習の手引き』や『With』でご案内します。

科目の概要

■科目の内容

ソーシャルワーク実習の意義について理解をするとともに、実際に実習を行なう実習分野（利用者理解含む）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解をする。

社会福祉士として必要な具体的かつ実践的な専門技術等の習得を図る。

■到達目標

ソーシャルワーク実習の意義について理解をするとともに、専門技術や実際に実習を行なう実習分野（利用者理解含む）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な知識を得て、実習計画に反映することができる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「専門的知識」「他者への関心と理解」「社会への関心と理解」「自他尊重的コミュニケーション力」「他者配慮表現力」「ICT 活用力」「自己コントロール力」「クリティカルシンキング力」「アセスメント力」「問題解決力」「社会貢献力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価40% + スクーリング評価60%

■教科書・参考図書

【教科書】(「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ」と共通)

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座 [専門科目] 8 ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習 (社会専門)』中央法規出版、2021年

【参考図書】

- 1) 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 [共通科目]12 ソーシャルワークの理論と方法 (共通科目)』中央法規出版、2021年
- 2) 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 [共通科目]11 ソーシャルワークの基盤と専門職 (共通・社会専門)』中央法規出版、2021年

スクーリング

■スクーリング受講申込上の注意

- ・この科目は、スクーリングの受講が必須となります。
- ・1クラス20人以内の少人数で開講します。
- ・受講料は10,000円となります。
- ・受講許可証・納入依頼書は、各受講判定日（申込締切日）以降に発送します。
- ・スクーリング開講日・申込締切日は、『試験・スクーリング情報ブック』または『With』を参照ください。
- ・申込方法は、『実習の手引き』『With』でご案内します。
- ・クラス分けは無作為に行いますので、教員の指定はできません。
- ・申込締切後の受講日・受講地の変更は受け付けしません。必ずしも第一希望での受講ができない場合があります。ご了承ください。
- ・公共交通機関の延着を除き、遅刻・欠席は認められません。また、スクーリング終了時間前の退席も認められません。

■スクーリング受講条件

受講判定日までに

- ①「ソーシャルワークの基盤と専門職」「ソーシャルワーク演習」「ソーシャルワークの基盤と専門職 (専門)」「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ」の4科目分すべてのレポート提出
- ②「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」課題Ⅰレポートの提出
- ③(「指導Ⅰ-1・2」スクーリング当日までに)『課題ノート』の提出
- ④実習選考試験の合格

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	ソーシャルワーク実習の意義を理解する。	ソーシャルワーク実習の位置づけやその意義、目標などを学ぶ。
2	実習先で必要とされる価値規範、倫理について理解する。	社会福祉士の倫理綱領を用いて、価値と倫理に基づく専門職の姿勢を学ぶ。
3	実習先領域について理解する。①	実習先領域の利用者や利用者が抱える生活課題、または領域での課題について学ぶ。
4	実習先領域について理解する。②	実習先領域のソーシャルワーク専門職、そのほかの専門職について調べ、まとめる。
5	実習を行う上で必要とされる学習方法、評価について理解する。	実習記録やケース記録などの記録内容や記録方法について学習する。またスーパービジョンの受け方などについても学ぶ。
6	実習先における個人のプライバシー保護と守秘義務について理解する。また契約関係について理解する。	事例をつかって、個人のプライバシー保護や守秘義務について、話し合い、学ぶ。実習における契約関係について確認する。
7	実習計画書の作成①	実習計画書の作成方法等について学び、実際に作成する。
8	実習計画書の作成②	作成した実習計画書を他の履修者や教員と共有し、指摘を受け、修正する。
9	実習計画書の作成③	修正した実習計画書を、事前訪問などの機会を利用して、実習先指導者に提出して指摘を受け、修正する。

■スクーリング申込方法

『実習の手引き 様式集』より指定の様式で申し込んでください。申込締切日は7/31（必着）です。

※開講地・開講日程は『試験・スクーリング情報ブック』を参照ください。

※「実習指導Ⅰ-4」は、実習期間終了後の日程で申し込んでください。申込締切日時点で実習日程が未定の場合は、決定後に調整します。

■スクーリング開講予定

※詳細は『試験・スクーリング情報ブック』を参照ください。

「実習指導Ⅰ-1」➡会場：各地 開講時期：8月

「実習指導Ⅰ-2」➡会場：各地 開講時期：9月

「実習指導Ⅰ-3」➡会場：各地 開講時期：11月

「実習指導Ⅰ-4」➡会場：各地 開講時期：3月

■スクーリング受講料

「実習指導Ⅰ」スクーリング受講料は10,000円です。「実習指導Ⅰ-1」スクーリング受講後に納入依頼証を発送します。

レポート学習

■在宅学習 8 のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	社会福祉士養成とソーシャルワークの実習位置づけ	ソーシャルワーク実習の位置づけについて、資格制度の見直しやその養成課程を理解する。 キーワード：資格制度、養成課程、教育カリキュラム	社会福祉士に求められる役割と新たな教育カリキュラムについて理解しましょう。また、ソーシャルワーク実習の基本的枠組み、実習指導者や担当教員について、教育内容等について理解しましょう。
2	ソーシャルワーク実習教育内容、評価ガイドラインについて	ソーシャルワーク実習教育内容・実習評価ガイドライン、ソーシャルワーク実習指導ガイドラインについて理解する。 キーワード：ソーシャルワーク実習教育内容・実習評価ガイドライン、ソーシャルワーク実習指導ガイドライン	ソーシャルワーク実習教育内容・実習評価ガイドライン、ソーシャルワーク実習指導ガイドラインについて学習し、ソーシャルワーク実習を具体的に理解イメージできるようになりましょう。
3	・ソーシャルワーカーとしての社会福祉士、社会福祉士の新たな役割と機能、社会福祉士の責務について。 ・ソーシャルワークの枠組みについて。	ソーシャルワーカーとしての社会福祉士とはどういう意味であるのかを役割や機能、ソーシャルワークの枠組みを通して理解する。 キーワード：ジェネラリスト・ソーシャルワーカー、ソーシャルワーク機能、価値、倫理、知識、技術、義務、ソーシャルワークの枠組み	ソーシャルワーカーとしての社会福祉士とは、ソーシャルワーカーと社会福祉士の関係を理解し、そのためにソーシャルワークの枠組みを、キーワードを中心に確認しましょう。
4	実習の場と形態 法令上のソーシャルワーク実習施設、フィールド・ソーシャルワークとレジデンシャル・ソーシャルワーク実習など、さまざまな実習の形態について	法令上の相談援助実習施設の範囲、フィールド・ソーシャルワーク、レジデンシャル・ソーシャルワークの特徴と分類、その代表的実習先を理解する。 キーワード：施設の範囲、フィールド・ソーシャルワーク、レジデンシャル・ソーシャルワーク	法令上の相談援助実習施設の範囲を法律ごとにまとめてみましょう。また、フィールド・ソーシャルワークとレジデンシャル・ソーシャルワークの特徴について、そして代表的な実習先について理解しましょう。
5	契約関係の中にある実習 実習契約関係の理解 実習機関・施設におけるリスクマネジメントについて	実習における契約の意義について、また、契約内容について理解する。併せて、プライバシー情報を含む実習機関におけるリスクマネジメントの必要性について理解する。 キーワード：実習契約、リスクマネジメント、守秘義務、個人情報保護	実習における契約書締結の意義について、「実習委託と指導関係の構造」から整理してみましょう。また、実習にかかわるリスクとなどのようなことが考えられるのかまとめてみましょう。
6	実習スーパービジョンの理解 ・実習スーパービジョン関係 ・実習スーパービジョンの実際	スーパービジョン、実習スーパービジョンの意義および定義、機能、効果について、また、スーパービジョンの構造とスーパーバイザーの権能について理解する。 キーワード：スーパービジョン、実習スーパービジョン、スーパービジョン機能（管理・教育・支持）、スーパーバイザーの権能	スーパービジョンおよび実習スーパービジョンの意義および定義、機能、効果について理解しましょう。また、スーパービジョンの構造とスーパーバイザーの権能について、実習教育における二重のスーパービジョンシステムについて理解しましょう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
7	実習準備・事前学習課題 実習機関・施設、地域の理解 事前学習として実習先を理解する意義 ソーシャルワーク実習機関・施設、それらが所在する地域について	事前学習の重要性を理解する。また、各分野（高齢者、障害者、児童、社会福祉協議会、医療分野等）の実習機関・施設を理解する。 キーワード：事前学習、実習施設、地域踏査	事前学習の重要性を理解しましょう。また、実習機関・施設について、教科書を参考に分野ごとに確認しましょう。また、インターネットを利用する、実際に赴くなどをして、地域理解の方法も確認しましょう。
8	実習機関・施設、地域の利用者理解と援助方法 実習機関・施設における利用者 実習機関・施設のある地域における利用者 援助方法について	実習機関・施設における利用者理解の方法について、また、実習機関・施設のある地域における利用者理解の方法について理解する。また、施設および地域における援助の方法について理解する。 キーワード：利用者理解、地域福祉の推進、個別支援、他の職種との連携、在宅福祉サービス、小地域ネットワーク活動、組織化支援、社会資源開発、地域ケアシステム	実習機関・施設、地域の利用者理解と援助方法についてキーワードを中心にまとめましょう。

■レポート課題

課題 1	ソーシャルワーク実習の目的と構造について整理し、実習で学びたいこと、動機を具体的に述べてください。また、実習における課題を講義、演習との連動を踏まえながらまとめてください。
課題 2	『ソーシャルワーク実習 課題ノート』を作成・提出してください。 ※「実習指導 1-1」「実習指導 1-4」スクーリングまでに各所定の範囲に取り組み、受講当日に提出してください。 ※『課題ノート』は実習申込者へ個別に配付します。
課題 3	実習先に対応した「実習計画案」「実習計画書」を作成してください。 ※指定の様式を使用すること。 ※「実習指導 1-2」スクーリング受講時に実習計画案のコピー 1 部（A4サイズ、両面コピー不可）を大学へ提出すること。 ※原本は自身で保管しておくこと。 ※「実習指導 1-2」スクーリング受講時に教員の添削を受けた後、実習先へ事前訪問を実施（実習先のプログラムとすり合わせ）し、完成した実習計画書を実習開始 1 ヶ月前までに大学・実習先へ提出すること。
課題 4	（実習終了後） 実習 1 で学んだ内容を分析・考察してください。 ※内容は・実習施設の概要・実習内容・実習課題の達成状況・全体のまとめ（今後の課題も含む）を記載してください。その他の項目を追加しても構いません。単なる感想文とならないよう注意してください。 ※通常のレポート提出台紙で提出してください（字数3,000字程度）。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■各課題提出期限・提出方法

課題 1：実習Ⅰ受講年度の7/1～7/31（必着）

※通常のレポート提出台紙を使用してください。

課題 2：「実習指導Ⅰ-1」「実習指導Ⅰ-4」スクーリング当日

※『課題ノート』でご案内の所定の範囲に取り組み、各スクーリング受講日に提出してください。

※スクーリング会場にて回収しますので、必ず持参してください。忘れた場合や記載内容が不十分な場合は、スクーリングが不合格となり、当年度の実習受講はできません。

課題 3：実習計画案

「実習指導Ⅰ-1」スクーリング受講後に作成、「実習指導Ⅰ-2」スクーリングで提出
実習計画書

「実習指導Ⅰ-2」スクーリングで教員の添削後、実習先への事前訪問を終えたら大学、実習先へ提出

課題 4：実習終了後～指定期日までに作成・提出

※提出締切は『試験・スクーリング情報ブック』を参照ください。

※通常のレポート提出台紙を使用して提出してください。

ソーシャルワーク実習指導Ⅱ			科目コード	CP5255
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	SR(演習)	4年以上	三浦 剛/石附 敬/高野 亜紀子/元村 智明/ 清水 冬樹/芳賀 恭司/眞嶋 智彦/二渡 努 ほか	

■履修登録条件

受講条件の達成に必要な科目をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をする方のみが履修登録可能です。

- ・本科目は、当年度の「ソーシャルワーク実習Ⅱ」申込者を対象とします。
- ・本科目のスクーリングは、「実習指導Ⅱ-1」「実習指導Ⅱ-2」「実習指導Ⅱ-3」「実習指導Ⅱ-4」に分割されており、すべてのスクーリングを同一年度内に受講しなければなりません。同一年度内に受講できなかった場合は、次年度以降「実習指導Ⅱ-1」から再受講となります（「実習Ⅱ」も要再申込）。
- ・「実習指導Ⅱ-1～3」は実習事前指導、「実習指導Ⅱ-4」は実習事後指導になります。

※実習事前指導スクーリングを欠席した場合、「ソーシャルワーク実習Ⅱ」は受講できません。また実習事後指導を欠席した場合も単位修得できません。

※今後の実習受け入れ状況などにより、ここに記載の内容・日程を変更する場合があります。『実習の手引き』や『With』でご案内します。

科目の概要

■科目の内容

ソーシャルワーク実習の意義について理解し、具体的かつ実践的な技術等を体得することを目的としています。

ソーシャルワークに係る知識と技術について、事例等を通じて具体的かつ实际的に理解し、個別指導ならびに集団指導を通して実践的な技術等を学修します。

具体的な体験やソーシャルワーク実践活動を専門的援助として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を併せて修得することを目的とします。

社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を養うため、社会福祉士としての資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得します。

■到達目標

ソーシャルワーク実習を通して、ソーシャルワークに係る倫理、知識及び技術を具体的かつ实际的に理解し、社会福祉士として求められる能力の涵養を目指します。

- 1) 利用者やその関係者（家族・親族、友人等）、施設・事業者・機関・団体、住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成ができる。

- 2) 利用者やその関係者（家族・親族、友人等）との援助関係の形成ができる。
- 3) 利用者や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）の把握、支援計画の作成と実施及び評価ができる。
- 4) 利用者やその関係者（家族・親族、友人等）への権利擁護活動とその評価ができる。
- 5) 多職種連携及びチームアプローチの実践的理解し説明できる。
- 6) 当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけができる。
- 7) 地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関する理解し説明できる。
- 8) 施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際（チームマネジメントや人材管理の理解を含む）について理解し説明できる。
- 9) 社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任を理解し説明できる。
- 10) ソーシャルワーク実践に求められる技術（アウトリーチ、ネットワーキング、コーディネーション、ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャルアクション）の実践的理解を行い説明できる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「専門的知識」「他者への関心と理解」「社会への関心と理解」「自己尊重のコミュニケーション力」「他者配慮表現力」「自己コントロール力」「アセスメント力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価40%＋スクーリング評価60%

■教科書・参考図書

【教科書】（「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」と共通）

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座〔専門科目〕8 ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習（社会専門）』中央法規出版、2021年

【参考図書】

- 1) 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座〔共通科目〕12 ソーシャルワークの理論と方法（共通科目）』中央法規出版、2021年
- 2) 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座〔共通科目〕11 ソーシャルワークの基盤と専門職（共通・社会専門）』中央法規出版、2021年

スクーリング

■スクーリング受講申込上の注意

- ・この科目は、スクーリングの受講が必須となります。
- ・1クラス20人以内の少人数で開講します。

- ・受講料は10,000円となります。
- ・受講許可証・納入依頼書は、各受講判定日（申込締切日）以降に発送します。
- ・スクーリング開講日・申込締切日は、『試験・スクーリング情報ブック』または『With』を参照ください。
- ・申込方法は、『実習の手引き』『With』でご案内します。
- ・クラス分けは無作為に行いますので、教員の指定はできません。
- ・申込締切後の受講日・受講地の変更は受け付けません。必ずしも第一希望での受講ができない場合があります。ご了承ください。
- ・公共交通機関の延着を除き、遅刻・欠席は認められません。また、スクーリング終了時間前の退席も認められません。

■スクーリング受講条件

受講判定日までに

- ① 1、2年次入学者は9/15時点で62単位以上の修得（認定単位含む）
 - ② ソーシャルワークの基盤と専門職
 - ③ ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）
 - ④ ソーシャルワーク演習
 - ⑤ ソーシャルワーク演習Ⅰ
 - ⑥ ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ
 - ⑦ ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ
 - ⑧ 社会福祉原論 A
 - ⑨ 権利擁護を支える法制度
- 以上、8科目の単位修得

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	ソーシャルワーク実習Ⅰ巡回指導と帰校日指導	巡回指導、帰校日指導により、個別スーパービジョンまたはグループでのスーパービジョンを行う。
2	実習自己評価と実習総括レポートの作成及び実習達成度評価とスーパービジョン	実習を振り返り、自己評価を行う。総括レポートの作成を行う。また、実習内容に関する達成度の評価と、それに基づく個別スーパービジョンを行う。
3	実習報告会	ソーシャルワーク実習Ⅰの総括として、報告会を行う。
4	ソーシャルワーク実習Ⅱの目的、内容を理解する。	ソーシャルワーク実習Ⅱが設置された経緯から、その意義をまとめ、目的を整理する。
5	ソーシャルワーク実習Ⅱの実習先領域について理解する。	実習先領域の利用者や利用者が抱える生活課題、または領域での課題について学ぶ。実習先領域のソーシャルワーク専門職について調べ、まとめる。実際に見学する。実習先領域で関わる他の職種の専門性やその業務について調べ、まとめる。

回数	テーマ	内容
6	実習計画案の作成	実習計画案の作成方法等について学び、作成し、教員と実習指導者から指導を受ける。
7	事前学習の評価と実習先事前訪問	予定している実習先へ事前訪問を行い、実習開始までの課題等を確認する。
8	ソーシャルワーク実習Ⅱの巡回指導と帰校日指導	巡回指導、帰校日指導により、個別スーパービジョンまたはグループでのスーパービジョンを行う。
9	実習自己評価と実習総括レポートの作成及び実習達成度評価とスーパービジョン	実習を振り返り、自己評価を行う。総括レポートの作成を行う。また、実習内容に関する達成度の評価と、それに基づく個別スーパービジョンを行う。
10	実習報告会	ソーシャルワーク実習Ⅱの総括として、報告会を行う。
11	ソーシャルワークの価値規範、倫理、専門的知識及び技術について理解する①	事後学習として、実習体験をもとに、ソーシャルワークの価値、倫理に基づいた活動の姿勢を習得する。
12	ソーシャルワークの価値規範、倫理、専門的知識及び技術について理解する②	実習体験をもとに、ソーシャルワーク活動に活用される知識及び技術について習得する。
13	社会福祉士として求められる役割について理解する	実習体験をもとに、社会福祉士として求められる役割を省察し、の自らの社会福祉士としてイメージを形成する。
14	ソーシャルワーク実習全体のふり振り返り	実習指導、実習の全体をふり振り返り、ソーシャルワーク実習の理解の深化に関する確認を行い、残された課題について共有する。

■スクーリング申込方法

『実習の手引き 様式集』より指定の様式で申し込んでください。申込締切日は個別に案内します。

※開講地・開講日程は『試験・スクーリング情報ブック』を参照ください。

※「実習指導Ⅱ-4」は、実習期間終了後の日程で申し込んでください。申込締切日時点で実習日程が未定の場合は、決定後に調整します。

■スクーリング開講予定

※詳細は『試験・スクーリング情報ブック』を参照ください。

「実習指導Ⅱ-1」➡会場：各地 開講時期：4月

「実習指導Ⅱ-2」➡会場：各地 開講時期：4月

「実習指導Ⅱ-3」➡会場：各地 開講時期：6月

「実習指導Ⅱ-4」➡会場：各地 開講時期：11月

■スクーリング受講料

「実習指導Ⅱ」スクーリング受講料は10,000円です。「実習指導Ⅱ-1」スクーリング受講後に納入依頼証を発送します。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	ソーシャルワーク実習の仕組み (序章)	ソーシャルワーカーの役割、ソーシャルワーク・コンピテンシーについて理解する。	講義と演習と実習の循環のなかでソーシャルワークを学ぶことについて理解し、コンピテンシーとその行動について確認してください。 なお、第1回から第5回までは、実習前学習となります。 そして第7回から第15回までは、実習後の確認になりますが、実習に取り組むべき10項目にも関連するため、予め確認されることで実習計画が作成しやすくなります。
2	ソーシャルワーク実習の目的と構造 (第1章)	ソーシャルワーク実習とソーシャルワーク実習指導の意義と目的を理解する。	ソーシャルワーク専門職養成における実習および実習指導の意義と目的、実習の展開、倫理と原則、実習に際しての自己学習、実習におけるスーパービジョンや教育評価、実習の構造、リスクマネジメントについて学んでください。
3	実習先決定に向けた準備 (第2章)	実習先の情報収集の方法、実習記録の書き方、ソーシャルワーク実習の分野と施設・機関について理解する。	実習に向けた実習先の情報収集の方法、自己学習を行うことで実習先の利用者への理解を深める。 講義で学んだ分野・領域の知識をもとに実習時の「記録」作成の意義・書き方・留意点を理解する。 ソーシャルワーク実習の位置づけや実習を行う施設・機関の理解を深める学びをしてください。
4	実習先決定後の準備 (第3章)	実習先決定後の学習内容と方法、実習計画の作成の意義、事前訪問・事前打ち合わせが必要なことを理解する。	実習先決定後には、実習施設・機関の情報収集（基本情報・職員情報・利用者情報・地域情報）と関連する社会資源の把握・活用・開発への理解が重要です。 そのうえで実習計画作成の意義と内容について理解してください。 そして事前訪問や事前打ち合わせの必要性について理解してください。
5	実習中の学習 (第4章)	実習中に行うべき学習内容について実習前に理解する。	実習中に行われる実習スーパービジョンの意義や実習中評価、実習中に生じた悩みや起こり得る可能性のある問題（トラブル）の種類について予め理解してください。
6	実習後の学習 (第5章)	実習後の評価活動の意義と方法、事後学習の目的と方法、実習成果の報告する目的について理解する。	実習後には評価が行われることの意義について理解し、事後学習の目的と方法としたソーシャルワークの体系的理解、実習成果の報告する目的とその方法について確認してください。 以下の各回は、ソーシャルワーク実習で取り組んだ10項目についての再確認の学習となります。 なお、実習先決定後に一読し、実習で求められる内容を確認することも重要です。
7	権利擁護活動 (第6章第1節)	権利擁護活動とその評価を学ぶ意義について理解する。	利用者やその関係者への権利擁護活動およびエンパワメント、尊厳を守る意味、ストレングスについて説明ができるように学んでください。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
8	人間関係の形成および援助関係の形成 (第6章第2節第3節)	基本的なコミュニケーションによる人間関係形成の意義と援助関係形成の意義について理解する。	利用者やその関係者との基本的コミュニケーションを基本にして人間関係の形成から信頼関係の構築、そして援助関係の形成まで説明ができるように学んでください。
9	支援計画の作成と実施 (第6章第4節)	支援計画作成について理解する。	利用者や地域の状況の理解から、ケースの発見、エンゲージメント(インテーク)、事前評価(アセスメント)、プランニング、支援の実施、モニタリング、支援の終結と評価、アフターケアの展開について説明できるように学んでください。
10	多職種連携とチームアプローチ (第6章第5節)	多職種連携とチームアプローチについて実践的意義を理解する。	ミクロ・メゾ・マクロのなかで多職種連携やチームアプローチについて学んでください。
11	実習先の地域社会での役割と働きかけ (第6章第6節)	施設・機関等が地域社会で果たす役割と具体的な地域社会への働きかけについて理解する。	施設・機関の役割を説明できるように、地域社会で具体的に取り組んでいる事業や活動について把握し、関係機関や地域住民に説明できるように学んでください。
12	分野横断的・業種横断的な関係形成 (第6章第7節)	地域社会における分野横断的・業種横断的な関係形成について理解する。	実習先を中心とした地域社会における分野横断的・業種横断的な社会資源について把握し、事業やサービスを中心とした分野横断的・業種横断的な社会資源との関係性の理解やその関係を形成する方法を説明できるように学んでください。
13	社会資源の活用・調整・開発 (第6章第8節)	地域社会の社会資源の活用・調整・開発について理解する。	地域社会における分野横断的・業種横断的な社会資源を把握し、問題解決に向けた活用や社会資源の開発、社会資源の調整方法について説明できるように学んでください。
14	施設・機関等の経営やサービス管理運営 (第6章第9節)	施設・機関等の事業経営やサービスの管理運営について理解する。	実習先の経営理念や経営戦略を理解し、財政や運営方法について説明ができるように学んでください。 また、組織内の合意形成やその方法についても確認し学んでください。
15	社会福祉士の職業倫理とソーシャルワーク実践の技術 (第6章第10節・第12節)	社会福祉士としての職業倫理と組織人としての役割と責任、具体的なソーシャルワーク実践の技術について理解する。	社会福祉士の倫理にもとづく実践と倫理的ジレンマの解決、施設・機関の諸規則について学んでください。 特に、ソーシャルワーク実践に必要なアウトリーチ、ネットワーキング、コーディネーション、ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャル・マーケティング、ソーシャルアクションについて説明ができるように学んでください。

■レポート課題

課題 1	ソーシャルワーク実習Ⅰで学んだことをソーシャルワーク実習Ⅱにて如何に活かしていくのかを「実習教育に含むべき事項」に関連付けながらまとめてください。
------	---

課題 2	『ソーシャルワーク実習 課題ノート』を作成・提出してください。 ※「実習指導Ⅱ-1」「実習指導Ⅱ-4」スクーリングまでに各所定の範囲に取り組み、受講当日に提出してください。 ※『課題ノート』は実習申込者へ個別に配付します。
課題 3	実習先に対応した「実習計画面」「実習計画書」を作成してください。 ※指定の様式を使用すること。 ※「実習指導Ⅱ-2」スクーリング受講時に実習計画面のコピー1部（A4サイズ、両面コピー不可）を大学へ提出すること。 ※原本は自身で保管しておくこと。 ※「実習指導Ⅱ-2」スクーリング受講時に教員の添削を受けた後、実習先へ事前訪問を実施（実習先のプログラムとすり合わせ）し、完成した実習計画書を実習開始1ヵ月前までに大学・実習先へ提出すること。
課題 4	（実習終了後） 実習Ⅱで学んだ内容を分析・考察してください。 ※内容は・実習施設の概要・実習内容・実習課題の達成状況・全体のまとめ（今後の課題も含む）を記載してください。その他の項目を追加しても構いません。単なる感想文とならないよう注意してください。 ※通常のレポート提出台紙で提出してください（字数4,000字程度）。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■各課題提出期限・提出方法

課題 1：「実習指導Ⅱ-1」スクーリング前日（必着）

※通常のレポート提出台紙を使用してください。

課題 2：「実習指導Ⅱ-1」「実習指導Ⅱ-4」スクーリング当日

※『課題ノート』でご案内の所定の範囲に取り組み、各スクーリング受講日に提出してください。

※スクーリング会場にて回収しますので、必ず持参してください。忘れた場合や記載内容が不十分な場合は、スクーリングが不合格となり、当年度の実習受講はできません。

課題 3：実習計画面

「実習指導Ⅱ-1」スクーリング受講後に作成、「実習指導Ⅱ-2」スクーリングで提出
実習計画書

「実習指導Ⅱ-2」スクーリングで教員の添削後、実習先への事前訪問を終えたら大学、実習先へ提出

課題 4：実習終了後～指定期日までに作成・提出

※提出締切は『試験・スクーリング情報ブック』を参照ください。

※通常のレポート提出台紙を使用して提出してください。

ソーシャルワーク実習Ⅰ			科目コード	CP4256
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	実習	3年以上	三浦 剛/高野 亜紀子/元村 智明/清水 冬樹/ 石附 敬/眞嶋 智彦/二渡 努/芳賀 恭司 ほか	

■履修登録条件

「ソーシャルワーク演習Ⅰ」をすでに履修登録済みで、「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」を同時に履修登録の方が履修登録できます。

科目の概要

■科目の内容

社会福祉士の実践現場を理解し、総合的に対応できる能力を習得する。利用者及び関係者との円滑な人間関係形成・利用者理解とその需要の把握・利用者理解と支援計画の作成・利用者及び関係者との援助関係の形成・利用者及び関係者への権利擁護・利用者及び関係者への支援（エンパワメント）・利用者及び関係者への支援評価・多職種連携の意義と方法・チームアプローチの実際・実習機関での社会福祉士の役割について、経営サービス、管理運営の実際等の学習を行なう。

■到達目標

利用者や家族への直接的な支援、関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「専門的知識」「他者への関心と理解」「社会への関心と理解」「自己尊重のコミュニケーション力」「他者配慮表現力」「ICT 活用力」「自己コントロール力」「クリティカルシンキング力」「アセスメント力」「問題解決力」「社会貢献力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

実習先からの評価を踏まえ、実習への取り組み、実習記録等により総合的に評価する。

■教科書（「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ・Ⅱ」「ソーシャルワーク実習Ⅱ」と共通）

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座〔専門科目〕8 ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習（社会専門）』中央法規出版、2021年

※「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」で配本のため、この科目での教科書配本はありません。

実習

■実習日数・時期・対象施設

★実習日数

8日間以上かつ60時間以上（1日8時間程度（休憩時間を除く））。

※実習の分割：不可。

★実習時期

11月第3週～2月（年末年始を除く）

★実習対象施設

1) 『学習の手引き』の「社会福祉士国家試験受験資格」に記載の法令で定められた施設で、かつ次に該当する実習指導者がいる施設。

「社会福祉士の資格取得後3年以上相談援助業務に従事した経験のある者で、かつ厚生労働大臣が基準を定める実習指導者講習会を修了した者」

※対象施設・事業であっても法令要件等により実習が認められない場合もあります。

※実習可能地域（北海道・青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島・茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・東京・神奈川・新潟）以外の実習については要件に適合した実習先を各自で確保していただく場合があります。

※居住する都道府県内、および市町村内にて、実習先が確保できない場合があります。

※感染症や災害ほか本学の判断により、施設・事業所等での実習を中止し、在宅にてTFU オンデマンドなどオンラインを活用した実習とする場合があります（厚生労働省の通知等に基づき決定します）。

2) 実習先は大学に一任するか、自身で第1・2希望を提出。ただし、実習形態は「**配属実習**」のため、**大学の指定する実習先・実習日程で受講することを原則とする**。

3) **勤務先での実習も可能**。ただし、省令の基準を満たす施設で、所属長の了解をとり、休暇扱いで、「ソーシャルワーク実習」にふさわしい内容が必要。

4) **病院・診療所など医療機関での実習**は、医療機関において勤務経験があり医療ソーシャルワークに関して十分理解のある方のみ。別途レポート提出が必要。

■実習申込から受講までの流れ

順序		
①	実習前年度の2/15～2/末	実習申込 ※
②	8月	スクーリング受講「実習指導Ⅰ-1」(1日間)
③	9月	スクーリング受講「実習指導Ⅰ-2」(1日間)
④	11月	スクーリング受講「実習指導Ⅰ-3」(1日間)
⑤	11月第3週～2月	実習 （8日間かつ60時間以上）
⑥	1～3月	スクーリング受講「実習指導Ⅰ-4」(1日間)

※4月生・3年次編入学者は出願時に「入学前・実習受講希望届」で提出済み。

■申込方法・受講条件

2年次以上の2/15～2/末の期間に申込書類（「ソーシャルワーク実習Ⅰ受講希望届」等）を提出。
実習受講判定日（9/30・10/31）までに、実習受講条件を達成。

※4月生・3年次編入学の新入生を除き、「ソーシャルワーク演習（CN3251）」のスクーリングおよび「体験学習・実習ガイダンス」を受講しなければ、実習は申し込めません。

※申込方法および受講条件の詳細は、『学習の手引き』または「ソーシャルワーク演習」スクーリング時に配付の『実習の手引き』を参照。

※受講条件等は、変更になる場合があります。

■実習費

- ・実習費（60,000円）は実習受講年度の9月に請求します。
- ・期限までにコンビニエンスストアでお支払いください。
- ・一旦納入した実習費は、返金できませんのでご注意ください。
- ・実習費には、実習保険加入費、実習委託費、実習巡回指導費、諸手続き費などが含まれています。
- ・実習先が委託費の受取を辞退した場合でも、その部分を実習生に返金することはできません。

■巡回指導・帰校日指導について

- ・実習中、本学実習担当教員による巡回指導および帰校日指導を受講します。
（基本：巡回指導1回、帰校日指導1回）
- ・巡回指導の実施場所は、実習先の施設・事業所です。
- ・オンラインにて巡回指導および帰校日指導を実施する場合があります。
- ・帰校日指導は、実習期間中、指定された日時、会場にて受講していただきます（主に土日）。
※仙台・札幌・青森・盛岡・秋田・山形・福島（または郡山）・東京・新潟の各地で行います。
※帰校日指導を巡回指導に変更する場合は15,000円（1回につき）が追加となります。
※巡回指導を帰校日指導に変更することはできません。

■インフルエンザ、麻疹（はしか）などの感染症対策について

『実習の手引き』参照。

ソーシャルワーク実習Ⅱ		科目コード	CP5257
単位数	履修方法	配当年次	担当教員
4	実習	4年以上	三浦 剛／高野 亜紀子／元村 智明／清水 冬樹／ 眞嶋 智彦／二渡 努／芳賀 恭司 ほか

■履修登録条件

受講条件の達成に必要な科目をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をする方のみが履修登録可能です。

科目の概要

■科目の内容

ソーシャルワーク実習を通して、ソーシャルワーク実践に必要な知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、実践的な技術等を体得する。

社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を獲得する。

支援を必要とする人や地域の状況を理解し、その生活上の課題について把握できるようになる。

総合的かつ包括的な支援における多職種・多機関、地域住民との連携のあり方や内容について実践的に理解することができる。

社会福祉にかかわる施設・機関等が地域社会の中で果たすべき役割を実践的に理解することができる。

社会福祉士の価値や倫理に基づいた実践ができる。

主体的に実習スーパービジョンを受け、自己の取り組みを振り返ることができる。

■到達目標

- 1) 利用者やその関係者（家族・親族、友人等）、施設・事業者・機関・団体、住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成ができる。
- 2) 利用者やその関係者（家族・親族、友人等）との援助関係の形成ができる。
- 3) 利用者や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）の把握、支援計画の作成と実施及び評価ができる。
- 4) 利用者やその関係者（家族・親族、友人等）への権利擁護活動とその評価ができる。
- 5) 多職種連携及びチームアプローチの実践的理解し説明できる。
- 6) 当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけができる。
- 7) 地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関する理解し説明できる。
- 8) 施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際（チームマネジメントや人材管理の理解を含む）について理解し説明できる。
- 9) 社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任を理解し説明できる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「専門的知識」「他者への関心と理解」「社会への関心と理解」「自己尊重のコミュニケーション力」「他者配慮表現力」「自己コントロール力」「アセスメント力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

実習先からの評価を踏まえ、実習への取り組み、実習記録等により総合的に評価する。

■教科書（「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ・Ⅱ」「ソーシャルワーク実習Ⅰ」と共通）

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座〔専門科目〕8 ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習（社会専門）』中央法規出版、2021年

※「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」で配本のため、この科目での教科書配本はありません。

実習

■実習日数・時期・対象施設

★実習日数

23日間以上かつ180時間以上（1日8時間程度（休憩時間を除く））。

※実習の分割：2分割まで可（本学および実習先が認めた場合）。

★実習時期

6月第3週～10月第2週

★実習対象施設

「ソーシャルワーク実習Ⅰ」と同様。

※「ソーシャルワーク実習Ⅰ」と種別が異なる施設・事業所等での実習になります。

※「ソーシャルワーク実習Ⅰ」免除の方は、免除申請の際に該当する種別と異なる施設・事業所等での実習になります。そのうえでソーシャルワーク実習Ⅱでは、到達目標の（1）～（9）について全ての項目に取り組む必要があります。

■実習申込から受講までの流れ

順序		
①	実習前年度の9/1～9/15	実習申込 ※
②	4月	スクーリング受講「実習指導Ⅱ-1」（1日間）
③	4月	スクーリング受講「実習指導Ⅱ-2」（1日間）
④	6月	スクーリング受講「実習指導Ⅱ-3」（1日間）
⑤	6月第3週～10月第2週	実習（23日間以上かつ180時間以上）
⑥	11月	スクーリング受講「実習指導Ⅱ-4」（1日間）

■申込方法・受講条件

3年次以上の9/1～9/15の期間に申込書類（「ソーシャルワーク実習Ⅱ受講希望届」等）を提出。

実習申込受理判定日（10/31・11/30・12/20）までに、実習申込受理条件を達成。

※申込方法および受講条件の詳細は、『学習の手引き』または「ソーシャルワーク演習」スクーリング時に配付の『実習の手引き』を参照。

※受講条件等は、変更になる場合があります。

■実習費

- ・実習費（110,000円）は実習受講年度の4月に請求します。
- ・期限までにコンビニエンスストアでお支払いください。
- ・一旦納入した実習費は、返金できませんのでご注意ください。
- ・実習費には、実習保険加入費、実習委託費、実習巡回指導費、諸手続き費などが含まれています。
- ・実習先が委託費の受取を辞退した場合でも、その部分を実習生に返金することはできません。

■巡回指導・帰校日指導について

- ・実習中、本学実習担当教員による巡回指導および帰校日指導を受講します。
（基本：巡回指導1回、帰校日指導3回）
- ・巡回指導の実施場所は、実習先の施設・事業所です。
- ・オンラインにて巡回指導および帰校日指導を実施する場合もあります。
- ・帰校日指導は、実習期間中、指定された日時、会場にて受講していただきます（主に土日）。
※仙台・札幌・青森・盛岡・秋田・山形・福島（または郡山）・東京・新潟の各地で行ないます。
※帰校日指導を巡回指導に変更する場合は15,000円（1回につき）が追加となります。
※巡回指導を帰校日指導に変更することはできません。

■インフルエンザ、麻疹（はしか）などの感染症対策について

『実習の手引き』参照。

精神医学と精神医療Ⅰ			科目コード	CQ4178
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	R or SR (講義)	3年以上	高野 毅久	



科目の概要

■科目の内容

精神障害は紀元前の古くから知られていましたが、科学的な近代精神医学が確立されたのは約1世紀前のことです。そして約60年前に向精神薬が発見されて以来、精神障害の治療は著しく進展し、ここ四半世紀は、精神障害の主座としての脳に関する検査法や研究においてもめざましい発展を示してきました。本科目では、精神医学、精神医療の成り立ちから説明し、精神医学関連の基礎知識、診断の手順、各種精神障害とその治療法について理解することを目的とします。さらに、病院精神医療や地域精神医療についても理解を深めます。現代は心の時代ともいわれますが、精神医学の方法や精神障害についての学習を通して、疾患としての精神障害の理解はもちろんのこと、心を科学的に考える方法も身につけるように心掛けましょう。

■到達目標

- 1) 精神疾患の診断におけるプロセスを順序よく説明できる。
- 2) 代表的な精神疾患とその治療について説明できる。
- 3) わが国における病院精神科医療と地域精神科医療の現状について説明できる。
- 4) 精神科医療における人権擁護の重要性について説明できる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「専門的知識」「他者への関心と理解」「社会への関心と理解」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価60%＋スクーリング評価 or 科目修了試験40%

■教科書・参考図書

【教科書】（「精神医学と精神医療Ⅱ」と共通）

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新・精神保健福祉士養成講座1 精神医学と精神医療』
中央法規出版、2021年

（スクーリング時の教科書）上記教科書を参考程度に使用し、配付する資料を中心にして講義を行います。

【参考図書】

- 1) 松崎朝樹 著『教養としての精神医学』KADOKAWA、2023年

- 2) 松本卓也・野間俊一編著『メンタルヘルス時代の精神医学入門』ミネルヴァ書房、2020年
- 3) 西尾雅明 著『ACT 入門 精神障害者のための包括型地域生活支援プログラム』金剛出版、2004年
- 4) その他精神医学・精神医療関連書

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

本科目では、精神保健福祉士の仕事を行うにあたって必要とされる精神医学の知識を体系的に学ぶことを目的としています。スクーリングでは、代表的な精神疾患とその治療、病院精神科医療と地域精神科医療および精神科医療における人権擁護について具体的に学びます。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	精神疾患総論	歴史・精神障害の概念・成因・分類・診断・検査・脳
2	代表的な精神疾患①	[F 0] 器質性精神障害 [F 1] 精神作用物質関連精神障害
3	代表的な精神疾患②	[F 2] 統合失調症 [F 3] 気分障害 [F 4] 神経症性障害
4	代表的な精神疾患③	[F 5] 生理的・身体関連障害 [F 6] パーソナリティ障害 [F 7] 精神遅滞 [F 8] 発達障害 [F 9] 小児期青年期の障害
5	精神疾患の治療	精神科治療総論・薬物療法・精神療法・脳刺激法
6	精神医療機関の治療の実際①	精神科リハビリテーション・外来治療・在宅医療
7	精神医療機関の治療の実際②	入院治療・医療観察法・精神保健福祉士
8	精神医療と保健・福祉の連携、今後の動向	治療導入・再発予防・地域生活支援 医療制度改革
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

板書と ICT を活用し資料を配付します。適宜教科書を参照する場合があります。講義中は、講義に集中してあとから見直すようにしてください。

■スクーリング 評価基準

授業への参加状況（20%）＋スクーリング試験（80%）で評価。

講義で学んだ内容を踏まえ、試験問題に沿って自身の見解をどれだけ論述できるかを問います（教科書・ノート・資料持込可）。持込可ですので十分な論述が要求されます。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

事前に教科書を読んで分からないところを明らかにし、不明な点は参考図書などを参考にして調べてください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	精神疾患総論①	精神医療の歴史・心の生物学的理解・精神障害の概念	Bio/Psycho/Socialの多次元にわたる精神疾患の成り立ちを理解する基礎
2	精神疾患総論②	疾患の成因と分類・診断・検査	従来診断における外因/内因/心因の成因分類とICD、DSMの操作的診断分類のちがい
3	代表的な精神疾患①	器質性精神障害・精神作用物質関連精神障害	従来診断の外因性精神障害 操作的診断の[F0] 認知症 [F1] アルコール・覚醒剤及び [G40] てんかん
4	代表的な精神疾患②	統合失調症・気分障害	従来診断の内因性精神障害 操作的診断の[F2] 統合失調症 [F3] 気分障害
5	代表的な精神疾患③	神経症性障害・生理的障害	従来診断の心因性精神障害 操作的診断の[F4] 神経症 [F5] 食・睡眠・性・産褥に関する障害
6	代表的な精神疾患④	パーソナリティ障害・精神遅滞	[F6] パーソナリティ障害 [F7] 知的障害
7	代表的な精神疾患⑤	心理的発達の障害・小児期青年期の行動・情緒障害	[F8] 自閉症スペクトラム障害 [F9] ADHD・行為・情緒障害
8	精神疾患の治療①	治療総論・身体療法(薬物・脳刺激)	Bio/Psycho/Socialの多次元にわたる治療・治療の原則/薬物療法・副作用・脳刺激療法
9	精神疾患の治療②	精神療法	精神療法とは・種類と内容
10	精神疾患の治療③	精神科リハビリテーション	精神科リハビリテーションとは・プロセスと諸技法
11	治療の実際①	外来治療・在宅医療	入院医療中心から地域生活中心へ・アウトリーチ
12	治療の実際②	入院治療・医療観察法における治療	本人の同意に基づかない入院治療の法的根拠・人権擁護・行動制限最小化、及び医療観察法
13	治療の実際③	治療導入・再発予防・地域生活に向けた支援	早期介入・救急・認知症初期集中支援・服薬自己管理支援・地域包括ケアシステムなど
14	医療・保健・福祉の連携	治療導入・再発予防・地域生活に向けた支援	早期介入・救急・認知症初期集中支援・服薬自己管理支援・地域包括ケアシステムなど
15	精神医療の動向	患者動向・医療制度改革・医療機関の機能分化	患者数・疾患・年齢・平均在院日数の推移・医療制度改革・診療報酬・機能分化・クリティカルパスなど

■レポート課題

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	統合失調症、気分障害、認知症におけるそれぞれの病型、症状、経過、予後、検査、について診察の手順を踏まえながら論述し、治療はどうか、身体 / 精神 / 社会療法について述べよ。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

1 単位め アドバイス

2 単位め アドバイス

精神疾患の原因は、その大半が未だ不明です。また、原因がわかっていると考えられる認知症でも、脳の障害から精神症状のすべてを説明することは出来ません。このような疾患に対して、精神医学は、身体医学とはちがった独特の診断法として、外因／内因／心因といった分類を考え、診断に外因性⇒内因性⇒心因性という順序＝構造を与えました。ICD や DSM といった現行の操作的診断法は、この構造を廃して、すべての精神障害を一覧表のごとく同一平面上に並べましたが、操作的診断法を把握し実施するのにも、従来診断法は有用です。直接的には、教科書の第1章、第2章に書かれていますが、実際に自分が、ひとりの患者さんを目の前にしている場面を想定し、統合失調症、気分障害、認知症についてまとめてみることで、知識が立体化し、診断から治療やリハビリテーションの方向性までが、一貫したパースペクティブで見えてくると思います。

科目修了試験

■評価基準

まず課題の理解が大切です。次に課題に対する解答が指定のテキストの内容理解を基礎としているかどうか大切です。したがってテキストにある重要な用語や概念を用いて適切に答えているかどうか評価の上で重要になります。

精神医学と精神医療Ⅱ			科目コード	CQ4179
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	R	3年以上	高野 毅久	



■履修登録条件

「精神医学と精神医療Ⅰ」を既に履修登録済みか、同時に履修登録をする方のみが履修登録できます。

科目の概要

■科目の内容

精神障害は紀元前の古くから知られていましたが、科学的な近代精神医学が確立されたのは約1世紀前のことです。そして約60年前に向精神薬が発見されて以来、精神障害の治療は著しく進展し、ここ四半世紀は、精神障害の主座としての脳に関する検査法や研究においてもめざましい発展を示してきました。本科目では、精神医学、精神医療の成り立ちから説明し、精神医学関連の基礎知識、診断の手順、各種精神障害とその治療法について理解することを目的とします。さらに、病院精神医療や地域精神医療についても理解を深めます。現代は心の時代ともいわれますが、精神医学の方法や精神障害についての学習を通して、疾患としての精神障害の理解はもちろんのこと、心を科学的に考える方法も身につけるように心掛けましょう。

■到達目標

- 1) 精神疾患の診断におけるプロセスを順序よく説明できる。
- 2) 代表的な精神疾患とその治療について説明できる。
- 3) わが国における病院精神科医療と地域精神科医療の現状について説明できる。
- 4) 精神科医療における人権擁護の重要性について説明できる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「専門的知識」「他者への関心と理解」「社会への関心と理解」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価60%＋科目修了試験40%

■教科書・参考図書

【教科書】（「精神医学と精神医療Ⅰ」と共通）

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新・精神保健福祉士養成講座1 精神医学と精神医療』
中央法規出版、2021年

※「精神医学と精神医療Ⅰ」で配本のため、この科目での教科書配本はありません。

【参考図書】

- 1) 松崎朝樹 著『教養としての精神医学』KADOKAWA、2023年
- 2) 松本卓也・野間俊一編著『メンタルヘルス時代の精神医学入門』ミネルヴァ書房、2020年
- 3) 西尾雅明 著『ACT 入門 精神障害者のための包括型地域生活支援プログラム』金剛出版、2004年
- 4) その他精神医学・精神医療関連書

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	精神疾患総論①	精神医療の歴史・心の生物学的理解・精神障害の概念	Bio/Psycho/Social の多次元にわたる精神疾患の成り立ちを理解する基礎
2	精神疾患総論②	疾患の成因と分類・診断・検査	従来診断における外因 / 内因 / 心因の成因分類と ICD、DSM の操作的診断分類のちがい
3	代表的な精神疾患①	器質性精神障害・精神作用物質関連精神障害	従来診断の外因性精神障害 操作的診断の [F 0] 認知症 [F 1] アルコール・覚醒剤及び [G40] てんかん
4	代表的な精神疾患②	統合失調症・気分障害	従来診断の内因性精神障害 操作的診断の [F 2] 統合失調症 [F 3] 気分障害
5	代表的な精神疾患③	神経症性障害・生理的障害	従来診断の心因性精神障害 操作的診断の [F 4] 神経症 [F 5] 食・睡眠・性・産褥に関する障害
6	代表的な精神疾患④	パーソナリティー障害・精神遅滞	[F 6] パーソナリティー障害 [F 7] 知的障害
7	代表的な精神疾患⑤	心理的発達の障害・小児期青年期の行動・情緒障害	[F 8] 自閉症スペクトラム障害 [F 9] ADHD・行為・情緒障害
8	精神疾患の治療①	治療総論・身体療法（薬物・脳刺激）	Bio/Psycho/Social の多次元にわたる治療・治療の原則 / 薬物療法・副作用・脳刺激療法
9	精神疾患の治療②	精神療法	精神療法とは・種類と内容
10	精神疾患の治療③	精神科リハビリテーション	精神科リハビリテーションとは・プロセスと諸技法
11	治療の実践①	外来治療・在宅医療	入院医療中心から地域生活中心へ・アウトリーチ
12	治療の実践②	入院治療・医療観察法における治療	本人の同意に基づかない入院治療の法的根拠・人権擁護・行動制限最小化、及び医療観察法
13	治療の実践③	治療導入・再発予防・地域生活に向けた支援	早期介入・救急・認知症初期集中支援・服薬自己管理支援・地域包括ケアシステムなど
14	医療・保健・福祉の連携	治療導入・再発予防・地域生活に向けた支援	早期介入・救急・認知症初期集中支援・服薬自己管理支援・地域包括ケアシステムなど

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
15	精神医療の動向	患者動向・医療制度改革・医療機関の機能分化	患者数・疾患・年齢・平均在院日数の推移・医療制度改革・診療報酬・機能分化・クリティカルパスなど

■レポート課題

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	我が国の入院治療の辿った歴史、法制度の変遷を簡潔にまとめ、その問題点を指摘し、「入院医療中心から地域生活中心へ」の理念の実現が、どのような形で図られようとしているのかについて論述せよ。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス



教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。



我が国の精神保健福祉施策の理念は、「入院医療中心から地域生活中心へ」です。1900年に精神病患者監護法が成立し私宅監置が合法化された頃は、入院しようにもベッドがありませんでした。その後、我が国の精神科病床数は増え続け、国の施策にもかかわらず、なかなか減りません。本来、精神科医療は、生活する場所を変えずに受けられるのがいいはずなのに、「地域生活中心へ」が未だに理念である理由は何か。直接的には教科書の第4章、5章に書かれていますが、講義で学んだことを振り返りながら、Bio/Psycho/Socialの多次元にわたって考察すると、我が国の精神医療の未来を考える拠り所が有機的連関を持って把握されると思います。

科目修了試験

■評価基準

まず課題の理解が大切です。次に課題に対する解答が指定のテキストの内容理解を基礎としているかどうか大切です。したがってテキストにある重要な用語や概念を用いて適切に答えているかどうかの評価上で重要になります。

現代の精神保健の課題と支援Ⅰ

科目コード

CQ3180



単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	R or SR(講義)	2年以上	上埜 高志

科目の概要

■科目の内容

心身の健康の維持増進は社会全体で取り組むべき重要な課題となっており、社会からソーシャルワーカーに期待される役割や果たすべき責任はますます大きくなっています。

精神保健の概要、現代の精神保健分野の動向と基本的考え方、家族に関連する精神保健の課題と支援、精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ、精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ、諸外国の精神保健活動の現状および対策について理解することを目的とします。

■到達目標

- 1) 精神保健の概要について説明できる。
- 2) 現代の精神保健分野の動向と基本的考え方について説明できる。
- 3) 家族に関連する精神保健の課題と支援について説明できる。
- 4) 精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチについて説明できる。
- 5) 精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチについて説明できる。
- 6) 諸外国の精神保健活動の現状および対策について説明できる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「専門的知識」「他者への関心と理解」「社会への関心と理解」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価20%＋スクーリング評価 or 科目修了試験80%

■教科書・参考図書

【教科書】（「現代の精神保健の課題と支援Ⅱ」と共通）

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 精神保健福祉士養成講座〔専門科目〕2 現代の精神保健の課題と支援』中央法規出版、2021年

（スクーリング時の教科書）上記教科書を使用します。

【参考図書】

- 1) 日本公衆衛生協会『我が国の精神保健福祉 平成29年度版（精神保健福祉ハンドブック）』日本公衆衛生協会、2018年

- 2) 柏木昭、荒田寛、佐々木敏明編集『第4版 これからの精神保健福祉－精神保健福祉士ガイドブック』へるす出版、2009年

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

精神保健の概要、動向を踏まえて、ライフサイクル、家族、学校、職場の精神保健およびそれらの課題と支援について理解することを目的とします。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	精神保健の概要	精神保健の概念、定義、歴史、精神保健の課題と支援
2	精神保健の動向	精神科医療の現状と課題、地域精神保健福祉活動の精神保健、それらの課題と支援
3	ライフサイクルと精神保健（1）	乳幼児期・学童期・思春期・青年期の精神保健、それらの課題と支援
4	ライフサイクルと精神保健（2）	成人期・老年期の精神保健、それらの課題と支援
5	家族の精神保健（1）	家族関係、暴力、出産・育児、ひきこもり、それらの課題と支援
6	家族の精神保健（2）	介護、グリーフケア、それらの課題と支援
7	学校の精神保健	不登校、いじめ、教員の精神保健、それらの課題と支援
8	職場の精神保健	労働環境、産業精神保健、それらの課題と支援
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

教科書・配付資料を中心に講義を進めます。

■スクーリング 評価基準

授業への参加状況（20％）＋スクーリング試験（80％）で評価します。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

教科書を通読してください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	精神保健の概要（第1章第1節・第2章第2節）	精神保健の概要、精神保健活動の三つの対象について理解する。	健康の定義、精神保健の定義、普遍化・拡大化する現代の精神保健課題について考察する。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
2	ライフサイクルと精神保健（第1章第2節）	ライフサイクルと精神保健について理解する。	ライフサイクルと発達課題、ライフサイクルの各段階における精神保健と課題について考察する。
3	生活習慣と精神の健康（第1章第3節・第2章第4節）	生活習慣と精神の健康、生活と嗜癖について理解する。	生活習慣と精神の健康、嗜癖の基本的な考え方、日常生活における身近な嗜癖について考察する。
4	精神保健の動向（第2章第1節）	現代の精神保健の動向について理解する。	精神科医療の現状と課題、地域精神保健福祉活動、精神疾患受療率と受療促進について考察する。
5	精神保健の基本的考え方（第2章第3節）	精神の健康に関する心的態度	正常心理における要求モデル、危機プロセスと喪失反応のモデル、障害の受容について考察する。
6	家族の精神保健（1）（第3章第1節・第5節）	家族関係における暴力と精神保健、家族関係の課題について理解する。	日本の家族の世帯構造、家族関係による課題、家族関係への影響要因、現在家族の課題、誰がどのようにして家族関係の課題にかかわるかについて考察する。
7	家族の精神保健（2）（第3章第2節・第3節）	出産・育児をめぐる精神保健、介護をめぐる精神保健について理解する。	出産に関する精神保健、育児に関する精神保健、介護のストレスにかかわる問題、高齢者虐待、介護と精神保健について考察する。
8	家族の精神保健（3）（第3章第4節・第6節）	社会的ひきこもりをめぐる精神保健、グリーフケアについて理解する。	ひきこもりケースの精神医学的診断、ひきこもりの現状、暴力を伴うケース、グリーフケアの定義と重要性、悲嘆のプロセスとその意味、悲嘆研究に対する関心の高まり、グリーフケアが必要とされるさまざまな分野について考察する。
9	学校の精神保健（1）（第4章第1節・第2節）	学校教育における精神保健的課題、教員の精神保健について理解する。	不登校、いじめ、子どもの自殺、校内暴力や非行、教職員の精神疾患による休職の状況、教員の勤務状況とストレス、教員のバーンアウトに関連する諸要因、教員のサポートを主眼とした学校支援システムについて考察する。
10	学校の精神保健（2）（第4章第3節・第4節）	学校の精神保健に関与する専門職と関係法規、スクールソーシャルワーカーの役割について理解する。	学校という場の特徴、学校における専門職種、学校と協働する関係機関、関係法規、学校現場のスクールソーシャルワーカー、スクールソーシャルワーカーの課題とこれからについて考察する。
11	精神保健にかかわる社会資源（第3章第7節、第4章第5節）	家族の精神保健支援を担う機関、学校精神保健にかかわる社会資源について理解する。	家族に関連する多様な支援機関、家族会・当事者団体などのセルフヘルプグループ、学校に在籍する子どもにとっての社会資源、学びの環境を整える社会資源について考察する。
12	職場の精神保健（1）（第5章第1節・第2節）	現代日本の労働環境、産業精神保健とその対策について理解する。	「労働安全衛生調査（実態調査）」からみた労働環境、「過労死等防止対策白書」からみた労働環境、過労自殺、労働者のメンタルヘルスに関する我が国の動向と対策、「4つのケア」に基づくメンタルヘルス対策、「職場復帰支援の手引き」による支援の実際、ストレスチェックと職場環境改善について考察する。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
13	職場の精神保健（2） （第5章第3節・第4節）	職場のメンタルヘルスのための相談、職場内の問題を解決するための機関および関係法規について理解する。	職場のメンタルヘルス課題の捉え方、職場におけるメンタルヘルス相談の概要、企業内保健相談活動、メンタルヘルスに関係する職場内の問題解決のための機関、労働者のメンタルヘルスの問題を解決するための関係法規について考察する。
14	国際機関の精神保健活動（第10章第1節・第2節）	世界の精神保健の実情、WHOなどの国際機関の活動について理解する。	WHOの精神保健アトラス、DALY・QALY・健康寿命と「メンタルヘルスなしに健康なし」、SDGsとその意味、WHOの精神保健の定義と主な報告・決議、世界精神保健連盟と世界精神保健デー、OECDについて考察する。
15	諸外国の精神保健（第10章第3節）	諸外国の精神保健医療の実情について理解する。	欧米における精神保健医療体制の特徴、諸外国における精神保健医療サービスについて考察する。

■レポート課題

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	現代日本における精神保健の動向と基本的考え方を踏まえ、家族に関する精神保健の課題と支援について論述しなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス



教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。



教科書（とくに第3章）・参考書等をよく読み、家族に関する精神保健の課題と支援について考察してください。家族関係、暴力、虐待、出産・育児、ひきこもり、介護、グリーフケアなど、さまざまなテーマがありますので、ひとつあるいはいくつかに絞って論述してください。

科目修了試験

■評価基準

出題されたテーマについて、的確に理解しているか。

現代の精神保健の課題と支援Ⅱ

科目コード

CQ3181



単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	R	2年以上	上埜 高志

■履修登録条件

「現代の精神保健の課題と支援Ⅰ」をすでに履修登録済みか、同時に履修登録する方のみが履修登録できます。

科目の概要

■科目の内容

心身の健康の維持増進は社会全体で取り組むべき重要な課題となっており、社会からソーシャルワーカーに期待される役割や果たすべき責任はますます大きくなっています。

精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ、精神保健に関する発生予防と対策、地域精神保健に関する偏見・差別等の課題、精神保健に関する専門職種と国、都道府県、市町村、団体等の役割および連携を学びます。その学びを通じて、現代日本における精神保健の課題と支援について理解することを目的とします。

■到達目標

- 1) 精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチについて説明できる。
- 2) 精神保健に関する発生予防と対策について説明できる。
- 3) 地域精神保健に関する偏見・差別等の課題について説明できる。
- 4) 精神保健に関する専門職種と国、都道府県、市町村、団体等の役割および連携について説明できる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「専門的知識」「他者への関心と理解」「社会への関心と理解」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価20%＋科目修了試験80%

■教科書・参考図書

【教科書】（「現代の精神保健の課題と支援Ⅰ」と共通）

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 精神保健福祉士養成講座〔専門科目〕2 現代の精神保健の課題と支援』中央法規出版、2021年

※「現代の精神保健の課題と支援Ⅰ」で配本のため、この科目での教科書配本はありません。

【参考図書】

- 1) 日本公衆衛生協会『我が国の精神保健福祉 平成29年度版（精神保健福祉ハンドブック）』日本公衆衛生協会、2018年
- 2) 柏木昭、荒田寛、佐々木敏明 編集『第4版 これからの精神保健福祉－精神保健福祉士ガイドブック』へるす出版、2009年

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	災害時の精神保健（第6章第1節・第7章第10節）	災害被災者の精神保健、災害時の精神保健に対する対策を理解する。	大規模災害時におけるメンタルヘルスの課題、災害支援の実践活動、我が国の現状、被災後に起きるストレス障害とその対策、災害被災者に対する支援と具体的な対策について考察する。
2	犯罪・違法行為と精神保健（第6章第2節・第9節）	犯罪被害者等の支援、反復違法行為と精神保健を理解する。	犯罪被害の現状、犯罪被害とPTSD、犯罪被害者支援の現状と課題、違法行為と精神障害、違法行為の実際、医療と司法との連携、違法行為を繰り返す人への支援について考察する。
3	自殺対策（第6章第3節・第7章第5節）	自殺予防、うつ病と自殺防止対策を理解する。	自殺の現状と課題、日本における自殺対策の経緯、自殺対策のこれから、自殺とうつ病、自殺のリスクを抱えた人への介入、個別支援とケースマネジメントについて考察する。
4	身体疾患の精神保健（第6章第4節）	身体疾患に伴う精神保健を理解する。	身体疾患に伴う精神症状、身体疾患に伴う精神症状の実際、身体疾患に伴う精神保健の課題について考察する。
5	貧困問題と精神保健（第6章第5節）	貧困問題と精神保健を理解する。	我が国の貧困問題の現状、貧困の基本問題、貧困問題と精神障害者、貧困問題とかかわる精神保健福祉士が問われる課題について考察する。
6	孤立・ひきこもりと精神保健（第6章第6節・第7章第9節）	社会的孤立、社会的ひきこもりに対する対策を理解する。	社会的孤立の多様な実態、地域に潜在化する社会的孤立、その人の文脈を大切にすること、ひきこもりに関する諸施策、これまでの課題とこれからの支援について考察する。
7	マイノリティと精神保健（第6章第7節・第8節）	性的マイノリティと精神保健、多文化に接すること生じる精神保健上の問題を理解する。	セクシュアリティの構成要素、LGBTと性別違和、精神保健上の基本的心得、多様なセクシュアリティへの支援、日本に暮らす外国人の増加、異文化ストレス、多文化社会における精神保健上の課題について考察する。
8	高齢者の精神保健（第6章第10節・第7章第7節）	高齢者と精神保健、認知高齢者に対する対策を理解する。	日本における高齢者の状況、高齢者にかかわる諸問題、認知症の疫学と予防、認知症の支援について考察する。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
9	精神保健と予防（第7章第1節・第4節）	精神保健における予防の考え方、ギャンブル等依存対策を理解する。	精神保健と予防、メンタルヘルスリテラシー、「ギャンブル依存症」と「ギャンブル等依存症」、相談・治療・回復支援の各機関と望ましい対応、ギャンブル等依存症にかかわる施策と対策の推進体制について考察する。
10	依存症と精神保健（第7章第2節・第3節）	アルコール関連問題に対する対策、薬物依存対策を理解する。	アルコール関連問題、アルコール依存症、アルコール関連問題の対策と現状、期待される精神保健福祉士の役割、薬物依存の実態、薬物依存症の治療と対策について考察する。
11	子育て・発達障害と精神保健（第7章第6節・第8節）	子育て支援と暴力、虐待予防、発達障害者に対する対策を理解する。	我が国の母子保健施策、子育て世代包括支援センター、子育てに関する組織活動、児童虐待の予防・対策、発達障害の概要、ライフステージと生活場面における発達障害の特徴と支援、発達障害児者支援と精神保健福祉士について考察する。
12	地域精神保健（第8章第1節・第2節）	関連法規、精神保健にかかわる人材育成を理解する。	地域精神保健の関連法規、精神保健にかかわる人材育成について考察する。
13	スティグマと精神保健（第8章第3節・第9章第6節）	精神保健における偏見・差別、セルフヘルプグループと地域精神保健を課題とした市民団体を理解する。	精神保健の用語、精神障害者に対する偏見形成、偏見や差別を乗り越える、セルフヘルプグループとピアサポートグループ、フォーマルな社会資源とインフォーマルな社会資源について考察する。
14	精神保健と国・法規（第9章第1節・第2節）	国の機関とその役割、精神保健に関係する法規を理解する。	法制度の変遷と役割、各機関の役割、精神衛生と地域精神保健、地域精神保健から障害者福祉へ、これからの精神保健活動に向けて、関係法規について考察する。
15	精神保健と連携（第9章第3節・第4節・第5節）	多職種の役割と連携、地域精神保健にかかわる行政機関の役割および連携、学会や啓発団体を理解する。	精神保健福祉活動にかかわる専門職種、多職種の連携、今後の行政機関（国・都道府県・指定都市・市町村）の連携の必要性、学会や啓発団体（当事者会・職能団体・関係団体・その他の団体）について考察する。

■レポート課題

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	現代日本における地域精神保健の動向と基本的考え方を踏まえ、地域精神保健における多職種連携について論述しなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

1 単位め アドバイス

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

2 単位め アドバイス

教科書（とくに第8章・第9章）・参考書等をよく読み、精神保健福祉士等の精神保健に関わる専門職による多職種の連携・協働について論述してください。

科目修了試験

■評価基準

出題されたテーマについて、的確に理解しているか。

精神保健福祉の原理Ⅰ

科目コード

CR3182



単位数

履修方法

配当年次

担当教員

2

R or SR(講義)

2年以上

三城 大介

科目の概要

■科目の内容

精神保健福祉の原理Ⅰでは、「障害」や「障害のある人」についての捉え方について言及したうえで、そこから、心の病がある人の疾患や障害、生活のしづらさについての学びを深めていきます。我が国における障害者福祉の歴史の変遷を、精神障害者のそれを意識しながら学び、精神疾患がある人や精神障害がある人がどのような社会的立場に置かれてきたのかを知ることにより、精神疾患や精神障害についての学びを深めていきます。

また、イタリアやアメリカを中心に精神保健福祉先進国と呼ばれる諸外国との比較検討を行うことで、より精神疾患や精神障害についての知見を深めることを狙いに講義を進めます。

■到達目標

- 1) 障害の捉え方について自らの言葉で述べることができる。
- 2) 障害の捉え方について説明できる。
- 3) 我が国の精神障害を中心とした障害の制度やそれに対する意識の変遷を説明できる。
- 4) 精神保健福祉先進国と我が国の精神保健福祉についての取り組みの違いを自身の言葉で解説できる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「専門的知識」「他者への関心と理解」「社会への関心と理解」「自他尊重的コミュニケーション力」「他者配慮表現力」「自己コントロール力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価50%＋スクーリング評価 or 科目修了試験50%

■教科書・参考図書

【教科書】（「精神保健福祉の原理Ⅱ」と共通）

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 精神保健福祉士養成講座〔専門科目〕5 精神保健福祉の原理』中央法規出版、2021年

（スクーリング時の教科書）上記教科書を参考程度に使用し、適宜配付する資料と板書を中心にして講義を行います。

【参考図書】

W・ウォルフエンズバーガー著 富安芳和訳『ソーシャルロールパロリゼーション入門—ノーマリゼーションの心髄』学苑社、1995年

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

このスクーリングでは、先ず障害や障害者の捉え方についての視点を持ったうえで、精神障害や精神障害のある人についての考察を深めてください。

次に、先進国と比較して我が国の精神保健福祉施策や制度、意識の課題としての遅れを知って欲しいと思います。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	障害と障害のある人の捉え方	障害者福祉の史的展開と障害についての思想
2	精神疾患と精神障害	精神疾患と精神障害、生活のしづらさの理解
3	精神障害と精神障害者の概念	我が国の制度変遷からみる精神障害者観
4	精神障害の障害特性	ICF と精神障害の構造的理解
5	精神障害の理解と支援	アプローチの方法と自助グループ
6	諸外国における精神保健福祉の展開	イタリアとアメリカを中心に諸外国の状況を知る
7	我が国における社会的排除	治安モデル、医療モデル、福祉モデル
8	精神保健福祉先進国との比較	イタリアやアメリカと我が国の精神保健福祉の比較考察 質疑応答
9	スクーリング試験	

※オンデマンド・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

■講義の進め方

適宜資料を配付し、板書を中心に講義を進めます。

補助的にテキストも使用します。

■スクーリング 評価基準

精神保健福祉先進国との施策や制度の遅れ、精神障害についての意識の違いの理解を求めます（持ち込み不可）。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

- 1) 教科書の序章を読み、自身が障害者をどう捉えてきたのか振り返ってください。
- 2) 「障害者」の語源について調べてください。
- 3) イタリアの精神保健福祉の場でよく使われる「白衣を脱いで街に出よう」という言葉について、

インターネット等で調べてください。

- 4) アメリカのボクシングヘビー級のチャンピオンだったモハメド・アリと徴兵制度の関係を調べておいてください。
- 5) 社会防衛規制と国親思想について調べておいてください。
- 6) アメリカ、UCLA のバークレー校でエド・ロバーツが始めた IL 運動について調べておいてください。
- 7) フランスの精神病床減少施策であるセクトリゼーションについて調べておいてください。
- 8) テキスト第1章にある相馬事件・ライシャワー事件・宇都宮病院事件・池田小事件について調べておいてください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

- 1) 障害と障害者観について、自身の言葉で整理してください。
- 2) 我が国の精神保健及び精神保健福祉の制度の変遷について、治安モデル（社会防衛規制）・医療モデル・福祉モデル（国親思想）に整理分類したうえで、それぞれの特徴を比較してまとめてください。
- 3) 欧米の精神保健福祉先進諸国の制度や取り組みの特徴をまとめてください。
- 4) 我が国の精神保健福祉についての史的展開と欧米のそれを比較してまとめてください。
- 5) 若国の精神保健福祉制度の課題について自身の言葉で説明できるようにまとめてください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	障害の捉え方 (序・1章)	障害の捉え方とその概念について。	障害や障害者の捉え方について考えてみましょう。 また、精神障害がある方の生活のしづらさについてその構造を明らかにしてみましょう。
2	精神障害者福祉の理念と史的展開 (1章)	精神障害や精神障害者に対しての社会の対応を確認する。	精神疾患への薬物治療が始まったのは、1960年代のクロルプロマジンの発見以降です。 薬物治療開始以前の処遇とそれ以降の処遇、そして近年の状況についてテキストを参考に学んでみましょう。
3	精神障害者の定義とICF (2章)	ICF による障害や疾病の分類を理解したうえで、精神障害を定義する。	ICIDH と ICF の分類方法の違いを理解する。 その上で、精神障害を ICF にあてはめ、精神障害の定義を理解しましょう。
4	精神障害者の障害特性と生活のしづらさ (2章)	精神障害者の障害特性を理解し、精神保健福祉士に必要な視点を理解する。	精神疾患と精神障害、そして症状の固着や副薬の副作用などによる生活のしづらさを理解し、その障害特性の構造を理解したうえで精神保健福祉士に求められる視点について考察を深めてください。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
5	精神障害の理解と支援 1 (2 章)	代表的なアプローチ方法とその構造を知る。	自助グループについても理解する。 精神障害がある人へのアプローチの展開過程やその具体的方法について学んでください。
6	精神障害の理解と支援 2 (2 章)	認知症疾患がある方のサポートと精神保健福祉士の視点	認知症は ICD-10 で器質性精神疾患に分類され、各都道府県の精神科医療圏ごとに認知症疾患センターが精神科医用機関に設置されています。認知症疾患に対する精神保健福祉士としての視点を考察しましょう。
7	当事者運動と自助グループ (2 章)	アメリカにおける精神障害者の当事者運動や、我が国の当事者運動を知る。	様々な自助グループとその意義についても理解を深めましょう。また、精神障害以外の当事者運動の理解も深めましょう。
8	精神障害者に対する諸外国の取り組み 1 (3 章)	アメリカにおける精神保健福祉の取り組みについて理解する。	ケネディー教書での施設解体から 1980 年の州立精神科病院解体法、1990 年の ADA 法に至るまでの制度的な流れを理解する。
9	精神障害者に対する諸外国の取り組み 2 (3 章)	イタリアの 180 号法（バザーリア法）までの地域移行の展開や、フランス、イギリスなどの取り組みを構造的に理解する。	テキストを基にイタリア、イギリス、フランス、ニュージーランドなど、精神保健福祉先進国の制度的取り組みの構造と内容を理解する。
10	我が国の精神保健福祉の制度的変遷 (3 章)	我が国の精神保健福祉の制度的変遷から見る精神障害観の変遷	相馬事件や呉秀三の私宅監置の実態報告を契機とした精神病患者監護法から精神保健福祉法に至るまでの制度変化を学ぶ。
11	諸外国の取り組みとの比較 (3 章)	これまでの考察を基に、我が国の精神保健福祉制度の変遷と諸外国のそれを比較分析する。	諸外国の治安モデルから福祉モデルへの移行がどの時期にどういった方法で行われたのか、それを我が国の状況と比較考察することで、精神障害者福祉の課題について考察する。
12	当事者の権利と社会的バリアー (3 章)	我が国における精神障害者の排除の歴史について	治安モデル下での相馬事件や医療モデル下での宇都宮病院事件、福祉モデル下での池田小事件や相模原障害者殺傷事件から、当事者の権利と社会的障壁について考察を深める。
13	当事者支援と家族支援 (3 章)	精神障害者支援の対象者を明確にし、その上で、当事者とその家族の支援について理解する。	精神障害の対象範囲を明確にした上で、アルコールや薬物の依存症者やその家族など、疾患による支援の状況を理解する。
14	シームレスケアの為の方策 (3 章)	シームレスケアの重要性と、具体的な課題について整理し、理解する。	我が国の国策の不備も含め、医療・教育・福祉の連携の課題を明らかにし、シームレスな地域移行や地域定着の重要性と具体的な課題を理解する。
15	全体の振り返り	序章から 3 章までの内容を振り返り、理解を深める。	これまで学んだ、精神障害についての概念や史的制度展開、諸外国との比較、当事者の捉え方やアプローチの方法などについて、関連された知識として整理する。

■レポート課題

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	精神保健福祉先進国に比べ我が国の精神保健福祉が遅れていることを意識したうえで、精神障害や精神障害のある人の捉え方について、独自の視点で考察してください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

簡潔にまとめてください。我が国の精神保健福祉の状況やこれまでの経緯、そしてこれからの課題を先進諸外国のそれと比較検討しながら分析したうえで、あなたの思う精神障害者像や精神障害についての捉え方を述べてください。

1 単位め アドバイス

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

2 単位め アドバイス

我が国の治安モデルから医療モデル、福祉モデルへの変遷と先進諸外国のそれを比較することで、精神保健福祉の遅れを知るとともに、わが国で精神障害や精神障害がある人がどういった課題を抱えてきたのかを整理検討し、そのことについて独自の視点で考察を深めてください。

科目修了試験

■評価基準

基本的にはルーブリック評価に示されているレポート評価の基準に準じます。

それと同じ割合で、どの程度独自の視点で考察を進め論述したのかという基準も加え全体で評価します。

精神保健福祉の原理Ⅱ

科目コード

CR3183



単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	R or SR (講義)	2年以上	三城 大介

■履修登録条件

「精神保健福祉の原理Ⅰ」をすでに履修登録済みか、同時に履修登録する方のみが履修登録できます。

科目の概要

■科目の内容

精神保健福祉の原理Ⅱでは、精神障害者の疾患や障害を起因とする生活のしづらさや生活特性を理解したうえで、精神保健福祉士が支援する上での責務や倫理、支援のターゲットについて吟味を深めます。

また、精神科医療における他職種連携や地域連携にも触れ、精神保健福祉士の職責や具体的なアプローチの方法について考察を深めていきます。

■到達目標

- 1) 精神障害者の生活のしづらさを理解し説明できる。
- 2) 精神障害者の生活特性の状況や生活課題を理解し説明できる。
- 3) 精神保健福祉士の職責や倫理観について解説できる。
- 4) 精神保健福祉士が提供する支援について説明できる。
- 5) 精神保健福祉領域における医療連携や地域連携について理解し説明できる。
- 6) 精神保健福祉士のターゲットへ提供するアプローチについて自身の言葉で説明できる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「専門的知識」「他者への関心と理解」「社会への関心と理解」「他者配慮表現力」「自己コントロール力」「アセスメント力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価50%＋スクーリング評価 or 科目修了試験50%

■教科書・参考図書

【教科書】（「精神保健福祉の原理Ⅰ」と共通）

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 精神保健福祉士養成講座〔専門科目〕5 精神保健福祉の原理』中央法規出版、2021年

※「精神保健福祉の原理Ⅰ」で配本のため、この科目での教科書配本はありません。

(スクーリング時の教科書) 上記教科書を参考程度に使用し、適宜配付する資料と板書を中心にして講義を行います。

【参考図書】

R. P. リバーマン著 西園昌久 池淵恵美監訳・翻訳『精神障害と回復：リバーマンのリハビリテーション・マニュアル』星和書店、2011年

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

このスクーリングでは、精神障害者の生活のしづらさや生活特性を自身で容易にイメージできるよう理解し、その上で、精神保健福祉士としてのターゲットの理解やアプローチ方法の詳細、精神保健福祉領域における医療と地域の連携について学びを深めて欲しいと思います。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	精神科医療と精神障害者の生活特性	生活のしづらさと生活特性の吟味
2	精神障害者のメンタルヘルスとその課題	当事者のメンタルヘルスとその環境が抱える課題
3	精神障害者の環境調整とその課題	学校や職場など生活のステージごとにみた課題について
4	精神保健福祉士の理念と価値	精神保健福祉士に必要な理念やその価値について熟考します。
5	精神保健福祉士の実践における視点	エンパワメントの視点とリカバリーの視点
6	精神保健福祉領域における援助の関係性	援助関係に上下や強弱のパワーバランスは存在しません。そのことを中心に間主観性に言及します。
7	精神所見福祉士の業務特性	精神保健福祉領域における精神保健福祉士の業務特性を、そのターゲットとする環境との関係から考察します。
8	精神保健福祉士のフィールド	精神保健福祉士のフィールドは多岐に及んでいます。それぞれのフィールドでの特性について考察を深めます。
9	スクーリング試験	

※オンデマンド・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

■講義の進め方

適宜資料を配付し、板書を中心に講義を進めます。

補助的にテキストも使用します。

■スクーリング 評価基準

精神保健福祉士の援助の視点についての理解を求めます（持ち込み不可）。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

- 1) 精神障害者の症状の固着や陰性・陽性症状について調べる。
- 2) 向精神薬の副作用についてまとめる。
- 3) 精神障害者の生活のしづらさについて自分なりに考察を深めてみる。
- 4) テキスト第4章第2節を読み、保護者制度の歴史について理解する。
- 5) テキストやインターネットの情報を手掛かりに、精神保健福祉士のフィールドについて調べる。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

- 1) 精神障害者の生活特性の理解を確認する。
- 2) 精神障害者の生活ステージごとの課題について確認する。
- 3) 精神保健福祉士のフィールドとそこで求められるスキルや倫理観について確認する。
- 4) スクーリング全体の振り返りを行い、自身の知識を確認する。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	精神科医療による生活の影響（4章）	精神保健福祉先進諸国と比較しながら、平均在院日数が格段に長い我が国の精神科医療が当事者の生活へどういった影響を及ぼしてきたか考察する。	平均在院日数の違いが地域移行にどういった影響を与えるのか考察するとともに、地域移行、地域定着に必要な因子を分析する。
2	精神障害者とその家族の状況（4章）	精神保健福祉施策が他の障害者施策に送れていることが、当事者とその家族の生活に影響を及ぼしてきたか理解する。	社会的障壁の状況や就学・就職、制度利用等の観点から、当事者とその家族の関係性や社会的孤立の状況を探る。
3	精神障害者の生活の実際（4章）	医療・教育・就労等を踏まえた精神障害者の生活実態を理解する。	それぞれの因子ごとに整理して把握する。
4	学校や職場でのメンタルヘルスの課題（4章）	現代社会におけるメンタルヘルスの課題、特に学校や職場でのメンタルヘルスの課題について考察を深める。	いじめや不登校、校内暴力、引きこもりといった教育現場でのメンタルヘルスの課題や、過重労働による過労死や職場内でのメンタルヘルスの課題、それに対応するための制度について学びを深める。
5	アディクションとメンタルヘルス（4章）	アルコールや薬物、ギャンブルなどのアディクションとメンタルヘルスの関連性を学ぶ。	アルコールや薬物などの嗜癖構造を学び、依存症当事者のメンタルヘルスの連関、家族や社会への影響について知る。
6	精神保健福祉に関する原理（5章）	精神保健福祉領域のソーシャルワーカーの史的展開から、精神保健の原理が培われた足跡・過程を知る。	精神医学ソーシャルワーカーについて、Y問題などの出来事や、精神保健福祉領域の制度的変遷から学ぶ。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
7	精神保健福祉士による実践の原理や価値1（5章）	当事者の社会的復権と権利擁護、自己決定に関する支援について。	精神障害者への社会的評価と復権、権利擁護、そして自己決定を促すための支援について、精神保健福祉士に必要な視点について考察する。
8	精神保健福祉士による実践の原理や価値2（5章）	当事者主体のための実践方法や、当事者がごく当たり前の生活を送るために必要な実践方法の考察。	精神保健福祉領域における当事者主体の支援を精神保健福祉士の視点から考察する。加えて、当たり前の生活を送るための支援について考察する。
9	精神保健福祉士による実践の視点（5章）	人と環境の相互作用としてのエンパワメントやリカバリーの視点やスティグマの軽減について考える。	人と環境の相互作用の中で当事者が生きづらさを蓄積しないよう、精神保健福祉士の実践の視点として、エンパワメントを高める支援やリカバリーのための視点、スティグマの軽減の方法について考察を深める。
10	援助における関係性（5章）	援助における関係性の整理。援助者と被援助者、援助者間や当事者間の関係性、加害者と被害者の関係性の整理。	当事者や援助者の関係性は、その対象との組み合わせによって大きく異なる。例えばDVの加害者は被害者なのか？そういった関係性の考察を深める。
11	精神保健福祉士法の理解（6章）	精神保健福祉士法の成立とその目的、社会福祉士介護福祉士法との関連性について考える。	社会福祉士介護福祉士法成立後10年で精神保健福祉士法が成立した。その成立の意義や背景について学び、考察を深める。
12	精神保健福祉士の職業倫理（6章）	精神保健福祉士にとっての倫理綱領と倫理的ジレンマ、専門職団体の意義について考える。	精神保健福祉士にとっての倫理綱領により、精神保健福祉士自身が倫理的ジレンマを抱えることがある。その事を中心に考察する。
13	精神保健福祉士の業務特性とフィールド（6章）	精神保健福祉士のフィールドと業務特性について考察する。	精神保健福祉士のフィールドは精神科医療機関や福祉サービス事業所にとどまらず、多岐に及んでいる。それぞれのフィールドでの臨床実践の意義や課題について考察する。
14	精神保健福祉士の業務内容と特性（6章）	精神保健福祉士の業務特性や内容。	多岐に及び精神保健福祉士のフィールドにおける精神保健福祉士の業務特性や業務内容について理解する。
15	これまでのまとめと振り返り	4章から6章までの内容を振り返り、理解を深める。	精神保健福祉の原理Ⅰ及びⅡを俯瞰的にとらえ、整理する。

■レポート課題

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	精神障害者やその家族のおかれている状況を理解したうえで、精神保健福祉士が提供する援助の実践方法に必要な視点について述べなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

精神障害がある方やその家族の方の生活実態の状況を理解することが大切です。

その上で、精神保健福祉士が実践する支援における様々な援助の視点を整理し、考察を深めてくだ

さい。

また、考察する際には、精神保健福祉士法の解釈もその根底においてください。

1 単位め
アドバイス

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

2 単位め
アドバイス

まず、精神障害者の生活の実態に影響を及ぼすと予測される因子としての、精神科医療や家族の存在、生活の原資を得るための職業等について考察を深めてください。

その上で、精神保健福祉士が実践するアプローチの詳細をそこに当てはめて考察してください。

科目修了試験

■評価基準

基本的にはルーブリック評価に示されているレポート評価の基準に準じます。

それと同じ割合で、どの程度独自の視点で考察を進め論述したのかという基準も加え全体で評価します。

ソーシャルワークの理論と方法（精神専門）Ⅰ			科目コード	CS4184
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	R or SR（講義）	3年以上	田中 尚	



科目の概要

■科目の内容

精神保健福祉分野におけるソーシャルワーク（相談援助）について、実践事例を交えて、具体的、実践的な学びを深める。特に、精神保健福祉分野のソーシャルワーク実践の固有性、特殊性を踏まえながら、ソーシャルワークによる援助（支援）がどのように展開され、その意義や価値、支援方法や実践技術がどのように適用され、実践場面の中で位置づけられるのかを学びます。また、ソーシャルワークの発展のなかで、実践理論がどのように形成されてきたのか、さらに、精神疾患、精神障害が歴史的にどのように位置づけられてきたのかといった歴史の変遷と並行して学んでいきます。こんにち、精神保健福祉の課題が医療や福祉の領域に限らず、教育（学校）や司法の領域にまでわたり、幅広いメンタルヘルスの課題がソーシャルワーク実践に欠かせないものであることを考え、学んでいきます。

■到達目標

- 1) 精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの実践例から価値、理論、方法を統合的に学び、精神保健福祉士としての専門的相談援助について理解することができるようになる。
- 2) 精神保健福祉の実践現場での具体的事例を通して、ソーシャルワークの技術を習得することができる。
- 3) 精神保健福祉士の現場実習における具体的なソーシャルワーク（相談援助）の展開、技術を理解することができる。
- 4) ソーシャルワークの実践理論の形成について理解することができるようになる。
- 5) こんにちの精神保健福祉の領域の広がりとその意義、必要性に理解することができるようになる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「専門的知識」「他者への関心と理解」「社会への関心と理解」「自他尊重的コミュニケーション力」「他者配慮表現力」「クリティカルシンキング力」「アセスメント力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価50%＋スクーリング評価 or 科目修了試験50%

■教科書・参考図書

【教科書】（「ソーシャルワークの理論と方法（精神専門）Ⅱ」と共通）

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 精神保健福祉士養成講座〔専門科目〕6 ソーシャルワークの理論と方法（精神専門）』中央法規出版、2021年

(スクーリング時の教科書) 上記教科書を参考程度に使用し、配付する資料を中心にして講義を行います。

【参考図書】

- 1) 公益社団法人日本精神保健福祉士協会監修『ソーシャルワークプロセスにおける思考過程』中央法規出版、2017年
- 2) 公益社団法人日本精神保健福祉士協会監修『ソーシャルワークの面接技術と記録の思考過程』中央法規出版、2017年
- 3) 公益社団法人日本精神保健福祉士協会監修『社会資源の活用と創出における思考過程』中央法規出版、2019年
- 4) 白澤政和編著『ケアマネジメント論』ミネルヴァ書房、2019年
- 5) 渡部律子著『「人間行動理解」で磨くケアマネジメント実践力』中央法規出版、2013年

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

- ・ソーシャルワークの価値、知識、技術（方法）について学ぶ
- ・ソーシャルワークの展開（実施）について学ぶ
- ・精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの特殊性と意義について学ぶ
- ・ソーシャルワークの発展のなかで、実践理論がどのように形成されてきたのかを学ぶ
- ・精神疾患、精神障害が歴史的にどのように位置づけられてきたのかを学ぶ
- ・こんにちの精神保健福祉の課題が幅広いメンタルヘルスの課題としてソーシャルワーク実践に欠かせないものであることを学ぶ

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	ガイダンス ソーシャルワークの構成要素	ソーシャルワークの原則、理念、知識、技術
2	ソーシャルワークの発展・展開過程	ソーシャルワークの背景、実践理論発展過程
3	精神保健福祉分野のソーシャルワークの基本視点	精神疾患、精神障害の特性を踏まえたソーシャルワークの留意点
4	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの展開	精神保健福祉士の業務とミクロ・メゾ・マクロ実践
5	援助関係の形成	援助関係づくりと援助者の態度
6	個別支援の展開	インテーク、アセスメント、支援計画の策定、モニタリング、支援の終結
7	グループワーク（集団援助技術）	グループワークの概念、意義、方法、展開過程
8	ケアマネジメント	ケアマネジメントの概念、アウトリーチ
9	スクーリング試験	

※オンデマンド・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めます。教科書は参考程度に使用します。また、配付資料をもとに板書もしながら進めます。

■スクーリング 評価基準

- ・スクーリングの最後に試験を行います。その試験については、授業で用いた資料の範囲から出題します。教科書・資料・ノートの持込みは不可とします。
- ・特に、到達目標記載内容についての理解を問います。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

- ・スクーリング授業の範囲内である、教科書の第1章から第2章は読んでください。
- ・普段から精神保健福祉分野に関するニュースや新聞の記事などに目を通すようにしてください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	ソーシャルワークとは何か	ソーシャルワークのグローバル定義、原則、原理、知識、価値	ソーシャルワークとは何か、何を目指す専門職として位置づけられているかを学ぶ。
2	ソーシャルワークの歴史	ソーシャルワーク実践理論の歴史的発展	ソーシャルワークの実践モデルが、歴史的な背景の中でどのように形成されてきたかを学ぶ。
3	ソーシャルワークの倫理綱領	ソーシャルワーク専門職と倫理綱領	なぜ、ソーシャルワーク実践において倫理が問われ、倫理綱領がどのように位置づけられ、運用されているかを学ぶ。
4	精神保健福祉士の業務指針	精神保健福祉士とはどのような専門職か	わが国の精神新保健福祉士がどのような実践を展開しているのかを学ぶ。
5	ソーシャルワークの構成要件	ソーシャルワークの原則、理念、知識、技術	ソーシャルワーク専門職の役割と機能を理解する上で、その原則、理念、知識、技術について学ぶ。
6	ソーシャルワークの実践理論モデル	医学モデル、生活モデル、ストレングスモデル	今日のソーシャルワーク実践理論の中心となっているモデルについて学ぶ。
7	精神保健福祉分野のソーシャルワーク	基本的視点、人と環境の相互作用、リカバリー	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの基本的視点を踏まえて、地域包括ケア、環境調整や当事者のリカバリーの理念について理解する。
8	ミクロ・メゾ・マクロレベルの実践	ミクロからメゾ、マクロ実践の全体論的理解	ソーシャルワーク実践におけるミクロからメゾ、マクロレベルの実践の統合とそれらの全体論的理解を深める。
9	援助関係の形成	援助関係の形成のための原則と課題	ソーシャルワーク実践における援助関係の重要性と専門的援助関係について学ぶ。
10	個別支援の技法①	個別支援の技法 インテーク、アセスメント	個別支援の技法として、面接法、インテーク、アセスメントの技法について学ぶ。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
11	個別支援の技法②	個別支援の技法 支援計画、計画・実施	個別支援の技法として、個別支援計画の作成、計画に沿った支援とその留意点について学ぶ。
12	個別支援の技法③	個別支援の技法 モニタリング、終結、評価	個別支援の技法として、モニタリング、終結での支援と支援の評価に関する技法を学ぶ。
13	集団支援の技法①	集団支援の技法 原則、支援の構造	集団支援の技法として、その原則、支援の構造について学ぶ。
14	集団支援の技法②	集団支援の技法 グループダイナミズム	集団支援の技法として、グループダイナミズムとその活用について学ぶ。
15	ケアマネジメント	ケアマネジメントの概念と原則	ケアマネジメントの概念と原則を中心に、今日のケアマネジメント実践の全体構造を学ぶ。

■レポート課題

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	精神保健福祉分野におけるソーシャルワーク実践において、何故、倫理綱領が重要であるかについて、具体的な実践課題を例示して2,000字程度で述べなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス



教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。



論述式レポートの作成においては、レポート作成の基本的な形式やルールを順守して作成してください。また、レポート課題の意図を理解し、論点を絞って記述するようにしてください。そのうえで、根拠や論拠を踏まえて、自身の意見や考えを述べるようにしてください。

■レポート評価の基準

- 1) 論旨に一貫性がある論理的な説明になっているかどうか。なっていない場合などにおいて減点。
- 2) 内容がレポート課題の趣旨や出題の意図に沿ったものであるかどうか。
- 3) 自分なりの意見や考えが盛り込まれているかどうか。
- 4) 誤字や脱字、漢字の変換ミス、不適切な表現や誤った概念の理解などがなくどうか。あった場合などにおいて減点。

科目修了試験

■評価基準

上記のレポート評価の基準に加えて、『レポート課題集』にある本科目全体の内容についての理解を問います。また、解答字数は、800字以上を基準とします。

ソーシャルワークの理論と方法 (精神専門) II			科目コード	CS4185
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	R or SR (講義)	3年以上	田中 尚	



■履修登録条件

「ソーシャルワークの理論と方法 (精神専門) I」をすでに履修登録済みか、同時に履修登録する方が履修登録できます。

科目の概要

■科目の内容

精神保健福祉分野におけるソーシャルワーク（相談援助）について、実践事例を交えて、具体的、実践的な学びを深める。特に、精神保健福祉分野のソーシャルワーク実践の固有性、特殊性を踏まえながら、ソーシャルワークによる援助（支援）がどのように展開され、その意義や価値、支援方法や実践技術がどのように適用され、実践場面の中で位置づけられるのかを学びます。また、ソーシャルワークの地域を基盤としたメゾレベルの実践やマクロレベルの実践に焦点を当てるとともに、ソーシャルワーク実践の基礎理論になる原理などについても学びながら、ミクロ・メゾ・マクロレベルのソーシャルワーク実践の全体的な理解を深めていくことを目指します。

■到達目標

- 1) 精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの実践例から価値、理論、方法を統合的に学び、精神保健福祉士としての専門的相談援助について理解することができるようになる。
- 2) 精神保健福祉の実践現場での具体的事例を通して、ソーシャルワークの技術を習得することができる。
- 3) 精神保健福祉士の現場実習における具体的なソーシャルワーク（相談援助）の展開、技術を理解することができる。
- 4) 精神保健福祉分野におけるソーシャルワークのミクロ・メゾ・マクロレベルの実践について統合的に理解できるようになる。
- 5) ソーシャルワーク実践の基礎理論について理解することができるようになる。
- 6) 今日の精神保健福祉の領域の広がりとその意義、必要性に理解することができるようになる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「専門的知識」「他者への関心と理解」「社会への関心と理解」「自尊尊重的コミュニケーション力」「他者配慮表現力」「クリティカルシンキング力」「アセスメント力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価50%＋スクーリング評価 or 科目修了試験50%

■教科書・参考図書

【教科書】(「ソーシャルワークの理論と方法(精神専門)Ⅰ」と共通)

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 精神保健福祉士養成講座〔専門科目〕6 ソーシャルワークの理論と方法(精神専門)』中央法規出版、2021年

※(「ソーシャルワークの理論と方法(精神専門)Ⅰ」で配本のため、この科目での教科書配本はありません。

(スクーリング時の教科書) 上記教科書を参考程度に使用し、配付する資料を中心にして講義を行います。

【参考図書】

- 1) 公益社団法人日本精神保健福祉士協会監修『ソーシャルワークプロセスにおける思考過程』中央法規出版、2017年
- 2) 公益社団法人日本精神保健福祉士協会監修『ソーシャルワークの面接技術と記録の思考過程』中央法規出版、2017年
- 3) 公益社団法人日本精神保健福祉士協会監修『社会資源の活用と創出における思考過程』中央法規出版、2019年
- 4) 白澤政和編著『ケアマネジメント論』ミネルヴァ書房、2019年
- 5) 渡部律子著『「人間行動理解」で磨くケアマネジメント実践力』中央法規出版、2013年

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

- ・ソーシャルワークの価値、知識、技術(方法)について学ぶ
- ・ソーシャルワークの展開(実施)について学ぶ
- ・精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの特殊性と意義について学ぶ
- ・ソーシャルワークのメゾ・マクロレベルの実践理論がどのように形成されてきたのかを学ぶ
- ・精神疾患、精神障害が歴史的にどのように位置づけられてきたのかを学ぶ
- ・今日の精神保健福祉の課題が幅広いメンタルヘルスの課題としてソーシャルワーク実践に欠かせないものであることを学ぶ

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	ガイダンス ケアマネジメント概論	ケアマネジメントの定義、概要
2	コミュニティワーク歴史	COS、セツルメント、コミュニティオーガニゼーション
3	コミュニティワークの技術と方法	アウトリーチ、ソーシャルアクション

回数	テーマ	内容
4	精神障害者の地域包括ケアシステム	地域包括ケア、ACT、セルフヘルプ
5	多職種連携とソーシャルアドミニストレーション	多職種・多機関連携、チームアプローチ、組織アセスメントと運営管理
6	ソーシャルワーク実践の基礎理論①	来談者中心アプローチ、精神分析的アプローチ
7	ソーシャルワーク実践の基礎理論②	認知・行動理論アプローチ、システム理論アプローチ
8	ソーシャルワーク実践の基礎理論③	ソーシャルサポート、発達理論
9	スクーリング試験	

※オンデマンド・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めます。教科書は参考程度に使用します。また、配付資料をもとに板書もしながら進めます。

■スクーリング 評価基準

- ・スクーリングの最後に試験を行います。その試験については、授業で用いた資料の範囲から出題します。教科書・資料・ノートの持込みは不可とします。
- ・特に、到達目標記載内容についての理解を問います。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

- ・スクーリング授業の範囲内である、教科書の第1章から第2章は読んでください。
- ・普段から精神保健福祉分野に関するニュースや新聞の記事などに目を通すようにしてください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	地域を基盤としたソーシャルワーク①	ケアマネジメントと地域ケア	ケアマネジメントの展開方法、実施体制、地域ケア体制づくりについて学びます。
2	地域を基盤としたソーシャルワーク②	コミュニティワーク歴史	地域福祉、地域ケア、コミュニティワークの歴史的展開過程とその意味について学びます。
3	地域を基盤としたソーシャルワーク③	コミュニティワークの技法・方法	コミュニティワークにおける具体的な技法、方法について事例を通して学びます。
4	地域を基盤としたソーシャルワーク④	精神障害者にも対応した地域包括ケア	今日の政策的課題でもある「精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムの構築」に関する実践について学びます。
5	地域を基盤としたソーシャルワーク⑤	アウトリーチ、ソーシャルアクション	ミクロ・メゾ・マクロレベルの実践を包括的に展開していくための技法としてのアウトリーチ、ソーシャルアクションについて学びます。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
6	精神保健福祉分野における家族支援	家族理解とアプローチ（方法）	家族会支援、心理教育など、精神障害のある人びとにかかわる家族に対する理解の視点と支援方法について学びます。
7	多職種連携	チームアプローチ	精神保健福祉分野における医療、保健、福祉の連携として、チームアプローチの実践方法について学びます。
8	ソーシャルアドミニストレーション	実践組織のアセスメントと運営管理	ソーシャルワークを実践する機関、組織の構造と機能についてのアセスメントと、それらに基づいた運営のあり方について学びます。
9	精神保健福祉分野の新たな実践	司法、教育分野でのソーシャルワーク	精神保健福祉分野の広がりとして、司法や学校・教育分野でのソーシャルワークの実践とその課題について学びます。
10	ソーシャルワークの実践基礎理論①	来談者中心アプローチ	ソーシャルワーク実践の基礎理論として、来談者中心アプローチがどのように適用（応用）されているのか、その範囲・内容と活用方法について学びます。
11	ソーシャルワークの実践基礎理論②	精神分析的アプローチ	ソーシャルワーク実践の基礎理論として、精神分析的アプローチがどのように適用（応用）されているのか、その範囲・内容と活用方法について学びます。
12	ソーシャルワークの実践基礎理論③	システム論アプローチ（家族システムを中心）	ソーシャルワーク実践の基礎理論として、システム論アプローチがどのように適用（応用）されているのか、家族システム論を中心に、その範囲・内容と活用方法について学びます。
13	ソーシャルワークの実践基礎理論④	認知・行動理論アプローチ	ソーシャルワーク実践の基礎理論として、認知・行動理論アプローチがどのように適用（応用）されているのか、その範囲・内容と活用方法について学びます。
14	ソーシャルワークの実践基礎理論⑤	ソーシャルサポート	ソーシャルワーク実践の基礎理論として、ソーシャルサポートがどのように適用（応用）されているのか、その範囲・内容と活用方法について学びます。
15	まとめ		

■レポート課題

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	精神保健福祉分野におけるソーシャルワーク実践において、何故、メゾ・マクロレベルの実践が重要であるかについて、具体的な実践課題を例示して2,000字程度で述べなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

1 単位め
アドバイス

2 単位め
アドバイス

論述式レポートの作成においては、レポート作成の基本的な形式やルールを順守して作成してください。また、レポート課題の意図を理解し、論点を絞って記述するようにしてください。そのうえで、根拠や論拠を踏まえて、自身の意見や考えを述べるようにしてください。

■レポート評価の基準

- 1) 論旨に一貫性がある論理的な説明になっているかどうか。なっていない場合などにおいて減点。
- 2) 内容がレポート課題の趣旨や出題の意図に沿ったものであるかどうか。
- 3) 自分なりの意見や考えが盛り込まれているかどうか。
- 4) 誤字や脱字、漢字の変換ミス、不適切な表現や誤った概念の理解などがないかどうか。あった場合などにおいて減点。

科目修了試験

■評価基準

上記のレポート評価の基準に加えて、『レポート課題集』にある本科目全体の内容についての理解を問います。また、解答字数は、800字以上を基準とします。

精神障害リハビリテーション論

科目コード

CT3186



単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	R or SR(講義)	2年以上	石黒 亨

科目の概要

■科目の内容

精神障害リハビリテーションの概念と構成およびそのプロセスについて学ぶことで、精神障害者の地域移行・地域定着支援、すなわち精神障害のある人々がふつうの市民として、地域社会の中であたりまえに暮らしていくことができるようになるために必要な活動としての精神障害リハビリテーションの実際、ならびに精神障害リハビリテーションチームの一員としての精神保健福祉士の役割について理解する。

■到達目標

- 1) リハビリテーション概念を理解し、精神障害リハビリテーションについて述べることができる。
- 2) 脱施設化をキーワードに精神障害リハビリテーションの歴史について、諸外国とわが国の差異性を説明できる。
- 3) ICF（国際生活機能分類）に基づく障害概念を説明できる。
- 4) チームアプローチの必要性・方法について理解し、そのなかでの精神保健福祉士の役割を説明できる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「社会への関心と理解」「クリティカルシンキング力」「アセスメント力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価30%＋スクーリング評価 or 科目修了試験70%

■教科書・参考図書

【教科書】

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 精神保健福祉士養成講座〔専門科目〕3 精神障害リハビリテーション論』中央法規出版、2021年

（スクーリング時の教科書）教科書を参考程度に使用します。パワーポイント資料を配付します。

【参考図書】

- 1) W. アンソニーほか 野中猛・大橋秀行 監訳『精神科リハビリテーション【第2版】』三輪書店、2012年

- 2) 佐藤久夫著『障害構造論入門』青木書店、1992年
- 3) 上田敏著『ICF（国際生活機能分類）の理解と活用』きょうされん、2005年
- 4) 古屋龍太著『精神障害者脱施設化論—長期在院患者の歴史と現況、地域移行支援の理念と課題』批評社、2015年

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

精神障害リハビリテーションは、精神障害をあわせもつ「人」が主たる対象となります。精神障害を持つ人たちが、社会の一員としてより充実した生活を送れるように支援を展開するために、「生活のしづらさ（disability）」を理解し、精神科医療・保健・福祉に関する知識や支援の理念および技術を学ぶことが必要となります。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	リハビリテーションの理念と意義	リハビリテーションの歴史の変遷 定義
2	精神障害リハビリテーションの歴史	諸外国における脱施設化 わが国における歴史
3	精神障害リハビリテーションの対象・基本原則	障害概念 ICIDH・ICF 基本原則
4	精神障害リハビリテーションのプロセス	アセスメント・計画・実施・評価
5	家族支援	家族支援の必要性 方法
6	チームアプローチ	チームアプローチの類型・有用性
7	精神障害者の就労支援	障害者雇用促進法 就労支援に関する機関・制度
8	リカバリー	パーソナルリカバリー 臨床的リカバリー 社会的リカバリー
9	スクーリング試験	

※オンデマンド・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めます。教科書は参考程度に使用します。

■スクーリング 評価基準

スクーリング試験100%（テキスト、自筆ノート持込可）。到達目標についての理解度を評価します。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

講義内容の関心あるテーマについて、自分なりに学びたいことを考えてきてください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	リハビリテーション概念 (第1章) (第2章)	リハビリテーションの本来の意味およびリハビリテーションの構成を理解する。 キーワード：全人間的復権、リハビリテーション領域（医学的・社会的・教育的・職業的）、トータルリハビリテーション	リハビリテーションとは、一般的には医学 領域の治療や訓練を想起しがちだが、その内容を理解することは、生活上の課題を支援対象とするソーシャルワークにとっては重要となる。
2	精神障害リハビリテーションの歴史 (第2章)	精神障害リハビリテーションの歴史とは「脱施設化」の歴史といって過言ではない。諸外国がすでに地域リハビリテーションを中心に展開されているのに対してわが国においてはその方向性はうだしているものの、実態が伴わないという状況にある。 キーワード：脱施設化、施設症、汎化	歴史を振り返るためのキーワード「脱施設化」とは何か？なぜ脱施設化する必要があったのか？について考え、そのうえで諸外国の動向そしてわが国の歴史をひもとく。
3	精神障害リハビリテーションの基本原則 (第2章)	精神障害リハビリテーションの基本的視点を理解する。 キーワード：脱施設化、施設症、エンバワメント、健全な依存	精神障害リハビリテーションのその理念や目的にかなうものとするためには、共通の指針が必要になる。それが精神障害リハビリテーションの基本原則である。
4	障害概念（上田敏） (第3章)	上田敏は、国際障害分類の検討に多くの提言を行ったが、その内容を理解する。 キーワード：相互依存性、相対的独立性、体験としての障害、第三者の障害	国際障害分類（ICIDH）や国際生活機能分類（ICF）の公表後も、上田敏は補完的な提言や 課題を示している。
5	精神障害の特性 (第3章)	精神障害はひとが生活するうえで様々な問題を生じさせる。これまで、精神科医・精神保健福祉士などがそれぞれの立場から障害特性をまとめているが、その内容を理解する。 キーワード：生活障害（生活のしづらさ）、台弘、谷中輝雄	障害特性を理解する際は、その個別性・多様性も意識することが肝要となる。 また、「生活のしづらさ」は精神障害者にだけ見られるものではなく、誰しもが抱えているものと言える。このような視点に立つことが、パートナーシップの形成につながると思われる。
6	国際生活機能分類（ICF） (第3章)	国際障害分類（ICIDH）を補完する目的で作成された国際生活機能分類（ICF）は、わが国の高齢者や障害者及び教育の分野でも活用されている。改訂された背景や内容などを理解する。 キーワード：医学モデル、社会モデル、統合モデル	国際生活機能分類（ICF）は、障害を人が「生きる」こと全体の中に位置づけ「生きることの困難」として理解するものである。ひとは生きているからこそ活き活きとできるが、一方で活き活きとできることがあるからこそ、生きていけるということを再確認する。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
7	精神障害リハビリテーション過程 (第3章)	精神障害リハビリテーションは、本人自身がそれぞれの環境で満足できる生活を送るために、専門家の最小限の介入で技能や社会資源を活用できる助けを提供することである。そのための支援過程を理解する キーワード：アセスメント・計画・実施・評価、リカバリー、ストレングスモデル	精神障害リハビリテーションのプロセスは基本的には階層構造となっている。はじめにアセスメントがありそれに基づき計画をたて、計画に基づき実施し、その結果を評価することになる。各段階を具体的にどのように進めるのか、その際の留意点について学ぶ。
8	回復過程とライフサイクル (第3章)	精神障害リハビリテーションを展開するうえでは本人が精神疾患治療のどの段階にいるのかということ、その人がどのようなライフステージにたっているのかということ、この2つについても理解しておくことが必要となる。 キーワード：統合失調症の回復過程、ライフスタイル、治ることの意味	統合失調症の回復過程では、とりわけ陽性症状が治まった後の寛解前期（消耗期）についての理解することが肝要となる。ここで休息することが回復につながり、逆に無理をさせると再発のリスクを高めることになる。
9	チームアプローチ (第3章)	今日、精神障害リハビリテーションを展開していくためにはチームアプローチは欠かせない。したがって、チームの質が活動の成果に大きく関わることになる キーワード：チームのモデル、役割解放、利用者理解の立体化	チームアプローチの必要性和有用性について理解する。また、その阻害要因についても検討し、効果的なチームアプローチを具現化する工夫も考える。
10	医学的リハビリテーションプログラム 精神科作業療法 (第4章)	精神障害者の「生きるための主体的な活動の獲得」(日本作業療法協会による作業療法とは)は精神科リハビリテーションの使命であるともいえるが、そのための具体的な種目や技法について理解する。 キーワード：作業療法、生きるための主体性、創造性	私たちの生活は、「私がこの生活をしている」という認識の下で保たれているといえる。そのためには、どのような生活をしたのか（創造性）そして、いかに対処するのか（実行力）への働きかけが重要であり、精神保健福祉士は対象者の主体性の尊重・自己実現を業務の行動倫理として掲げている。
11	医学的リハビリテーションプログラム 精神科デイケア (第4章)	デイケアの開発された背景、デイケアの持つ機能、実際の運営とプログラム、そして地域社会の生活者であるデイケア通所者について、生活支援の視点からもデイケア機能の課題を学ぶ。 キーワード：入院防止機能、退院促進機能、集団力動	デイケアは1940年代後半に入院防止・退院促進を目的として北米で開発され、わが国では1974年に診療報酬点数化以降、医療機関に普及した。 精神科デイケアはわが国の精神科リハビリテーションを進める大きな原動力になってきたが、その独自性や新たな医療ニーズへの対応が課題ともなっている。
12	職業的リハビリテーションプログラム (第4章)	障害者雇用施策の経緯と精神障害者の雇用支援の実際及び支援する際の留意点等を職業リハビリテーションの視点から学ぶ。 キーワード：障害者雇施策、IPS	精神障害のある人の職業リハビリテーションは、忘れられた過去の誇りを呼び起こし、可能な未達成の希望を呼び起こすために展開されることを確認する。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
13	社会的リハビリテーションプログラム 社会生活スキルトレーニング（SST） （第4章）	SSTは1994年の診療報酬に点数化後、全国の精神科医療機関や、障害者支援施設に普及している。SSTの理論的背景や基本訓練モデル及び特定の技能獲得のために段階的な教材としてまとめられたモジュールについて学ぶ。 キーワード：日常生活技能、社会生活スキル、基本訓練モデル、モジュール	アメリカにおいて統合失調症のリハビリテーションとして開発されたSSTは、知的障害や発達障害の分野でも活用されるようになった。しかし、文化やコミュニケーションが異なるわが国の風土に合うようなプログラムの開発が今後の課題となる。
14	家族支援プログラム （第4章）	心理教育とは受容しにくい問題をもつ人たちに対し、個別の療養生活に必要な知識や情報を心理面への十分な配慮をしながら伝え、病気や障害の結果もたらされる諸問題・諸困難に対する対処や工夫をともに考えることによって、主体的な生活を営めるように援助する技法である。 キーワード：情報提供、EE（家族の感情表出）、エンパワメント、自己肯定感、相互交流・相互支援	ここではFPE（家族心理教育）を中心に学ぶ。FPEはそのエビデンスが明確であることから、科学的根拠に基づくプログラム（Evidence－Based Practice：EBP）のひとつとして位置付けられている。その理論的基盤と実際のプログラム展開について学ぶ。 保護者制度により、精神障害者の家族に大きな負担を強いてきたわが国において、家族支援の必要性を学ぶ意義は少なくない。
15	依存症のリハビリテーション （第5章）	我が国における依存症に対する差別や偏見は、精神障害のなかでもとりわけ根深いものがあり、障害の原因がすべて「意思が弱い」などの人の性格や責任に帰される傾向にあり、医学的理解が十分とは言い難い現状にある。 キーワード：自己治療仮説、SMARPP、AA、ダルク、CRAFT、ゲーム障害	アルコール・薬物・ギャンブル等、特定の物質や行為・過程に対して、やめたくても、やめられない、ほどほどにできない状態を依存症という。依存症からの回復には、正直に自分の気持ちを言える場所があることが大切でありアクション（依存）の反対はコネクション（つながり）なのである。

■レポート課題

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	アンソニー(Anthony, W) が提唱する精神科リハビリテーションの9大原則を列挙し、うち2つの原則についてその意義について述べよ。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

テキスト転載や他文献の丸写しによるレポート作成は避けるようにしてください。自分で考えた文章と引用した文章を意識して区別するために引用・参考文献を表記し、課題の説明だけでなく自身の考察も加えるようにしてください。

1 単位め
アドバイス

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

2 単位め
アドバイス

精神科リハビリテーションの実践は多様である。しかし、実践が多様であるからと言って、思いつくままの実践を無原則に行えば、リハビリテーションの効果が上がらないばかりか、当事者に不利益が生じかねない。すべての実践をリハビリテーションの目的にかなうものとするためには、何らかの共通した指針が必要になる。この指針が精神科リハビリテーションの基本原則と呼ばれるものである。可能であれば参考図書『精神科リハビリテーション【第2版】』を自分なりに咀嚼し論述することを期待する。

科目修了試験

■評価基準

- ・ 課題について基本事項を理解し、必要な用語や概念を用いた作成をしているか。
- ・ 十分な記述量を確保し、自分の考察を加えているかどうか。

精神保健福祉制度論

科目コード

CT3187



単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	R or SR(講義)	2年以上	菅原 好秀

■履修登録条件

「権利擁護を支える法制度」をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をする方のみが履修登録できます。

科目の概要

■科目の内容

「メンタルヘルス」「更生保護制度と医療観察制度」を中心に学びます。特に、制度として精神障害者の支援に関連する制度、更生保護制度における関係機関や団体との連携、医療観察法の概要と精神保健福祉士の役割について、現状を踏まえて理解することを目指します。なお、社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験問題を学問的視点から解説しますので、受験する方はスクーリング受講をおすすめします。

■到達目標

- 1) 精神保健福祉の制度概要について説明することができる。
- 2) 精神保健福祉の視点から、医療観察制度の制度趣旨と問題点について説明することができる。
- 3) 精神保健福祉法の各入院制度の活用法を説明できる。
- 4) メンタルヘルス不調の原因と課題について説明することができる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「専門的知識」「他者への関心と理解」「社会への関心と理解」「ICT 活用力」「問題解決力」「社会公権力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価60%＋スクーリング評価 or 科目修了試験40%

■教科書・参考図書

【教科書】（「権利擁護を支える法制度」「刑事司法と福祉」と共通）

菅原好秀著『司法と福祉』建帛社、2023年

※「権利擁護を支える法制度」で配本のため、この科目での教科書配本はありません。

（最近の教科書変更時期）2023年4月

（スクーリング時の教科書）上記教科書を使用します。旧教科書を所持している場合でも受講に支障が

ないよう資料などを配付します。

【参考図書】

- 1) 菅原好秀著『権利擁護と法』建帛社、2022年
- 2) 菅原好秀編著『福祉ライブラリ 福祉法学 第2版』建帛社、2020年
- 3) 菅原好秀著『リスクマネジメントと法』建帛社、2020年

■事前に学習してほしい科目

「権利擁護を支える法制度」「刑事司法と福祉」「法の基礎」「福祉リスクマネジメント」をできれば事前に学習してください。

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

精神障害者は、あらゆる機会において差別対象とされ、偏見の犠牲になる可能性が高い。そのため、福祉の共通課題である人権の擁護あるいは保護が精神障害者福祉の課題といえます。

本講義では、精神障害者にとって、今日よりよく生きるために求められているのは何であり、そこにどのような法的問題が存在し、それに伴う権利擁護の問題の現状を明らかにし、これらの状況に対応するための権利擁護システム、特に更生保護の視点を踏まえた精神保健福祉に関する法的視点について学んでいきます。また、精神障害者に関して問題となった事例につき、判例の見解を踏まえて具体的な問題点を学んでいきます。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	精神保健福祉法の意義と内容	精神保健福祉法の意義と入院形態について
2	障害者総合支援法について	障害者総合支援法の趣旨、目的、支援システムについて
3	メンタルヘルス概論について	メンタルヘルス不調の意義、症状について
4	依存症について	依存症の特徴、対応策について
5	精神保健福祉と更生保護制度について	更生保護制度の意義と概要について
6	精神障害者と保護観察について	保護観察の意義、内容と課題について
7	医療観察制度について	医療観察制度の意義、内容と課題について
8	精神障害者の今後の課題について	精神障害者の支援策について
9	スクーリング試験	

※オンデマンド・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

■講義の進め方

板書を中心に、教科書も用いながら進めます。しっかりと講義を聴き、ノートをとるようにしてください。

■スクーリング 評価基準

授業への参加状況（20％）とスクーリング試験（80％）で評価する。スクーリング試験は持込可（携帯やパソコンなどの電子機器は除く）とする。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験問題の法学の問題を『権利擁護と法』（建帛社）などでチェックしておいてください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	精神保健福祉法の意義と内容	精神保健福祉法の意義と内容について学びます。	精神障害者をめぐる法律の歴史の変遷、精神保健福祉法の内容について説明できることが重要です。
2	精神保健福祉法における精神保健福祉士の役割	精神保健福祉法における精神保健福祉士の意義について学びます。	精神保健福祉士の意義と役割について説明できることが重要です。
3	精神保健福祉法の入院形態	精神保健福祉法の入院形態について学びます。	任意入院、医療保護入院、応急入院、措置入院、緊急措置入院について説明できることが重要です。
4	障害者総合支援法	障害者総合支援法の制度概要について学びます。	障害者総合支援法の制度趣旨、目的、内容について説明できることが重要です。
5	障害者総合支援法の現状と課題	障害者総合支援法の現状と課題について学びます。	障害者総合支援法の現状と課題をふまえて今後求められる対応策について説明できることが重要です。
6	精神保健福祉の関する行政組織	精神保健福祉に関する行政組織について学びます。	保健福祉行政の特徴について理解することが重要です。
7	精神保健福祉と更生保護制度	精神保健福祉と更生保護制度の関係性について学びます。	更生保護制度を精神保健福祉の視点から説明できることが重要です。
8	医療観察制度と更生保護制度	医療観察制度と更生保護制度の関係性について学びます。	医療観察制度創設の経緯と背景、概要、目的について説明できることが重要です。
9	医療観察制度の現状と課題	医療観察制度の現状と課題について学びます。	医療観察制度の現状と課題をふまえて今後求められる対応策について説明できることが重要です。
10	メンタルヘルス	メンタルヘルスについて学びます。	メンタルヘルスの意義、症状、対応策について説明できることが重要です。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
11	精神障害者の生活実態	精神障害者の生活実態について学びます。	精神障害者の生活実態を現実的視点から説明できることが重要です。
12	精神障害者の居住支援	精神障害者の居住支援について学びます。	精神障害者の住居、居住形態、課題について説明できることが重要です。
13	精神障害者と雇用・就労	精神障害者と雇用・就労について学びます。	精神障害者の一般雇用制度、労働保険制度、福祉的就労について説明できることが重要です。
14	発達障害者支援法	発達障害者支援法について学びます。	発達障害者支援法の目的、基本理念について説明できることが重要です。
15	依存症	依存症について学びます。	依存症の意義、症状、対応策について説明できることが重要です。

■レポート課題

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	精神保健福祉の視点から更生保護制度の概要を論じてください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

よく読んで理解した上で、自分なりに整理してレポートを書いてください。また引用文献、参考文献は必ず明示してください。

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

1 単位め
アドバイス

2 単位め
アドバイス

更生保護制度の保護観察、仮釈放、更生緊急保護、被害者等が関与する制度を中心に精神障害者に関する事例を挙げて言及してください。また、覚せい剤事犯者、ギャングル依存症の対策について精神保健福祉の視点から具体的に言及してください。

科目修了試験

■評価基準

当該科目の内容理解がなされているかが重要であり、論述の分量（1問あたり400～800字程度）も評価対象となります。また、法の制度趣旨、意義を述べた上で、現実との関連から自分なりの視点から述べられていることも評価の対象となります。

ソーシャルワーク演習 (精神保健福祉士)			科目コード	CW3283
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	SR(演習)	2年以上	三城 大介ほか	



◇科目コード

目的資格	科目コード	掲載ページ
社会福祉士受験資格	CN3251	p.157
精神保健福祉士受験資格	CW3283	p.242(当ページ)

※目的資格によって異なります。履修登録の際、ご注意ください。

※両方の資格希望者は「ソーシャルワーク演習（社会福祉士）」科目コード：CN3251のみを履修してください。

◇用語について

記載の略称	正式名称
ソーシャルワーク演習	ソーシャルワーク演習（精神保健福祉士）
精保演習Ⅰ	精神保健福祉演習Ⅰ
精保実習指導Ⅰ	精神保健福祉実習指導Ⅰ
精保実習Ⅰ	精神保健福祉実習Ⅰ（福祉施設実習）
精保実習Ⅱ	精神保健福祉実習Ⅱ（医療機関実習）

科目の概要

■科目の内容

個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により、ソーシャルワークの価値規範と倫理、ソーシャルワークに必要なコミュニケーション能力、ソーシャルワークの展開過程において用いられる、知識と技術の基礎的能力を習得します。情報の収集・整理・伝達の技術、地域福祉の基盤整備と開発についても、事例を通して実践的に習得します。

■到達目標

- 1) 精神保健福祉領域における援助の基礎的知識と技術、基本的なコミュニケーション技術について説明できる。
- 2) 基本的相談援助の視点や技術について説明できる。
- 3) グループダイナミクス活用技術について説明できる。
- 4) ケースワーク、グループワーク、コミュニティソーシャルワークの基本について説明できる。
- 5) 自己理解（自己覚知）の意義について説明できる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「専門的知識」「他者への関心と理解」「社会への関心と理解」「自他尊重的コミュニケーション力」「他者配慮表現力」「自己コントロール力」「問題解決力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価30%＋スクーリング評価70%

※評価は総合的に行い、グループワークにおける協力や演習への積極的参加を求める。なお、評価基準については、教育プログラムの質的向上を目的に適宜見直しを図り、改定していきます。

■教科書・参考図書

【教科書】

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 精神保健福祉士養成講座〔共通科目〕13 ソーシャルワーク演習（共通科目）』中央法規出版、2021年

（スクーリング時の教科書）上記教科書を参考程度に使用し、適宜配付する資料と併用して演習を進めます。

【参考図書】

適宜、演習の中で紹介します。

スクーリング

■スクーリング受講申込上の注意

- ・1クラス20人以内で開講します。
- ・申込方法は、『With』でご案内します。
- ・開講日・申込締切日・受講料は、『試験・スクーリング情報ブック』または『With』をご参照ください。
- ・複数開講の場合、申込締切後に受講日程変更の申し出は受け付けできません。また、必ずしも第一希望での受講ができない場合がありますので、ご了承ください。
- ・受講許可証・受講料納入依頼書は、各受講判定日以降に発送します。
- ・クラス分けは無作為に行いますので、教員の指定はできません。
- ・公共交通機関の延着を除き、遅刻・欠席は認められません。また、スクーリング終了時間前の退席は認められません。
- ・「ソーシャルワーク演習」（6・7月）または「精保実習Ⅰ」の実習選考試験（9月下旬）が不合格となった場合、当年度の「精保実習Ⅰ」の申込み（8月中旬）は無効となります。

■スクーリング受講条件

【実習受講者・実習免除者共通】「ソーシャルワーク演習」スクーリング

※最新の受講条件は、申込時の『With』でご確認ください。

①受講 1 カ月前の指定期日までに達成

- ・「ソーシャルワーク演習」1 単位めレポートの提出
- ・卒業要件20単位以上の修得（入学時の認定単位を含む）

②受講 1 カ月後の指定期日までに達成

- ・「ソーシャルワーク演習」2 単位めレポートの提出

■スクーリング受講・単位認定について

演習のスクーリングにおいては、自己紹介、学生同士の話し合いや発表・ロールプレイング等の実施を予定しており、積極的な参加が求められます。

また、実習の受講を希望する方は、実習前年度に実施される「精保実習Ⅰ※」の実習選考試験によって次年度実習受講の可否の判定を受けてください。

※精保実習Ⅰ：障害福祉サービス事業を行う施設等における実習

●単位認定

レポート＋「ソーシャルワーク演習」スクーリング評価等から総合的に単位認定します（前項「■科目評価基準」参照）。

2 単位めレポートが所定の期日までに提出されない場合は、スクーリングの受講は無効となります。

また、2 単位めレポートが再提出の場合は、再提出となったレポート到着後、指示された期日までに再提出を行わないとスクーリングの受講は無効になります。

この科目の最終スクーリング結果通知は、2 単位めレポートの提出締め切り後に郵送またはメールで行います。

スクーリングを欠席・不合格の場合、合格済みの 1 単位めレポートは無効となります。次回以降の「ソーシャルワーク演習」を申込み際は、所定の期日までに再度「ソーシャルワーク演習」の課題 1 レポートの提出を行ってください。

■実習選考試験・補講演習について

・実習選考試験→『学習の手引き』3 章「実習選考試験」参照 ※実習受講者対象

・補講演習→『学習の手引き』3 章「補講演習」参照

「ソーシャルワーク演習」受講申込者で実習免除者以外は、「精神保健福祉実習Ⅰ」を申込みことが前提となります。「ソーシャルワーク演習」または「実習選考試験」が不合格となった場合、当年度の「精神保健福祉実習Ⅰ」の申込みは無効となります。

■スクーリングで学んでほしいこと

ソーシャルワークの基本的な知識・技術・視点・倫理・価値に関する事例等を用いたロールプレイに取り組む中で、基本的な対人援助技術を身につけてください。対人援助者として自身の適性について、「得意な部分」・「今後伸ばすべき部分」への気づきを意識しながら学んでください。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	精神保健福祉領域における援助の基礎的知識と技術	オリエンテーションおよび精神保健福祉領域における相談援助の基本、専門職としての価値・倫理
2	基本的なコミュニケーション技術	基本的なコミュニケーション技術と面接技術
3	基本的相談援助技術	相談援助技術の概念と範囲、情報の収集・整理・伝達、課題の発見と分析、記録技術、ジェノグラムとエコマップの活用方法、プレゼンテーション技術
4	グループダイナミクス活用技術	グループダイナミクス活用技術とその効果、グループワークの活用方法
5	ケースワーク	ロールプレイによる面接技術ならびにケースワークの基本と事例検討、ソーシャルワークの展開過程
6	グループワーク	グループワークの基本と事例検討
7	コミュニティソーシャルワーク	コミュニティソーシャルワークの基本と事例検討
8	自己覚知	自己覚知の必要性和他者理解

■講義の進め方

この演習では板書をもとにした座学と、事例やテーマに沿ったディスカッションやロールプレイを併用して進めます。教科書は参考程度に使用します。

■スクーリング 評価基準

スクーリング中に学んだことを、到達目標の記載内容に重きを置いて評価します。

演習レポート30%＋演習内容70%

※評価はグループワークにおける協力や演習への積極的参加の度合い等から総合的に行います。なお、評価基準については、教育プログラムの質的向上を目的に適宜見直しを図り、改定していきます。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

- 1) 「ソーシャルワーク演習」1単位めレポートを作成し、期日までに提出すること（『試験・スクーリング情報ブック』または『With』参照）。
- 2) 所定の期日までに演習受講申込受理・受講条件に定める学習を終えていること（『学習の手引き』3章を参照）。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

- 1) 「■在宅学習15のポイント」の15回を参照し、演習内容を振り返りながら援助者としての自己の適性について振り返りを行う。
- 2) 「ソーシャルワーク演習」2単位めレポートを作成し、期日までに提出すること（『試験・スクーリング情報ブック』または『With』参照）。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	ソーシャルワーク演習の意義と目的	ソーシャルワーク演習の目標とねらいについて理解する。	コルプの経験学習モデルに基づく学習サイクルについて確認し、演習の意義や学びの方法・内容について整理する。演習の習得目標であるソーシャルワーカーのコンピテンシー(優れたワーカーに共通する行動特性やスキル)について整理する。
2	精神保健福祉士の業務・役割	社会福祉士・精神保健福祉士・ソーシャルワーカーの業務と役割について理解する。	「社会福祉士及び介護福祉士法」「精神保健福祉士法」国際ソーシャルワーカー連盟と国際ソーシャルワーク学校連盟が採択した「ソーシャルワーク専門職のグローバル定義」、公益社団法人日本精神保健福祉士協会「精神保健福祉士業務指針」から、それぞれの業務・役割について確認する。
3	ソーシャルワークの実践レベル	ソーシャルワークのミクロ・メゾ・マクロの実践レベルについて理解する。	ソーシャルワークの対象として、個人・家族・グループ、組織・コミュニティ、人権と社会的・経済的環境的な正義の推進、政策実践への関与等を一体的に捉え問題解決を検討する視点の意味について考える。
4	人と環境の交互作用	人間理解の視点・生活モデル、社会システムの視点から人と環境の交互作用について理解する。	クライアントの状況と環境を評価する際の、バイオ・サイコ・ソーシャルモデルによる視点・理解について整理する。
5	自己理解と他者理解	ソーシャルワーカーとしての自己理解(自己覚知)の必要性について理解する。	援助者として自己理解を図ることの意味について考える。
6	ソーシャルワークの機能	ソーシャルワークの目標から捉えた機能について理解する。	マルチパーソンクライアントシステムについて確認する。複雑化・多様化するニーズや課題に対して、クライアントをエンパワメントし、社会資源の調整・開発等の過程を通して社会生活を支えることの意味について考える。ケースワーク、グループワーク、コミュニティソーシャルワーク、ケアマネジメントについて整理する。
7	ソーシャルワークの目標	ソーシャルワークの目標について理解する。	ソーシャルワークの目標である、クライアントの問題解決能力や環境への対処能力の強化、必要な社会資源との関係構築・調整、機関や施設の効果的な運営や相互の連携の促進、制度や施策の改善・発展、社会全体の変革の促進について整理する。
8	ソーシャルワークの価値基準・倫理・理念1	個人的な価値観と専門職としての価値観の違い、ソーシャルワークにおける理念について理解する。	「ソーシャルワーカーの倫理綱領」「社会福祉士の倫理綱領」「精神保健福祉士の倫理綱領」を確認する。
9	ソーシャルワークの価値基準・倫理・理念2	ソーシャルワークの理念、原理・原則、倫理的ジレンマについて理解する。	ソーシャルワークにおける倫理の必要性、ソーシャルワーカーが所属する機関の機能とソーシャルワーク実践との間に生じる葛藤について考える。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
10	コミュニケーション技術	ソーシャルワークにおけるコミュニケーション技術について理解する。	ソーシャルワークにおけるクライアントとの基本的なかわりの特質、コミュニケーションの在り方について整理する。自身のアンコンシャスバイアスについても洞察する。
11	面接技術 1	面接の構造化・面接の場所（環境）について理解する。	面接の構造と要素（クライアント、ワーカー、面接の目的、テーマ、場所、時間、コミュニケーション）、面接室・生活場面での面接について整理する。
12	面接技術 2	面接技術における言語的表現（バーバルコミュニケーション）、非言語的表現（ノンバーバルコミュニケーション）、様々な面接ツールについて理解する。	言語的表現の中心的な技法である、「焦点を当ててついでいく」「開かれた質問と閉じられた質問」「感情の反映」「内容の反映」等の面接技術、非言語的表現の活用について整理する。電話や Web 等の ICT を用いた面接の意義や留意点について考える。面接技術に関連して、基本的なプレゼンテーション技術について、整理する。
13	ソーシャルワークの展開過程と関連技法 1	ケースの発見とエンゲージメント（インテーク）、アセスメント、プランニングについて理解する。	事例を用い具体的場面を想像しながら、各展開過程におけるソーシャルワーカーの立ち位置、ミクロ・メゾ・マクロの実践レベルにおける視点、支援における留意点について整理する。
14	ソーシャルワークの展開過程と関連技法 2	インターベンション（支援の実施）とモニタリングについて理解する。	事例を用い具体的場面を想像しながら、各展開過程におけるソーシャルワーカーの立ち位置、ミクロ・メゾ・マクロの実践レベルにおける視点、支援における留意点について整理する。
15	ソーシャルワークの展開過程と関連技法 3	支援の終結と結果評価、アフターケアについて理解する。	事例を用い具体的場面を想像しながら、各展開過程におけるソーシャルワーカーの立ち位置、ミクロ・メゾ・マクロの実践レベルにおける視点、支援における留意点について整理する。

■レポート課題

1 単位め	※スクーリング事前レポート（所定の期日までに提出） 生活モデルにおいて人と環境の交互作用を重視し、人と環境の接触面に介入することについて具体的に説明してください。
2 単位め	※スクーリング事後レポート（スクーリング受講後、所定の期日までに提出） ソーシャルワーカー（精神保健福祉士）として、クライアントとのコミュニケーションにおいて留意すべき点を具体的に説明してください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

レポート作成にあたっては、ご自身の経験だけでなく、教科書をよく読んだ上で取り組んでください。ただし、教科書や参考図書、Web サイトとの記事の複写は認められません。参考・引用した文献・資料等があれば必ず出典明示してください（出典の記載方法は『学習の手引き』を参照）。

1 単位め
アドバイス

テキストの2章を読み、ソーシャルワークにおける対象把握の一つである生活モデルを理解したうえで、課題に取り組んでください。

2 単位め
アドバイス

テキストの4章を読み、ソーシャルワークにおけるクライアントとの基本的かかわりの特質について理解したうえで、課題に取り組んでください。

■レポート評価の基準

レポートは感想文ではありません。自身の考えを述べる際は、必ずその根拠を示してください。

■レポートの提出方法

- 1) 1 課題につき、1 冊のレポート提出台紙を使用してください。
- 2) 1 単位のレポート文字数は、2,000字程度ですが、最長4,000字程度まで記入していただいても結構です。パソコン印字の場合→左右40字×30行×2～4枚まで可。
- 3) 教員名の欄には記入しないでください。
- 4) 各レポートは、所定の提出締切日までに提出してください（『試験・スクーリング情報ブック』または申込時の『With』参照）。

精神保健福祉演習Ⅰ			科目コード	CW4258
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	SR(演習)	3年以上	三城 大介ほか	



■履修登録条件

「ソーシャルワーク演習」をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をする方が履修登録できます。

- 社会福祉学科の精神保健福祉士国家試験受験資格取得希望者のみが受講できる科目です。
- 「精神保健福祉実習Ⅰ」(以下、精保実習Ⅰと表記)を履修する実習受講者の「精神保健福祉演習Ⅰ」(以下、精保演習Ⅰと表記)スクーリングは、下記のとおり「精神保健福祉実習指導Ⅰ」(以下、精保実習指導Ⅰと表記)との組み合わせにより開講されます。
- 実習免除者は、「精保演習Ⅰ」のみの2日間8コマで開講されます(実習免除者向けの演習は、年1回のみの開講となりますので、日程調整にご注意ください)。

※今後の見直し等により、ここに記載の内容を変更する場合があります。詳しくは『With』等でご案内します。

■演習・実習指導のコマ数と組み合わせ・開講の流れ

◆実習受講者(精保演習Ⅰ：8コマ・精保実習指導Ⅰ：8コマ)

【精保実習Ⅰ事後指導までの流れ】

開講名：精保演習Ⅰ(精保実習Ⅰ事前指導)

※精保実習Ⅰ受講年度の6月頃開講

1日め 精保演習Ⅰ(1コマ)＋精保実習指導Ⅰ(3コマ)※現場体験学習を含む

2日め 精保演習Ⅰ(4コマ)

↓

精保実習Ⅰ(福祉施設実習)

※8/1～12/25の期間に15日間以上かつ120時間以上

↓

開講名：精保実習指導Ⅰ(精保実習Ⅰ事後指導)

※精保実習Ⅰ受講年度の1月頃開講

1日め 精保実習指導Ⅰ(4コマ)

2日め 精保実習指導Ⅰ(1コマ)＋精保演習Ⅰ(3コマ)

◆実習免除者(精保演習Ⅰ：8コマ)

開講名：精保演習Ⅰ(実習免除者用)

※2月頃開講

1 日め 精保演習Ⅰ（4 コマ）

2 日め 精保演習Ⅰ（4 コマ）

科目の概要

■科目の内容

この講義は、ソーシャルワークの共通基盤に関する科目や精神保健福祉士の専門科目、それらに関連する領域や科目で学んできたことを理論や知識、技術や機能などを結び付けて相対的な理解するための科目です。

これまで学んできたことを意識し、演習の場でグループダイナミクスを意識しながら、他学生とディスカッションする事で、言語化する力やアサーションを意識して伝える力を養うとともに、さまざまな精神保健福祉のフィールドで求められる専門性を意識して学んでください。

■到達目標

- 1) ソーシャルワーク実践の共通基盤として求められる役割が説明できる。
- 2) 臨床の様々な場面に応じて求められるソーシャルワーカーの役割が説明できる。
- 3) 場面ごとのソーシャルワーカーの役割に必要な技術や知識、機能などが言語化できる。
- 4) 精神保健福祉士に必要な知識や理論、技術を総体として捉え説明することができる。
- 5) 演習の場に於けるグラウンド・ルールを理解したうえで、グループダイナミクスを意識したディスカッションができる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「専門的知識」「他者への関心と理解」「社会への関心と理解」「自己尊重적コミュニケーション力」「他者配慮表現力」「自己コントロール力」「問題解決力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価30%＋スクーリング評価70%

※評価はグループワークにおける協力や演習への積極的参加の度合い等から総合的に行います。なお、評価基準については、教育プログラムの質的向上を目的に適宜見直しを図り、改定していきます。

■教科書・参考図書

【教科書】（「精保演習Ⅱ」と共通）

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 精神保健福祉士養成講座〔専門科目〕7 ソーシャルワーク演習（精神専門）』中央法規出版、2021年

（スクーリング時の教科書）上記教科書を参考程度に使用し、適宜配付する資料と併用して演習を進めます。

【参考図書】

適宜、演習の中で紹介します。

スクーリング

■スクーリング受講申込上の注意

- ・ 1 クラス20人以内で開講します。
- ・ 申込方法は、『With』でご案内します。
- ・ 開講日・申込締切日・受講料は、『試験・スクーリング情報ブック』または『With』をご参照ください。
- ・ 複数開講の場合、申込締切後に受講日程変更の申し出は受け付けできません。また、必ずしも第一希望での受講ができない場合がありますので、ご了承ください。
- ・ 受講許可証・受講料納入依頼書は、各受講判定日以降に発送します。
- ・ クラス分けは無作為に行いますので、教員の指定はできません。
- ・ 公共交通機関の延着を除き、遅刻・欠席は認められません。また、スクーリング終了時間前の退席は認められません。
- ・ 「精保演習Ⅰ」「精保実習指導Ⅰ」または「精保実習Ⅰ」が不合格となった場合、当年度の「精神保健福祉実習Ⅱ」の申込みは無効となります。

■スクーリング受講条件

【実習受講者】「精保演習Ⅰ」(精保実習Ⅰ事前指導) スクーリング

【実習免除者】「精保演習Ⅰ」(実習免除者用) スクーリング

※最新の受講条件は、申込時の『With』でご確認ください。

- ①受講1カ月前の指定期日までに達成
 - ・ 「精保演習Ⅰ」1単位めレポートの提出
- ②受講当日に提出
 - ・ 『精神保健福祉実習Ⅰ課題ノート』
- ③受講1カ月後の指定期日までに達成（実習免除者のみ※）
 - ・ 「精保演習Ⅰ」2単位めレポートの提出

※実習受講者は、「精保実習指導Ⅰ」(実習Ⅰ事後指導) スクーリング受講後の指定期日までに提出

■スクーリング受講・単位認定について

●スクーリング受講 ※実習受講者・実習免除者共通

演習のスクーリングにおいては、自己紹介、学生同士の話し合いや発表・ロールプレイ等の実施を予定しており、積極的な参加が求められます。

「精保演習Ⅰ」の受講内容・成績および必要に応じて実施される面接等（実習受講者のみ対象）によって評価ならびに次年度実習受講の可否が判定されます。

●単位認定

1 単位めレポート + 「精保演習Ⅰ」スクーリング（スクーリング試験は実施しません） + 2 単位めレポート等で総合的に単位認定いたします（前項「■科目評価基準」参照）。

2 単位めレポートが再提出の場合は、再提出評価となったレポート到着後、指示された期日までに再提出を行わないとスクーリングの受講は無効になります。

この科目の最終スクーリング結果通知は、2 単位めレポートの提出締め切り後に郵送またはメールで行います。

スクーリングを欠席・不合格の場合、合格済みの 1 単位めレポートは無効となります。次回以降の「精保演習Ⅰ」を申込み際は、所定の期日までに再度「精保演習Ⅰ」の 1 単位めレポートの提出を行ってください。

■実習選考試験・補講演習について

実習選考試験→『学習の手引き』3 章「実習選考試験」参照 ※実習受講者対象

補講演習→『学習の手引き』3 章「補講演習」参照

■現場体験学習の実施について ※実習受講者対象

スクーリング受講時、または学内コンテンツとの組み合わせにより、実際の福祉事業所等において現場体験学習及び見学実習を実施します。

※スクーリング受講時に実施される場合は、組み合わせにより開講される精保実習指導Ⅰの 1 コマ分として実施します。

■スクーリングで学んでほしいこと

ディスカッションのグランド・ルールを理解したうえで、精神保健福祉士に必要な対人援助技術をディスカッションし、相互理解に努めてください。精神保健福祉士という職性について理解を深めてください。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	精神保健福祉士の演習の意義と目的	精神保健福祉士養成に必要な演習の意義を学びます
2	実践の場での原理原則	精神保健福祉士にとって必要な対人援助スキルを学びます
3	個人に対する相談援助の理解	ケースワークの展開やそこに必要なスキルを学びます
4	ケースワークの展開と事例検討	事例を通して必要なスキルや理論、知識などを深めます
5	集団に対する相談援助の理解	グループワークの展開やそこに必要なスキルを学びます
6	グループワークの展開と事例検討	事例を通して必要なスキルや理論、知識を深めます
7	コミュニティソーシャルワークの理解	CSW の展開やそこに必要なスキルを学びます
8	CSW の実践の方法と事例検討	事例を通して必要なスキルや理論、知識を深めます

※実際のスクーリングは、「精保演習Ⅰ」と「精保実習指導Ⅰ」を組み合わせで開講する（前項「■

演習・実習指導のコマ数と組み合わせ・開講の流れ」参照)。

※精保実習Ⅰ事前指導(「精保演習Ⅰ」)の1日めに「現場体験学習」、精保実習Ⅰ事後指導(「精保実習指導Ⅰ」)において、必要に応じて個別面接等を実施する。

※担当教員により、上記各回数のテーマ・内容、「精保実習指導Ⅰ」と組み合わせるテーマ・内容が異なる場合がある。

※実習免除者(「精保演習Ⅰ」: 8コマ)

■講義の進め方

この演習では板書をもとにした座学と、事例やテーマに沿ったディスカッションやロールプレイを併用して進めます。教科書は参考程度に使用します。

■スクーリング 評価基準

スクーリング中に学んだことを、到達目標の記載内容に重きを置いて評価します。

演習レポート30%+演習内容70%

※評価はグループワークにおける協力や演習への積極的参加の度合い等から総合的に行います。なお、評価基準については、教育プログラムの質的向上を目的に適宜見直しを図り、改定していきます。

■スクーリング事前学習(学習時間の目安: 5~10時間)

【実習受講者・実習免除者共通】

- 1) テキストの第1章を読み込んでおいてください。特に、ディスカッションのグラウンド・ルールやロールプレイ、演習・グループディスカッションの展開、演習を行う際の留意点について確認してください。
- 2) 「精保演習Ⅰ」1単位めレポートを作成し、期日までに提出する。
- 3) 『精神保健福祉実習Ⅰ課題ノート』を所定の部分まで完成させ、演習当日に持参し提出する。
- 4) 所定の期日までに演習受講申込受理・受講条件に定める科目の学習を終えていること(申込時の『With』参照)。

【実習受講者】

就労継続支援施設を中心に精神障害者を対象とした障害福祉サービス事業所について調べておく。

【実習免除者】

自身の現場における支援実践の課題をまとめる。

※いずれも方法は任意。

■スクーリング事後学習(学習時間の目安: 20~25時間)

【実習受講者・実習免除者共通】

「精保演習Ⅰ」2単位めレポートを作成し、期日までに提出する。(次項「■レポート課題」の課題2、申込時の『With』『試験・スクーリング情報ブック』の各課題の期日を参照)。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	演習の意義と目的	精神保健福祉士になるために必要な理論と知識、技能と技術、機能を学ぶための演習の意義を知る。	ディスカッションのグランド・ルールを理解したうえで、学習内容を学ぶことの意義を知る。
2	実践における原理・原則	精神保健福祉士としての原理原則を学ぶ。	精神保健福祉士の職性に拠った対象者とも向き合う視点の持ち方や立ち位置を知る。
3	個人に対する相談援助の理解	事例をとしてケースワークでの相談援助の展開を理解する。	入院時支援から地域移行支援、地域定着支援、それぞれのステージにおける精神保健福祉士のケースワークについて学びを深める。
4	集団に対する相談援助の理解 1	事例をとしてグループワークでの相談援助の展開を理解する。	シュワルツの相互作用モデルをもとに、グループワークの展開過程を理解する。
5	集団に対する相談援助の理解 2	事例を通してグループワークでの相談援助の展開を理解する。	グループワークでの展開過程、特に集団と個に対する援助のポイントを援助の展開過程ごとに理解する。
6	障害福祉サービス事業所 1	総合支援法下での地域の社会資源とそれぞれの役割を再確認する。	これまで学習してきたことを手掛かりに、地域における社会資源の役割と総合支援サービス提供の仕組みを理解する。
7	障害福祉サービス事業所 2	ケアマネジメントのプロセスと地域連携の実際を知る（テキスト事例 7 参照）。	相談支援専門員の役割やサービス等利用計画にもとづいた個別支援計画提供の実際を理解する。
8	障害福祉サービス事業所 3	就労支援事業所における就労支援の実際を知る（テキスト事例 8 参照）。	企業や就労支援機関との連携による移行支援の展開を理解する。
9	障害福祉サービス事業所 4	相談支援事業所におけるピアサポーター養成について学ぶ（テキスト事例 9 参照）。	ピアサポーターやコンシューマ・スタッフといった当事者支援者の役割と機能について学ぶ。
10	障害福祉サービス事業所 5	アウトリーチ支援の具体的な方法を理解する（テキスト事例11参照）。	アウトリーチ支援の具体的な目的やその方法、機能、留意点等を実践的に学ぶ。
11	社会福祉協議会	地域ニーズのアセスメント方法やマンパワーの活性化の方法について理解する（テキスト事例10参照）。	地域ニーズを理解するためのソーシャル・リサーチ、アナライジング、ディベロップメント、アクションといったコミュニティワークの技法を理解する。
12	高齢者福祉施設	地域包括支援センターを中心とした地域連携によるアプローチを理解する（テキスト事例12参照）。	地域包括支援センターを地域のコアとした機関連携により、地域の課題をキャッチアップする方法や危機介入について理解を深める。
13	行政機関	保健所、精神医療審査会、基幹相談支援センター等の行政機関の地域における役割を理解する（テキスト事例14～20参照）。	地域での福祉サービスのコアとなる行政機関が日常生活で起こる様々な生活課題や緊急時の対応にどういった機能を備えているのか理解する。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
14	教育機関 1	教育の場における被虐待児支援やメンタルに課題のある児童生徒への支援について理解する（テキスト事例21・22参照）。	当然のことながら教育の場であっても、児童生徒の背景には家庭があり、その背景因子を含めたアプローチが必要な状況を理解する。
15	教育機関 2	教育機関から就業へと移行する際の支援の状況、そこでの課題等を理解する（テキスト事例23参照）。	教育の場から就業する際、スムーズな職業移行を提供するために必要な合理的配慮実現の過程を理解する。

■レポート課題

【実習受講者・実習免除者共通】

1 単位め	指定特定相談支援事業所で提供されるサービス等利用計画と福祉サービス事業所で提供される個別支援計画、それぞれの目的を対比して説明しなさい。
2 単位め	合理的配慮を必要とする対象者を教育機関から就労移行する際に必要とされる社会資源の連携について、具体的な社会資源の名称と機能を明らかにしながら説明しなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

1 単位め
アドバイス

指定特定相談支援事業所の機能や役割と、福祉サービス事業所のそれを理解したうえで整理し比較して論じてください。

2 単位め
アドバイス

就労移行の際には、送り手である教育機関と受け手である事業者だけの関係にとどまらず、様々な社会資源がかかわる必要があります。そのことを丁寧に論じてください。

■レポートの提出方法

- 1) 1 単位につき、1 冊のレポート提出台紙を使用してください。
- 2) 1 単位のレポート文字数は、2,000 字程度ですが、最長4,000 字程度まで記入していただいても結構です。パソコン印字の場合→左右40 字 ×30 行 × 2 ～ 4 枚まで可。
- 3) 教員名の欄には記入しないでください。
- 4) 各レポートは、所定の提出締切日までに提出してください（『試験・スクーリング情報ブック』または申込時の『With』参照）。

精神保健福祉演習Ⅱ			科目コード	CW5259
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	SR(演習)	4年	三城 大介ほか	



- 社会福祉学科の精神保健福祉士国家試験受験資格取得希望者のみが受講できる科目です。
 - 「精神保健福祉実習Ⅱ」(以下、精保実習Ⅱと表記)を履修する実習受講者の「精神保健福祉演習Ⅱ」(以下、精保演習Ⅱと表記)スクーリングは、下記のとおり「精神保健福祉実習指導Ⅱ」(以下、精保実習指導Ⅱと表記)との組み合わせにより開講されます。
 - 実習免除者は、「精保演習Ⅱ」のみの2日間8コマで開講されます(実習免除者向けの演習は、年1回のみの開講となりますので、日程調整にご注意ください)。
- ※今後の見直し等により、ここに記載の内容を変更する場合があります。詳しくは『With』等でご案内します。

■演習・実習指導のコマ数と組み合わせ・開講の流れ

◆実習受講者(精保演習Ⅱ：8コマ・精保実習指導Ⅱ：8コマ)

【精保実習Ⅱ事後指導までの流れ】

開講名：精保演習Ⅱ(精保実習Ⅱ事前指導)

※精保実習Ⅱ受講年度の4・5月頃開講

1日め 精保演習Ⅱ(1コマ)＋精保実習指導Ⅱ(3コマ)

2日め 精保演習Ⅱ(4コマ)



精保実習Ⅱ(医療機関実習)

※7/1～11/30の期間に12日間以上かつ90時間以上



開講名：精保実習指導Ⅱ(精保実習Ⅱ事後指導)

※精保実習Ⅱ受講年度の12月頃開講

1日め 精保実習指導Ⅱ(4コマ)

2日め 精保実習指導Ⅱ(1コマ)＋精保演習Ⅱ(3コマ)

◆実習免除者(精保演習Ⅰ：8コマ)

開講名：精保演習Ⅱ(実習免除者用)

※7月頃開講

1日め 精保演習Ⅱ(4コマ)

2日め 精保演習Ⅱ(4コマ)

科目の概要

■科目の内容

この講義は、ソーシャルワークの共通基盤に関する科目や精神保健福祉士の専門科目、それらに関連する領域や科目で学んできたことを理論や知識、技術や機能などを結び付けて相対的な理解するための科目です。

これまで学んできたことを意識し、演習の場でグループダイナミクスを意識しながら、他学生とディスカッションする事で、言語化する力やアサーションを意識して伝える力を養うとともに、さまざまな精神保健福祉のフィールドで求められる専門性を意識して学んでください。

■到達目標

- 1) ソーシャルワーク実践の共通基盤として求められる役割が説明できる。
- 2) 臨床の様々な場面に応じて求められるソーシャルワーカーの役割が説明できる。
- 3) 場面ごとのソーシャルワーカーの役割に必要な技術や知識、機能などが言語化できる。
- 4) 精神保健福祉士に必要な知識や理論、技術を総体として捉え説明することができる。
- 5) 演習の場に於けるグラウンド・ルールを理解したうえで、グループダイナミクスを意識したディスカッションができる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「専門的知識」「他者への関心と理解」「社会への関心と理解」「自己尊重のコミュニケーション力」「他者配慮表現力」「自己コントロール力」「問題解決力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価30%＋スクーリング評価70%

※評価はグループワークにおける協力や演習への積極的参加の度合い等から総合的に行います。なお、評価基準については、教育プログラムの質的向上を目的に適宜見直しを図り、改定していきます。

■教科書・参考図書

【教科書】（「精保演習Ⅱ」と共通）

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 精神保健福祉士養成講座〔専門科目〕7 ソーシャルワーク演習（精神専門）』中央法規出版、2021年

（スクーリング時の教科書）上記教科書を参考程度に使用し、適宜配付する資料と併用して演習を進めます。

【参考図書】

適宜、演習の中で紹介します。

スクーリング

■スクーリング受講申込上の注意

- ・ 1 クラス20人以内で開講します。
- ・ 申込方法は、『With』でご案内します。
- ・ 開講日・申込締切日・受講料は、『試験・スクーリング情報ブック』または『With』をご参照ください。
- ・ 複数開講の場合、申込締切後に受講日程変更の申し出は受け付けできません。また、必ずしも第一希望での受講ができない場合がありますので、ご了承ください。
- ・ 受講許可証・受講料納入依頼書は、各受講判定日以降に発送します。
- ・ クラス分けは無作為に行いますので、教員の指定はできません。
- ・ 公共交通機関の延着を除き、遅刻・欠席は認められません。また、スクーリング終了時間前の退席は認められません。

■スクーリング受講条件

【実習受講者】「精保演習Ⅱ」(精保実習Ⅱ事前指導) スクーリング

【実習免除者】「精保演習Ⅱ」(実習免除者用) スクーリング

※最新の受講条件は、申込時の『With』でご確認ください。

- ①受講1カ月前の指定期日までに達成
 - ・ 「精保演習Ⅱ」1単位めレポートの提出
- ②受講当日に提出
 - ・ 『精神保健福祉実習Ⅱ課題ノート』
- ③受講1カ月後の指定期日までに達成（実習免除者のみ※）
 - ・ 「精保演習Ⅱ」2単位めレポートの提出

※実習受講者は、「精保実習指導Ⅱ」(実習Ⅱ事後指導) スクーリング受講後の指定期日までに提出

■スクーリング受講・単位認定について

●スクーリング受講 ※実習受講者・実習免除者共通

演習のスクーリングにおいては、自己紹介、学生同士の話し合いや発表・ロールプレイ等の実施を予定しており、積極的な参加が求められます。

「精保演習Ⅱ」の受講内容・成績および必要に応じて実施される面接等（実習受講者のみ対象）によって評価ならびに次年度実習受講の可否が判定されます。

●単位認定

1 単位めレポート＋「精保演習Ⅱ」スクーリング（スクーリング試験は実施しません）＋2 単位めレポート等で総合的に単位認定いたします（前項「■科目評価基準」参照）。

2 単位めレポートが再提出の場合は、再提出評価となったレポート到着後、指示された期日までに

再提出を行わないとスクーリングの受講は無効になります。

この科目の最終スクーリング結果通知は、2単位めレポートの提出締め切り後に郵送またはメールで行います。

スクーリングを欠席・不合格の場合、合格済みの1単位めレポートは無効となります。次回以降の「精保演習Ⅱ」を申込む際は、所定の期日までに再度「精保演習Ⅱ」の1単位めレポートの提出を行ってください。

■スクーリングで学んでほしいこと

ディスカッションのグラウンド・ルールを理解したうえで、精神保健福祉士に必要な対人援助技術をディスカッションし、相互理解に努めてください。精神保健福祉士という職性について理解を深めてください。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	ソーシャルワーク・コンピテンシーを知り、ソーシャルワークラダーについて考える	CSWE が示している9つのソーシャルワーク・コンピテンシーを学び、援助者としての行動特性を知るとともに、ソーシャルワークラダーを学ぶことにより、精神保健福祉士に求められる力量を知る
2	精神科医療機関における相談援助の流れ	入院時インテークから受療支援、退院準備支援、退院支援、定着支援に至るまでの過程と精神科医療機関における精神保健福祉士の役割を知る
3	デイケアやクリニックで提供される支援	受療中や退院後の対象者に提供されるデイケアやクリニックで提供されている心理教育や就労準備、生活スキル支援などを理解する
4	緊急時の支援	DPAT や PFA などの緊急時支援の具体的な目的や状況に応じた役割を知る
5	福祉サービス事業所	「精神保健福祉演習Ⅰ」で学んだ福祉サービス事業所と医療機関との具体的な連携を知る
6	司法	心神喪失者医療観察法を中心に、触法及び累犯精神障害者の支援について理解する
7	産業・労働	知的・身体中心から精神にそのウエートスライドしつつある障害者の就労支援の状況を法制度及び具体的なアプローチ方法からの視点で理解する
8	体験学習・実習ガイダンス	臨床の疑似体験を通して実習に関するガイダンスを実施します

※実際のスクーリングは、「精保演習Ⅱ」と「精保実習指導Ⅱ」を組み合わせて開講する（前項「**■演習・実習指導のコマ数と組み合わせ・開講の流れ**」参照）。

※精保実習Ⅱ事前指導（「精保演習Ⅱ」）、精保実習Ⅱ事後指導（「精保実習指導Ⅱ」）において、必要に応じて個別面接等を実施する。

※担当教員により、上記各回数のテーマ・内容、「精保実習指導Ⅱ」と組み合わせるテーマ・内容が異なる場合がある。

※実習免除者（「精保演習Ⅱ」：8コマ）

■講義の進め方

この演習では板書をもとにした座学と、事例やテーマに沿ったディスカッションやロールプレイを併用して進めます。教科書は参考程度に使用します。

■スクーリング 評価基準

スクーリング中に学んだことを、到達目標の記載内容に重きを置いて評価します。

演習レポート30%＋演習内容70%

※評価はグループワークにおける協力や演習への積極的参加の度合い等から総合的にを行います。なお、評価基準については、教育プログラムの質的向上を目的に適宜見直しを図り、改定していきます。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

【実習受講者・実習免除者共通】

- 1) テキストの第1章を読み込んでおいてください。特に、ディスカッションのグラウンド・ルールやロールプレイ、演習・グループディスカッションの展開、演習を行う際の留意点について確認してください。
- 2) 「精保演習Ⅱ」1単位めレポートを作成し、期日までに提出する。
- 3) 『精神保健福祉実習Ⅱ課題ノート』を所定の部分まで完成させ、演習当日に持参し提出する。
- 4) 所定の期日までに演習受講申込受理・受講条件に定める科目の学習を終えていること（申込時の『With』参照）。

【実習受講者】

就労継続支援施設を中心に精神障害者を対象とした障害福祉サービス事業所について調べておく。

【実習免除者】

自身の現場における支援実践の課題をまとめる。

※いずれも方法は任意。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

【実習受講者・実習免除者共通】

「精保演習Ⅱ」2単位めレポートを作成し、期日までに提出する。（次項「■レポート課題」の課題2、申込時の『With』『試験・スクーリング情報ブック』の各課題の期日を参照）。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	CSWE のコンピテンシー	ソーシャルワーク・コンピテンシーについて学ぶ	CSWE が示している9つのソーシャルワーク・コンピテンシーを学び、援助者としての行動特性を知る

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
2	養成教育と現任教育	養成教育と現任教育との連続性と、リカレントの必要性	ソーシャルワーク・コンピテンシーと自身の行動特性を照らし、養成教育と現任教育の重要性を理解し、援助者としての展望を持つ
3	キャリアラダー	キャリアラダーの実践と、今後の精神保健福祉士の展望	精神保健福祉士としてのキャリアラダーに挙げられている備えるべき力量を理解したうえで、自身のアンコンシャスバイアスも含めた自身の行動特性と比較し、対人援助者の資質について理解する
4	精神科医療機関 1	精神科医療機関における相談援助の展開を概括する	これまで学んできたことを基に精神科医療機関で提供される支援について概観する
5	精神科医療機関 2	家族からの精神科医受信相談とインテーク面接（テキスト事例 1 参照）	受診時インテーク面接の実際や、その際に必要な精神保健福祉士の知識や技術、視点などを理解する
6	精神科医療機関 3（テキスト事例 2 参照）	医療保護入院における外国人の支援・受領支援	入院形態やそれぞれの入院時に必要な手続き、対象者へのアカウンタビリティ、受療支援の方法について理解する
7	精神科医療機関 4（テキスト事例 3 参照）	精神科デイケアにおける他機関連携における地域生活支援	精神科デイケアで提供されるプログラムや期待される効果、実際の提供過程を知る
8	精神科医療機関 5（テキスト事例 4 参照）	精神科クリニックにおけるアルコール依存症者の回復に向けた支援	事例を参考にアルコール依存症者への支援を学ぶとともに、アディクション問題を抱える方々が抱える課題とその支援のあり方を知る
9	精神科医療機関 6（テキスト事例 5 参照）	グループを活用した心理教育プログラムによる家族支援	グループを活用した心理教育プログラムを学ぶことにより、心理教育や家族心理教育の目的、内容、効果を知るとともに、それぞれの場面での精神保健福祉士の役割を学ぶ
10	精神科医療機関 7（テキスト事例 6 参照）	DPAT の受け入れによる被災地の精神科病院の受援活動	DPAT と DMAT、PFA、それぞれの持つミッションの違いを理解したうえで、被災地における精神科医療機関とそのスタッフの役割を知る
11	司法分野 1（テキスト事例 24 参照）	地域生活定着支援センターにおける触法障害者への支援	事例を通して、触法障害者や累犯障害者の現状を知るとともに、地域定着支援の提供過程やその過程での精神保健福祉士の役割を理解する
12	司法分野 2（テキスト事例 25 参照）	更生保護施設におけるハームリダクションに基づくリカバリー支援	ハームリダクションに基づく支援を理解したうえで、更生保護施設でのリカバリー支援の過程を学ぶ。そのうえで、依存症者の支援や依存症者を家族に持つ方々の支援の状況を知る。また、SMARPP などの支援プログラムについても理解する
13	司法分野 3（テキスト事例 26 参照）	医療観察法に基づく社会復帰調整官を中心とした多職種連携による支援	医療観察法と刑法や少年法での審判の流れの相違を理解したうえで、精神保健福祉士や社会復帰調整官等や指定医療機関の担う役割を知り、多職種連携のあり方を理解する
14	産業・労働分野 1（テキスト事例 27 参照）	EPA 機関における勤労者の休職・復職支援	今後、精神保健福祉士に期待される職場内でのメンタルヘルスの状況やそこでの実際の支援を知り、精神保健福祉士の役割を理解する

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
15	産業・労働分野 2（テキスト事例28参照）	企業における合理的配慮に基づく障害者雇用に向けた支援	職場で提供されるべき合理的配慮（リーズナブルアコモデーション）について知り、雇用の場における精神保健福祉士の役割を理解する

■レポート課題

1 単位め	CSWE が示すソーシャルワーク・コンピテンシーを理解したうえで、養成教育と現任教育、それぞれでリカレントやブラッシュアップすべき知識や理論、技術や機能といった精神保健福祉士の力量について考察しなさい。
2 単位め	医療機関からの地域移行地域定着支援の過程で精神保健福祉士に求められ役割と地域連携の方法を具体的に考察しなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

1 単位め アドバイス

精神保健福祉士の力量に関して、その力量の構成要素とは何か検討したうえで、レポートしてください。

2 単位め アドバイス

精神科医療機関からの地域移行支援のサービスは、通常、一般相談支援事業所と連携して提供されます。退院支援とその先にある地域定着のための支援をイメージを固めてからレポートしてください。

■レポートの提出方法

- 1 単位につき、1 冊のレポート提出台紙を使用してください。
- 1 単位のレポート文字数は、2,000 字程度ですが、最長4,000 字程度まで記入していただいても結構です。パソコン印字の場合→左右40 字×30 行×2～4 枚まで可。
- 教員名の欄には記入しないでください。
- 各レポートは、所定の提出締切日までに提出してください（『試験・スクーリング情報ブック』または申込時の『With』参照）。

精神保健福祉実習指導Ⅰ			科目コード	CX4260
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	SR(演習)	3年以上	三城 大介ほか	



■履修登録条件

「精神保健福祉演習Ⅰ」をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をする方が履修登録できます。

- 社会福祉学科の精神保健福祉士国家試験受験資格取得希望者のみが履修できる科目です。
- 「精神保健福祉実習Ⅰ」(以下、精保実習Ⅰと表記)を履修する実習受講者の「精神保健福祉実習指導Ⅰ」(以下、精保実習指導Ⅰと表記)スクーリングは、「精神保健福祉演習Ⅰ」(以下、精保演習Ⅰと表記)との組み合わせにより開講されます。
- 実習免除者は、履修不要です。

※本科目の開講形態は、本冊子「精保演習Ⅰ」の「■演習・実習指導のコマ数と組み合わせ・開講の流れ」の項を参照ください。

※今後の見直し等により、ここに記載の内容を変更する場合があります。詳しくは『With』等でご案内します。

科目の概要

■科目の内容

精神保健福祉士養成にとってマルチパーソンクライアントシステムと直接的にかかわり、ミクロからメゾ、マクロ的な視点で学べることは、その資質や力量を養ううえで重要です。

この科目では、施設での現場実習を視野に入れ、事前、事後の学びの中でこれまで獲得した知識や理論、技術や技能などを臨床的にリカレントして再統合することを目的とします。

■到達目標

- 1) ソーシャルワーク・コンピテンシーが説明できる。
- 2) 自身の実習目的や課題が説明でき、それに基づいた実習計画が策定できる。
- 3) 実習におけるリスクマネジメントを理解し説明できる。
- 4) 実習記録や支援計画などの記載について説明できる。
- 5) スーパービジョンの構造を説明し、実際に行うことができる。
- 6) 実習計画に基づいた振り返りをし、自己評価を言語化できる。
- 7) 実習先の役割を理解し、そこに必要な精神保健福祉士としてのスキルを説明できる。
- 8) 自己覚知のための自己洞察ができる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「専門的知識」「社会への関心と理解」「自他尊重的コミュニケーション力」「他者配慮表現力」「自己コントロール力」「クリティカルシンキング力」「アセスメント力」「問題解決力」「社会貢献力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価30%＋スクーリング評価70%

※評価はグループワークにおける協力や演習への積極的参加の度合い等から総合的に行います。なお、評価基準については、教育プログラムの質的向上を目的に適宜見直しを図り、改定していきます。

■教科書・参考図書

【教科書】（「精保実習指導Ⅱ」「精保実習Ⅰ・Ⅱ」と共通）

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 精神保健福祉士養成講座〔専門科目〕8 ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習（精神専門）』中央法規出版、2021年

（スクーリング時の教科書）上記教科書を参考程度に使用し、適宜配付する資料と併用して演習を進めます。

【参考図書】

適宜、演習の中で紹介します。

スクーリング

■スクーリング受講申込上の注意

本冊子「精保実習Ⅰ」の同項目をご参照ください。

■スクーリング受講条件

【実習受講者】「精保実習指導Ⅰ」（精保実習Ⅰ事後指導）スクーリング

※最新の受講条件は、申込時の『With』でご確認ください。

①受講1カ月前の指定期日までに達成

・「精保実習指導Ⅰ」2単位めレポートの提出

②受講当日に提出

・『精神保健福祉実習Ⅰ課題ノート』

■スクーリングで学んでほしいこと

これまで学んだ知識や理論、技術などをリカレントして再統合し、対象となる実習施設に合わせた実習計画を立て、実習に臨むこと。そして、実習事前事後の振り返りを通して、臨床の場の精神保健福祉士に必要な力量を評価して今後の学習につなげる姿勢を身につけて欲しいと願います。

また、振り返りの中で自己洞察し、自己覚知につなげる力を身につけて欲しいと思います。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	ソーシャルワーク実習の目的と構造①	講義—演習—実習の循環構造を理解し、現場実習の意義を理解する 精神保健福祉士としての職業倫理や守秘義務、マルチパーソンクライエントシステムを理解する
2	ソーシャルワーク実習の目的と構造②	実習中の LSV や自己の評価を学びの材料と捉える視点を理解する 事前学習を通して収集した情報を基に、この実習で得るべき目標を明確にし、実習計画を作成する
3	現場体験学習事後演習	現場体験学習を踏まえた振り返り
4	実習後の学び①	実習先のサービスのみならず、その地域特性や地域内の社会資源との連携による支援の必要性を共有する
5	実習後の学び②	実習で得た学びや気づきを整理してグループで共有する
6	実習後の学び③	福祉施設等での支援実践において精神保健福祉士に求められる力量、責務としてのコンプライアンスやアカウンタビリティについて理解する
7	実習後の学び④	事後の振り返りにより自己洞察を深め、援助者としての自己覚知を促す
8	実習後の学び⑤	次年度実習に向けた課題の整理

■講義の進め方

この演習では板書をもとにした座学と、事例やテーマに沿ったディスカッションやロールプレイを併用して進めます。教科書は参考程度に使用します。

■スクーリング 評価基準

スクーリング中に学んだことを、到達目標の記載内容に重きを置いて評価します。

演習レポート30%＋演習内容70%

※評価はグループワークにおける協力や演習への積極的参加の度合い等から総合的に行います。なお、評価基準については、教育プログラムの質的向上を目的に適宜見直しを図り、改定していきます。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

実習を行うことを前提として、これまで学んできた社会福祉、精神保健福祉領域とそれに関連する領域についての知識をもう一度見直してからスクーリングに臨んでください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

「レポート課題（スクーリング受講前・受講後の課題）」の課題2に取り組んでください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	実習の構造	ソーシャルワーク・コンピテンシーに基づいた講義—演習—実習の循環を知る	講義と演習、その延長線上にある実習のプログラムを循環することで、精神保健福祉士としての行動特性や力量を知ることができる。その機能を理解する。
2	実習指導の意義と目的	実習の意義を概観し、精神保健福祉士としての倫理観や自己学習の方法を理解する	マルチパーソンクライアントシステムに直接的に接することで得ることができる実習の意義を理解し、養成教育の意味を知る。
3	実習における SV	SV の機能を再確認したうえで、実習の場での SV を理解する	実習や実習指導の際、臨床の場での振り返りのための SV と、大学に戻ってからの振り返りのための SV という二重構造があることを理解し、自身の学びを深めることや自己洞察につなげる
4	実習の評価と実習の構造	実習における評価の仕組みや実習自体の構造を知る	実習の構造や評価の仕組みを理解することにより、自身の評価を今後の精神保健福祉士としての学びに生かせることを知る また、実習に係るシステムの全体像を理解する
5	実習におけるリスクマネジメント	実習中に起きる可能性が予見されるリスクを具体的に捉え、未然に回避する方法やリスク分散させる方法を知る	実習者自身のみならず、マルチパーソンクライアントシステムに影響を及ぼす可能性があるリスクを整理し、対処を事前に学んでおく
6	事前学習としての情報収集	施設実習を前提とし、実習先の情報を収集する	対象となる事業所の情報収集だけでなく、対象の地域や地域内での社会資源との連携の状況など詳細に情報収集し、実習計画の作成に役立てる
7	記録について	施設実習における記録の方法について理解する	実習記録のみならず、臨床の場でとられているケース記録の方法やその他の記録について理解する
8	実習施設・機関の理解（施設）	実習施設や機関、実習指導 I では特に福祉サービス事業所の機能や目的を知る	相談支援事業所や継続支援、移行支援事業所などの機能と目的などを理解する
9	福祉施設における精神保健福祉士の役割	福祉サービス事業所などでの精神保健福祉士の役割や業務、職性について知る	相談支援事業所や継続支援、移行支援事業所などの機能と合わせ、そこでの精神保健福祉士の役割を理解する
10	実習準備と実習計画	実習計画の策定方法や事前訪問、事前打ち合わせの意義について理解する	事前に収集した情報を基に、この実習で得られる、もしくは獲得したい知識や技能、技術、機能などに焦点化した実習計画を策定する 実習がスムーズに実施できるよう事前訪問や事前打ち合わせの意義について理解しておく
11	実習中の学習	実習を効果的に進めるための実習生の役割や姿勢を知る	実習中の LSV を効果的に使い、実習中の自己評価や実習先での中間評価なども参考にして、臨床での学びを深める

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
12	実習の実際 1	精神保健福祉士に求められる職業倫理	精神保健福祉士としてのコンプライアンスやアカウンタビリティを知る
13	実習の実際 2	施設における精神保健福祉士の力量	ソーシャルワークにおいて必要とされる知識や技能について整理する また、カウンセリングやアサーションスキルについても確認する
14	実習後の学習	実習後の振り返りと、事後レポートを作成する	実習後の主観的な自己評価と自身の実習中の行動や対象者へのかかわり方がマルチパーソンクライアントシステムにどのように映ったかという他者評価を意識しながら振り返り、レポートを作成する
15	自己洞察と自己覚知	実習を通して精神保健福祉士としての自身を振り返る	精神保健福祉士として施設実習を終えた自身を振り返ることにより、特性や適性、アンコンシャスバイアスの存在などを吟味して自己覚知につなげる

■レポート課題

1 単位め	「スクーリング受講前・受講後の課題」の課題 1・2 に取り組み、「実習計画」「精神保健福祉実習Ⅱ課題ノート」を所定の方法に従って提出してください。個別に修正等の指示があります。
2 単位め	「スクーリング受講前・受講後の課題」の課題 3 に取り組み、実習後の事後レポートを提出してください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■スクーリング受講前・受講後の課題

課題 1

「精保実習Ⅰ」(精保実習Ⅰ事前指導) スクーリング受講前の課題

- 1) 「精保実習Ⅰ計画(案)」をパソコン印字または鉛筆書きで作成し、所定の提出締切日までに郵送してください(提出締切日は、『試験・スクーリング情報ブック』または申込時の『With』を参照ください)。

(提出方法)

- ・初回提出は所定の様式を使用し、事前指導前の定められた期限までに提出すること。2回目以降の提出は新たな様式を使用し、初回で添削を受けた様式を添付の上、修正したものを提出すること。2回目以降の添削が不要となった場合、特に修正の指示がなければ、別の様式に改めて転記する必要はない。
 - ・送付の際は、封筒の表に「精保実習Ⅰ計画(案) 在中」と明記する。
 - ・宛名を明記した返信用封筒(A4用紙が三つ折で入るサイズ)を同封する(定形なら94円切手貼付)。
 - ・提出の際には、その都度、コピーをとって保管しておくこと。
- 2) 『精神保健福祉実習Ⅰ課題ノート』の「事前学習について」の部分すべてを完成(「事前訪問までの準備」の部分は記入できる範囲で記入)させ、スクーリング時に持参し提出する。

課題 2

「精保演習Ⅰ」(精保実習Ⅰ事前指導) スクーリング受講後の課題

- 1) 実習先に事前訪問を行い、実習指導者より「精保実習Ⅰ計画(案)」の内容について確認を得た後、「精保実習Ⅰ計画書(清書用)」を完成させ、コピー2部を大学宛に提出する。
- 2) 実習先への事前訪問後、『精神保健福祉実習Ⅰ課題ノート』の「事前訪問までの準備」の部分を完成させる。
- 3) 実習先への依頼状＝個々人で実習生として指導していただくことへの感謝とお願いの気持ちを込めて、実習開始2週間前頃に実習先へ依頼状(封書)を出す。

課題 3

「精保実習指導Ⅰ」(精保実習Ⅰ事後指導) スクーリング受講前の課題

事後学習は、援助実習での自己の振り返りを行い、自己評価とあらたな課題設定に向けて、一定の整理を行うものです。下記に沿って課題にあたってください。

- 1) 実習終了後、速やかに実習先へ御礼状(封書)を出す。
- 2) 「精保実習Ⅰ事後レポート(科目名:「精保実習指導Ⅰ」の2単位め)」: 4,000字程度を作成し、所定の提出締切日までに提出してください(提出締切日は『試験・スクーリング情報ブック』または『With』を参照ください)。レポートにまとめる内容は下記①～④のとおり。

①実習を終えての全体的感想

②実習前と実習後の精神保健福祉現場についての印象の変化

③設定した課題の評価や自分のあらたな課題

④実習を通して知り得た自分自身の評価(課題)も含めながら現場実習の成果と評価

実習で学んだことを分析・考察する内容であることが望ましく、単なる感想のみにならないように留意してください。

※『実習記録』は、実習終了時に実習先に提出し、実習先から「実習出席簿」「実習評価表」と一緒に大学へ返送される。「精保実習Ⅰ事後レポート」作成のため、実習先に提出する前に自分用の『実習記録』のコピーをとっておくこと。

※通常のレポート提出台紙で提出する。手書き用・パソコン印字用どちらでも可。

- 3)『精神保健福祉実習Ⅰ課題ノート』のすべての課題を完成させる。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス



『精神保健福祉実習Ⅰ課題ノート』に示す事前学習課題は、実習生として最低限踏まえておくべき内容です。「事前訪問までの準備」の部分は、各自で文献等により調べ、実習先の依拠する法律、組織や機能、関連法規や連携する社会資源等について調べ、事前指導スクーリングまでに整理してください。十分な準備によってまとめられた資料は、必ず実習期間中に役立つものとなります。

それぞれの関心領域に基づき積極的に学ぼうとする姿勢が実習には重要です。「実習計画(案)」の作成は学び方を客観的にまとめる作業ですので、何を学びたいのか、そのためにどう取り組みたいの

かという視点で立案してください。その際、実習指導者が決まっている場合、指導者と相談しながら計画を練ることもとても有効です。「実習計画（案）」作成の留意点は以下の通りです。

- ・実習先の機能や目的、地域や地域内の社会資源との連関を理解したうえで、自身が参加する実習先でしか得られないことを意識して策定してください。
- ・実習前に得られることや事後に得たいことを盛り込まないように注意してください。
- ・「実習のねらい」「実習での具体的達成課題」は抽象的な内容にならないよう気を付けてください。

実習先ならびに実習指導者・職員の方々は、後進の育成という使命感から、多忙な業務を割いて指導して下さることを忘れないでください。その思いに応えられる実習内容・成果を目指して万全の準備を整えて実習に臨んでください。

課題3 アドバイス

実習後、事後指導スクーリング前の課題は、実習体験やご自身の専門職としての適性を含めた十分な振り返りを行い、レポートにまとめてください。特に、専門職としての適性については慎重に自身を見つめ直してください。実習の目標課題の達成度を含め、実習で得た内容を、実習計画に照らし合わせながら振り返り、まとめてください。

精神保健福祉実習指導Ⅱ

科目コード

CX5261



単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	SR(演習)	4年以上	三城 大介ほか

■履修登録条件

「精神保健福祉演習Ⅱ」をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をする方が履修登録できます。

社会福祉学科の精神保健福祉士国家試験受験資格取得希望者のみが履修できる科目です。

●「精神保健福祉実習Ⅱ」(以下、精保実習Ⅱと表記)を履修する実習受講者の「精神保健福祉実習指導Ⅱ」(以下、精保実習指導Ⅱと表記)スクーリングは、「精神保健福祉演習Ⅱ」(以下、精保演習Ⅱと表記)との組み合わせにより開講されます。

●実習免除者は、履修不要です。

※本科目の開講形態は、本冊子「精保演習Ⅱ」の「演習・実習指導のコマ数と組み合わせ・開講の流れ」の項を参照ください。

※今後の見直し等により、ここに記載の内容を変更する場合があります。詳しくは『With』等でご案内します。

科目の概要

■科目の内容

精神保健福祉士養成にとってマルチパーソンクライアントシステムと直接的にかかわり、ミクロからメゾ、マクロ的な視点で学べることは、その資質や力量を養ううえで重要です。

この科目では、施設での現場実習を視野に入れ、事前、事後の学びの中でこれまで獲得した知識や理論、技術や技能などを臨牀的にリカレントして再統合することを目的とします。

■到達目標

- 1) ソーシャルワーク・コンピテンシーが説明できる。
- 2) 自身の実習目的や課題が説明でき、それに基づいた実習計画が策定できる。
- 3) 実習におけるリスクマネジメントを理解し説明できる。
- 4) 実習記録や支援計画などの記載について説明できる。
- 5) スーパービジョンの構造を説明し、実際に行うことができる。
- 6) 実習計画に基づいた振り返りをし、自己評価を言語化できる。
- 7) 実習先の役割を理解し、そこに必要な精神保健福祉士としてのスキルを説明できる。
- 8) 自己覚知のための自己洞察ができる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「専門的知識」「社会への関心と理解」「自己尊重のコミュニケーション力」「他者配慮表現力」「自己コントロール力」「クリティカルシンキング力」「アセスメント力」「問題解決力」「社会貢献力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価30%＋スクーリング評価70%

※評価はグループワークにおける協力や演習への積極的参加の度合い等から総合的に行います。なお、評価基準については、教育プログラムの質的向上を目的に適宜見直しを図り、改定していきます。

■教科書・参考図書

【教科書】（「精保実習指導Ⅰ」「精保実習Ⅰ・Ⅱ」と共通）

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 精神保健福祉士養成講座〔専門科目〕8 ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習（精神専門）』中央法規出版、2021年

※「精神保健福祉実習指導Ⅰ」で配本のため、この科目での教科書配本はありません。

（スクーリング時の教科書）上記教科書を参考程度に使用し、適宜配付する資料と併用して演習を進めます。

【参考図書】

適宜、演習の中で紹介します。

スクーリング

■スクーリング受講申込上の注意

本冊子「精保演習Ⅱ」の同項目をご参照ください。

■スクーリング受講条件

【実習受講者】「精保実習指導Ⅱ」（精保実習Ⅱ事後指導）スクーリング

※最新の受講条件は、申込時の『With』でご確認ください。

①受講1カ月前の指定期日までに達成

・「精保実習指導Ⅱ」2単位めレポートの提出

②受講当日に提出

・『精神保健福祉実習Ⅱ課題ノート』

■スクーリングで学んでほしいこと

これまで学んだ知識や理論、技術などをリカレントして再統合し、対象となる実習施設に合わせた実習計画を立て、実習に臨むこと。そして、実習事前事後の振り返りを通して、臨床の場の精神保健

福祉士に必要な力量を評価して今後の学習につなげる姿勢を身につけて欲しいと願います。

また、振り返りの中で自己洞察し、自己覚知につなげる力を身につけて欲しいと思います。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	ソーシャルワーク実習の目的と構造	講義―演習―実習の循環構造を理解し、現場実習の意義を理解する、また、精神保健福祉士としての職業倫理や守秘義務、マルチパーソンクライアントシステムを理解する
2	実習先決定に伴う準備 1	実習対象医療機関のみならず、その地域特性や地域内の社会資源との関連などの情報収集の必要性を理解する
3	実習先決定に伴う準備 2	収集した情報を基に、この実習で得るべき目標を基に実習計画を作成する
4	実習中の学習	実習中の LSV や自己の評価を学びの材料と捉える
5	実習後の学習	事後レポートを作成し、実習の振り返りを整理してまとめる
6	実習の実際 1	医療機関において精神保健福祉士に求められる力量について理解する
7	実習の実際 2	医療機関における精神保健福祉士の責務としてのコンプライアンスやアカウンタビリティについて理解する
8	振り返りと自己覚知	事後の振り返りにより自己洞察を深め、援助者著としての自己覚知を促す

■講義の進め方

この演習では板書をもとにした座学と、事例やテーマに沿ったディスカッションやロールプレイを併用して進めます。教科書は参考程度に使用します。

■スクーリング 評価基準

スクーリング中に学んだことを、到達目標の記載内容に重きを置いて評価します。

演習レポート30%＋演習内容70%

※評価はグループワークにおける協力や演習への積極的参加の度合い等から総合的に行います。なお、評価基準については、教育プログラムの質的向上を目的に適宜見直しを図り、改定していきます。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

実習を行うことを前提として、これまで学んできた社会福祉、精神保健福祉領域とそれに関連する領域についての知識をもう一度見直してからスクーリングに臨んでください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

「レポート課題（スクーリング受講前・受講後の課題）」の課題2に取り組んでください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	実習の構造	ソーシャルワーク・コンピテンシーに基づいた講義―演習―実習の循環を知る	講義と演習、その延長線上にある実習のプログラムを循環することで、精神保健福祉士としての行動特性や力量を知ることができる。その機能を理解する
2	実習指導の意義と目的	実習の意義を概観し、精神保健福祉士としての倫理観や自己学習の方法を理解する	マルチパーソンクライアントシステムに直接的に接することで得ることができる実習の意義を理解し、養成教育の意味を知る
3	実習における SV	SV の機能を再確認したうえで、実習の場での SV を理解する	実習や実習指導の際、臨床の場での振り返りのための SV と、大学に戻ってからの振り返りのための SV という二重構造があることを理解し、自身の学びを深めることや自己洞察につなげる
4	実習の評価と実習の構造	実習における評価の仕組みや実習自体の構造を知る	実習の構造や評価の仕組みを理解することにより、自身の評価を今後の精神保健福祉士としての学びに生かせることを知る また、実習に係るシステムの全体像を理解する
5	実習におけるリスクマネジメント	実習中に起きる可能性が予見されるリスクを具体的に捉え、未然に回避する方法やリスク分散させる方法を知る	実習者自身のみならず、マルチパーソンクライアントシステムに影響を及ぼす可能性があるリスクを整理し、対処を事前に学んでおく
6	事前学習としての情報収集	医療機関実習を前提とし、実習先の情報を収集する	対象となる医療機関の情報収集だけでなく、対象の地域や地域内での社会資源との連携の状況など詳細に情報収集し、実習計画の作成に役立てる
7	記録について	医療機関における記録の方法について理解する SOAP（看護記録）等他専門職の記録とも比較し、職性の違いを理解する	実習記録のみならず、臨床の場でとられているケース記録の方法やその他の記録について理解する
8	実習施設・機関の理解（施設）	実習施設や機関、実習指導Ⅱでは特に医療機関の機能や目的を知る	医療機関での入院や通院による治療やケア、訪問看護などの機能を知り、地域資源との連携を知る
9	医療機関における精神保健福祉士の役割	精神科医療機関での精神保健福祉士の役割や業務、職性について知る	入院時支援から退院・地域定着支援までの流れや機能と合わせ、そこでの精神保健福祉士の役割を理解する
10	実習準備と実習計画	実習計画の策定方法や事前訪問、事前打ち合わせの意義について理解する	事前に収集した情報を基に、この実習で得られる、もしくは獲得したい知識や技能、技術、機能などに焦点化した実習計画を策定する 実習がスムーズに実施できるよう事前訪問や事前打ち合わせの意義について理解しておく
11	実習中の学習	実習を効果的に進めるための実習生の役割や姿勢を知る	自習中のSVを効果的に使い、実習中の自己評価や実習先での中間評価なども参考にして、臨床での学びを深める

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
12	実習の実際 1	精神保健福祉士に求められる職業倫理	精神保健福祉士としてのコンプライアンスやアカウンタビリティを知る
13	実習の実際 2	医療機関における精神保健福祉士の力量	ソーシャルワークにおいて必要とされる知識や技能について整理する また、カウンセリングやアサーションスキルについても確認する
14	実習後の学習	実習後の振り返りと、事後レポートを作成する	実習後の主観的な自己評価と自身の実習中の行動や対象者へのかかわり方がマルチパーソンクライアントシステムにどのように映ったかという他者評価を意識しながら振り返り、レポートを作成する
15	自己洞察と自己覚知	実習を通して精神保健福祉士としての自身を振りかえる	精神保健福祉士として施設実習を終えた自身を振り返ることにより、特性や適性、アンコンシャスバイアスの存在などを吟味して自己覚知につなげる

■レポート課題

1 単位め	「スクーリング受講前・受講後の課題」の課題 1・2 に取り組み、「実習計画」「精神保健福祉実習Ⅱ課題ノート」を所定の方法に従って提出してください。個別に修正等の指示があります。
2 単位め	「スクーリング受講前・受講後の課題」の課題 3 に取り組み、実習後の事後レポートを提出してください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■スクーリング受講前・受講後の課題

課題 1

「精保演習Ⅱ」(精保実習Ⅱ事前指導) スクーリング受講前の課題

- 1) 「精保実習Ⅱ計画(案)」をパソコン印字または鉛筆書きで作成し、所定の提出締切日までに郵送してください(提出締切日は、『試験・スクーリング情報ブック』または申込時の『With』を参照ください)。

(提出方法)

- ・初回提出は所定の様式を使用し、事前指導前の定められた期限までに提出すること。2回目以降の提出は新たな様式を使用し、初回で添削を受けた様式を添付の上、修正したものを提出すること。2回目以降の添削が不要となった場合、特に修正の指示がなければ、別の様式に改めて転記する必要はない。
- ・送付の際は、封筒の表に「精保実習Ⅱ計画(案) 在中」と明記する。
- ・宛名を明記した返信用封筒(A4用紙が三つ折で入るサイズ)を同封する(定形なら94円切手貼付)。
- ・提出の際には、その都度、コピーをとって保管しておくこと。

- 2) 『精神保健福祉実習Ⅱ課題ノート』の「事前学習について」の部分をすべて完成(「事前訪問までの準備」の部分は記入できる範囲で記入)させ、スクーリング時に持参し提出する。

課題 2

「精保演習Ⅱ」(精保実習Ⅱ事前指導) スクーリング受講後の課題

- 1) 実習先に事前訪問を行い、実習指導者より「精保実習Ⅱ計画(案)」の内容について確認を得た後、「精保実習Ⅱ計画書(清書用)」を完成させ、コピー2部を大学宛に提出する。
- 2) 実習先への事前訪問後、『精神保健福祉実習Ⅱ課題ノート』の「事前訪問までの準備」の部分を完成させる。
- 3) 実習先への依頼状＝個々人で実習生として指導していただくことへの感謝とお願いの気持ちを込めて、実習開始2週間前頃に実習先へ依頼状(封書)を出す。

課題 3

「精保実習指導Ⅱ」(精保実習Ⅱ事後指導) スクーリング受講前の課題

事後学習は、援助実習での自己の振り返りを行い、自己評価とあらたな課題設定に向けて、一定の整理を行うものです。下記に沿い課題にあたってください。

- 1) 実習終了後、速やかに実習先へ御礼状(封書)を出す。
- 2) 「精保実習Ⅱ事後レポート(科目名:「精保実習指導Ⅱ」の2単位め)」: 4,000字程度を作成し、所定の提出締切日までに提出してください(提出締切日は『試験・スクーリング情報ブック』または『With』を参照ください)。レポートにまとめる内容は下記①～④のとおり。

①実習を終えての全体的感想

②実習前と実習後の精神保健福祉現場についての印象の変化

③設定した課題の評価や自分のあらたな課題

④実習を通して知り得た自分自身の評価(課題)も含めながら現場実習の成果と評価

実習で学んだことを分析・考察する内容であることが望ましく、単なる感想のみにならないように留意してください。

※『実習記録』は、実習終了時に実習先に提出し、実習先から「実習生出勤簿」「実習評価表」と一緒に大学へ返送される。「精保実習Ⅱ事後レポート」作成のため、実習先に提出する前に自分用の『実習記録』のコピーをとっておくこと。

※通常のレポート提出台紙で提出する。手書き用・パソコン印字用どちらでも可。

- 3)『精神保健福祉実習Ⅱ課題ノート』のすべての課題を完成させる。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス



『精神保健福祉実習Ⅱ課題ノート』に示す事前学習課題は、実習生として最低限踏まえておくべき内容です。「事前訪問までの準備」の部分は、各自で文献等により調べ、実習先の依拠する法律、組織や機能、関連法規や連携する社会資源等について調べ、事前指導スクーリングまでに整理してください。十分な準備によってまとめられた資料は、必ず実習期間中に役立つものとなります。

それぞれの関心領域に基づき積極的に学ぼうとする姿勢が実習には重要です。「実習計画(案)」の作成は学び方を客観的にまとめる作業ですので、何を学びたいのか、そのためにどう取り組みたいの

かという視点で立案してください。その際、実習指導者が決まっている場合、指導者と相談しながら計画を練ることもとても有効です。「実習計画（案）」作成の留意点は以下の通りです。

- ・実習先の機能や目的、地域や地域内の社会資源との連関を理解したうえで、自身が参加する実習先でしか得られないことを意識して策定してください。
- ・実習前に得られることや事後に得たいことを盛り込まないように注意してください。
- ・「実習のねらい」「実習での具体的達成課題」は抽象的な内容にならないよう気を付けてください。

実習先ならびに実習指導者・職員の方々は、後進の育成という使命感から、多忙な業務を割いて指導して下さることを忘れないでください。その思いに応えられる実習内容・成果を目指して万全の準備を整えて実習に臨んでください。

課題3 アドバイス

実習後、事後指導スクーリング前の課題は、実習体験やご自身の専門職としての適性を含めた十分な振り返りを行い、レポートにまとめてください。特に、専門職としての適性については慎重に自身を見つめ直してください。実習の目標課題の達成度を含め、実習で得た内容を、実習計画に照らし合わせながら振り返り、まとめてください。

精神保健福祉実習Ⅰ			科目コード	CX4262
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	実習	3年以上	三城 大介ほか	



■履修登録条件

「精神保健福祉演習Ⅰ」「精神保健福祉実習指導Ⅰ」をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をする方が履修登録できます。

- 社会福祉学科で精神保健福祉士国家試験受験資格取得希望者のみが受講できる科目です。
- 今後の見直し等により、ここに記載の内容を変更する場合があります。詳しくは『With』等でご案内します。
- 実習免除者は、履修不要です。

●用語について

記載の略称	正式名称
精保演習Ⅰ	精神保健福祉演習Ⅰ
精保実習指導Ⅰ	精神保健福祉実習指導Ⅰ
精保実習Ⅰ	精神保健福祉実習Ⅰ（福祉施設実習）
精保実習Ⅱ	精神保健福祉実習Ⅱ（医療機関実習）

■実習の内容

この実習を通して精神保健福祉実践現場での専門職としてのソーシャルワーク援助の理解を深めてください。

具体的には、精神保健福祉士として求められる資質・技能・倫理・などの総合的対応能力の習得を目指します。

■科目の内容

精保実習Ⅰは、地域資源としての福祉サービス提供事業所等で行う精神保健福祉分野での実習です。これまで学んだ講義の内容と演習での学びと実習での学びをリカレントすることで、精神保健福祉士に求められる力量を知り、学びを深めてください。

同時に、実習を通して対人援助職者としての自己洞察を行い、自己覚知に取り組んでください。

■到達目標

- 1) 精神保健福祉士として求められる専門性、資質・技能・倫理・などの総合的対応能力を習得し

表現できる。

- 2) 精神保健福祉実践現場での具体的かつ実践的な技術等を体得し活用できる。
- 3) 精神保健福祉実習を通して、専門職としての自己像を検討することができる。
- 4) 福祉サービス事業所など対象者の地域生活継続のためのサービスを提供している機関や施設の連関性、それぞれが持つ目的や機能を説明できる。

■実習期間

3 年次（3 年次編入学者は入学後 2 年目）の 8 / 1～12 / 25 15 日間以上かつ 120 時間以上
原則 2 カ月の期間内に 7 日間と 8 日間の分割実習が可能。2 カ所（異なる実習先）での実習は原則認められません。また、下記の例のとおり、実習は実習先の休業日に従い、原則連続を基本とします（分割による実習の場合も同様です）。

（例 1）土日が休みの実習（週 5 日の 3 週間）

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金

（例 2）土・日が休みの実習（7 日＋8 日の 2 分割）

10月							11月							
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
月	火	水	木	金	月	火	月	火	水	木	金	月	火	水

●注意事項

実習中は慣れない環境で緊張が続き、毎日の実習記録の作成に多くの時間がとられる等、精神的、体力的消耗が激しくなることが予想されます。実習中、体調を崩したり、疲れによる居眠りから、低い実習評価となったり、実習中断となったケースがこれまでもあります。仕事をお持ちの方は実習期間中の休暇取得、家事や育児に従事している方は家族からの協力体制を確保するなど、集中して実習に臨めるよう調整を図ってください。また、実習期間中の土・日または祝日は、帰校指導が実施されるため、科目修了試験・スクーリングの受講はできません。

■学習を進めるにあたっての注意事項

実習受講にあたり、「精保実習Ⅰ」受講前年度に「精保実習Ⅰ」受講希望者を対象に「実習選考試験」、精保実習Ⅰ事後指導（開講名：精保実習指導Ⅰ）受講時に「精保実習Ⅱ」受講希望者を対象に必要に応じて面接等をそれぞれ実施します。**実習受講には選考試験等に合格し、本学より実習受講の許可を受ける必要があります。選考試験の不合格者が次年度再申込みする場合は、再面接（仙台）が必須となります。**

また、演習・実習指導・実習の各受講条件（所定の単位数の修得）を満たすためには、年間のスクーリング開講予定や科目修了試験の開催日程、自身の学習時間の確保を含む「学習計画」が必須となり

ます（『学習の手引き』3章参照）。各条件を満たすために指定科目のレポートを「いつまでに作成するか」等、計画的に学習を進めてください。

■精保実習Ⅰ申込について

「精保実習Ⅰ希望届」に基づき実習受入依頼調整を行います。実習受講を希望する方は、7月発行の『With』の案内に従ってエントリーを行い、様式をお取り寄せのうえ「精保実習Ⅰ」（福祉施設実習）の受講申込を行ってください。特に希望する実習先がある場合は、様式に記入してください（次項「■実習施設に関する注意事項」参照）。

実習先には指導者として要件を満たした精神保健福祉士が確保されている必要があります（確認は依頼の際に大学で行いますので、希望申込の時点で学生が直接確認する必要はありません）。

なお、実習は、基本的に大学で実習先を指定する「配属実習」となります。必ずしも希望通りに依頼されない場合があることを予めご了承ください。

■医療機関を受診している方へ

現在、医療機関を受診している方は、厚生労働省の養成に係る指針（「実習を実施する際には、健康診断等の方法により、実習生が良好な健康状態にあることを確認した上で実施すること。」23文科高第501号障発0805第9号平成23年8月5日）により、あらかじめ実習係宛に申し出た上で「実習を行っても健康上問題がない旨」の主治医の診断書を提出していただきます。障害等により配慮の申請が必要な方も、予め実習係宛にお申し出ください。いずれも本学にて面談を実施する場合があります。申し出の時期は、原則各実習の申込み時とし、実習申込み後に医療機関を受診した場合は、受診後速やかに申し出てください。

■実習施設

『学習の手引き』3章「実習先として認められる施設・事業の種別」参照。

「精保実習Ⅰ」（福祉施設実習）は、「医療関係施設」以外が実習先の対象種別となります。それ以外にも法令で認められた施設であれば、実習が可能な施設種別もあります。

実習先の実習指導者は、「精神保健福祉士の資格取得後3年以上相談援助業務に従事した経験のある者で、かつ実習指導者講習会を修了した者」という要件が課されます。

■実習施設に関する注意事項

自身や身内が利用している（または過去に利用歴のある）施設での実習は、情報保護等の観点から認めておりません。

■巡回指導・帰校指導について

原則として、実際に実習が行われている期間中に教員が実習施設を訪問する巡回指導が最低1回以上（最多で3回）、実習期間（実習開始日から終了日までの期間）の実習が行われていない土・日のいずれかまたは祝日に本学や所定の公共施設等において最多で2回の帰校指導が、合わせて3回実施されます（8日間実習※の場合は巡回指導1回以上）。巡回指導のみ3回となるか巡回指導と帰校指導と

の組合せとなるかは、担当教員との調整により決まります（実習開始日までに確定の上、通知します）。
実習期間中の土・日または祝日は、予定を空けておくようご注意ください。

※社会福祉士の実習履修者で、精保実習Ⅰ（福祉施設）120時間のうち60時間の免除が認められている場合。

■実習費

「精保実習Ⅰ」（福祉施設実習）85,000円

実習費は、所定の時期に一括請求されます。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「専門的知識」「他者への理解と関心」「社会への関心と理解」「自他尊重的コミュニケーション力」「他者配慮表現力」「自己コントロール力」「アセスメント力」「問題解決力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

演習内容50%＋実習事後課題レポート15%＋実習記録15%＋実習評価20%

※評価は総合的に行い、グループワークにおける協力や演習への積極的参加を求めます。なお、評価基準については、教育プログラムの質的向上を目的に適宜見直しを図り、改定していきます。

■教科書・参考図書

【教科書】（「精保実習指導Ⅰ・Ⅱ」「精保実習Ⅱ」と共通）

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 精神保健福祉士養成講座〔専門科目〕8 ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習（精神専門）』中央法規出版、2021年

※「精神保健福祉実習指導Ⅰ」で配本のため、この科目での教科書配本はありません。

【参考図書】

適宜、「精保演習Ⅰ」「精保実習指導Ⅰ」のスクーリングの中で紹介します。

精神保健福祉実習Ⅱ			科目コード	CX5263
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	R or SR(講義)	4年	三城 大介ほか	



■履修登録条件

「精神保健福祉演習Ⅱ」「精神保健福祉実習指導Ⅱ」をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をする方が履修登録できます。

- 社会福祉学科で精神保健福祉士国家試験受験資格取得希望者のみが受講できる科目です。
- 今後の見直し等により、ここに記載の内容を変更する場合があります。詳しくは『With』等でご案内します。
- 実習免除者は、履修不要です。

●用語について

記載の略称	正式名称
精保演習Ⅱ	精神保健福祉演習Ⅱ
精保実習指導Ⅱ	精神保健福祉実習指導Ⅱ
精保実習Ⅰ	精神保健福祉実習Ⅰ（福祉施設実習）
精保実習Ⅱ	精神保健福祉実習Ⅱ（医療機関実習）

■実習の内容

この実習を通して精神保健福祉実践現場での専門職としてのソーシャルワーク援助の理解を深めてください。

具体的には、精神保健福祉士として求められる資質・技能・倫理・などの総合的対応能力の習得を目指します。

■科目の内容

精保実習Ⅱは、精神科医療機関等で行う精神保健福祉分野での実習です。

これまで学んだ講義の内容と演習での学びと実習での学びをリカレントすることで、精神保健福祉士に求められる力量を知り、学びを深めてください。

同時に、実習を通して対人援助職者としての自己洞察を行い、自己覚知に取り組んでください。

■到達目標

- 1) 精神保健福祉士として求められる専門性、資質・技能・倫理・などの総合的対応能力を習得し

表現できる。

- 2) 精神保健福祉実践現場での具体的かつ実践的な技術等を体得し活用できる。
- 3) 精神保健福祉実習を通して、専門職としての自己像を検討することができる。
- 4) 福祉サービス事業所など対象者の地域生活継続のためのサービスを提供している機関や施設の連関性、それぞれが持つ目的や機能を説明できる。

■実習期間

4 年次（3 年次編入学者は入学後 3 年目）の 7 / 1～11 / 30 12 日間以上かつ 90 時間以上

下記の例のとおり、実習は実習先の休業日に従い、原則連続を基本とします（分割による実習の場合も同様です）。

（例 1）土日が休みの実習（週 5 日の 2 週間と 2 日）

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	月	火

※「精保実習Ⅰ」に記載してある「■実習期間」の注意事項参照。

●注意事項

実習中は慣れない環境で緊張が続き、毎日の実習記録の作成に多くの時間がとられる等、精神的、体力的消耗が激しくなることが予想されます。実習中、体調を崩したり、疲れによる居眠りから、低い実習評価となったり、実習中断となったケースがこれまでもあります。仕事をお持ちの方は実習期間中の休暇取得、家事や育児に従事している方は家族からの協力体制を確保するなど、集中して実習に臨めるよう調整を図ってください。また、実習期間中の土・日または祝日は、帰校指導が実施されるため、科目修了試験・スクーリングの受講はできません。

■学習を進めるにあたっての注意事項

実習受講にあたり、「精保実習Ⅱ」受講前年度に「精保実習Ⅱ」の受講申込みが必要です。申込後は、「精保実習Ⅱ」受講希望者を対象に必要な応じて面接等を実施します。実習受講には面接等に合格し、本学より実習受講の許可を受ける必要があります。

また、演習・実習指導・実習の各受講条件（所定の単位数の修得）を満たすためには、年間のスクーリング開講予定や科目修了試験の開催日程、自身の学習時間の確保を含む「学習計画」が必須となります（『学習の手引き』3 章参照）。各条件を満たすために指定科目のレポートを「いつまでに作成するか」等、計画的に学習を進めてください。

■精保実習Ⅱ 申込について

「精保実習Ⅱ 希望届」に基づき実習受入依頼調整を行います。「精保実習Ⅰ」受講の翌年度以降に実習受講を希望する方は、7 月発行の『With』の案内に従ってエントリーを行い、様式をお取り寄せのうえ「精保実習Ⅱ」（医療機関実習）の受講申込を行ってください。特に希望する実習先がある場合は、様式に記入してください（次項「■実習施設に関する注意事項」参照）。

実習先には指導者として要件を満たした精神保健福祉士が確保されている必要があります（確認は依頼の際に大学で行いますので、希望申込の時点で学生が直接確認する必要はありません）。

なお、実習は、基本的に大学で実習先を指定する「配属実習」となります。必ずしも希望通りに依頼されない場合があることを予めご了承ください。

■医療機関を受診している方へ

現在、医療機関を受診している方は、厚生労働省の養成に係る指針（「実習を実施する際には、健康診断等の方法により、実習生が良好な健康状態にあることを確認した上で実施すること。」23文科高第501号障発0805第9号平成23年8月5日）により、あらかじめ実習係宛に申し出た上で「実習を行っても健康上問題がない旨」の主治医の診断書を提出していただきます。障害等により配慮の申請が必要な方も、予め実習係宛にお申し出ください。いずれも本学にて面談を実施する場合があります。申し出の時期は、原則各実習の申込み時とし、実習申込み後に医療機関を受診した場合は、受診後速やかに申し出てください。

■実習施設

『学習の手引き』3章「実習先として認められる施設・事業の種別」の医療機関を参照。

■実習施設に関する注意事項

自身や身内が利用している（または過去に利用歴のある）施設での実習は、情報保護等の観点から認めておりません。

■巡回指導・帰校指導について

原則として、実際に実習が行われている期間中に教員が実習施設を訪問する巡回指導が最低1回以上（最多で3回）、実習期間（実習開始日から終了日までの期間）の実習が行われていない土・日のいずれかまたは祝日に本学や所定の公共施設等において最多で1回の帰校指導が、合わせて2回実施されます。巡回指導のみ2回となるか巡回指導と帰校指導との組合せとなるかは、担当教員との調整により決まります（実習開始日までに確定の上、通知します）。実習期間中の土・日または祝日は、予定を空けておくようご注意ください。

■実習費

「精保実習Ⅱ」（医療機関実習）75,000円

実習費は、所定の時期に一括請求されます。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「専門的知識」「他者への理解と関心」「社会への関心と理解」「自己尊重のコミュニケーション力」「他者配慮表現力」「自己コントロール力」「アセスメント力」「問題解決力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

演習内容50%＋実習事後課題レポート15%＋実習記録15%＋実習評価20%

※評価は総合的に行い、グループワークにおける協力や演習への積極的参加を求めます。なお、評価基準については、教育プログラムの質的向上を目的に適宜見直しを図り、改定していきます。

■教科書・参考図書

【教科書】（「精保実習指導Ⅰ・Ⅱ」「精保実習Ⅰ」と共通）

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 精神保健福祉士養成講座〔専門科目〕8 ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習（精神専門）』中央法規出版、2021年

※「精神保健福祉実習指導Ⅰ」で配本のため、この科目での教科書配本はありません。

【参考図書】

適宜、「精保演習Ⅱ」「精保実習指導Ⅱ」のスクーリングの中で紹介します。

通信教育で学ぶことを決意されたみなさまは、多くの本を読み、知識として得たこと、自ら考えたことを「レポート」という形にまとめていくことが、これからの学習活動の中心になります。

この『レポート課題集』は、一般の大学の授業と同じ働きをするものです。その科目で何を学んでほしいかの「科目の内容」、レポート課題に取り組むにあたっての「アドバイス」などには、担当の先生方からみなさまへのメッセージが込められています。

今後学習を進めていくなかで、時には本の内容がまったく頭に入らなかったり、レポート用紙を前に何を書けばよいかとまどったりすることがあるかもしれませんが。そんなときは、ちょっと一休みしたあと、この『レポート課題集』のなかにある担当の先生方からのアドバイスをもう一度読んで、取り組みやすいような課題から再び学習を始めてください。

学問って難しそうに感じることもありますが、人間が考えたことです。必ず理解できるはずですよ。どうしてもわからないときは、「質問票」を使って担当の先生に質問をすることもできます。

みなさまがこの『レポート課題集』を存分に活用し、学習を順調に進めていかれることを願っています。

レポート課題集 2024 A-II 社福・精保指定科目編

2024年3月1日 初版発行

発行 東北福祉大学通信教育部
〒983-8511 仙台市宮城野区榴岡2-5-26
電話022-292-8011 <https://www.tfu.ac.jp/tushin>
印刷・製本 (株)ホクトコーポレーション

© Tohoku Fukushi University 2024 Printed in Japan

本書の一部または全部を無断で複写複製（コピー）することは、著作権法上の例外を除き、禁じられています。

[illegible]



東北福祉大学 通信教育部
TOHOKU FUKUSHI UNIVERSITY